花﨑和弘教授
退任記念業績集

高知大学医学部外科学講座（消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、小児外科学）

花﨑 和弘教授
退任記念業績集

高知大学医学部外科学講座
（消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、小児外科学）

近影

目 次

花﨑和弘 業績集 巻頭言 …… 6

花﨑和弘 略歴 …… 8

寄稿文 I

花﨑和弘先生のご退任に寄せて …… 高知大学 学長 櫻井 克年 …… 10
花﨑和弘教授のご退官を祝して …… 高知大学医学部附属病院長 執印 太郎 …… 11
花﨑和弘教授のご退任に際して …… 高知大学医学部長 菅沼 成文 …… 12
いつも途上 花﨑和弘教授ご退職に寄せて …… 高知医療再生機構 理事長 倉本 秋 …… 13
桜の花を仰ぎみて …… 高知大学医学部病理学講座 教授 降幡 睦夫 …… 15
花﨑和弘教授 ご退官に寄せて …… 高知大学医学部泌尿器科学講座 教授 井上 啓史 …… 16
科学への信念を垣間見た …… 高知大学理工学部門 教授 長﨑 慶三 …… 17
花﨑先生の思い出 …… 高知学園大学健康科学部 臨床検査学科 教授 松﨑 茂展 …… 18
Academic Surgeonの極み 花﨑和弘先生へ …… 自治医科大学 消化器一般移植外科 教授 味村 俊樹 …… 20
花﨑教授ご退官に寄せて …… 医療法人 仁栄会 会長 島津 栄一 …… 22
花﨑教授 ご退官記念 高知の外科医療の源流を守り抜く …… 須崎くろしお病院 理事長 田村 精平 …… 24
外科の将来憂うこと無し …… 医療法人臼井会 田野病院 理事長 臼井 隆 …… 26
花﨑教授のご退官にあたり …… 野市中央病院 名誉院長 公文 正光 …… 28
花﨑和弘教授、ご退任を祝して …… 渭南病院 外科 計田 一法 …… 30
日本発の医療技術、人工膵臓を世界に発信 …… 日機装株式会社 取締役執行役員 木下 良彦 …… 31
花﨑教授との思い出とご指導への感謝 …… 日機装株式会社 メディカル事業本部 外科グループリーダー 塚本 雄貴 …… 33

寄稿文 II

花﨑和弘先生の教授ご退官に寄せて …… 高知大学医学部 乳腺センター センター長 杉本 健樹 …… 36
花﨑和弘教授のご退任に寄せて …… 高知大学小児外科 特任教授 大畠 雅之 …… 38
思慮深い即断即決を実践するために …… 高知大学外科 講師・病院教授 並川 努 …… 39
ご退官に寄せて …… 清和病院 病院長 駄場中 研 …… 41
花﨑和弘先生と私 …… 高知大学 手術部講師・病院准教授 北川 博之 …… 42
花﨑和弘先生ご退任に寄せて …… 高知大学外科 講師・医局長 前田 広道 …… 45
花﨑教授のご退官を祝して …… 仁淀病院 副院長 志賀 舞 …… 47
花﨑先生にたくさんの数えきれない感謝をこめて …… 高知大学医学部附属病院 看護部 集中治療部 副看護師長 壬生 季代 …… 48
花﨑和弘教授のご退職を祝して …… 高知大学外科 事務補佐員 川村 麻由 …… 49

業績（2006.03-2021.12）

外科学講座外科１教室の大目標 52
英文業績（英語論文・著書） 53
和文業績（和文論文、和文著書） 87
国際学会 102
国内学会 119
学位（博士）授与 142
学位論文（学位取得予定者） 143
科学研究費、研究助成、受託研究費 144
主催学会
・第 27 回消化器疾患病態治療研究会（旧潰瘍病態研究会） 150
・第 81 回日本臨床外科学会総会 152
・第 38 回日本ヒト細胞学会学術集会 154
・第 58 回 日本人工臓器学会大会 156
・日本蛍光ガイド手術研究会第４回学術集会 158
・第 31 回外科漢方フォーラム学術集会 160
手術件数 161

楷風会員賞

楷風会賞・Impact Factor 賞 164

思い出の写真

花﨑和弘教授就任記念祝賀会 166
さくら道 167
実験風景 169
海外出張 169
楷風会総会・特別講演会 172
オフショット 173
バーベキュー 174
医局旅行 174

寄せ書き

花﨑和弘教授ご退任に寄せて 176

編集後記 187

花﨑和弘　業績集　巻頭言

高知大学医学部外科学講座
（消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、小児外科学）教授
花　﨑　和　弘

はじめに、本業績集の企画から編集および監修を手掛け、発刊に導いてくれた前田広道医局長をはじめとする多くの皆様のご支援とご協力に対し、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

2006年4月1日から2022年3月31日までの16年間、高知大学医学部外科学講座（消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、小児外科学）の3代目教授を務めさせていただきました。浅学菲才の身でありながら教授在職期間の最初から最後までReal Surgeon, Real Researcherとして高難度手術および最先端研究に挑戦しながら、その成果を300編以上の英語論文にて世界へ発信できたことを嬉しく思います。これも偏に教室スタッフ、同門会をはじめとする多くの皆様に支えていただいた賜物です。心より感謝申し上げます。

16年間を3期に分けて教室運営を行いました。1期目の5年間は「教室の立ち上げ」、2期目の5年間は「世界を目指す」、3期目の6年間は「後継者の育成」を目指しました。教室の大目標として、「Academic Surgeon（研究マインドを持った手術の上手な外科医）の育成」を掲げました。大目標を達成するために、①良好な手術成績は良好な人間関係から、②全ての研究は英語論文で完結、③母校愛を培う医学教育の充実に取り組みました。こうした目標を達成するために、若手外科医が執刀の機会を得てmotivationを維持できる方策としてパーツ式手術教育法を発案し、実施しました。また全国に先駆けて、働き方改革、男女共同参画およびチーム医療を推進しました。さらに外部研究資金の獲得、給与面の待遇改善を推進すると共に、学会出張旅費・宿泊費用および研究論文費用を教室がフルサポートしました。教室スタッフが診療や学問に集中でき、経済的に困らない労働環境の整備と改善を積極的に行いました。そうした取り組みの詳細については本業績集に掲載しました。皆様から忌憚のないご意見やご批評をいただけたら幸いです。

成果の概要だけ述べさせていただきます。

1．診療：手術件数は小生が赴任前の2005年は300件台でしたが、2006年に400件台とし、その後右肩上がりで増加し続けました。近年は800件台と赴任時の2倍以上に増加しています。加えてパーツ式手術教育法の成果として若手外科医の手術執刀数は赴任前の13倍以上に増加しています。その結果、病院収益（粗利率）に最も貢献する診療科に成長しました。

2．研究：英語論文数は研究の推進と共に年々増加し、最近は1年間に20編から30編くらいになっています。高知大学医学部全診療科で10年以上にわたりトップを継続中です。

2021 年 12 月 20 日現在、小生の英語論文総数は 421 編（インパクトファクター総得点は 1536 点）です。そのうちの８割に当たる 326 編を高知から世界へ発信できました。歴史と伝統のある旧帝国大学や有名私立大学のような大規模な外科教室ではなく、高知大学で残した実績という点に価値があります。少ない人数で良く頑張っている教室員たちの努力の賜物です。英語論文は学会専門医・指導医・評議員の取得に有効であるだけでなく、高知大学医学部附属病院が「特定機能病院」として認可されるための必須項目でもあります。これからも研究成果を英語論文化して世界に発信していってください。

３．教育：新入医局員数は 30 名を超えました。その中で女性外科医が３割を占める（全国平均は１割）のが当科の特徴です。当科の男女共同参画推進の取り組みは、全国的に注目され、厚労省からも高く評価され、2021 年度の好事例に選出されました。

教授就任直後、教室員の motivation を上げるために、最新の英語論文 10 編および全国学会・国際学会の主題発表・受賞に関する業績ボードを教室の前に掲示しました。この「見える化」が功を奏したのか、英語論文数は 300 編を超え、業績ボードも 300 編近くに達しました。世界初の研究として、「外科周術期の人工膵臓療法の開発」および「漢方の薬物動態試験」に成功しました。加えて 2019 年の第 81 回日本臨床外科学会総会をはじめとする６つの全国学会を主催させていただきました。幸運にも天地人の僥倖を得ていずれの学会も大盛況でした。６つの全国学会を介して高知大学の学術的発展に貢献しただけでなく、学会運営会社の試算報告によると高知県におよそ 20 億円の経済効果ももたらしました。教授職の集大成に当たり、こうした地域の活性化や地方創生に直結する多大な学術貢献および社会貢献ができたことは望外の喜びです。

昔から「達者が何より」と言います。お陰様で健康に恵まれ、教授在職の 16 年間も含めて医師になってから一日も病欠がありません。丈夫な身体に産んでくれた両親や激務を支えてくれた家族だけでなく、月２回のパーソナルトレーニングで心身共に鍛えていただいた藤澤佳伸トレーナー（当科の藤澤和音先生の旦那様）にも深く感謝申し上げます。

教授就任時より今日に至るまで高知県だけでなく、四国、全国、世界中の皆様から生涯忘れることができない心温まるご指導とご厚誼を賜りました。今はやり切ったという「万感の思い」と皆様への「感謝の気持ち」で一杯です。心より御礼申し上げます。16 年間本当にありがとうございました。

花 﨑　和 弘（はなざき かずひろ）

［生年月日］　1956年4月3日（長野県飯田市）
［役　　職］　高知大学医学部外科学講座（消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、小児外科学）教授
［専門分野］　消化器外科学（肝胆膵外科学）

［職　　歴］

1984年3月	新潟大学医学部医学科卒業
1984年5月～2006年3月	信州大学外科・米国ベイラー医科大学外科（海外留学）および関連病院にて研鑽を積む
2006年4月	高知大学医学部外科学講座外科1教授
2008年4月～2012年3月	高知大学医学部附属病院　副院長（兼務）
2012年4月～2014年3月	高知大学医学部附属病院　臨床工学部長（兼務）
2012年4月～2022年3月	高知大学医学部附属病院　顧問（兼務）
2014年4月～2020年3月	高知大学医学部附属病院　手術部長（兼務）
2017年4月～2020年3月	高知大学光線医療センター長（兼務）
2018年4月～2022年3月	高知大学医学部　副医学部長（兼務）
2021年4月～2022年3月	高知大学医学部外科学講座（消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、小児外科学）教授

［主な学会資格・役職］

日本人工臓器学会（監事・第 15 代理事長・評議員）・日本人工膵臓関連学会協議会（代表世話人）・外科侵襲とサイトカイン研究会（代表世話人）・日本ヒト細胞学会（理事・評議員）・日本臨床栄養代謝学会（監事・代議員）・日本外科代謝栄養学会（教育指導医・評議員）・日本外科学会（指導医・代議員・臨床研究推進委員・男女共同参画委員）・日本臨床外科学会（名誉会員・役員等選考委員・学術委員）・日本消化器外科学会（指導医・特別会員）・日本肝胆膵外科学会（高度技能指導医・評議員・技術認定委員）・日本消化器病学会（指導医・財団評議員）・日本肝臓学会（指導医）・日本膵臓学会（指導医）・日本外科感染症学会（評議員・教育指導医・ICD 認定医）・日本腹部救急医学会（教育医・認定医・評議員）・消化器疾患病態治療研究会（常任世話人）・日本蛍光ガイド手術研究会（常任世話人）・外科漢方フォーラム（名誉会員）・日本癌局所療法研究会（特別会員）

［主催した全国学会］

2018年９月	第27回消化器疾患病態治療研究会（当番会長）
2019年11月	第81回日本臨床外科学会総会（総会長）
2020年８月	第38回日本ヒト細胞学会学術集会（大会長）
2020年11月	第58回日本人工臓器学会大会（大会長）
2021年５月	日本蛍光ガイド手術研究会第4回学術集会（当番世話人）
2021年11月	第31回外科漢方フォーラム学術集会（当番世話人）

寄稿文 I

Contribution I

花﨑和弘先生のご退任に寄せて

高知大学　学長
櫻井　克年

花﨑先生、永年にわたり、高知大学の教育や研究、医療をはじめとする地域貢献等の活動にご尽力いただきありがとうございました。高知大学における16年の活動の間に、いったい、どれほどの学生を指導し、研究業績を積み重ね、診療や外科手術に携わってこられたのでしょうか。その間、自らの健康を維持し、手術手技を高め、後進の外科医の良き手本となってこられたことは、現在の陽に焼けたお顔と、さわやかな笑顔を見ていると容易に想像がつくと思います。

高知医科大学と旧・高知大学が平成15年10月に統合して新・高知大学となり、平成16年４月からはすべての国立大学同様、国立大学法人高知大学となりました。花﨑先生は、その２年後の平成18年に、本学医学部の教授として赴任してこられました。そのころに、農学部での私の教え子が勤めていた会社のミッションで、自分の出身大学でもある高知大学医学部で遺伝子治療（だったと思う）に関する共同研究をしてもらえないかと相談に来たことがありました。当時の相良学長、病院長経由で、花﨑先生が対応してくださいました。残念ながら、共同研究には至りませんでしたが、花﨑先生も前向きな発言をしてくださっていたという記憶があります。

令和３年12月３日に、第４回高知大学広報顕彰制度「優秀広報貢献賞」の表彰式が挙行されました。４組の「優秀広報貢献賞」受賞者がありましたが、その中のお一人として花﨑先生を表彰させていただきました。授賞理由は、『外科医としての実践や研究者としての功績によって、高知大学の広報活動を牽引している。最先端の研究を世界に向けて発信することにより、本学の研究力とイメージを世界的に向上させた点は素晴らしいと考えられる。高知大学の研究をリードする医学研究において、その学術的貢献だけではなく、その成果を国民・県民に向けて発信し続ける姿は高知大学の研究者の模範となる。』というものでした。具体的な功績としては、「外科周術期の人工膵臓療法の開発」や「漢方の薬物動態試験」などの共同研究やその成果の応用、2018年から2020年までの間に、「第81回日本臨床外科学会総会（2019年）」、「第58回日本人工臓器学会大会（2020年）」など、５つの学会の全国大会を高知にて会長として主催されたことなどがあげられます。５つの学会の波及効果は約20億円に上るとの試算結果も報告されています。

このように、地域密着型の一連の学術的活動を介して、Super Regional University を目指す高知大学の発展や存在価値に直結する広報活動を高知県・四国・全国のみならず、国際的にも幅広い分野で展開していただきました。これまでのご活躍に深く感謝するとともに、これからも是非、高知大学のさらなる前進にお力添えをいただきたいと思います。

花﨑和弘教授のご退官を祝して

高知大学医学部附属病院長
執印　太郎

花﨑和弘先生、ご退官おめでとうございます。16年間の長きにわたり教室を主宰されお疲れ様でした。

花﨑先生は遠く離れた信州大学から高知大学へ赴任され、高知大学医学部第１外科（消化器外科）の建て直しと発展にご尽力されました。私は６年先輩としてそのご苦労される姿をそばから見させていただきました。私の場合も横浜からの赴任で同じでしたが、落下傘でただ１人、他大学から環境の異なる高知に赴任して教室を作ることは並大抵の苦労ではなかったと思います。そのような環境で若手の教育、中堅の育成をされて見事に優れた教室を作られました。この数年、消化器内科との連携が進み膵臓関係の手術は年々伸びております。先生もほぼ毎週、膵臓がん関係の手術をご自身で執刀され、若手を育成されています。

研究面では人工膵臓の研究に携わられており、この数年間、第１外科学教室は１年間の論文数が最も多い教室の１つとなっています。最近では高知大学農学部の長﨑慶三先生と異分野融合研究の取り組み、常に新しい研究もされています。名実ともに臨床面でも研究面でも優れた教室となったと感じております。私は臨床研究の分野で胃がんの腹膜播種についての光力学診断の医師主導治験のお手伝いをさせていただいた折、見事に教室を統率する姿を拝見しました。また、数年前に臨床外科学会を高知市で主催されたことは記憶に新しいですが、これ以外にも大きな学会をいくつも開催されました。これは先生の研究と診療の実績が国内外で高く評価された結果と考えております。

現在、世の中では多くの大学で統合外科を作って臨床的に優れた外科医を育成する試みがなされています。先生はこの数年、心血を注いで高知大学医学部の統合外科のため尽力されました。現在、それが少しずつ実を結びつつあります。これも先生の１つの大きな実績と思います。

入院診療では消化器外科は常に優等生で短い入院期間で２-７病棟を維持していただき、高知大学附属病院の経営には大きく貢献していただきました。また、本年のコロナ感染症の蔓延時には２-７病棟をコロナ病棟として快く明け渡していただきました。これらには附属病院長として感謝いたします。

重ねて、長い間、高知大学医学部に貢献をいただきありがとうございました。定年後は少し体を休め英気を養い、大所高所から高知大学医学部及び附属病院の将来を見守りながら建設的なご意見をいただきたいと思います。

今後ともよろしくお願いします。

花﨑和弘教授のご退任に際して

高知大学医学部長
菅沼　成文

この度、外科学教授としての定年でのご退任誠におめでとうございます。高知大学医学部外科学講座でのお仕事に一つの区切りをつけられての御勇退、お祝い申し上げます。

振り返りまして、印象に残っておりますのは、私が高知大学に赴任して直後の確か平成19年頃に、外科の同門会でのお話で、Academic Surgeonを養成すると言われており、教室の壁にも発表された論文を掲示され、学術的な貢献のある教室員を讃えておられたことです。私自身もこうした取り組みも参考にさせて頂きながら、自分の率いる教室の研究推進力を高めたいと思ったものです。

また、花﨑先生が新潟大学医学部で学ばれた頃の生化学の緒方規矩雄教授が、高知大学外科１の初代教授である緒方卓郎先生の長兄であられ、私の恩師の緒方正名先生（岡山大学医学部公衆衛生学教授）が次兄でいらっしゃるというご縁を感じることもございました。

花﨑教授には、私が医学部長として改革を進める上で、副医学部長として様々なご苦労をしていただきながら、しっかりと支えていただきました。その中で、臨床医学の内科、外科については、専門分化とともに、統合したチームとしての組織再編が必要と考えておりましたが、統合外科学は、花﨑先生のリーダーシップとご尽力があって初めて実現することが叶いました。外科学の中ではありますが、セントラルラボ方式を導入していただき、今後、医学部全体、さらには、大学全体の研究体制の強化に向けて、大きな一歩となりました。外科治療が現代の医学の中で、中心的な役割を果たしていることは明らかです。総合的にかつ専門を極める外科医育成を高知全体で担う体制の中で、次の時代を牽引する優秀な外科医が誕生していくことを期待しています。

人工膵臓の開発については、全国的にも先進的で独創的な研究基盤を作られ、それによって他の科も参加した研究を行うことのできる環境を構築されました。その集大成として、2020年に日本人工臓器学会を開催されたことは記憶に新しいところです。

さらに、医学部として更なる研究推進の挑戦として、高知大学が世界に誇る海洋コア総合研究センターとの共同研究を奨励して参りましたが、水系ウイルスの専門家でいらっしゃる長﨑慶三教授との研究を立ち上げられ、海洋医学研究の先鞭をつけられています。この先見の明のある取り組みに端を発して、今後、人類最後のフロンティアとしての海底コアを活用可能な天然資源を医療応用可能にする新たな研究が芽生えていくことを期待しています。

多くの実績を積まれての御勇退ですが、花﨑先生の力を必要とする場はまだまだあるように思います。一旦の区切りをつけられ、次の地平を見つめて、広い視野から後進の指導にあたっていかれることを祈念しつつ、御退任のお祝いの言葉とさせていただきます。

いつも途上
花﨑和弘教授ご退職に寄せて

高知医療再生機構　理事長
倉本　秋

教授になると、突然、活動量が落ちてしまう人を何人か見てきた。「教授になることって目標じゃないよ。これから広がるブルー・オーシャンの上で、やっと後輩を自由に育てられる資格を得たのだからしっかり活用なさい」と言いたくなる。しかし、そんな言葉の必要ない仕事を見せていただいた。

“いや、よくやっておられる”と言いながら、「そこは自分だったらこうするのにな」、「こうしたらもっと上手く行くのに」と思うこともたまにはある。でも、花﨑教授に限っては、そんな思いを抱かせることがなかった。

「アカデミックな外科医を」という言葉も、聞くことは多い。ところが蓋を開けてみると、アカデミックな営為はあるのかもしれないが成果物には乏しいことも稀ではない。この点も、この業績集のページを捲ればacademic surgeonsを育て上げたことが見て取れる。

外科教授選考に際して、高知大学の教授会メンバーに推薦の挨拶に廻られていた信州大学外科学講座（第二外科）教授、故天野 純先生の温和な顔と言葉を思い出す。天野先生は「自分を踏み台にして、自分を超えていく外科医を育てられる人物が、花﨑 和弘である」と語っておられた。私は、病院長をさせていただいた時代の教授選では、最終選考に残りそうな候補者が勤務した病院の看護師、薬剤師など医療スタッフから、それとなく、人となり、患者さん・ご家族との対応を取材していた。どの診療科でも、就任されてから「なんでこの人を?!」となるのでは、高知大学病院のスタッフにも患者さんにも申し訳がないと思っていたし、幸いにして医療スタッフならあちこちに知り合いがいた。医者より医療スタッフの方がずっと正直でシビアである。花﨑先生の勤めておられた病院のうち２つの病院から情報が得られて、申し分ないとのことであった。この16年間を思うと、当時、情報をいただいた方の慧眼に敬意を表したい。

花﨑先生が、「日本臨床外科学会総会をやらせてもらえることになりました」と報告してくれた時には嬉しい気持ちでいっぱいになったが、「2019年、高知で開催しようと思う」と言われたのは驚愕であった。箱（会場やホテル）を考えれば、普通は、「無理でしょう」と諦めがつく。しかし、花﨑先生はもはや、がいな土佐人であった。ちょうど、県民文化ホールが建替えになって使えない弱みをものともせず、尾﨑知事や県庁の方の援助も得ながら、見事に開催まで漕ぎつけられた。神戸などにある「借り物」でない、地元のスペースで、あれだけの規模の学会を運営することは、教室員にとってみればかけがえのない経験になる。漕ぎつけられた

だけでなく、知人たちから「久し振りに、いい学会に参加させてもらった」という声ばかり聞こえてきたこともとても嬉しく、感謝した次第である。

土佐人として暮らしていただいた花﨑先生ではあるものの、生まれ故郷の信州とは離れた暮らし。掬うべき味わいのある言葉を話される、大好きなご母堂は彼の地に在るのに、教室の運営、各種学会の役職などを務められながらの生活は、快適なことばかりではなかろうと思うことがたった一度だけあった。何かに悩んでおられるが、何かはわからない。こんな時は天野先生だと思い立って連絡をとり、2014 年 12 月、諏訪郡富士見町にある富士見高原病院を訪れた。線路沿いの道には雪が残っていた。何を語るでもなく、病院、そして「長野でも名高い蕎麦屋さん」で時間をご一緒させてもらった。「悩んでいるようなことがあったら相談に乗ってあげてください」とだけお願いして、あとはすべてをお任せすることにした。そしてまた、大好きな花﨑教授が戻ってきた。

天野先生が何か話されたのやら、話さずとも心が通じたのやら、わからない。天野先生は当時すでに山梨県に居を構えられて、大好きな農業や鮎釣りをされていると語っておられた。それなのに数年後、2018 年の 5 月、今の私より 2 歳若い 69 歳で亡くなられてしまった。ご存命なら、花﨑教授の無事の業務完遂にどんな喜びの声を届けられることだろうと残念に思う。代わりを務めるには力不足ではあるものの、向後の花﨑先生のご活躍を祈るエールを天野先生とともに送りたい。

天野 純先生と共に（中：花﨑教授、左：倉本）

桜の花を仰ぎみて

高知大学医学部病理学講座　教授
降幡　睦夫

桜の季節が訪れます。高知城、岡豊城跡、土佐山田。どこも毎年、艶やかなまでに満開に咲き誇こる桜達の晴れ姿は、まさに春到来を告げるにふさわしい光景です。桜の名所とは言わないまでも、自宅前を流れる鏡川沿いの桜並木も、それはなかなか風情があり好ましい。川から伝わる心地よいそよ風に誘われながら歩むうち、見上げれば青空を背景に淡紅色に彩られた花々が、桜木の袂で見え隠れしながら遠くの土手で遊んでいる子供たちとも相まって、のどかな早春の風情に安らぎを添えてくれます。一方で、医学部校内の一角に細やかに残された桜木群に目をやれば、ひっそり佇む電光に照らされた夜桜がまた麗しく、まるで一人別世界に入り込んだような、漂う香りさえほのかに暖かく刺激的で、儚くも高揚した心持ちを悟られぬよう佇むのであります。

考えてみますに、年月を経るに従い、あれ程の荘厳な大木となり、それなのにあれ程の繊細な美しい花を咲かせる樹木が、桜のほかにありましょうか。誠、一国の国花を象るにふさわしい。古木においてさえ、一本にしてその出で立ちは清々しく、満開はまさに見事としか言いようがありません。

そんな桜姿を思うが故に、その散り際の潔さほど、人の心に強く訴えるものは少ないでしょう。まさに咲かば花道、散れどまた花道なり。桜は散りながらも、既に一年後の開花準備を怠ることはありません。晩春を過ぎて新緑の葉桜となり、夏の暑い陽ざしを受け颯爽と生い茂り、その後落葉に身を任せ、長い冬の時期を過ごします。そして春、ほんのわずかの間だけ、その咲き誇った艶姿を披露してくれます。

ある日本画家は、桜大木の満開姿を描くために、その四季折々の移り変わりを、直接自分自身の眼で観、様々な情景を知り尽くそうと、その桜木の下で過ごしました。心の絵絹に桜姿が描かれるまで、画家はその傍らで一人静かに待ちました。

桜の季節が訪れると、普段は何の変哲もない北山においても、新緑に混じりながら、一本また一本と桜花色に彩られた木々を見つけます。そのような山中に桜があるなどとは気づかない所、全く人の眼にふれ得ない場所にさえ、桜の名所と同様の開花現象が起こります。たとえどんな場所にあっても、桜木は備えを怠らず、毎年尽きること無く花を咲かせてくれるのです。

満開の桜を仰ぎみて、一人、また私自身も、準備を始めて参ります。

花﨑和弘教授 ご退官に寄せて

高知大学医学部泌尿器科学講座　教授
井上　啓史

花﨑和弘先生、ご退官、真におめでとうございます。
長年にわたるご功労に敬意を表し、新たな一歩を踏み出される門出を、心よりお慶びを申し上げます。また、ご在職中のご厚情に深く感謝申し上げますとともに、今後進まれる新たな舞台における益々のご活躍と、末永いご健勝を祈念申し上げます。

外科医たる者、手術を執刀し指導すべきである―
研究者たる者、英語論文を書くべきである―
教育者たる者、明るい夢を語るべきである―

今もなお第一線で走り続けておられる偉大なる surgeon-scientist だからこその金言だと思います。ひとりの外科医として、また研究者として、このようなあたりまえの言葉が、いつかあたりまえでなくなることがないように、いつも溢れる笑顔で、私をはじめ多くの後進を叱咤激励してくださいました。そして、教育者としても、きちんと意見を聞いてくださり、毎回丁寧に向かい合ってくださるだけでなく、厳しく、明るく、そして何よりも常に礼儀正しく、真っ直ぐにブレることのない正直な生き方を教導してくださいました。これまで、お付き合いさせて頂いた貴重な時間の中で、教授である前に、そして大学人・医療人である前に、まず人としてどう生きるべきなのか、そんな人生の大命題までも考えさせて頂きました（残念ながら、まだまだ自らの答えは模索中ではありますが…）。
歴史と伝統のある外科学講座を力強く牽引され、時代と社会のニーズを念頭に医学部を大きく発展させ、Super Regional University を掲げ目指す高知大学を世界に向けて繁栄させ、さらには高知そのものを広く活性化させる、花﨑先生が目指されている夢はこの上なく純粋であり、なおかつ崇高です。これからも先生の周りには、明るく真剣に語り合え、厚く信頼し合える人々が集い、先生とともに大きな夢を紡いでいかれることと思います。私も、先生の教えと先生への感謝をしっかりと心に刻み込み、自らの夢を紡いでいきたいと思います。ご指導ご鞭撻、ほんとうにありがとうございました！

もう５年も前になりましたが、2017 年に、光線医療を介する国際学術交流にて、バーレーン王国にご一緒させて頂きました際の、心の底からの笑顔と楽しい思い出を、ご退官に添えて。

科学への信念を垣間見た

高知大学理工学部門　教授
長﨑　慶三

幸運は、ときに唐突に訪れる。

４年前のこと、研究推進課から「医学部･花﨑教授の科研費応募書類に対してコメントせよ」との指令が舞い込んだ。非糖尿病患者の血糖管理を目指した斬新な申請課題。門外漢の私にはいささか難解だ。しかし、「人工膵臓」という画期的な発明を牽引し、さらに「死の谷」を越え実用化に至らしめた実績を持つ申請者の研究設計。それは、予想以上にエキサイティングで魅惑的なテーマだった。「コメント」を口実に初めてお会いした医学部第一外科の大教授。畏れ多い。どんな顔して若輩者が「そこはこう、ここはこう」などと語ればいいのか。しかし、私の想像は幸いなことにあっけなく裏切られた。私が放つ些細なコメントに熱心に頷き、的確に質問を返してこられるその姿。科学に対してあくまでも謙虚であり続けようとする医学者の信念を目の当たりにした瞬間だった。新年度になり、その課題が無事採択されたとの連絡をいただいたときには、心から嬉しく思ったのを覚えている。

有難いことに、これをきっかけとして今もご縁が続いている。ピロリ菌ファージや糖鎖認識分子設計などの研究を介してのコラボレーション、そして若手育成。海洋ウイルスを専門分野とする私がこれほどまでに医学分野と連携することになろうとは、着任当初は思いもしなかった。花﨑教授の持つ求心力が描く渦。その渦の中に心地よく巻き込んでいただき、良い形で広がりつつあるネットワーク。この追い風に穂を立てて邁進し､高知大学発の新たな科学分野｢海洋医学・海洋医療」の発展に尽力したいと考えている。

退官などでは終わらない。科学への信念がそんな生易しいものであろうはずがない。花﨑教授の熱いマインドは、脈々と後世に受け継がれていく。彼の背中を見て育ったものは皆、そのことを知っている。

花﨑先生、ご退官を心からお祝い申し上げます。

ピロリ菌ファージ研究チーム発足の会。右から中山沢先生、前田広道先生、松﨑茂展先生、花﨑和弘先生、徳山英一先生、竹内啓晃先生、筆者。

花﨑先生の思い出

高知学園大学健康科学部　臨床検査学科　教授
松﨑　茂展

花﨑先生、これまでの長い間のお勤めご苦労さまでした。住居がお隣同士であるというだけで、長い間ご親切にしていただきましたことに、家族ともども深く感謝しております。花﨑先生のお仕事の素晴らしいお話は、他の先生方がお語りになられると存じますので、ここでは日常生活での花﨑先生の思い出を語らせて頂きたいと存じます。

先生が、2006年の春に高知大学医学部にご着任されましたおり、私は高知大学医学部微生物学教室に准教授として在職しており、私ども家族は高知大学高須宿舎に居住しておりました。花﨑先生は、ちょうど私どもの部屋の真向かいのお部屋に引越して来られました。

花﨑先生のことで、真っ先に思い起こされますのが、なんといっても驚くような規則正しい生活をしていらっしゃることでした。高知大学宿舎の各部屋には、入口に大きくて重い金属性の扉がついています。そのため、各部屋の扉の開閉時に「ギーガチャン」という大きな音がして、意図せずして出勤時間などが、居住者同士でお互いに分かるものですが、先生はどうも朝６時頃から毎朝ランニングをしておられるご様子で、その後７時頃には早くもご出勤されておられるご様子でした。しかも一年を通じてほとんどかわることなくその生活を繰り返されておられ、まるで修行僧のようでとてもまねすることはできないと、家内ともども舌を巻いておりました。哲学者のカントが、決まった時間に散歩をして近所の人が彼の散歩するのをみて時計を合わせたという逸話がありましたが、まさにそれを思い起こしておりました。

また、同じ宿舎（アパート）に住んでいるがための共通の問題･悩みも共有しておりました。それは、鳩による鳥害でした。鳩は断崖絶壁が本来の住みかだそうで、カラスのように日暮れになっても山にかえることもせず、アパートを断崖と見立てて住み着いてしまいます。それで追い払っても追い払っても、鳩は宿舎のベランダや階段に飛来し、そこを巣や糞で汚しまくり、しかも卵を産み代を重ねようとするため掃除が大変で、花﨑先生も私どもも大変困っておりました。先生が「鳩は平和のシンボルなどではないなー」と嘆いておられたことが印象に残っております。私は一足先に宿舎を退居させていただきましたが、今は鳩の来ない幸せをかみしめております。

最近は、花﨑先生と農学部の長﨑教授との共同研究に私をお加えいただき、ピロリ菌とそのファージに関する研究プロジェクトチームの一員として、研究を進めさせていただいております。生活のみならず研究の面におきましても大変お世話になっており、本当にお礼の言葉もございません。

ご退官後もその素晴らしいお人柄とリーダーシップで、日本や世界での花﨑先生のご活躍がまだまだ続くと確信しておりますが、どうぞこれからはご健康にもますますお気を付けになり、

ご活躍下さいますようにお願い申し上げます。

長い間のご厚情を感謝しますとともに、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

ピロリ研究グループ

Academic Surgeon の極み
花﨑和弘先生へ

自治医科大学　消化器一般移植外科　教授
味村　俊樹

花﨑先生、ご退任おめでとうございます。2006 年 4 月の教授就任から 16 年間、高知の、日本の、そして世界の人々のために御尽力下さり有難うございました。そして、これまでの貴重な御指導と心温まる御支援に感謝申し上げます。

私が花﨑先生に初めてお会いしたのは、高知大学病院に新設した骨盤機能センターに赴任した 2008 年です。それ以降、2013 年に退職するまでの 5 年間、公私にわたり大変お世話になりました。花﨑先生をはじめ外科 1 の皆様のご支援のお陰で、高知での仕事と生活を十二分に楽しめました。花﨑先生のご厚意で、緒方宏美先生の学位論文を指導させて頂けたのも、とても良い経験でした。私が退職した後も高知大学病院に骨盤機能センターを存続できたのも花﨑先生のご尽力の賜物ですし、高知大学客員教授の称号を頂いて、今でも 3 ヶ月に 1 度、高知大学病院で便失禁外来を継続できているのも花﨑先生によるご配慮のお陰と感謝しております。また、高知の夜の街「おまち」の楽しみ方も教えて頂きました。クラブに突然来店した花﨑先生を見つけて、なぜか咄嗟にテーブルの下に隠れたのも、今となっては楽しい想い出です。

「楷風」は花﨑先生が創められた外科 1 の年報で、2006 年の創刊号から 2020 年の第 15 号まで全て手元にありますが、今年度の第 16 号で最後と思うと寂しくてなりません。その貴重な「楷風」の第 3 号に「骨盤機能センター教授就任ご挨拶」を寄稿させて頂けたのは、私の秘かな誇りです。「楷風」では巻頭言において、花﨑先生は数々の金言を述べられておりますが、その一部を以下に記させて頂きます：

・研究を成功させるコツは良いテーマやアイデアを持っている才能だけではなく、それを具現化する根気と努力です（創刊号）
・Speed and Activity（第 2 号、教室開講 30 周年記念誌）
・厳しさ 1 割、寛容さ 9 割（第 2 号、教室開講 30 周年記念誌）
・電通鬼十則（第 4 号）
・世界を目指そう（第 5 号）
・セブンブリッジセオリー（第 6 号）
・高知大学医学部発展のための 5 提案（第 7 号）
・高知大学外科 1　心得 10 か条（第 7 号）
・八つの人の道（第 9 号）
・再現性のある研究をして、正直な論文を書こう（第 10 号）
・研究資金獲得→研究→論文化→研究資金獲得の有効な学術サイクル形成（第 11 号）
・外科医教育の理想形は、模倣・蓄積・創造の伝承（第 12 号）

・地域から世界へ発信する臨床外科学：Staying local, Moving global（第 14 号）

いずれも珠玉のスローガンです。もしも花﨑先生が電通に勤めていたら、きっと社長になられていたことでしょう。

また､｢楷風｣の表紙裏に掲げられている「優れた若い外科医（Academic Surgeon）の育成」と「目標達成のための三つの課題」は、今でも私にとって貴重な教訓であり大きな励みです。その卓越した臨床能力、輝かしい業績、優れた人柄から、花﨑先生こそ、まさに「Academic Surgeon の極み」です。今後歩まれる第二、第三の人生においても、更なる大所高所からの後進の指導、日本・世界の外科学発展に貢献されることを期待しております。

最後に、2013 年の私の退職にあたって花﨑先生から頂いた惜別の辞を、今度は、私から送らせて頂きます。

勧酒（于武陵）：勧君金屈巵　あなたに この金色の大きな杯を勧めます
満酌不須辞　なみなみ注いだこの酒を 遠慮しないでください
花發多風雨　花が咲けば 雨が降り 風が吹くものです
人生足別離　人生に別離はつきものですね

花﨑教授ご退官に寄せて

医療法人　仁栄会　会長
島津　栄一

平成18年高知大学医学部外科学教授として赴任して以来、教室の発展に努め、高知県の外科医療のため尽力され、広い知識と経験により高知県の外科治療を向上させ、また教室員の研究を指導され多くの論文を世に出し、多大なる業績を残された事に敬うとともに、公私ともにお世話になった事を深く感謝いたします。

着任早々より当院へ公私ともに協力していただき、当院も本日の発展を見る事ができました。

また次女佐吉子の大学院（外科学第一講座）在学中は親切に高いレベルの最新の教育を授けていただき医学博士を拝受することができました。心より感謝しています。

2019年11月には第81回日本臨床外科学会を、2020年11月には第58回日本人工臓器学会を主宰されました。それぞれの学会の研究者に発表や議論の機会を与え２つの学会の発展に尽くされ、また高知県の観光なども紹介され高知県の経済にも寄与されました。教室員の皆様も診療や研究に多忙な中、真摯に取り組み成功裏に終わった事を本当にうれしく思います。

日本臨床外科学会では第29回総会が岐阜市で鬼束惇哉教授の主催で行われた時、大学院学生だったので少しお手伝いをしたことがありました。2018年花﨑教授より来年臨床外科学会を主宰するので準備委員長をしてくれと仰せつかりましたが準備委員長は何をする役目なのかも知らずに引き受けました。１年前の総会には出席し、閉会時に次期総会会長とともに挨拶すべきだったのに腰椎すべり症のために欠席し、また総会でもまともな挨拶もできないで、教授に恥をかかせたのでは無いかと今でもジクジたる思いです。

合同懇親会や評議員懇親会などでは多くの教授達に囲まれ学会の開催に感謝され、総会の盛会を喜び合っている誇らしい姿を拝見し、花﨑教授が総会を主宰されて本当に良かったと思いました。小生は久しぶりに会場で消化器外科におけるダビンチによる手術の映像を見ることができ、我々の時代との違いに隔世の感があり驚きもしまた面白くもあり、外科医の血が騒いだ事でした。

総会に岐阜大で同級生で同じ外科の大学院生として共に研鑽を積んだ岐阜大学名誉教授・がん治療学会前理事長である佐治重豊君が出席してくれことは殊の外嬉しく、久しぶりにご夫妻と旧交を温め、土佐の料理を馳走することができたのも楽しい思い出になりました。

歴史と伝統のある臨床外科学会総会に、総会会長花﨑和弘教授と並び準備委員長に小生の名が刻まれ、今後末代まで残り続いていく事は、大変名誉なことであり望外の喜びであります。改めて花﨑教授に心から御礼申し上げます。

花﨑先生におかれましては今後も新しい環境で医学の発展に尽くされる事と期待しておりま

すがまだまだお若いとはいえ、どうかご自愛なさってください。
今後ともにご厚誼をいただき、ご指導をお願いいたします。

第 81 回　日本臨床外科学会

花﨑教授　ご退官記念
高知の外科医療の源流を守り抜く

須崎くろしお病院　理事長
田村　精平

高知大学外科１　花﨑和弘教授が、令和４年（2022年）３月末日をもって定年退官されることになりました。平成18年（2006年）の教授就任以来、16年間、高知県の外科医療に大きな貢献をしていただきました事に対し、心から感謝すると共に、本当にご苦労様でしたと申しあげたいと思います。

医学部の各教室（医局）には、昔から学閥という不文律がありました。高知大学第一外科は岡山大学系でした。昭和53年（1978年）就任しました初代教授緒方卓郎先生は、岡山大学第一外科講師からの就任でしたし、平成８年（1996年）就任しました、第２代教授荒木京二郎先生も、岡山大学第一外科出身でした。緒方先生開講時、お手伝いさせて頂いた、清藤敬先生、高田早苗先生、臼井隆先生、そして私も岡山大学第一外科出身でした。

荒木教授時代には、岡山大学色は薄まり高知大学出身者が中心となっていましたが、何の関連もない信州大学から、三代目教授として就任されたのが花﨑先生でした。厳しい教授選を経て、スタッフを一人も連れず、単身で赴任された花﨑先生は、大げさに言えば「四面楚歌」だったのではないかと心配しました。

教授選では、対抗馬の先生を応援していました私は、花﨑先生就任間もない頃、教授室を訪問し、選挙で選ばれた花﨑先生に、微力ではあるが、できるだけのバックアップさせていただく、ノーサイドだという意味の話をさせてもらった記憶があります。

花﨑先生は教授就任以来、教室の大目標として、「研究マインドを持った優れた外科医（Academic Surgeon）を育成する」を掲げ、目標達成のための三つの課題として、「医学教育の充実」「良好な手術成績の達成」「高知発の優れた研究を世界に発信」を実践し、優秀な医局員を育て、多大な実績を残されていることは皆さんご承知の通りです。

そして、一昨年11月には、「第81回日本臨床外科学会総会」を主催され、昨年は「第38回日本ヒト細胞学会学術集会」、「第58回日本人工臓器学会大会」を主催され、いずれも成功裏に終わり、有終の美を飾られました。

高知大学外科１は、医局員も、少しずつではありますが着実に増え、高知大学の中でも、最も活発な医局の一つとして活動していますが、卒後臨床研修制度で研修医の大学離れや、新専門医制度などの影響で、外科医志望の若い先生が減少しているのが気がかりです。また、消化器外科の手術はほとんどが鏡視下手術になり、手術実施病院の集約化が進み、元元症例数の少なかった地方の中小病院では外科手術が激減しています。

これも時代の流れで仕方がないと思いますが、若い先生方が、地方の中小病院では手術症例数をクリアーできなくなり、地方の病院の外科医不足に拍車をかけるのではないかと危惧して

います。それぞれの地域の病院には、外科系救急医療の対応、外傷治療などの小外科、最近急増しています癌末期患者に対する緩和ケアなど、大きな手術以外にも外科医として重要な役割があります。Academic Surgeon ももちろん大切ですが、General Surgeon も必要だと感じています。

人口減が続く高知県で、外科１では、年々手術件数が増加しているとのことですが、手術件数では、トップの高知医療センターの後塵を拝しています。しかし、大学には臨床だけでなく、教育、医師養成、そして研究という重大な使命があります。これらの使命を全うすることが最優先で、市中の病院と手術症例数を競う必要はないと思います。

昨年 12 月中旬、津野町船戸の山中にある、四万十川源流点に行ってきました。不入山より湧き出た一滴の水が、一筋の流れとなり、四万十川の原点となり、やがて、196㎞の大河となり、太平洋に注いでいます。

緒方、荒木両元教授が基盤を作り、花﨑教授で大きく飛躍した高知大学第一外科が、今後も高知の外科医療の源流として、益々発展されることを願っています。

花﨑先生、本当に有り難うございました。

最後に、私の直属の恩師でありました、故緒方卓郎先生の追悼誌を出版していただいた事、そして、高知大学外科１の年報「楷風」を発刊していただいた事に心から感謝いたします。

外科の将来憂うこと無し

医療法人臼井会　田野病院　理事長
臼井　隆

花﨑和弘教授定年退官まことにおめでとうございます。研究、臨床、外科医の育成と大変な活躍、活動をされてこられました。頭が下がる思いです。高知医科大学第１外科でスタートした第１外科は、高知大学医学部外科（一）となり、今後は外科が統合されるようです。他大学で見られるように、岡山大学もそのような流れで来ていますが、高知もそのようになるのでしょうか。

この間に手術対象疾患の減少、変化、内視鏡手術の進歩、腹腔鏡下手術の進歩、薬剤、新薬の開発などなど、たくさんの変化がありました、そして我々民間の中小病院にとっては大きな影響の出ている研修医制度ですが、若い医師がいなくなったと言われるように、まさに地域の救急医療を担う若い元気な、体力のある外科医がいなくなりました。

その結果救急医療の制限、手術の制限などを行い、大学その他の医療機関と連携をとり、橋渡し的な医療に力を入れざるを得なくなりました。しかし、研修医制度は見直しなどにより研修医にとってはかなり良い制度になってきた印象を受けます。

研修制度の一環で、田野病院では数年前から地域研修を行っています。初期研修２年目の研修医が、基幹病院からの希望者を調整してもらい特定の診療科に限った研修を行うのでは無く、訪問看護、訪問診療、ヘルパーステーション、訪問リハビリ、通所リハビリ、各診療科外来、エコーなどの検査、特別養護老人ホームの衛生委員会への参加、近隣の診療所での研修、老健施設での研修、そして、指導医とともに入院患者の継続的診療などを幅広く行います。多くの研修医は進む診療科を決めていますが、まだ決めていない、迷っている人も時々います。今までの研修医はみんな真面目で熱心でした。知識も豊富でした。技術的なことはこれからしっかり磨いていくことになるでしょう。丁度当月の研修医は令和４年の春には高知大学医学部の外科に入局することに決めたそうです。福永有紀子研修医です。本人の了解をもらったので、田野病院での研修中の写真を掲載して頂きたく、同封致します。

気切オペの様子

田野病院は先日増築工事の起工式を行い、令和４年からは本格的に増床工事が始まります。19 床の増床認可をもらってからコロナ感染症拡大の影響もあり工

事開始まで時間がかかりました。私どもの医療圏では病院、診療所の閉院に伴い病床不足医療圏とされていました。その結果、田野病院の増床と、室戸市立診療所の新築が高知県の医療審議会で認められました。室戸市立診療所は令和４年の６月に完成予定。当院は８月の予定です。ともに完成すれば、満床のため入院の受け入れが出来ない、救急車の受け入れも出来ないという状況の解消には大いに役立つでしょう。最近も診療所の閉院がありました。当院の増床と室戸市立の有床診療所の新設は地域住民にとっては待ち遠しいものであったと思われます。

個人的なことになりますが、私は悪性リンパ腫の治療で入退院を繰り返し、化学療法や放射線治療で１年近く仕事が出来なかったのですが、丁度コロナで外来患者数が減少しているのと重なり、考えようでは良かったとも言えます。職員は院長を筆頭に大変頑張ってくれたのも、結果的には良かったと思っています。院長も今まで経験したことの無いことをたくさん経験したことでしょう。これからはそれぞれの医師が専門性を大事にしながら、皆で協力しながら、いろんなことに対応していけるように努力したいと考えています。同時に、緒方教授、荒木教授、花﨑教授と続いた第一外科教室、今後もさらなる発展をしていくでしょう。われわれ同門はできる限りの協力をして、支えていこうと考えています。何かまとまりのない、とりとめも無い文章になりましたが、花﨑教授の今後のますますのご活躍を祈念して筆を置きます。

地域医療研修総括発表後の記念撮影

花﨑教授のご退官にあたり

野市中央病院　名誉院長
公文　正光

花﨑　和弘教授、御退官、おめでとう御座います。

長年、単身赴任で教室のためにご尽力され、お疲れ様でした。

赴任後、初めて教授室でお目にかかった時に、「高知に行けば、公文先生に会えると楽しみにしていました。」と言われ、びっくりしたのを覚えています。

その時理由をお聞きすると、「尾状葉の公文」と「中谷先生に聞いた公文」と言うことでした。

中谷先生とは信州大学で花﨑教授の医局の先輩で、入局時には肝臓の指導を受けた事があったとの事でした。

中谷先生と私は1985年頃、国立がんセンター（当時）肝臓外科の長谷川　博先生のお供で、超音波診断の指導目的で、南パリ大学に行きました。

緒方初代教授から、特別に長期間のお休みを戴き、フランスで臨床経験をし、有名なCouinaud先生、Bismuth先生とも会い、手術見学或いは施設見学をする機会にも恵まれました。その時、初めて肝移植手術を見学しました。（当時の写真を入れておきます。）

皆様に、余り知られていない教授の一面をご紹介いたします。

国際医療研究センター理事長、國土先生（もと東大２外教授）、杏林大学阪本教授（もと東大２外助教授）のご指導を戴き、国内で唯一、一つの病院が発行する英文雑誌GHMに投稿、acceptされた事を報告に行きました。

花﨑教授はその雑誌の事を既にご存じで、「公文先生、この雑誌は出来たばかりで、今は知名度が低いけど、すぐにPub-Med.で検索可能となり、インパクトファクターもつきますよ。」と断言されました。「どうして、そんなことが解ります?」とお聞きすると、編集委員長、編集委員の顔ぶれをみると大体わかります、とのお返事であった。見るところが違うとひとしきり感心しました。自分にはない、その優れた能力に驚きました。

2021年12月になると、教授の言われた通り、GHMがPub-Med.で検索可能になったこと、インパクトファクターは申請中と連絡がありました。

楷風会の勉強会に呼ぶ講師の選択もユニークでした。

福山市民病院の貞森先生、日本テレビの高田さんを初め、その選び方に、ちょっと意外性があるものの、後から考えると、理にかなっている。中央で鍵を握る人を沢山知っていて、その中で選んでおられるのだと、納得するところがあります。

花﨑教授で、どうしても忘れていけないのは、教室にAcademic Surgeonという言葉を残されました。それともう一つ、Yes, You can. この二つの言葉が医局の雰囲気を変え、論文の数、入局者を増加させた大きな要因と考えています。

慣れない土地で長期間の単身赴任生活はご不自由で、本当にご苦労が多かったと推察致します。
これからは、ご家族とゆっくり過ごすことが出来ますよう御祈念申し上げます。

Couinaud 先生、中谷先生

長谷川先生、中谷先生、Bismuth 先生（パリのレストランにて）

肝移植（Bismuth 先生の執刀）

花﨑和弘教授、ご退任を祝して

渭南病院　外科
計田　一法

先生、いろいろありがとうございました。

外部の一医局員なので、通常ならご迷惑をおかけすることは無いはずなのですが、転勤の件で２度も!! 容認していただき、感謝しかありません。

安芸から仁淀へ（着任された初年度)、仁淀から渭南へ（７年後)、その都度、医局へお伺いし「計田ちゃん、諦めないでよ」vs.「先生、行かしてください」

と 20~30 分の押々々問答。決して険悪な雰囲気では無かったと勝手に思いますが、よく許していただけたな…と苦笑いです。懐かしいです。

着任されてすぐ､美術館付近で偶然何度かお会いしたせいか（先生はロードバイク､僕はサッカー)、なぜかずっと“計田ちゃん”と呼んでもらってきました。えらい先生に“ちゃん”付けで呼んでいただき、私にとって不思議な、とても素晴らしい花﨑先生でした。

年が近いのもありますが、先生、まだまだ元気でがんばりましょう。

メッセージカードでは足りず、こんなに書いてしまいました。すいません。

溝渕敏水院長（向かって左）と

日本発の医療技術、人工膵臓を世界に発信

日機装株式会社　取締役執行役員
木下　良彦

花﨑先生、2006年の教授就任以来、長きにわたり教育、研究そして臨床と大変にお疲れ様でした。そして私のような企業人への温かいご指導、有難うございました。

花﨑先生との出会いは花﨑先生が高知大学にご着任された時からでした。教授として高知にご赴任され、講座の主力研究として人工膵臓を取り上げてくれるとのことから、大学にお伺いしたのが始まりです。教授室の前の廊下で花﨑先生をお待ちしている時に、壁に掲げられた脳神経外科の祖と言われるHarvey Cushing先生が残されたAcademic Surgeonの言葉を目にした時に花﨑先生の外科医として信条を感じました。私自身、長く脳神経外科分野の研究にも従事しCushing先生のAcademic Surgeonの考えに心を打たれ、今でも大切にしている考えで、僭越ながら同じ言葉を大切にされている花﨑先生との研究が楽しみだと感じた瞬間でした。それから花﨑先生と人工膵臓に関して、研究開発だけではなく、広く臨床で使えるように診療報酬獲得にも一緒に取組ませて頂きました。

研究に関しては弊社が1970年代に大阪大学と糖尿病患者診療用途で開発をした人工膵臓を外科周術期の血糖管理を行う装置として改良開発を進めているところで、花﨑先生のご指導のもとで高知大学外科1や麻酔科の先生方と一緒に様々な研究をさせて頂きました。忙しい先生方との研究でなかなか実験の時間をとることが出来ずに合宿形式で連日の研究を行ったこともありました。朝から実験に没頭し、夜は少しの気晴らし。忙しいながら多くのことを学べる機会で、花﨑先生がAcademic Surgeonの考えに基づき優秀な先生方の育成を行われている場面だったと思います。写真に写っている先生方はその後に学会で賞を受賞されたり、学会の要職に就かれたりと今では人工膵臓研究で日本を更には世界をリードする研究者で臨床医になられています。そのスタートの研究でありこの写真はProject Xのようで、企業単独で成し得なかった困難を先生方と一緒に乗り越えチャレンジした証だと思っています。

高知大学の先生方との様々な活動を経て、2009年に現在の人工膵臓STG-55の承認を取得し、いよいよ新モデルとしての臨床がスタートしました。しかし内科の検査用途では診療報酬に収載されているものの、外科周術期で臨床使用をした場合、診療報酬がないということが普及の妨げとなっていました。花﨑先生と外科周術期で診療報酬を獲得しないと、必要とされる患者様に広く使用することが難しいという共通の認識のもと、今度は診療報酬獲得のプロジェクトの開始です。初めは単一の学会から要望書を提出するものの、厚生労働省が認めてくれない。困り果てているところで、診療報酬の獲得に造詣が深い許俊鋭先生に巡り合い、複数の学会をまとめて、要望していくことが重要だとアドバイスを頂き、複数学会への参画を呼び掛け、日本人工臓器学会を主学会として人工膵臓関連学会協議会の設立に漕ぎ着けました。2014年9

月に第１回の会議を開催したことを思い出します。日本人工臓器学会から始まった活動が、日本外科学会を始め臨床外科学会、肝胆膵外科学会、消化器外科学会、胸部外科学会、心臓血管外科学会、移植学会、麻酔集中医療領域からは麻酔科学会、集中治療医学会、更には内科領域から糖尿病学会までと影響力が高い 11 学会にまでに拡大したことに、花﨑先生の人望と業績の成果を改めて思い知らされました。そして 2016 年の診療報酬改定で「人工膵臓療法」として診療報酬を獲得するに至り、その時は飛び上がるほど花﨑先生と喜んだことを思い出します。この多くの学会をまとめて人工膵臓療法を研究から臨床へと導いてくれたのが花﨑先生のお力でした。

診療報酬獲得後は、精力的に普及促進に向け国内外の学会活動を行って頂き、花﨑先生が理事長を務められた日本人工臓器学会ではハンズオンセミナーを開催するなど、次々と新しい取組みを実行され、欧州人工臓器学会の発表には私もご一緒させて頂き、ドイツを訪れたことを思い出します。

新しいことに行動力と人間力でチャレンジされ、Academic surgeon の考えを実行される花﨑先生を尊敬しています。企業人をここまで大切に付き合って頂けた花﨑先生に感謝の言葉しかありません。本当に有難うございました。教授退任という節目を迎えられますが、これからも健康でご活躍をされることを祈念し、周術期血糖管理の第一人者として、これからも様々な活動でまたご一緒させて頂ければ幸いです。

高知大学医学部基礎研究室にて

花﨑教授との思い出とご指導への感謝

日機装株式会社　メディカル事業本部　外科グループリーダー
塚本　雄貴

花﨑教授、大学でのこれまでのすべてのご活動、お疲れ様でございました。ご指導に深謝申し上げます。思い出を少しだけ綴りつつ、感じたこと、感謝の気持ちを書いてみたいと思います。

初めてご面会したのは、ベイラー医科大学能勢之彦教授の2004年瑞宝中綬賞の叙勲祝賀会でした。ベイラー医科大学にご留学され、人工膵臓の研究に取り組まれたことをうかがい、能勢一門の中に新しいご縁が出来たことを、単純に喜んでいました。2006年に高知大学の教授として就任され、人工膵臓を使った臨床研究を積極的に進めていただき、高知大学の優秀なドクター、ナースの皆様が論文をたくさんお出しになり、研究が活発になっていく様子を近くで拝見することができ、花﨑教授の影響力が大きく広がっていくのを感じていました。

2006年の頃、私の勤めている日機装では、旧来の人工膵臓を改良開発するプロジェクトが立ち上がっており、血糖の連続測定とインスリン・グルコースの自動注入という人工膵臓の機能が高血糖状態の是正や血糖変動の激しい急性期病態に対して有効であるというエビデンスが、社内のプロジェクト進行の上でも必要でした。海外で盛んに新しい論文が出てきているなかで、人工膵臓を使った血糖管理の臨床的な有用性を出して、新しい治療方法として普及させたいという思いが、花﨑教授の研究マインドと企業の思惑と重なり、産学共同研究を組ませていただきました。

高知大学外科１の研究の大きな輪の中に入り、産学共同研究として、動物実験をはじめとして多くの実験をやらせていただきました。花﨑教授から共同研究の一部を論文にまとめるチャンスをいただきました。論文指導中は、私の理解の足りないポイントを丁寧にご指導いただき、何度も原稿を書き直し、やっとの思いで投稿、海外誌に採択いただくことが出来ました。今思えば、高知大学での実験が最も楽しい時間の一つでした。自分にとって新しい発見を見つけるたびに自分のステップが上がったような高揚感がありました。

共同研究の実験の合間に、お話ししていたある時、高知大学赴任時の理想像を語っていただいたことがあります。「うちの医局を、高校野球でいうところの甲子園常連校にしたい、どこに出しても恥ずかしくない選手がそろっているチームを作りたい」おそらく、その理想の実現に向けて、Academic Surgeonの育成という目標が位置付けられ、海外医学誌に投稿できる研究論文の執筆をドクターに義務付け、学位取得など指導に熱が入っていかれたのだろうと思います。

2009年には仙台の日本人工臓器学会で宗景匡哉先生（高知大）が人工膵臓関連の研究テーマで臨床研究賞をお取りになり、壬生季代先生（高知大）もナースアワードをダブルで賞をお取りになりました。心臓、腎臓などの臓器分野が人工臓器学会では研究発表が多いにもかかわ

らず、人工膵臓の研究テーマが二つも同時に受賞した、ということに非常に驚愕し、感激したことが記憶に残っています。

花﨑和弘先生の海外発表を聴講することもできました。欧州学会でのオーラルのセッションでは、ご準備されたプレゼンテーションを早口の英語で力強く講演し、満員の会場に堂々のご発表、その後も矢継ぎ早に出る質問をそつなくこなし、聴衆を圧倒している様子を観ることができた時などは、感動して鳥肌が立つ思いでした。発表前日には夕食も取らずに準備に専念されていました。そんなご様子から発表までの準備がいかに大切か、思い知らされました。

花﨑教授のご指導のお蔭様で、多くの貴重な経験をさせていただきました。思い出は尽きず、紙面に書ききれない楽しい記憶があふれてきます。偉大な臨床家でありながら、研究者であり教育者である花﨑教授の下、素晴らしい研究室、医局の皆様とかけがえのない貴重な経験を得られたことに誇りを感じると共に、花﨑教授のこれまでの温かいご指導に心から感謝申し上げます。

学位取得後の記念撮影　2013年6月

寄稿文Ⅱ

Contribution Ⅱ

花﨑和弘先生の教授ご退官に寄せて

高知大学医学部　乳腺センター　センター長
杉本　健樹

花﨑和弘先生が高知大学医学部外科学講座外科１の３代目教授として赴任されたのは2006年の春でした。当時の医局の財政は、教室の運営や医局員の活動に必要な奨学寄附金や医局費が底を突いている危機的な状況での船出だったと記憶しています。若手の専門医取得に関係する学会出張旅費が高知県医療再生機構から補助されている現在では、資格取得や学会発表のための出張のほとんどを自費で賄っていた当時の状況は想像も付かないと思います。しかし、当時は助手であれば１回の出張費にも満たないわずかな出張用の交付金を使い切ると、そして医員や研修医はすべて私費で学会出張しなければならず､同時に出張中は外勤を休むことになり、勉強して学会発表するために減収の上に出費がある教室員にとってはつらい状況でした。

医局運営を円滑にし、せめて発表がある教室員の出張旅費は支援できるようにしたいとの思いから、花﨑先生ご自身にとっては初対面に近い関連病院の先生方に直接ご支援をお願いされていました。そして、当時、医局長であった私に指示して、教室員が活発に学術活動ができるように資金確保のために活動をさせる等大変腐心されていたことを思い出します。同時に、教室員が収入に不安を抱かずに仕事や研究ができるようにと、花﨑先生の指示・支援の下、私も多くの関連病院の先生方や経営者の方々に直接お会いして、教室員の給与を少しでも上げていただくように願いをさせていただきました。関連病院の先生方には大変ご迷惑をお掛けしたと心苦しく感じていましたが、先生方のご支援のお陰で当時の教室員が安心して勉強できる環境作りが出来、その後の新入医局員の勧誘にも力を入れることができたと思っています。

花﨑先生は新たな教室の出発の準備で奮闘する中、研究熱心で退官後もご自宅の敷地内に建てられた研究室で研究を続けられていた初代教授緒方卓郎先生を教室に迎え入れとても大切に処遇されたことが強く印象に残っています。退官後は教室の研究室への出入りや学内での研究活動に制限があり大変不自由な思いをされていた緒方先生が、かつてのように教室内で研究をされることをとても喜んでおられました。当時、私も教室内の電子顕微鏡室にマンモグラフィの読影端末を置いて遠隔診断に取り組んでいたため、週に何度も緒方先生とお会いしていましたが、いつも花﨑先生への感謝の気持ちをお話されていました。そして、とても活き活きと楽しそうに研究をされていました。その中で、緒方先生が在任中に学位を取得できなかった教室員の研究も指導され、遅ればせながら学位を取得することができたのは素晴らしいことだと思います。また、私にとって大変お世話になった恩師の緒方先生が晩年、大好きな研究を楽しくされている姿を見ることができたのは花﨑先生のお陰だったと心から感謝しています。

私自身は、2015年の乳腺センター立ち上げ以降は居室が変わり、少し教室から離れた場所で遺伝診療やがんゲノム医療にも関わるようになり、日常で花﨑先生とお会いする機会は少し

減りましたが、その後の外科１の研究・診療での目覚ましい発展は身近に感じています。

近年で最も印象に残っているのは、2019 年 11 月 14 日－ 16 日に高知市で第 81 回日本臨床外科学会総会を花﨑先生が総会会長として開催されたことです。高知での外科系の大きな全国学会総会の開催は初めてのことでしたし、地理的にも交通・宿泊の事情などからもかなり厳しい状況を乗り越えての開催でした。しかし、花﨑先生の地域から世界への発信という強い思いと、教室員の奮闘、同門や関連病院の先生方の温かいご支援があり、5,000 人を超える参加者を迎え大成功を収められました。私にとっても大会会長の花﨑先生を助けて教室が主催する高知での全国学会をぜひ成功させたい、頑張っている教室員を少しでも支援したいという思いから、協賛企業や共済セミナーのスポンサー探しに奔走したこともあり、総会の成功は大変よい思い出であります。また、花﨑先生から高知に多くの著名な乳癌・甲状腺癌治療の専門家をお招きする機会をいただけたことも大きな喜びでありました。

今、思い返すと、開催時期がコロナ騒動勃発の直前で、現地開催の対面での大きな全国学会としてはギリギリのタイミングであったことを思い、花﨑先生、そして高知大学医学部外科学講座外科１の運の強さを強く感じます。

在任中 16 年に渡り、高知県の外科医療の発展、大学・教室の発展、そして若い外科医の育成に奮闘され多くの業績を残された花﨑先生に感謝申し上げるとともに、先生のますますのご健勝を心よりお祈りいたします。

緒方先生宅にて

花﨑和弘教授のご退任に寄せて

高知大学小児外科　特任教授
大畠　雅之

花﨑和弘教授のご退任にあたり、心よりお慶び申し上げます。長年にわたり高知県の医療レベル向上のため臨床だけでなく医学教育・病院運営に置いても多大のご尽力に深く感謝いたします。

先生との最初の出会いは2015年の春になります。当時久留米大学教授の八木実先生と聖路加国際大学の松藤凡先生から高知大学の花﨑教授にお声をかけていただきまして、2015年9月から花﨑教授の教室の小児外科部門で働くこととなりました。高知県は旧県立中央病院（現高知医療センター）、国立高知病院や日赤高知病院が県内の小児外科医療を支えてきましたが、ほとんどが他大学からの派遣であるため長期的なフォローアップに不安がありました。花﨑教授が県内で唯一の医師教育施設である高知大学医学部が安定で継続できる小児外科医療を目指しており、小児外科医療の充実と医師教育を託されました。私にとって高知は生まれ故郷ですが、高校卒業後は長崎大学を拠点として仕事をしておりましたので、35年ぶりの帰郷となります。“地元”とは思っていましたが、35年の歳月は長く街の様相は様変わりしてどこから手をつけていいのかわからない状態でした。花﨑教授からは「焦らないでゆっくりやればいいよ」との助言を戴きました。小児科と産科教室の先生からの暖かいご協力も得ながら院外に小児外科外来を開設することで疾患の発見と治療・経過観察がスムーズになり大学病院での外来受診・手術症例を大幅に増やすことができました。2016年には待望の小児外科医を志す医師の入局があり、2021年度には小児外科学会の教育関連施設として認定されています。もともと県内人口が少ない上に近年の少子化により小児外科疾患、特に新生児疾患が減少していますが、花﨑先生に先鞭を付けて頂いた大学病院小児外科をさらに発展させたいと思っています。ニーチェに「樹木にとって最も大切な物は何かと問うたら、それは果実だと誰もが答えるだろう。しかし実際は種なのだ」という言葉があります。結果にこだわらず先生に与えられた目標に向かって、しっかり基盤を作っていきたいと思います。

これからも医療を担う場所で辣腕を振るわれることと思いますが、お身体に気を付けながらご趣味にも嗜んで下さい。先生の益々のご活躍、ご発展を祈念いたします。

楷風会にて（左から公文先生、筆者、花﨑先生）

思慮深い即断即決を実践するために

高知大学外科　講師・病院教授
並川　努

花﨑先生ご退官誠におめでとうございます。これまでのご功労に敬意を表し、ご指導賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

平成18年に私たち外科学教室員一同緊張しながらも花﨑教授を心機一転お迎えして以来16年の歳月が疾風怒涛のごとく経過し、その間様々な教えをいただきました。順風満帆時のみならず、難局のなかでもいつも即断即決の指令を発せられる姿勢に圧倒されましたが、高知大学、高知県の医療のみならず地域産業の発展、経済活性化をも見据えた思慮深い背景、ご苦労があったものと拝推いたします。次々と場が転換されてその時々に必要なこと、要求されることに即座に対応することは手術においても重要なことであり、外科医として臨床診療を行う中での思考過程にも通じるところがあるものと思います。何事も入念な準備を行い万全の対策を講じて物事に臨む姿勢を教えていただきました。

研究活動を通じて知的好奇心と探究心を育むことで、手術を基軸とする臨床成績向上に資することも教えていただき、弛みない叱咤激励も頂戴いたしました。臨床と研究は車の両輪であり、どちらかでも疎かになると思うように前に進まなくなることは実感するところであり、多忙な臨床に携わる中で学会活動、研究成果の論文化を推進、その精神を常にご教授いただきました。18,000人を超える会員を擁する第81回日本臨床外科学会総会をはじめ、第27回日本消化器疾患病態治療研究会、そして未曾有のコロナ災禍にあっても、第38回日本ヒト細胞学会学術集会、第58回日本人工臓器学会大会、日本蛍光ガイド手術研究会第4回学術集会と多数の大きな学会、研究会を主催され盛会に導かれましたことは他の追随を許さない功績と存じ上げます。

花﨑先生が主導された功績の一つとして、アミノレブリン酸を用いた光力学的診断に関する研究を国際的に進め、光線医療センターの立ち上げを達成、発展されて、肉眼では見ることのできない情報を視覚化することでより安全で精度の高い治療ができるようになってきていることを実感しております。The Royal College of Surgeons in Ireland, Medical University of Bahrainとの国際連携にもご一緒させていただき、その前後で種子島での第35回日本ヒト細胞学会学術会議、JDDWと連日の移動にもかかわらず、不眠不休で精力的に仕事をされておられたことを思い出します（写真）。

令和に入り訪れたコロナ禍においてリモートワークは多くの企業でもはや効利性の高い様式として市民権を得た感があり、各種学会におけるWeb開催あるいはハイブリッド開催も身近なものとなりました。仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立したSociety 5.0の扉は開けられ、私たちは狩猟、農耕、工業、情報社会

に続くこの新しい社会に突入しているものと思います。Society 5.0 の中で活躍されていく次世代の医療を担う若い外科医に向けて幅広い教育にも熱心に取り組まれてこられた精神は確実に受け継がれていくものと確信しています。

長年にわたり薫陶を賜りまして重ねて御礼申し上げます。今後のご健康と、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

Bahrain National Museum にて

ご退官に寄せて

清和病院　病院長
駄場中　研

花﨑教授

御退官おめでとうございます。外科Ⅰの教授となられてからも退官まで外科医として第一線で御活躍された花﨑教授に、心からの敬意と御祝いを申し上げます。

送別会にて

平成18年、花﨑先生が高知大学外科Ⅰの教授になられてから、遅れること5か月後に大学勤務をもうしつかり、嫌々ながら大学に出向いたことが蘇ってきます。初めて花﨑教授に面談するまでは医局を辞めようと思っていましたが、いざ大学生活が始まると取り越し苦労のごとく、日々の臨床業務・鏡視下手術の習得や学位習得、関連病院では経験しなかった症例発表などの学会活動などで当時は大変だったと思いましたが、今となっては楽しい大学生活の思い出になっております。また、自分自身の懸案であった学位取得に関しても花﨑教授の御尽力で無事取得できありがたく思っています。本当に有難う御座いました。

現在、私は看護師・コメディカルを指導する立場になり、長野から一人で来高され、反抗的な医局員や一致団結のなかった同門会などの対応をしなければならなかった花﨑教授の大変さが、今になって身に染みて分かりました。在学中自分の考えは今も正しいと思っていますが、結構な頻度で花﨑教授に反論していたように思います。それでも暖かく見守って頂き、感謝の念に堪えません。

さて、人の評価は歴史が物語るといわれます。花﨑教授の評価はいろいろあると思いますが、外科Ⅰにおいて肝胆膵手術を発展させたこと、ほぼ全ての医局員に学位を取得させたこと、日本臨床外科学会総会会長など学術活動を発展させ世界に目をむけさせたことが物語っていると思います。本年度で退官なされます花﨑教授ですが、今後も外科Ⅰ発展のための御指導・御鞭撻のほど宜しくお願い致します。簡単ではありますが私の花﨑教授退官に際しての寄稿とさせて頂きます。

医局長時代のさくら道

花﨑教授におかれましては、これまでの経験を生かして、健康に留意の上、さらなる発展と御活躍を願っております。

花﨑和弘先生と私

高知大学　手術部講師・病院准教授
北川　博之

花﨑和弘先生のご退官にあたり、寄稿させていただきます。花﨑先生は平成18年4月より、前教授の荒木京二郎先生の後任として3代目当教室教授に御着任されました。その後の今日に至る輝かしい業績についてはおそらく多くの方々が書かれると思いますので、私にとっての思い出を書かせていただきます。

私は平成15年に高知医科大学を卒業して、当時の第1外科に入局させていただきました。いわゆるストレート入局で、私の次の学年から卒後臨床研修制度が開始され、旧制度としての外科専門医制度が開始されました。入局当時の第1外科は、手術以外にも内視鏡検査や血管造影などの検査も行っており、カンファレンスやサマリーチェックなどの業務、標本整理と提出、病理伝票とプレパラートの回収などの業務が多く、ポケベルが鳴るたびに近隣の固定電話を探し求めて、なかなかハードでした。外部当直も多く、家に帰れないこともありました。しかしどこか家族的な雰囲気があり、居心地のいい雰囲気がありました。論文など学術については、小林先生と岡林先生が熱心に夜遅くまで取り組まれておられ、私も症例報告のテーマをいただきながら大学図書館で文献コピーを行い、外勤先に大量の資料と重たいノートパソコンを持っていきました。そのおかげで日本外科学会や日本消化器外科学会の専門医試験にも合格できました。また当時は卒後臨床研修制度に対応するべく私と同期の市川先生、第2外科の岡田先生が互いの診療科をローテートしたので、麻酔科、近森病院救急を挟んで9ヶ月ほど第2外科でお世話になりました。胸部外科になじんだという理由から、小林先生から、将来食道を専攻してはどうか、ということで、現在の私の方向性が形成されました。食道についてのイメージは、（手書きの）サマリーチェックで術式名が長い（他は胃全摘術など数文字なのに、右開胸開腹食道亜全摘術、3領域郭清、胃管後縦隔経路挙上、頸部器械吻合の様に30文字以上）ためペンだこが出来るとか、手術の日は標本整理を含めて日付が変わるとか、とにかく長いイメージしかなく暗澹たる気持ちになりました。

平成18年には県立安芸病院へ赴任しましたが、あまり外科手術の執刀経験はなく、いつになれば一人前の外科医になれるのか、という不安が付き纏い、学会で出会った同級生が一般病院で執刀経験を積ませてもらっている話を聞いて羨ましく思っていました。この頃に初めて花﨑和弘先生にお会いしました。高知市大津のラーメン屋に連れて行っていただいた記憶がございます。長野県から高知に赴任されたのですが、なんと前職場が私の伯父と同じというご縁がありました。本当に日本は狭いものですね。平成19年に大学に戻り、秋森先生から食道癌手術の指南を受けることになりましたが、前述の様に当時は不安がいっぱいだったためか、それが表情に現れたのか、NGK北川（negative guy Kitagawa）という異名をつけていただきまし

た。花﨑先生はお笑いが好きな人でしたので、難波グランド花月のNGKとかけられたのですが、高知から出たことのない私はそんなことも知らず、「略語がお好きなのかな？」と勘違いしていました。しかし現在は略語とアラビア数字のアイドルグループが溢れているため、先見性のあるネーミングだったかもしれません。もちろんNGKを払拭すべく、そこからはpositiveに振る舞いましたが、ついにPGKと呼ばれることはありませんでした。

花﨑先生のモットーはAcademic surgeonの育成ですので、英語論文の必要性を叩き込まれました。私はそれまで和文症例報告の経験はありましたが、英文は書いたことがなく、岡林先生に教えてもらいながらなんとか1編のcase reportがpublishされました。これで一安心と思っていたら、大間違いでした。なんと秋森先生が幡多けんみん病院に赴任されることになりました。「食道は誰がやるんですか?」とお伺いすると、「お前がやらなきゃ誰がやるんだ!」とお叱りを頂戴しました。当時卒後6年目、開胸食道切除術の執刀を指導されていた頃でしたが、あまりの状況の変化に現実感が持てませんでした。花﨑先生のモットーに、「若手に積極的に術者を経験させるパーツ教育」がありますが、もはやパーツを超えました。とにかく手術を安全に行うため、秋森先生に手術日に幡多から大学にお越しいただき、助手をしていただきました。また癌の外来診療も始めることになり、並川先生に教えていただきながらフォローアップや薬物治療を勉強していきました。当然手術も勉強しなければいけませんが、花﨑先生から国内有名施設見学の機会を与えていただき、順天堂大学の鶴丸先生、梶山先生、岡山大学の猶本先生の手術見学をさせていただきました。そこから岡山大学の先生方にも目をかけていただき、学会活動にも意欲が湧いてきました。また秋森先生から引き継いだデータベースをさらに充実させて、初めての原著論文も完成させて学位を取得することができました。執刀経験も増えて、35歳で食道外科専門医を取得しました。花﨑先生は就任時に、「私は実力はないが運はあって、困ったときは必ず誰かが助けてくれた。だから君たちも大丈夫だ」と謙遜しながら励ましてくださいましたが、今思えば、運や助けというものはただ待っているだけでは訪れない。本当に必要なものを求めた時に訪れるのだ、ということを教えていただきました。子供の頃、ダイエーホークスの王監督が、中日から移籍してきた鳥越選手が広い福岡ドームで急にホームランを打ち始めたときに、「球場が人を育てる」という言葉を残していましたが、それを思い出しました。若手に成長の機会を与えることは、当然リスクも伴いますが、指導者はそれを受け止めて成長を促すものだという深慮が込められていたのだと思います。

花﨑先生は、健康志向の人でした。飲み会があっても1次会で帰宅されることがほとんどでした。今でも毎日階段で7階の病棟まで昇られます（私はエレベーター）。山登りもされます。また週に1回はパーソナルトレーナーの藤澤先生とトレーニングをしています。自転車もお好きで、私がたまたまイオン前のコンビニで漫画雑誌を買って店を出ると、全身ウェアとサングラスの人に声をかけられ、かつあげかと仰天したことがありましたが、花﨑先生でした。聞けば高知市内を1周されることもあるとのことです。長く外科医として最前線の手術に立ち続けられたのは、地道な体調管理の賜物でした。これも見習うため、私も日常的な晩酌は中止、時間を作ってプールに通うようにしています。外科医は仕事だけではダメで、公私共に充実しなければならない。ということで、教室では男女共同参画や働き方改革も熱心に行われ、子沢山家庭も多くなり、高知県の少子化対策に貢献しています。

花﨑先生は筆まめな人でした。いつも教室には他施設の先生方からの返書が貼られており、書面による通信の貴重さを教えられました。私は完全なる筆不精で、年賀状の時しか手紙を書くことがありませんでしたが、これも見習って手紙の書き方も勉強しようかなと考えています。花﨑先生は緊急手術があると必ず連絡をするように繰り返し注意されていました。深夜の手術報告はメールとはいえ心配でしたが、いつも労をねぎらう返信をいただきました。いつも夜分に連絡をしてすみませんでした。ご退官後は、ゆっくり休まれてください。

第 81 回日本臨床外科学会総会終了直後の打ち上げの会にて

花﨑和弘先生ご退任に寄せて

高知大学外科　講師・医局長
前田　広道

花﨑和弘先生、定年ご退任おめでとうございます。そして、今回このような寄稿を書かせていただくことをお許しいただき心より感謝を申し上げます。恐れ多いことですとお伝えしましたが「それも、（医局長という）めぐりあわせみたいなものだから是非」とおっしゃって下さいました。そのようなこともあって、僭越ながら感謝の気持ちを込めて花﨑先生とのエピソードをご紹介させていただきます。

先生が高知大学外科学講座に赴任され、最初の月に教室員の前でお話しされたのは Academic Surgeon の育成を大目標として掲げ、そのために医学教育、手術（臨床）、研究の具体的な施策を進めることでした。当時初期研修が終了し医局に入局したばかりの私は、カンファレンスルームの後ろからスライドを拝見し、若手へチャンスをという言葉だけを聞き、期待に胸を膨らませていました。実際、そのカンファレンス後から一貫して、最も難易度の高い肝胆膵領域において花﨑先生自ら若手に対するご指導をいただきました。高知大学は古くからグループ制で診療をしておりますが、一番若手にチャンスをいただけるグループが肝胆膵グループで、それを可能にしたのがパーツ式手術教育法だったと思います。私たち新入局員は心技体智ともに未熟な状態ではありましたが、意欲的に手術を学ぶことができ、その時の教えが今も自分自身の基礎になっております。現在、私自身も中堅医師として若手の先生の第一助手として手術を担当させていただくこともございますが、人に伝えることや、患者さんの安全を確保しながらステップアップを目指すことの難しさを知り、あらためて先生の偉大さに敬服しています。

花﨑先生は厳しくもありました。肝切除後（左葉切除だったと思います）の患者さんの胃管を抜去しておくように指示をいただいていたのですが、夕方の回診時までに抜去ができておらずに大変厳しくご指導をいただいたことを記憶しています。ずいぶんと気持ち的にへこんでしまいましたが、患者さんにとって苦痛で必要のない医療処置は少しでも早くとり除く、そういった心構えの積み重ねが良い結果を導くのだと後に教えていただきました。一方で、術後マネージメントにおいて動かない時には動かない、慎重に慎重を重ねて検討するというまさに「石橋をたたいて…」の精神もお教えいただきました。これらの教えは私が後輩に教えることのできる重要な臨床経験の一つです。

また、多数の全国学会をご一緒できたことは教室として誇りと自信につながりました。花﨑先生のお人柄、実行可能性などから大会長や当番世話人に選出されたことは明白ですが、「学会や研究会は、これまで医局の先生が頑張って研究をしてきたご褒美です」と教室員を鼓舞いただきました。参加者数が 5000 名を超える第 81 回日本臨床外科学会総会はとくに強く印象に残っています。コロナ禍における開催となった、第 38 回日本ヒト細胞学会学術集会、第 58 回

日本人工臓器学会大会、日本蛍光ガイド手術研究会第４回学術集会においては、準備段階で何度も修正を重ね万全の感染対策を施し盛会に導いていく様は圧巻のマネージメントでした。「最後は運やめぐりあわせだから」とおっしゃっていましたが、綿密な計画と予測がそのような境地と結果を導くのだとお教えいただいたように感じています。

先生はこれまで、医局運営とともに、多くの社会貢献をされてこられましたが、今回の退任によって一区切りとなります。どうかご健康にお気をつけながら、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。そして、今後とも大所高所からご指導を賜りますようお願い申し上げます。

日本蛍光ガイド手術研究会第４回学術集会の記念写真

花﨑教授のご退官を祝して

仁淀病院　副院長
志賀　舞

花﨑和弘教授、ご退官おめでとうございます。

花﨑教授との出会いがなければ、今の自分はなかったと思うことがいくつもあります。

初期研修医の時、第一子出産直後で授乳中の私を快く引き受けて、研修の機会を与えてくださり、ありがとうございました。そもそも、研修医の時に、「今の彼氏とうまくいくと思うよ」という教授の一言がなければ、現在の夫と結婚していなかったような気がしています。うまくいっているかどうかは定かではありませんが、夫によく似た息子が３人もでき、第一子は中学生にまでなりました。

入局後も可能な勤務形態を手配していただいたおかげで、今日まで勤務を継続し、自分のペースで成長することが出来ました。また、学会発表や論文執筆について、直接ご指導いただけたことは、とても幸運でした。

私は消化器外科医としても研究者としても管理者としても、まだまだ学びたいことがたくさんあります。この素晴らしい世界に私を導いてくださって、ありがとうございました。

右から花﨑和弘教授、著者、松浦喜美夫先生（仁淀病院 前病院長）

花﨑先生にたくさんの数えきれない感謝をこめて

高知大学医学部附属病院　看護部　集中治療部　副看護師長
壬生　季代

高知大学医学部外科教授として長きに渡りご活躍され、この度、任期満了を迎えられましたこと誠におめでとうございます。長い間本当にありがとうございました。

花﨑先生の研究テーマの一つである「人工膵臓を用いた新しい外科周術期血糖管理法の確立」この研究に、看護師として携わる事ができました事を心から感謝しております。

2006年、はじめて人工膵臓がICUに運ばれた時に私は夜勤でした。見た事もないようなレトロな器械に困惑する私に、「人工膵臓の研究を一緒にやってみない」と、お声をかけて下さった事が、私の看護人生の後半を人工膵臓と共に歩む事になりました。花﨑先生が高知に赴任された2006年からずっとご一緒させていただいた事になります。花﨑先生にお声をかけて下さらなったら、今の自分は決して存在しておりません。看護人生山あり谷ありですが、いつも花﨑先生が後ろから応援して下さいました。私の力では決して成し遂げる事ができなかった英語論文や、海外での発表経験など、数々の機会とチャンスをいただき本当に感謝しております。バルセロナのパエリアは最高でしたね！　そうそうフラメンコ感動しました！

人工臓器学会では、人工膵臓を通じて職種問わず多くの方々と知り合う事ができ、充実した看護人生を過ごす事ができました。これからも素敵な人生を歩まれますよう、お祈り申し上げます。

バルセロナにて

花﨑和弘教授のご退職を祝して

高知大学外科　事務補佐員
川村　麻由

花﨑和弘先生このたびはご退任誠におめでとうございます。心より御祝い申し上げます。高知大学外科学教授という重責を全うされ、これまで計り知れないほどのご心労が絶えない日々だったことと存じます。先生はどんな時でも“患者さん first“で、教室と高知県のために全力で走り続けてこられ、絶えず新たな道を切り開きながら先頭に立って教室の舵取りをしてくださいました。

2006 年 4 月に花﨑先生がご着任し、教室の目標として掲げられました、「研究マインドを持った優れた外科医の育成」を軸に、日本そして世界の外科医療レベル向上を目指して、目標通りこの 16 年間で高知大学外科学教室は、国内のみならず世界でも大きく飛躍しました。この間、多くの輝かしい歴史をこの教室と高知に残してくださっております。

永きにわたり第一線で教室と高知県のためにご尽力されましたことを、心から深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

私自身、花﨑先生にはこれまで沢山のことを学ばせていただきました。特に私の中で先生との思い出が深く、普通の人生ではなかなか経験することのできない貴重な勉強をさせていただきましたのは、令和元年（2019 年）11 月 14 日（木）から 16 日（土）の 3 日間に、花﨑先生が高知で総会会長を務められた「第 81 回日本臨床外科学会総会」でした。歴史と伝統のある本学術集会は、高知県では初めて、四国では 28 年ぶりでした。学会開催が決定された 2016 年春から開催日までの 3 年半の準備期間の裏側は、けして一筋縄ではなく、先生は口には出されておりませんが、砂を噛むような思いで日々奮闘されておられたと思います。

「高知で開催することに意味がある。絶対高知で成功させるんだ!」という高知愛の強い花﨑先生の地方創生も兼ねた一筋の想いとともに、開催決定直後に高知県庁を訪れ、前尾﨑正直知事に直談判で宿泊施設のお願いをされました。加えて地元の企業様や医療・製薬企業様へランチョンセミナーやご寄付のお願いなど、県内のいろんなところへ先生とともに同行させていただき、素晴らしい方々と出逢えました。私にとって毎日が本当に色濃く貴重な時間でした。ひたむきな思いが通じ、学会は 3 日間で 5,000 名を超える来場があり、3 日間ともに秋晴れのお天気に恵まれ、会場は参加された先生方の活気と笑顔に溢れました。私自身大きな収穫と貴重な経験をさせていただきましたことを心から感謝しております。

日本蛍光ガイド手術研究会第４回学術集会

これまで先生が残してくださったご功績は、いつも仁義を大切にされ、小さなことでも真摯に取り組まれてきた結果です。花﨑先生だからこそ成し遂げられたのだと改めて感じ、勉強させていただきました。

花﨑先生におかれましては、今後ますますのご活躍のことと存じますが、くれぐれもご自愛のほどお願い申し上げます。先生のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

16 年間本当にありがとうございました。

第 81 回日本臨床外科学会総会

業 績

Achievements

外科学講座外科１教室の大目標

外科学講座（消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、小児外科学）

Academic Surgeon の育成

研究マインドを持った手術の上手な外科医の育成

目標達成のための三つの課題

◆ **医学教育の充実**

母校愛を培う医学教育

◆ **良好な手術成績の達成**

良好な手術成績は良好な人間関係から

◆ **高知発の優れた研究を世界へ発信**

すべての研究は英語論文で完結

［英文論文・著書］

2006

1. Hanazaki K. Glycemic control using the artificial pancreas: latest findings. Current status of ICU-based glycemic control and outlook for the artificial pancreas, Nikkiso Co., Ltd
2. Nishimori I, Kohsaki T, Tochika N, Takeuchi T, Minakuchi T, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K, Onishi S. Non-cystic solid-pseudopapillary tumor of the pancreas showing nuclear accumulation and activating gene mutation of beta-catenin. Pathol Int. 2006; 56: 707-11.
3. Okabayashi T, Kobayashi M, Nishimori I, Yuri K, Miki T, Takeuchi Y, Onishi S, Hanazaki K, Araki K. Autopsy study of anatomical features of the posterior gastric artery for surgical contribution. World J Gastroenterol. 2006; 12: 5357-9.

2007

4. Kitagawa H, Okabayashi T, Nishimori I, Sugimoto T, Kosai T, Dabanaka K, Onishi S, Hanazaki K. A casa of pancreas cancer compicated by a flare of adult onset Still's disease. Clin Med-Oncol 1:1-6.
5. Kobayashi M, Oba K, Sakamoto J, Kondo K, Nagata N, Okabayashi T, Namikawa T, Hanazaki K. Pharmacokinetic study of weekly administration dose of paclitaxel in patients with advanced or recurrent gastric cancer in Japan. Gastric Cancer. 2007; 10: 52-7.
6. Namikawa T, Kobayashi M, Okamoto K, Okabayashi T, Akimori T, Sugimoto T, Hanazaki K. Recurrence of gastric cancer in the jejunal pouch after completion gastrectomy. Gastric Cancer. 2007; 10: 256-9.
7. Okamoto K, Kobayashi M, Okabayashi T, Sugimoto T, Nishimori I, Onishi S, Hanazaki K. Pancreatic metastasis from renal cell carcinoma: report of three resected cases and review of Japanese cases. Hepatogastroenterology. 2007; 54: 937-40.
8. Maeda H, Okabayashi T, Nishimori I, Kobayashi M, Morimoto K, Miyaji E, Kohsaki T, Hanazaki K, Onishi S. Diagnostic challenge to distinguish gastric duplication cyst from pancreatic cystic lesions in adult. Intern Med. 2007; 46: 1101-4.
9. Okabayashi T, Kobayashi M, Nishimori I, Sugimoto T, Onishi S, Hanazaki K. Risk factors, predictors and prevention of pancreatic fistula formation after pancreatoduodenectomy. J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2007; 14: 557-63.

10. Kobayashi M, Okamoto K, Namikawa T, Okabayashi T, Sakamoto J, Hanazaki K. Laparoscopic D3 lymph node dissection with preservation of the superior rectal artery for the treatment of proximal sigmoid and descending colon cancer. J Laparoendosc Adv Surg Tech A. 2007; 17: 461-6.

11. Maeda H, Okabayashi T, Nishimori I, Kobayashi M, Sugimoto T, Kohsaki T, Onishi S, Hanazaki K. Duodenum-preserving pancreatic head resection for pancreatic metastasis from renal cell carcinoma: a case report. Langenbecks Arch Surg. 2007; 392: 649-52.

12. Nakano T, Kobayashi M, Usui T, Hanazaki K. Omental pseudocyst. Radiat Med. 2007; 25: 364-7.

13. Nakano T, Araki K, Nakatani H, Kobayashi M, Sugimoto T, Furuya Y, Matsuoka T, Jin T, Hanazaki K. Effects of geldanamycin and thalidomide on the Th1/Th2 cytokine balance in mice subjected to operative trauma. Surgery. 2007; 141: 490-500.

14. Kobayashi M, Sakamoto J, Namikawa T, Okamoto K, Kitagawa H, Hokimoto N, Okabayashi T, Hanazaki K. Modified Funada's gastropexy needle for mesh fixation in the subcutaneous layer using thread during laparoscopic incisional hernia repair. Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2007; 17: 296-9.

15. Kobayashi M, Okamoto K, Okabyashi T, Akimori T, Namikawa T, Sakamoto J, Hanazaki K. Anti-reflux pouch-esophagostomy after total gastrectomy. Surg Technol Int. 2007; 16: 89-92.

16. Namikawa T, Kobayashi M, Okabayashi T, Okamoto K, Akimori T, Sugimoto T, Hanazaki K. Clinicopathological analysis of idiopathic perforation of the gallbladder. Surg Today. 2007; 37: 633-7.

2008

17. Okabayashi T, Kobayashi M, Nishimori I, Sugimoto T, Namikawa T, Onishi S, Hanazaki K. Clinicopathological features and medical management of early gastric cancer. Am J Surg. 2008; 195: 229-32.

18. Okabayashi T, Nishimori I, Sugimoto T, Iwasaki S, Akisawa N, Maeda H, Ito S, Onishi S, Ogawa Y, Kobayashi M, Hanazaki K. The benefit of the supplementation of perioperative branched-chain amino acids in patients with surgical management for hepatocellular carcinoma: a preliminary study. Dig Dis Sci. 2008; 53: 204-9.

19. Maeda H, Okabayashi T, Nishimori I, Sugimoto T, Namikawa T, Dabanaka K, Tsujii S, Onishi S, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinicopathologic features of adenocarcinoma at the gastric cardia: is it different from distal cancer of the stomach? J Am Coll Surg. 2008; 206: 306-10.

20. Yamashita K, Okabayashi T, Yokoyama T, Yatabe T, Maeda H, Manabe M, Hanazaki K. The accuracy of a continuous blood glucose monitor during surgery. Anesth Analg. 2008; 106: 160-3.

21. Okabayashi T, Hnazaki K, Nishimori I, Sugimoto T, Maeda H, Yatabe T, Dabanaka K, Kobayashi M, Yamashita K. Continuous post-operative blood glucose monitoring and control using a closed-loop system in patients undergoing hepatic resection. Dig Dis Sci. 2008; 53: 1405-10.

22. Okabayashi T, Nishimori I, Sugimoto T, Maeda H, Dabanaka K, Onishi S, Kobayashi M, Hanazaki K. Effects of branched-chain amino acids-enriched nutrient support for patients undergoing liver resection for hepatocellular carcinoma. J Gastroenterol Hepatol. 2008; 23: 1869-73.

23. Okabayashi T, Hanazaki K, Nishimori I, Sugimoto T, Yoshioka R, Dabanaka K, Kobayashi M, Onishi S. Pancreatic transection using a sharp hook-shaped ultrasonically activated scalpel. Langenbecks Arch Surg. 2008; 393: 1005-8.

24. Kuroda N, Tanida N, Oonishi K, Inoue K, Ohara M, Mizuno K, Taguchi T, Hayashi Y, Hanazaki K, Lee GH. Significance of D2-40 expression in the diagnosis of gastrointestinal stromal tumor. Med Mol Morphol. 2008; 41: 109-12.

25. Okamoto K, Hanazaki K, Akimori T, Okabayashi T, Okada T, Kobayashi M, Ogata T. Immunohistochemical and electron microscopic characterization of brush cells of the rat cecum. Med Mol Morphol. 2008; 41: 145-50.

26. Okabayashi T, Nishimori I, Nishioka A, Yamashita K, Sugimoto T, Dabanaka K, Maeda H, Kohsaki T, Ogawa Y, Kobayashi M, Onishi S, Hanazaki K. Long-term effects of multimodal treatment for patients with resectable carcinoma of the pancreas. Oncol Rep. 2008; 20: 651-6.

27. Nakano T, Sonobe H, Usui T, Yamanaka K, Ishizuka T, Nishimura E, Hanazaki K. Immunohistochemistry and K-ras sequence of pancreatic carcinosarcoma. Pathol Int. 2008; 58: 672-7.

28. Yoshioka R, Okabayashi T, Nishimori I, Maeda N, Sugimoto T, Kohsaki T, Onishi S, Fukaya T, Kobayashi M, Hanazaki K. A long-survived case with solitary splenic metastasis from ovarian carcinoma. Surg Technol Int. 2008; 17: 192-4.

29. Okabayashi T, Hanazaki K. Overwhelming postsplenectomy infection syndrome in adults - a clinically preventable disease. World J Gastroenterol. 2008; 14: 176-9.

30. Okabayashi T, Hanazaki K. Surgical outcome of adenosquamous carcinoma of the pancreas. World J Gastroenterol. 2008; 14: 6765-70.

2009

31. Yamashita K, Okabayashi T, Yokoyama T, Yatabe T, Maeda H, Manabe M, Hanazaki K. Accuracy and reliability of continuous blood glucose monitor in post-surgical patients. Acta Anaesthesiol Scand. 2009; 53: 66-71.

32. Hashimoto N, Yachida S, Okano K, Wakabayashi H, Imaida K, Kurokohchi K, Masaki T, Kinoshita H, Tominaga M, Ajiki T, Ku Y, Okabayashi T, Hanazaki K, Hiroi M, Izumi S, Mano S, Okada S, Karasawa Y, Maeba T, Suzuki Y. Immunohistochemically detected expression of p27(Kip1) and Skp2 predicts survival in patients with intrahepatic cholangiocarcinomas. Ann Surg Oncol. 2009; 16: 395-403.

33. Okabayashi T, Nishimori I, Yamashita K, Sugimoto T, Maeda H, Yatabe T, Kohsaki T, Kobayashi M, Hanazaki K. Continuous postoperative blood glucose monitoring and control by artificial pancreas in patients having pancreatic resection: a prospective randomized clinical trial. Arch Surg. 2009; 144: 933-7.

34. Kitagawa H, Akimori T, Okabayashi T, Namikawa T, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. Total laparoscopic gastric mobilization for esophagectomy. Langenbecks Arch Surg. 2009; 394: 617-21.

35. Munekage M, Okabayashi T, Hokimoto N, Sugimoto T, Maeda H, Namikawa T, Dabanaka K, Kobayashi M, Araki K, Hanazaki K. A case with synchronous multiple liver metastases from gastric carcinoma: postoperative long-term disease-free survival. Langenbecks Arch Surg. 2009; 394: 749-53.

36. Yatabe T, Yokoyama T, Yamashita K, Okabayashi T, Hanazaki K. Increase in blood glucose with the start of the reperfusion after large vessel surgery. Anesth Analg. 2009; 109: 684.

37. Hanazaki K, Okabayashi T, Maeda H. Tight glycemic control using an artificial pancreas to control perioperative hyperglycemia decreases surgical site infection in pancreatectomized or hepatectomized patients. Ann Surg. 2009; 250: 351.

38. Maeda H, Nishimori I, Okabayashi T, Kohsaki T, Shuin T, Kobayashi M, Onishi S, Hanazaki K. Total pancreatectomy for multiple neuroendocrine tumors of the pancreas in a patient with von Hippel-Lindau disease. Clin J Gastroenterol. 2009; 2: 222-5.

39. Namikawa T, Kobayashi M, Kitagawa H, Okabayashi T, Sugimoto T, Kuratani Y, Matsumoto M, Hanazaki K. Differentiated adenocarcinoma with a gastric phenotype in the stomach: difficulties in clinical and pathological diagnoses. Clin J Gastroenterol. 2009; 2: 268-74.

40. Okabayashi T, Nishimori I, Maeda H, Yamashita K, Yatabe T, Hanazaki K. Effect of intensive insulin therapy using a closed-loop glycemic control system in hepatic resection patients: a prospective randomized clinical trial. Diabetes Care. 2009; 32: 1425-7.

41. Namikawa T, Kobayashi M, Kitagawa H, Okabayashi T, Dabanaka K, Okamoto K, Sugimoto T, Toi M, Hanazaki K. Early gastric cancer with widespread duodenal invasion within the mucosa. Dig Endosc. 2010; 22: 223-7.

42. Okabayashi T, Maeda H, Nishimori I, Sugimoto T, Ikeno T, Hanazaki K. Pancreatic fistula formation after pancreaticooduodenectomy for prevention of this deep surgical site infection after pancreatic surgery. Hepatogastroenterology. 2009; 56: 519-23.

43. Uemura S, Maeda H, Munekage M, Yoshioka R, Okabayashi T, Hanazaki K. Hepatic resection for metastatic colon cancer in patients with situs inversus totalis complicated by multiple anomalies of the hepatobiliary system: the first case report. J Gastrointest Surg. 2009; 13: 1724-7.

44. Okabayashi T, Nishimori I, Yamashita K, Sugimoto T, Yatabe T, Maeda H, Kobayashi M, Hanazaki K. Risk factors and predictors for surgical site infection after hepatic resection. J Hosp Infect. 2009; 73: 47-53.

45. Kishimoto K, Hiraguri M, Koide N, Hanazaki K, Adachi W. Postoperative suppression of inflammatory cytokines after distal gastrectomy in elderly patients. Surg Today. 2009; 39: 487-92.

46. Namikawa T, Hanazaki K. Clinical analysis of primary anaplastic carcinoma of the small intestine. World J Gastroenterol. 2009; 15: 526-30.

47. Namikawa T, Hanazaki K. Clinicopathological features of early gastric cancer with duodenal invasion. World J Gastroenterol. 2009; 15: 2309-13.

48. Maeda H, Okabayashi T, Yatabe T, Yamashita K, Hanazaki K. Perioperative intensive insulin therapy using artificial endocrine pancreas in patients undergoing pancreatectomy. World J Gastroenterol. 2009; 15: 4111-5.

49. Okabayashi T, Maeda H, Sun ZL, Montgomery RA, Nishimori I, Hanazaki K. Perioperative insulin therapy using a closed-loop artificial endocrine pancreas after hepatic resection. World J Gastroenterol. 2009; 15: 4116-21.

50. Hanazaki K, Maeda H, Okabayashi T. Relationship between perioperative glycemic control and postoperative infections. World J Gastroenterol. 2009; 15: 4122-5.

51. Okabayashi T, Sun ZL, Montgomey RA, Hanazaki K. Surgical outcome of carcinosarcoma of the gall bladder: a review. World J Gastroenterol. 2009; 15: 4877-82.

2010

52. Maeda H, Okabayashi T, Nishimori I, Yamashita K, Sugimoto T, Hanazaki K. Hyperglycemia during hepatic resection: continuous monitoring of blood glucose concentration. Am J Surg. 2010; 199: 8-13.

53. Okabayashi T, Nishimori I, Yamashita K, Sugimoto T, Namikawa T, Maeda H, Yatabe T, Hanazaki K. Preoperative oral supplementation with carbohydrate and branched-chain amino acid-enriched nutrient improves insulin resistance in patients undergoing a hepatectomy: a randomized clinical trial using an artificial pancreas. Amino Acids. 2010; 38: 901-7.

54. Okabayashi T, Nishimori I, Maeda H, Hanazaki K. Incidence of and predictive risk factors for intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas with ordinary pancreatic cancer. J Clin Gastroenterol. 2010; 44: 75-6.

55. Namikawa T, Kitagawa H, Iwabu J, Okabayashi T, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinicopathological properties of the superficial spreading type early gastric cancer. J Gastrointest Surg. 2010; 14: 52-7.

56. Namikawa T, Kobayashi M, Iwabu J, Kitagawa H, Maeda H, Okabayashi T, Iguchi M, Hiroi M, Hanazaki K. Primary undifferentiated carcinoma of the small intestine: an immunohistochemical study and review of the literature. Med Mol Morphol. 2010; 43: 91-5.

57. Hanazaki K, Maeda H, Okabayashi T. Tight perioperative glycemic control using an artificial endocrine pancreas. Surg Today. 2010; 40: 1-7.

58. Namikawa T, Kitagawa H, Iwabu J, Kobayashi M, Matsumoto M, Hanazaki K. Laparoscopic splenectomy for splenic hamartoma: Case management and clinical consequences. World J Gastrointest Surg. 2010; 2: 147-52.

59. Namikawa T, Kitagawa H, Okabayashi T, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. Roux-en-Y reconstruction is superior to billroth I reconstruction in reducing reflux esophagitis after distal gastrectomy: special relationship with the angle of his. World J Surg. 2010; 34: 1022-7.

60. Namikawa T, Kobayashi M, Kitagawa H, Okabayashi T, Dabanaka K, Okamoto K, Sugimoto T, Toi M, Hanazaki K. Early gastric cancer with widespread duodenal invasion within the mucosa. Dig Endosc. 2010; 22: 223-7.

61. Iwabu J, Watanabe J, Hirakura K, Ozaki Y, Hanazaki K. Profiling of the compounds absorbed in human plasma and urine after oral administration of a traditional Japanese (kampo) medicine, daikenchuto. Drug Metab Dispos. 2010; 38: 2040-8.

62. Yatabe T, Kitagawa H, Yamashita K, Akimori T, Hanazaki K, Yokoyama M. Better postoperative oxygenation in thoracoscopic esophagectomy in prone positioning. J Anesth. 2010; 24: 803-6.

63. Namikawa T, Kitagawa H, Iwabu J, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K. Tumors arising at previous anastomotic site may have poor prognosis in patients with gastric stump cancer following gastrectomy. J Gastrointest Surg. 2010; 14: 1923-30.

64. Nakatani H, Akimori T, Takezaki Y, Hanazaki K. Vascular endothelial growth factors and their receptors in the novel human cell line, HN-Eso-1, established from esophageal spindle cell carcinoma. J Med Invest. 2010; 57: 232-6.

65. Namikawa T, Hanazaki K. Mucin phenotype of gastric cancer and clinicopathology of gastric-type differentiated adenocarcinoma. World J Gastroenterol. 2010; 16: 4634-9.

2011

66. Akimori T, Hanazaki K, Okabayashi T, Okamoto K, Kobayashi M, Ogata T. Quantitative distribution of brush cells in the rat gastrointestinal tract: brush cell population coincides with NaHCO3 secretion. Med Mol Morphol. 2011; 44: 7-14.

67. Okabayashi T, Iyoki M, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. Oral supplementation with carbohydrate- and branched-chain amino acid-enriched nutrients improves postoperative quality of life in patients undergoing hepatic resection. Amino Acids. 2011; 40: 1213-20.

68. Yatabe T, Yamazaki R, Kitagawa H, Okabayashi T, Yamashita K, Hanazaki K, Yokoyama M. The evaluation of the ability of closed-loop glycemic control device to maintain the blood glucose concentration in intensive care unit patients. Crit Care Med. 2011; 39: 575-8.

69. Namikawa T, Ozaki S, Okabayashi T, Dabanaka K, Okamoto K, Mimura T, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinical characteristics of the idiopathic perforation of the colon. J Clin Gastroenterol. 2011; 45: e82-6.

70. Tochika N, Namikawa T, Kamiji I, Kitamura M, Okamoto K, Hanazaki K. Subcutaneous continuous suction drainage for prevention of surgical site infection. J Hosp Infect. 2011; 78: 67-8.

71. Maeda H, Okabayashi T, Machida T, Shimada K, Kajikawa S, Amano J, Hanazaki K. Long-term disease-free postoperative survival after combined vascular resection for hilar cholangiocarcinoma. Am Surg. 2011; 77: E82-4.

72. Maeda H, Okabayashi T, Ichikawa K, Miyazaki J, Hanazaki K, Kobayashi M. Colorectal cancer surgery in patients older than 80 years of age: experience at one nonteaching hospital in Japan. Am Surg. 2011; 77: 1454-9.

73. Hanazaki K, Munekage M, Okabayashi T. What is the optimal blood glucose range to improve morbidity and mortality in surgical patients? Ann Surg. 2011; 254: 671-2; author reply 672-3.

74. Hanazaki K, Okabayashi T. What should the targeted range of blood glucose levels be to reduce the incidence of surgical site infection following general surgery? Arch Surg. 2011;146: 368-9; author reply 370.

75. Okamoto K, Maeda H, Okabayashi T, Dabanaka K, Namikawa T, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. Splenic hamartoma: a case report and clinicopathological analysis of Japanese cases. Clin J Gastroenterol. 2011; 4: 381-6.

76. Munekage M, Kitagawa H, Ichikawa K, Watanabe J, Aoki K, Kono T, Hanazaki K. Pharmacokinetics of daikenchuto, a traditional Japanese medicine (kampo) after single oral administration to healthy Japanese volunteers. Drug Metab Dispos. 2011; 39: 1784-8.

77. Nakatani H, Shoji H, Shibata M, Yoshida M, Tadokoro Y, Ogura N, Inoue Y, Hanazaki K, Hamada S, Kawamura A. Control of dry weight and tube feeding improved the general condition of a hemodialysis patient: report of a case. Hiroshima J Med Sci. 2011; 60: 37-9.

78. Hanazaki K, Munekage M, Okabayashi T. What is the best way to guarantee postoperative glycemic control? J Am Coll Surg. 2011; 212: 915-6.

79. Hanazaki K, Kitagawa H, Okabayashi T. Determination of the optimal perioperative blood glucose level to reduce surgical site infection in diabetic patients. J Am Coll Surg. 2011; 213: 198-9; author reply 199-200.

80. Yatabe T, Kitagawa H, Kawano T, Munekage M, Okabayashi T, Yamashita K, Hanazaki K, Yokoyama M. Continuous monitoring of glucose levels in the hepatic vein and systemic circulation during the Pringle maneuver in beagles. J Artif Organs. 2011; 14: 232-7.

81. Namikawa T, Iwabu J, Tsujii S, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Education and imaging. Gastrointestinal: asymptomatic spontaneous isolated dissection of superior mesenteric artery diagnosed incidentally. J Gastroenterol Hepatol. 2011; 26: 1811.

82. Nakatani H, Hamada S, Okanoue T, Kawamura A, Inoue Y, Yamamoto S, Chikai T, Hiroi M, Hanazaki K. Acute abdomen caused by both acute appendicitis and epididymitis. J Med Invest. 2011; 58: 252-4.

83. Nakatani H, Hamada S, Okanoue T, Kawamura A, Chikai T, Yamamoto S, Inoue Y, Hanazaki K. Fournier's gangrene in elderly patient: report of a case. J Med Invest. 2011; 58: 255-8.

84. Namikawa T, Kitagawa H, Okabayashi T, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. Double tract reconstruction after distal gastrectomy for gastric cancer is effective in reducing reflux esophagitis and remnant gastritis with duodenal passage preservation. Langenbecks Arch Surg. 2011; 396: 769-76.

85. Tsukamoto Y, Okabayashi T, Hanazaki K. Progressive artificial endocrine pancreas: The era of novel perioperative blood glucose control for surgery. Surg Today. 2011; 41: 1344-51.

86. Maeda H, Hanazaki K. Pancreatogenic diabetes after pancreatic resection. Pancreatology. 2011; 11: 268-76.

87. Maeda H, Okabayashi T, Hanazaki K, Kobayashi M. Clinical experience of Pseudo-Meigs' Syndrome due to colon cancer. World J Gastroenterol. 2011; 17: 3263-6.

88. Okabayashi T, Ichikawa K, Namikawa T, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. Effect of perioperative intensive insulin therapy for liver dysfunction after hepatic resection. World J Surg. 2011; 35: 2773-8.

2012

89. Ogata H, Mimura T, Hanazaki K. Validation study of the Japanese version of the Faecal Incontinence Quality of Life Scale. Colorectal Dis. 2012; 14: 194-9.

90. Namikawa T, Oki T, Kitagawa H, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K. Impact of jejunal pouch interposition reconstruction after proximal gastrectomy for early gastric cancer on quality of life: short- and long-term consequences. Am J Surg. 2012; 204: 203-9.

91. Namikawa T, Iwabu J, Kitagawa H, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K. Solitary gastric metastasis from a renal cell carcinoma, presenting 23 years after radical nephrectomy. Endoscopy. 2012; 44 Suppl 2 UCTN: E177-8.

92. Yang J, Ikezoe T, Nishioka C, Takezaki Y, Hanazaki K, Taguchi T, Yokoyama A. Long-term exposure of gastrointestinal stromal tumor cells to sunitinib induces epigenetic silencing of the PTEN gene. Int J Cancer. 2012; 130: 959-66.

93. Mibu K, Yatabe T, Hanazaki K. Blood glucose control using an artificial pancreas reduces the workload of ICU nurses. J Artif Organs. 2012; 15: 71-6.

94. Namikawa T, Fukudome I, Kitagawa H, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K. Plasma diamine oxidase activity is a useful biomarker for evaluating gastrointestinal tract toxicities during chemotherapy with oral fluorouracil anti-cancer drugs in patients with gastric cancer. Oncology. 2012; 82: 147-52.

95. Namikawa T, Hokimoto N, Okabayashi T, Kumon M, Kobayashi M, Hanazaki K. Adult ileoileal intussusception induced by an ileal lipoma diagnosed preoperatively: report of a case and review of the literature. Surg Today. 2012; 42: 686-92.

96. Namikawa T, Okamoto K, Okabayashi T, Kumon M, Kobayashi M, Hanazaki K. Adult intussusception with cecal adenocarcinoma: Successful treatment by laparoscopy-assisted surgery following preoperative reduction. World J Gastrointest Surg. 2012; 4: 131-4.

97. Tsujii S, Okabayashi T, Shiga M, Takezaki Y, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. The effect of the neutrophil elastase inhibitor sivelestat on early injury after liver resection. World J Surg. 2012; 36: 1122-7.

98. Hanazaki K, Sakurai A, Munekage M, Okabayashi T, Imamura M. Effective perioperative management of multiple endocrine neoplasia type 1-associated insulinomas. Arch Surg. 2012; 147: 991-2.

99. Sakurai A, Suzuki S, Kosugi S, Okamoto T, Uchino S, Miya A, Imai T, Kaji H, Komoto I, Miura D, Yamada M, Uruno T, Horiuchi K, Miyauchi A, Imamura M. MEN Consortium of Japan, Fukushima T, Hanazaki K, Hirakawa S, Igarashi T, Iwatani T, Kammori M, Katabami T, Katai M, Kikumori T, Kiribayashi K, Koizumi S, Midorikawa S, Miyabe R, Munekage T, Ozawa A, Shimizu K, Sugitani I, Takeyama H, Yamazaki M. Multiple endocrine neoplasia type 1 in Japan: establishment and analysis of a multicentre database. Clin Endocrinol (Oxf). 2012; 76: 533-9.

100. Sakurai A, Yamazaki M, Suzuki S, Fukushima T, Imai T, Kikumori T, Okamoto T, Horiuchi K, Uchino S, Kosugi S, Yamada M, Komoto I, Hanazaki K, Itoh M, Kondo T, Mihara M, Imamura M. Clinical features of insulinoma in patients with multiple endocrine neoplasia type 1: analysis of the database of the MEN Consortium of Japan. Endocr J. 2012; 59: 859-66.

101. Nakatani H, Kumon T, Kumon M, Hamada S, Okanoue T, Kawamura A, Nakatani K, Hiroi M, Hanazaki K. High serum levels of both carcinoembryonic antigen and carbohydrate antigen 19-9 in a patient with sigmoid colon cancer without metastasis. J Med Invest. 2012; 59: 280-3.

102. Dabanaka K, Chung S, Nakagawa H, Nakamura Y, Okabayashi T, Sugimoto T, Hanazaki K, Furihata M. PKIB expression strongly correlated with phosphorylated Akt expression in breast cancers and also with triple-negative breast cancer subtype. Med Mol Morphol. 2012; 45: 229-33.

103. Ichikawa K, Okabayashi T, Shima Y, Iiyama T, Takezaki Y, Munekage M, Namikawa T, Sugimoto T, Kobayashi M, Mimura T, Hanazaki K. Branched-chain amino acid-enriched nutrients stimulate antioxidant DNA repair in a rat model of liver injury induced by carbon tetrachloride. Mol Biol Rep. 2012; 39: 10803-10.

104. Namikawa T, Munekage M, Kitagawa H, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K. Metastatic gastric tumors arising from renal cell carcinoma: Clinical characteristics and outcomes of this uncommon disease. Oncol Lett. 2012; 4: 631-6.

105. Hanazaki K. Tight glycemic control using an artificial endocrine pancreas may play an important role in preventing infection after pancreatic resection. World J Gastroenterol. 2012; 18: 3787-9.

2013

106. Tsukamoto Y, Kinoshita Y, Kitagawa H, Munekage M, Munekage E, Takezaki Y, Yatabe T, Yamashita K, Yamazaki R, Okabayashi T, Tarumi M, Kobayashi M, Mishina S, Hanazaki K. Evaluation of a novel artificial pancreas: closed loop glycemic control system with continuous blood glucose monitoring. Artif Organs. 2013; 37: E67-73.

107. Hanazaki K, Yatabe T, Kobayashi M, Tsukamoto Y, Kinoshita Y, Munekage M, Kitagawa H. Perioperative glycemic control using an artificial endocrine pancreas in patients undergoing total pancreatectomy: tight glycemic control may be justified in order to avoid brittle diabetes. Biomed Mater Eng. 2013; 23: 109-16.

108. Namikawa T, Munekage E, Kitagawa H, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K. Double tract reconstruction after gastrectomy facilitates endoscopic access to the biliary tree. Dig Dis Sci. 2013; 58: 1422-7.

109. Hanazaki K, Munekage M, Ichikawa K, Okabayashi T. Ischemic preconditioning may reduce hyperglycemia associated with intermittent Pringle maneuver in hepatic resection. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2013; 20: 257.

110. Namikawa T, Oki T, Kitagawa H, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K. Neuroendocrine carcinoma of the stomach: clinicopathological and immunohistochemical evaluation. Med Mol Morphol. 2013; 46: 34-40.

111. Namikawa T, Shiga M, Ichikawa K, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Metachronous liver and bone metastasis from small early gastric carcinoma without lymph node involvement: A case report. Mol Clin Oncol. 2013; 1: 249-52.

112. Ichikawa K, Okabayashi T, Maeda H, Namikawa T, Iiyama T, Sugimoto T, Kobayashi M, Mimura T, Hanazaki K. Oral supplementation of branched-chain amino acids reduces early recurrence after hepatic resection in patients with hepatocellular carcinoma: a prospective study. Surg Today. 2013; 43: 720-6.

113. Yatabe T, Kitagawa H, Yamashita K, Hanazaki K, Yokoyama M. Comparison of the perioperative outcome of esophagectomy by thoracoscopy in the prone position with that of thoracotomy in the lateral decubitus position. Surg Today. 2013; 43: 386-91.

114. Hanazaki K, Sakurai A, Munekage M, Ichikawa K, Namikawa T, Okabayashi T, Imamura M. Surgery for a gastroenteropancreatic neuroendocrine tumor (GEPNET) in multiple endocrine neoplasia type 1. Surg Today. 2013; 43: 229-36.

115. Tamura T, Yatabe T, Kitagawa H, Yamashita K, Hanazaki K, Yokoyama M. Oral carbohydrate loading with 18% carbohydrate beverage alleviates insulin resistance. Asia Pac J Clin Nutr. 2013; 22: 48-53.

116. Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Early neuroendocrine carcinoma of the stomach. Clin Gastroenterol Hepatol. 2013; 11: A21.

117. Munekage M, Ichikawa K, Kitagawa H, Ishihara K, Uehara H, Watanabe J, Kono T, Hanazaki K. Population pharmacokinetic analysis of daikenchuto, a traditional Japanese medicine (Kampo) in Japanese and US health volunteers. Drug Metab Dispos. 2013; 41: 1256-63.

118. Yatabe T, Tamura T, Kitagawa H, Namikawa T, Yamashita K, Hanazaki K, Yokoyama M. Preoperative oral rehydration therapy with 2.5 % carbohydrate beverage alleviates insulin action in volunteers. J Artif Organs. 2013; 16: 483-8.

119. Namikawa T, Kitagawa H, Yamatsuji T, Naomoto Y, Kobayashi M, Hanazaki K. Pre-emptive treatment of fungal infection based on plasma β-D-glucan levels after gastric surgery for gastric cancer in elderly patients. J Gastroenterol Hepatol. 2013; 28: 1457-61.

120. Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Akimori T, Okabayashi T, Sugimoto T, Mimura T, Kobayashi M, Hanazaki K. Efficacy of laparoscopic gastric mobilization for esophagectomy: comparison with open thoraco-abdominal approach. J Laparoendosc Adv Surg Tech A. 2013; 23: 452-5.

121. Okabayashi T, Shima Y, Kosaki T, Sumiyoshi T, Kozuki A, Iiyama T, Takezaki Y, Kobayashi M, Nishimori I, Ogawa Y, Hanazaki K. Invasive carcinoma derived from branch duct-type IPMN may be a more aggressive neoplasm than that derived from main duct-type IPMN. Oncol Lett. 2013; 5: 1819-1825.

122. Hanazaki K, Tominaga R, Nio M, Iwanaka T, Okoshi K, Kaneko K, Nagano H, Nishida T, Nishida H, Hoshino K, Maehara T, Masuda M, Matsufuji H, Yanaga K, Tabayashi K, Satomi S, Kokudo N. Report from the Committee for Improving the Work Environment of Japanese Surgeons: survey on effects of the fee revision for medical services provided by surgeons. Surg Today. 2013; 43: 1209-18.

123. Okabayashi T, Shima Y, Sumiyoshi T, Kozuki A, Ito S, Ogawa Y, Kobayashi M, Hanazaki K. Diagnosis and management of insulinoma. World J Gastroenterol. 2013; 19: 829-37.

124. Hanazaki K, Ichikawa K, Munekage M, Kitagawa H, Dabanaka K, Namikawa T. Effect of Daikenchuto (TJ-100) on abdominal bloating in hepatectomized patients. World J Gastrointest Surg. 2013; 5: 115-22.

2014

125. Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Metastatic gastric tumor arising from ovarian cancer. Gastrointest Endosc. 2014; 79: 332-3.

126. Hanazaki K, Kitagawa H, Yatabe T, Munekage M, Dabanaka K, Takezaki Y, Tsukamoto Y, Asano T, Kinoshita Y, Namikawa T. Perioperative intensive insulin therapy using an artificial endocrine pancreas with closed-loop glycemic control system: the effects of no hypoglycemia. Am J Surg. 2014; 207: 935-41.

127. Namikawa T, Okabayshi T, Nogami M, Ogawa Y, Kobayashi M, Hanazaki K. Assessment of (18)F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography combined with computed tomography in the preoperative management of patients with gastric cancer. Int J Clin Oncol. 2014; 19: 649-55.

128. Namikawa T, Inoue K, Uemura S, Shiga M, Maeda H, Kitagawa H, Fukuhara H, Kobayashi M, Shuin T, Hanazaki K. Photodynamic diagnosis using 5-aminolevulinic acid during gastrectomy for gastric cancer. J Surg Oncol. 2014; 109: 213-7.

129. Fukudome I, Kobayashi M, Dabanaka K, Maeda H, Okamoto K, Okabayashi T, Baba R, Kumagai N, Oba K, Fujita M, Hanazaki K. Diamine oxidase as a marker of intestinal mucosal injury and the effect of soluble dietary fiber on gastrointestinal tract toxicity after intravenous 5-fluorouracil treatment in rats. Med Mol Morphol. 2014; 47: 100-7.

130. Namikawa T, Hanazaki K. Clinicopathological features and treatment outcomes of metastatic tumors in the stomach. Surg Today. 2014; 44: 1392-9.

131. Shiga M, Okamoto K, Matsumoto M, Maeda H, Dabanaka K, Namikawa T, Uemura S, Munekage M, Kobayashi M, Hanazaki K. Nodular fasciitis in the mesentery, a differential diagnosis of peritoneal carcinomatosis. World J Gastroenterol. 2014; 20: 1361-4.

132. Fukudome I, Dabanaka K, Okabayashi T, Shima Y, Okamoto K, Tamura S, Hanazaki K, Kobayashi M. A 58-year-old woman with mesh migration into the transverse colon. Am Surg. 2014; 80: E40-1.

133. Namikawa T, Uemura S, Kondo N, Yamamoto M, Maeda H, Nishimori H, Sato T, Orihashi K, Kobayashi M, Hanazaki K. Successful preservation of the mesenteric and bowel circulation with treatment for a ruptured superior mesenteric artery aneurysm using the HyperEye Medical System. Am Surg. 2014; 80: E359-61.

134. Namikawa T, Munekage E, Fukudome I, Maeda H, Kitagawa H, Togitani K, Takasaki M, Yokoyama A, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinicopathological characteristics and therapeutic outcomes of synchronous gastric adenocarcinoma and gastric lymphoma. Anticancer Res. 2014; 34: 5067-74.

135. Namikawa T, Munekage E, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Feasibility study of supportive care using lafutidine, a histamine H2 receptor antagonist, to prevent gastrointestinal toxicity during chemotherapy for gastric cancer. Anticancer Res. 2014; 34: 7297-301.

136. Yatabe T, Kitagawa H, Yamashita K, Hanazaki K, Yokoyama M. Energy expenditure measured using indirect calorimeter after minimally invasive esophagectomy in ventilated postoperative patients. Asia Pac J Clin Nutr. 2014; 23: 555-9.

137. Okabayashi T, Shima Y, Sumiyoshi T, Kozuki A, Tokumaru T, Iiyama T, Sugimoto T, Kobayashi M, Yokoyama M, Hanazaki K. Intensive versus intermediate glucose control in surgical intensive care unit patients. Diabetes Care. 2014; 37: 1516-24.

138. Namikawa T, Munekage E, Mizuta H, Kobayashi M, Saibara T, Hanazaki K. Simultaneous occurrence of gastric lipoma and early gastric cancer. Endoscopy. 2014; 46 Suppl 1 UCTN: E338-9.

139. Hayashi H, Takamura H, Nakanuma S, Makino I, Tajima H, Fushida S, Hanazaki K, Ohta T. Application of an artificial pancreas for a liver transplant recipient. Exp Clin Transplant. 2014; 12: 572-3.

140. Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Synchronous superficial spreading lesions of the stomach. Gut. 2014; 63: 1172, 1194.

141. Maeda H, Okamoto K, Uemura S, Okabayashi T, Osaki S, Akimori T, Kamioka N, Hanazaki K, Kobayashi M. Staged surgery after colonic decompression may be safer for the treatment of obstructive left-sided colorectal cancer in a non-specialized hospital. Hepatogastroenterology. 2014; 61: 1938-41.

142. Okabayashi T, Shima Y, Sumiyoshi T, Kozuki A, Iiyama T, Tokumaru T, Namikawa T, Sugimoto T, Takezaki Y, Maeda H, Kobayashi M, Hanazaki K. Extrahepatic stem cells mobilized from the bone marrow by the supplementation of branched-chain amino acids ameliorate liver regeneration in an animal model. J Gastroenterol Hepatol. 2014; 29: 870-7.

143. Nishioka A, Ogawa Y, Miyatake K, Tadokoro M, Nogami M, Hamada N, Kubota K, Kariya S, Kohsaki T, Saibara T, Okabayashi T, Hanazaki K. Safety and efficacy of image-guided enzyme-targeting radiosensitization and intraoperative radiotherapy for locally advanced unresectable pancreatic cancer. Oncol Lett. 2014; 8: 404-8.

144. Taniuchi K, Furihata M, Hanazaki K, Saito M, Saibara T. IGF2BP3-mediated translation in cell protrusions promotes cell invasiveness and metastasis of pancreatic cancer. Oncotarget. 2014; 5: 6832-45.

145. Okabayashi T, Shima Y, Iwata J, Morita S, Sumiyoshi T, Kozuki A, Tokumaru T, Iiyama T, Kosaki T, Kobayashi M, Hanazaki K. S-1 vs. gemcitabine as an adjuvant therapy after surgical resection for ductal adenocarcinoma of the pancreas. World J Surg. 2014; 38: 2986-93.

146. Namikawa T, Uemura S, Tamura S, Kobayashi M, Hanazaki K. Morphological changes in gastric cancer after helicobacter pylori eradication therapy. Internal Medicine: Open Access. 2014; 5: 194-5.

147. Yatabe T, Kitagawa H, Yamashita K, Hanazaki K, Yokoyama M. Energy expenditure measured using indirect calorimeter after minimally invasive esophagectomy in ventilated postoperative patients. Asia Pac J Clin Nutr. 2014; 23: 555-9.

2015

148. Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Esophageal tumor after radical surgery for gastric cancer. Gastroenterology. 2015; 148: e9-10.

149. Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. An unusual giant duodenal mass lesion. Gastroenterology. 2015; 148: e5-6.

150. Taniuchi K, Furihata M, Hanazaki K, Iwasaki S, Tanaka K, Shimizu T, Saito M, Saibara T. Peroxiredoxin 1 promotes pancreatic cancer cell invasion by modulating p38 MAPK activity. Pancreas. 2015; 44: 331-40.

151. Akimori T, Maeda H, Okamoto K, Namikawa T, Usui T, Hanazaki K, Kobayashi M. A case of Peliosis and epithelial cyst of intrapancreatic heterotopic spleen: a differential diagnosis of pancreatic mucinous cystic neoplasm. Ann Cancer Res Ther. 2015: 23: 1-4.

152. Akimori T, Kanagawa T, Fujisawa K, Kamioka N, Miyazaki J, Usui T, Okazoe T, Maeda H, Hanazaki K, Kobayashi M. Pneumatosis intestinalis: report of three cases with different clinical features. Ann Cancer Res Ther. 2015; 23: 5-8.

153. Kitagawa H, Namikawa T, Munekage M, Akimori T, Kobayashi M, Hanazaki K. Visualization of the Stomach's Arterial Networks During Esophageal Surgery Using the HyperEye Medical System. Anticancer Res. 2015; 35: 6201-5.

154. Namikawa T, Fukudome I, Ogawa M, Munekage E, Munekage M, Shiga M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinical efficacy of protein-bound polysaccharide K in patients with gastric cancer undergoing chemotherapy with an oral fluoropyrimidine (S-1). Eur J Surg Oncol. 2015; 41: 795-800.

155. Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Multiple adenocarcinomas in intrathoracic upside-down stomach. Gastrointest Endosc. 2015; 82: 411-2; discussion 412.

156. Maeda H, Okamoto K, Namikawa T, Akimori T, Kamioka N, Shiga M, Dabanaka K, Hanazaki K, Kobayashi M. Rarity of late anastomotic leakage after low anterior resection of the rectum. Int J Colorectal Dis. 2015; 30: 831-4.

157. Mibu K, Yatabe T, Yamasaki F, Kitagawa H, Munekage M, Namikawa T, Hanazaki K. Questionnaire survey on the use of a novel artificial pancreas by intensive care unit nurses. J Artif Organs. 2015; 18: 162-5.

158. Munekage M, Yatabe T, Kitagawa H, Takezaki Y, Tamura T, Namikawa T, Hanazaki K. An artificial pancreas provided a novel model of blood glucose level variability in beagles. J Artif Organs. 2015; 18: 387-90.

159. Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Transcatheter arterial embolization of ruptured inferior phrenic artery pseudoaneurysm following completion gastrectomy. J Gastrointest Surg. 2015; 19: 1561-2.

160. Ushiwaka T, Maeda N, Kunimi Y, Sugimoto T, Hanazaki K, Sato T, Fukaya T. Treatment of a large, symptomatic refractory lymphocele after pelvic lymphadenectomy by using the hypereye medical systemTM. J Gynecol Surg. 205; 31: 61-5.

161. Yamatsuji T, Fujiwara Y, Matsumoto H, Hato S, Namikawa T, Hanazaki K, Takaoka M, Hayashi J, Shigemitsu K, Yoshida K, Urakami A, Uno F, Nishizaki M, Kagawa S, Ninomiya M, Fujiwara T, Hirai T, Nakamura M, Haisa M, Naomoto Y. Feasibility of oral administration of S-1 as adjuvant chemotherapy in gastric cancer: 4-week S-1 administration followed by 2-week rest vs. 2-week administration followed by 1-week rest. Mol Clin Oncol. 2015; 3: 527-32.

162. Kitagawa H, Munekage M, Ichikawa K, Fukudome I, Munekage E, Takezaki Y, Matsumoto T, Igarashi Y, Hanyu H, Hanazaki K. Pharmacokinetics of active components of Yokukansan, a traditional Japanese herbal medicine after a single oral administration to healthy Japanese volunteers: A Cross-Over, Randomized Study. PLoS One. 2015; 10: e0131165.

163. Kitagawa H, Munekage M, Matsumoto T, Sadakane C, Fukutake M, Aoki K, Watanabe J, Maemura K, Hattori T, Kase Y, Uezono Y, Inui A, Hanazaki K. Pharmacokinetic profiles of active ingredients and its metabolites derived from Rikkunshito, a ghrelin enhancer, in healthy Japanese volunteers: A cross-over, randomized study. PLoS One. 2015; 10: e0133159.

164. Namikawa T, Sato T, Hanazaki K. Recent advances in near-infrared fluorescence-guided imaging surgery using indocyanine green. Surg Today. 2015; 45: 1467-74.

165. Namikawa T, Tamura K, Morita M, Tamura S, Maeda H, Kobayashi M, Hanazaki K, Usui T. Laparoscopic cholecystectomy for a patient with left-sided gallbladder. Surg Technol Int. 2015; 26: 120-3.

166. Okamoto K, Maeda H, Shiga T, Shiga M, Dabanaka K, Hanazaki K, Kobayashi M. Cetuximab and panitumumab in a patient with colon cancer and concomitant chronic skin disease: a potential beneficial effect on psoriasis vulgaris. World J Gastroenterol. 2015; 21: 3746-9.

167. Namikawa T, Yatabe T, Inoue K, Shuin T, Hanazaki K. Clinical applications of 5-aminolevulinic acid-mediated fluorescence for gastric cancer. World J Gastroenterol. 2015; 21: 8769-75.

168. Namikawa T, Hanazaki K. Laparoscopic endoscopic cooperative surgery as a minimally invasive treatment for gastric submucosal tumor. World J Gastrointest Endosc. 2015; 7: 1150-6.

2016

169. Hanazaki K, Munekage M, Kitagawa H, Namikawa T. Tight glycemic control using an artificial pancreas is useful for surgical patients with uncontrolled perioperative hyperglycemia. Ann Surg. 2016; 263: e50.

170. Namikawa T, Fukudome I, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Mibu K, Nagata Y, Kobayashi M, Hanazaki K. Laparoscopy-assisted distal gastrectomy for multiple adenocarcinomas in intrathoracic upside-down stomach. Asian J Endosc Surg. 2016; 9: 57-60.

171. Yatabe T, Nakamura R, Kitagawa H, Munekage M, Hanazaki K. A case of perioperative glucose control by using an artificial pancreas in a patient with glycogen storage disease. J Artif Organs. 2016; 19: 100-3.

172. Munekage M, Yatabe T, Sakaguchi M, Kitagawa H, Tamura T, Namikawa T, Hanazaki K. Comparison of subcutaneous and intravenous continuous glucose monitoring accuracy in an operating room and an intensive care unit. J Artif Organs. 2016; 19: 159-66.

173. Munekage M, Kohsaki T, Uemura S, Kitagawa H, Namikawa T, Hanazaki K. Mucinous cystadenocarcinoma of the pancreas with anaplastic carcinoma: A case report and review of the literature. Mol Clin Oncol. 2016; 4: 483-6.

174. Fujitsuka N, Asakawa A, Morinaga A, Amitani MS, Amitani H, Katsuura G, Sawada Y, Sudo Y, Uezono Y, Mochiki E, Sakata I, Sakai T, Hanazaki K, Yada T, Yakabi K, Sakuma E, Ueki T, Niijima A, Nakagawa K, Okubo N, Takeda H, Asaka M, Inui A. Increased ghrelin signaling prolongs survival in mouse models of human aging through activation of sirtuin1. Mol Psychiatry. 2016; 21: 1613-23.

175. Namikawa T, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Nagata Y, Kobayashi M, Hanazaki K. Reconstruction with Jejunal Pouch after Gastrectomy for Gastric Cancer. Am Surg. 2016; 82: 510-7.

176. Yatabe T, Nishigaki A, Kitagawa H, Namikawa T, Hanazaki K, Yokoyama M. Successful treatment of hyperkalaemia with insulin therapy using a closed-loop glycaemic control device. Anaesth Intensive Care. 2016; 44: 294-5.

177. Toriie S, Sugimoto T, Hokimoto N, Funakoshi T, Ogawa M, Oki T, Dabanaka K, Namikawa T, Sakurai A, Hanazaki K. Evaluation of the minimally invasive parathyroidectomy in patients with primary hyperparathyroidism: A retrospective cohort study. Ann Med Surg (Lond). 2016; 7: 42-7.

178. Namikawa T, Munekage E, Munekage M, Maeda M, Yatabe T, Kitagawa H, Sakamoto K, Obatake M, Kobayashi M, Hanazaki K. Synchronous large gastrointestinal stromal tumor and adenocarcinoma in the stomach treated with imatinib mesylate followed by total gastrectomy. Anticancer Res. 2016; 36: 1855-9.

179. Kitagawa H, Yatabe T, Namikawa T, Munekage M, Hanazaki K. Postoperative closed-loop glycemic control using an artificial pancreas in patients after esophagectomy. Anticancer Res. 2016; 36: 4063-7.

180. Kitagawa H, Namikawa T, Munekage M, Fujisawa K, Munekage E, Kawanishi Y, Kobayashi M, Hanazaki K. Analysis of factors associated with weight loss after esophagectomy for esophageal cancer. Anticancer Res. 2016; 36: 5409-12.

181. Takezaki Y, Namikawa T, Koyama T, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Hanazaki K. Antitumor Effects of Eribulin Mesylate in Gemcitabine-resistant Pancreatic Cancer Cell Lines. Anticancer Res. 2016; 36: 6077-82.

182. Taniuchi K, Furihata M, Naganuma S, Dabanaka K, Hanazaki K, Saibara T. Podocalyxin-like protein, linked to poor prognosis of pancreatic cancers, promotes cell invasion by binding to gelsolin. Cancer Sci. 2016; 107: 1430-42.

183. Maeda H, Okamoto K, Namikawa T, Tsuda M, Uemura S, Shiga M, Hanazaki K, Kobayashi M. Re-evaluation of hepatocyte replacement by recipient-derived cells after allogenic liver transplantation: Discrepancy between clinical observations and a rat model. Hepatol Res. 2016; 46: 1037-44.

184. Hanazaki K, Munekage M, Kitagawa H, Yatabe T, Munekage E, Shiga M, Maeda H, Namikawa T. Current topics in glycemic control by wearable artificial pancreas or bedside artificial pancreas with closed-loop system. J Artif Organs. 2016; 19: 209-18.

185. Higuchi T, Todaka H, Sugiyama Y, Ono M, Tamaki N, Hatano E, Takezaki Y, Hanazaki K, Miwa T, Lai S, Morisawa K, Tsuda M, Taniguchi T, Sakamoto S. Suppression of microRNA-7 (miR-7) biogenesis by nuclear factor 90-nuclear factor 45 complex (NF90-NF45) controls cell proliferation in hepatocellular carcinoma. J Biol Chem. 2016; 291: 21074-84.

186. Tanouchi A, Taniuchi K, Furihata M, Naganuma S, Dabanaka K, Kimura M, Watanabe R, Kohsaki T, Shimizu T, Saito M, Hanazaki K, Saibara T. CCDC88A, a prognostic factor for human pancreatic cancers, promotes the motility and invasiveness of pancreatic cancer cells. J Exp Clin Cancer Res. 2016; 35: 190.

187. Kitagawa H, Namikawa T, Munekage M, Fujisawa K, Munekgae E, Kobayashi M, Hanazaki K. Outcomes of thoracoscopic esophagectomy in prone position with laparoscopic gastric mobilization for esophageal cancer. Langenbecks Arch Surg. 2016; 401: 699-705.

188. Namikawa T, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Yatabe T, Kitagawa H, Sakamoto K, Obatake M, Kobayashi M, Hanazaki K. Evaluation of a trastuzumab-containing treatment regimen for patients with unresectable advanced or recurrent gastric cancer. Mol Clin Oncol. 2016; 5: 74-8.

189. Fujitsuka N, Asakawa A, Morinaga A, Amitani MS, Amitani H, Katsuura G, Sawada Y, Sudo Y, Uezono Y, Mochiki E, Sakata I, Sakai T, Hanazaki K, Yada T, Yakabi K, Sakuma E, Ueki T, Niijima A, Nakagawa K, Okubo N, Takeda H, Asaka M, Inui A. Increased ghrelin signaling prolongs survival in mouse models of human aging through activation of sirtuin1. Mol Psychiatry. 2016; 21: 1613-23.

190. Namikawa T, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Yatabe T, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Evaluation of systemic inflammatory response biomarkers in patients receiving chemotherapy for unresectable and recurrent advanced gastric cancer. Oncology. 2016; 90: 321-6.

191. Tsuboi M, Taniuchi K, Furihata M, Naganuma S, Kimura M, Watanabe R, Shimizu T, Saito M, Dabanaka K, Hanazaki K, Saibara T. Vav3 is linked to poor prognosis of pancreatic cancers and promotes the motility and invasiveness of pancreatic cancer cells. Pancreatology. 2016; 16: 905-16.

192. Namikawa T, Kawanishi Y, Fujieda Y, Fujisawa K, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazak K. Neurofibroma of the gallbladder not associated with neurofibromatosis. Surg Technol Int. 2016; 30: 89-92.

2017

193. Namikawa T, Kawanishi Y, Fujisawa K, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Kohsaki T, Kobayashi M, Hanazaki K. Juxtapapillary duodenal diverticulum impacted with enterolith. J Gastrointest Surg. 2017; 21: 920-2.

194. Asano E, Okano K, Oshima M, Kagawa S, Kushida Y, Munekage M, Hanazaki K, Watanabe J, Takada Y, Ikemoto T, Shimada M, Suzuki Y; Shikoku Consortium of Surgical Research (SCSR). Phenotypic characterization and clinical outcome in ampullary adenocarcinoma. J Surg Oncol. 2016; 114: 119-27.

195. Akimori T, Maeda H, Kamioka N, Kanagawa T, Tsuda S, Tsuda S, Takeshita A, Kobayashi M, Hanazaki K. Long-term disease-free survival after resection of recurrent tumor of esophageal cancer with surrounding multiple visceral organs: a case report. Ann Cancer Res Ther. 2017; 25: 12-4.

196. Maeda H, Namikawa T, Okamoto K, Munekage E, Toi M, Hiroi M , Takeshita A, Hanazaki K, Kobayashi M. Dilation and stasis: a rare but important late complication of jejunal pouch interposition after proximal gastrectomy. Ann Cancer Res Ther. 2017; 25: 17-21.

197. Kanagawa　T, Maeda H, Okamoto K, Ishikawa Y, Akimori T, Kamioka N, Usui T, Namikawa T, Hanazaki K, Kobayashi M. Lessons learnt from a case of enterolithotomy for gallstone ileus of the jejunum. Ann Cancer Res Ther. 2017; 25: 38-40.

198. Kitagawa H, Namikawa T, Hanazaki K. Neck Dissection and Thoracoscopic Esophagectomy in Esophageal Cancer with Aberrant Subclavian Artery. Anticancer Res. 2017; 37: 3787-90.

199. Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Hanazaki K. Gastric Tube Reconstruction with superdrainage using indocyanine green fluorescence during esophagectomy. In Vivo. 2017; 31: 1019-21.

200. Namikawa T, Munekage E, Ogawa M, Oki T, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinical presentation and treatment of gastric metastasis from other malignancies of solid organs. Biomed Rep. 2017; 7: 159-62.

201. Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Gastric schwannoma with regional lymphadenopathy. Clin Gastroenterol Hepatol. 2017; 15: e145-6.

202. Kitagawa H, Namikawa T, Munekage M, Fujisawa K, Kawanishi Y, Kobayashi M, Hanazaki K. Preoperative patient-related factors associated with prognosis after esophagectomy for esophageal cancer. Esophagus. 2017; 14: 360-5.

203. Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Unusual thickened gastric folds in a patient with breast cancer. Gastroenterology. 2017; 152: e8-9.

204. Namikawa T, Munekage M, Kitagawa H, Yatabe T, Maeda H, Tsukamoto Y, Hirano K, Asano T, Kinoshita Y, Hanazaki K. Comparison between a novel and conventional artificial pancreas for perioperative glycemic control using a closed-loop system. J Artif Organs. 2017; 20: 84-90.

205. Kitagawa H, Namikawa T, Yatabe T, Munekage M, Yamasaki F, Kobayashi M, Hanazaki K. Effects of a preoperative immune-modulating diet in patients with esophageal cancer: a prospective parallel group randomized study. Langenbecks Arch Surg. 2017; 402: 531-8.

206. Namikawa T, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Yatabe T, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Subcutaneous metastasis arising from gastric cancer: A case report. Mol Clin Oncol. 2017; 6: 515-6.

207. Namikawa T, Kawanishi Y, Fujisawa K, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Gastric adenocarcinoma at the anastomotic site 50 years after gastrojejunostomy: A case report. Mol Clin Oncol. 2017; 7: 249-51.

208. Shiga M, Maeda H, Oba K, Okamoto K, Namikawa T, Fujisawa K, Yokota K, Kobayashi M, Hanazaki K. Safety of laparoscopic surgery for colorectal cancer in patients over 80 years old: a propensity score matching study. Surg Today. 2017; 47: 951-8.

209. Namikawa T, Kawanishi Y, Fujisawa K, Munekage E, Munekage M, Sugase T, Maeda H, Kitagawa H, Kumon T, Hiroi M, Kobayashi M, Hanazaki K. Metachronous solitary splenic metastasis arising from early gastric cancer: a case report and literature review. BMC Surg. 2017; 17: 96.

210. Hayashi H, Takamura H, Gabata R, Makino I, Ohbatake Y, Nakanuma S, Miyashita T, Tajima H, Hanazaki K, Ohta T. Induction of artificial pancreas in liver transplant recipients: preliminary experience with an insightful message. Ann Transplant. 2017; 22: 590-7.

211. Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Fujisawa K, Kobayashi M, Hanazaki K. Comparison between neck-first approach and thoracic approach during thoracoscopic esophagectomy. Langenbecks Arch Surg. 2017; 402: 1159-65.

212. Tsuda S, Maeda H, Uemura S, Kanagawa T, Tsuda S,Akimori T, Fujieda Y, Kamioka N, Kobayashi M, Hanazaki K. Sarcomatoid combined hepatocellular carcinoma and cholangiocarcinoma of liver with spontaneous intra-tumor bleeding: a case report. Ann Cancer Res Ther. 2017; 25: 77-80.

213. Maeda H, Okamoto K, Maehara H, Namikawa T, Tamura S, Hiroi M, Hanazaki K, Kobayashi M. Laparoscopic resection of villous adenoma of the appendix. Ann Cancer Res Ther. 2017; 25: 44-7.

214. Shiga M, Maeda H, Okamoto K, Kobayashi M, Hanazaki K. A Long-term survival due to repeated surgical resections for recurrent retroperitoneal liposarcoma. Ann Cancer Res Ther. 2017; 25: 52-5.

215. Fujieda Y, Maeda H, Akimori T, Kamioka N, Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. R0 resection of Stage IV HER2-positive gastric cancer after the first-line chemotherapy: a case of successful conversion therapy. Ann Cancer Res Ther. 2017; 25: 60-2.

216. Munekage M, Maeda H, Namikawa T, Kosaki T, Kigi A, Hiroi M, Kobayashi M, Hanazaki K. Neuroendocrine tumor within main pancreatic duct: a case report. Ann Cancer Res Ther. 2017; 25: 63-6.

217. Maeda H, Okamoto K, Shiga M, Fujieda Y, Kanagawa T, Kawai S, Iguchi M, Hanazaki K, Kobayashi M. Colon cancer under Type IV pit pattern adenoma with multiple metastases in lymph nodes and bones: A case report. Ann Cancer Res Ther. 2017; 25: 100-3.

2018

218. Namikawa T, Kawanishi Y, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Serum carbohydrate antigen 125 is a significant prognostic marker in patients with unresectable advanced or recurrent gastric cancer. Surg Today. 2018; 48: 388-94.

219. Kawase K, Nomura K, Tominaga R, Iwase H, Ogawa T, Shibasaki I, Shimada M, Taguchi T, Takeshita E, Tomizawa Y, Nomura S, Hanazaki K, Hanashi T, Yamashita H, Kokudo N, Maeda K. Analysis of gender-based differences among surgeons in Japan: results of a survey conducted by the Japan Surgical Society. Part 1: Working style. Surg Today. 2018; 48: 33-43.

220. Uemura S, Namikawa T, Kitagawa H, Iwabu J, Fujisawa K, Tsuda T, Maeda H, Kobayashi M, Hanazaki K. Bile leakage after cholecystectomy in a patient with cholecystohepatic duct : a case report. Ann Cancer Res Ther. 2018; 26: 7-10.

221. Namikawa T, Maeda H, Kitagawa H, Oba K, Tsuji A, Yoshikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Treatment using oxaliplatin and S-1 adjuvant chemotherapy for pathological stage III gastric cancer: a multicenter phase II study (TOSA trial) protocol. BMC Cancer. 2018; 18: 186.

222. Hokimoto N, Sugimoto T, Namikawa T, Funakoshi T, Oki T, Ogawa M, Fukuhara H, Inoue K, Sato T, Hanazaki K. A novel color fluorescence navigation system for intraoperative transcutaneous lymphatic mapping and resection of sentinel lymph nodes in breast cancer: Comparison with the combination of gamma probe scanning and visible dye methods. Oncology. 2018; 94: 99-106.

223. Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Fujisawa K, Kobayashi M, Hanazaki K. Outcomes of abdominal esophageal cancer patients who were treated with esophagectomy. Mol Clin Oncol. 2018; 8: 286-91.

224. Maeda H, Okamoto K, Oba K, Shiga M, Fujieda Y, Namikawa T, Hiroi M, Murakami I, Hanazaki K, Kobayashi M. Lymph node retrieval after dissolution of surrounding adipose tissue for pathological examination of colorectal cancer. Oncol Lett. 2018; 15: 2495-500.

225. Kitagawa H, Yatabe T, Namikawa T, Iwabu J, Uemura U, Fujisawa K, Tsuda S, Maeda H, Kobayashi M, Hanazaki K. Tracheobronchial anomaly: one-lung ventilation difficulty during thoracoscopic esophagectomy for esophageal cancer. Ann Cancer Res Ther. 2018; 26: 33-5.

226. Taniuchi K, Furihata M, Naganuma S, Dabanaka K, Hanazaki K, Saibara T. BCL7B, a predictor of poor prognosis of pancreatic cancers, promotes cell motility and invasion by influencing CREB signaling. Am J Cancer Res. 2018; 8: 387-404.

227. Namikawa T, Fujisawa K, Munekage E, Munekage M, Oki Y, Maeda H, Kitagawa H, Ueta H, Kobayashi M, Hanazaki K. Epstein-Barr virus-associated early gastric carcinoma with lymphoid stroma, accompanied with lymph node metastasis. Mol Clin Oncol. 2018; 8: 557-60.

228. Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Fujisawa K, Uemura S, Tsuda S, Hanazaki K. Assessment of the blood supply using the indocyanine green fluorescence method and postoperative endoscopic evaluation of anastomosis of the gastric tube during esophagectomy. Surg Endosc. 2018; 32: 1749-54.

229. Namikawa T, Tsuda S, Fujisawa K, Iwabu J, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Superficial spreading-type gastric cancer with situs inversus totalis. In Vivo. 2018; 32: 685-9.

230. Iwabu J, Namikawa T, Tsuda S, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Successful distal gastrectomy for gastric cancer with Child-Pugh class B alcoholic liver cirrhosis. Anticancer Res. 2018; 38: 3085-7.

231. Kawase K, Nomura K, Tominaga R, Iwase H, Ogawa T, Shibasaki I, Shimada M, Taguchi T, Takeshita E, Tomizawa Y, Nomura S, Hanazaki K, Hanashi T, Yamashita H, Kokudo N, Maeda K. Analysis of gender-based differences among surgeons in Japan: results of a survey conducted by the Japan Surgical Society. Part. 2: personal life. Surg Today. 2018; 48: 308-19.

232. Yamamoto M, Nakashima J, Iguchi M, Tashiro M, Noguchi T, Hiroi M, Inoue K, Hanazaki K, Orihashi K. Multiple coronary and cerebral aneurysms in a patient with chronic thromboangiitis. J Cardiol Cases. 2018; 18: 160-3.

233. Yamamoto M, Ninomiya H, Tashiro M, Nishimori H, Inoue K, Sato T, Hanazaki K, Orihashi K. A case of anastomotic stenosis of a peripheral arterial bypass graft undetected in indocyanine green angiography. Ann Vasc Dis. 2018; 11: 233-5.

234. Namikawa T, Munekage M, Yatabe T, Kitagawa H, Hanazaki K. Current status and issues of the artificial pancreas: abridged English translation of a special issue in Japanese. J Artif Organs. 2018; 21: 132-7.

235. Namikawa T, Ishida N, Tsuda S, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Successful treatment of liver metastases arising from early gastric cancer achieved clinical complete response by nivolumab. Surg Case Rep. 2018; 4: 71.

236. Iwabu J, Namikawa T, Kitagawa H, Fujisawa K, Oki T, Ogawa M, Iwai N, Yano A, Kuriyama M, Sugimoto T, Hanazaki K. Spontaneous rupture of abdominal wall after breast reconstruction using deep inferior epigastric perforator flap following mastectomy for breast cancer. Surg Case Rep. 2018; 4: 83.

237. Maeda H, Okamoto K, Namikawa T, Shiga M, Fujisawa K, Tadokoro M, Hanazaki K, Kobayashi M. Successful laparoscopy-assisted resection of the descending colon in a patient with multiple large renal cysts and stricture of the colon due to ischemic colitis. Case Rep Gastroenterol. 2018; 12: 540-5.

238. Sugase T, Takahashi T, Serada S, Fujimoto M, Ohkawara T, Hiramatsu K, Koh M, Saito Y, Tanaka K, Miyazaki Y, Makino T, Kurokawa Y, Yamasaki M, Nakajima K, Hanazaki K, Mori M, Doki Y, Naka T. Lipolysis-stimulated lipoprotein receptor overexpression is a novel predictor of poor clinical prognosis and a potential therapeutic target in gastric cancer. Oncotarget. 2018; 9: 32917-28.

239. Namikawa T, Ishida N, Tsuda S, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Pathological complete response by S-1 chemotherapy in advanced gastric cancer. In Vivo. 2018; 32: 1211-6.

240. Namikawa T, Tsuda S, Fujisawa K, Iwabu J, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Conversion surgery after S-1 plus oxaliplatin combination chemotherapy for advanced gastric cancer with multiple liver metastases. Clin J Gastroenterol. 2018; 11: 297-301.

241. Namikawa T, Tsuda S, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Iguchi M, Murakami I, Kobayashi M, Hanazaki K. Intrahepatic bile duct adenoma in a patient with gastric cancer. Int Cancer Conf J. 2018; 8: 7-11.

242. Yamamoto M, Isomura T, Orihashi K, Miyashita K, Kitaoka H, Hanazaki K, Yamasaki N. Myocardial infarction-related left ventricular rupture with the tear across the ventricular wall detected on echocardiography. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020; 68: 67-9.

243. Ogawa M, Namikawa T, Oki T, Iwabu J, Munekage M, Maeda H, Tamura T, Yatabe T, Kitagawa H, Dabanaka K, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. Gastric outlet obstruction caused by metastatic tumor of the stomach originating from primary breast cancer: A case report. Mol Clin Oncol. 2018; 9: 523-6.

244. Namikawa T, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Fukuhara H, Inoue K, Sato T, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinical application of photodynamic medicine technology using light-emitting fluorescence imaging based on a specialized luminous source. Med Mol Morphol. 2018; 51: 187-93.

245. Kitagawa H, Ohbuchi K, Munekage M, Fujisawa K, Kawanishi Y, Namikawa T, Kushida H, Matsumoto T, Shimobori C, Nishi A, Sadakane C, Watanabe J, Yamamoto M, Hanazaki K. Data on metabolic profiling of healthy human subjects' plasma before and after administration of the Japanese Kampo medicine maoto. Data Brief. 2018; 22: 359-64.

246. Utsunomiya M, Maeda H, Okamoto K, Kanagawa T, Tsujii S, Fujieda Y, Shiga M, Kobayashi M, Hanazaki K. Concomitant colon cancer and abdominal aortic aneurysm treated by two-step endovascular aneurysm repair (EVAR) followed by laparoscopic sigmoidectomy. Ann Cancer Res Ther. 2018; 26: 36-8.

247. Fujieda Y, Maeda H, Oba K, Okamoto K, Shiga M, Fujisawa K, Yokota K, Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Factors influencing the number of retrieved lymph nodes after colorectal resection: a retrospective study from a single institute. Int J Clin Exp Pathol. 2018; 11: 1694-700.

248. Hanazaki K, Munekage M, Kitagawa H, Kosaki T, Saibara,T, Namikawa T. Molecular Diagnosis and Targeting of Biliary Tract Cancer. Molecular Diagnosis and Targeting for Thoracic and Gastrointestinal Malignancy. ©Springer Nature Singapore Pte Ltd. 2018. In Shimada Y, Yanaga K (Eds.) Molecular Diagnosis and Targeting for Thoracic and Gastrointestinal Malignancy, Current Human Cell Research and Applications: Chapter 7. pp 111-25.

2019

249. Hanazaki K. Solutions for clinical application of bedside “Artificial Pancreas”. Peripoerative tight glycemic control using an artificial endocrine pancreas with a cloosed-loop system. seminor report. XLVI ESAO. 2019: 1-11.

250. Namikawa T, Ishida N, Tsuda S, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Tamura T, Yatabe T, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Prognostic significance of serum alkaline phosphatase and lactate dehydrogenase levels in patients with unresectable advanced gastric cancer. Gastric Cancer. 2019; 22: 684-91.

251. Hanazaki K, Kitagawa H, Namikawa T. What constitutes ideal perioperative glycemic control for preventing acute postoperative hyperglycemia in surgical patients with nonalcoholic fatty liver disease? J Am Coll Surg. 2019; 228: 210-1.

252. Tamura T, Yatabe T, Namikawa T, Hanazaki K, Yokoyama M. Glucose control using a closed-loop device decreases inflammation after cardiovascular surgery without increasing hypoglycemia risk. J Artif Organs. 2019; 22: 154-9.

253. Yamamoto M, Ninomiya H, Tashiro M, Sato T, Handa T, Inoue K, Orihashi K, Hanazaki K. Evaluation of graft anastomosis using time-intensity curves and quantitative near-infrared fluorescence angiography during peripheral arterial bypass grafting. J Artif Organs. 2019; 22: 160-8.

254. Oki T, Sugimoto T, Ogawa M, Dabanaka K, Namikawa T, Hanazaki K. Evaluation of follow-up examinations using ultrasonography for patients with thyroid nodules initially diagnosed as benign. Anticancer Res. 2019; 39: 2061-7.

255. Iwabu J, Namikawa T, Kitagawa H, Kanagawa T, Nakashima J, Hanazaki K. Sigmoid colon perforation in the patient with granulomatosis with polyangiitis. Surg Case Rep. 2019; 5: 87.

256. Kanehira K, Yano Y, Hasumi H, Fukuhara H, Inoue K, Hanazaki K, Yao M. Fluorescence enhancement effect of TiO2 nanoparticles and application for photodynamic diagnosis. Int J Mol Sci. 2019; 20: 3698.

257. Nakayama T, Kobayashi T, Shimpei O, Fukuhara H, Namikawa T, Inoue K, Hanazaki K, Takahashi K, Nakajima M, Tanaka T, Ogura SI. Photoirradiation after aminolevulinic acid treatment suppresses cancer cell proliferation through the HO-1/p21 pathway. Photodiagnosis Photodyn Ther. 2019; 28: 10-7.

258. Iwabu J, Yamashita S, Takeshima H, Kishino T, Takahashi T, Oda I, Koyanagi K, Igaki H, Tachimori Y, Daiko H, Nakazato H, Nishiyama K, Lee YC, Hanazaki K, Ushijima T. FGF5 methylation is a sensitivity marker of esophageal squamous cell carcinoma to definitive chemoradiotherapy. Sci Rep. 2019; 9: 13347.

259. Namikawa T, Tsuda S, Fujisawa K, Iwabu J, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Glomus tumor of the stomach treated by laparoscopic distal gastrectomy: A case report. Oncol Lett. 2019; 17: 514-7.

260. Namikawa T, Ishida N, Yokota K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Early gastric cancer with multiple submucosal heterotopic gastric gland: A case report. Mol Clin Oncol. 2019; 10: 583-6.

261. Fujieda Y, Maeda H, Kawanishi Y, Tokumaru T, Kuwahara M, Akimori T, Kamioka N, Hanazaki K. A case of mesenteric phlebosclerosis induced by long-term use of Kampo medicine. Ann Cancer Res Ther. 2019; 27: 12-4.

262. Kanagawa T, Maeda H, Okamoto K, Fukudome I, Tsuda S, Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Atypical presentation and prolongation of retroperitoneal abscess after emergency surgery for perforated ascending colon cancer in a patient receiving anti-interleukin-6 receptor monoclonal antibody therapy. Ann Cancer Res Ther. 2019; 27: 42-5.

263. Kitagawa H, Ohbuchi K, Munekage M, Fujisawa K, Kawanishi Y, Namikawa T, Kushida H, Matsumoto T, Shimobori C, Nishi A, Sadakane C, Watanabe J, Yamamoto M, Hanazaki K. Phenotyping analysis of the Japanese Kampo medicine maoto in healthy human subjects using wide-targeted plasma metabolomics. J Pharm Biomed Anal. 2019; 164: 119-27.

264. Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Uemura S, Munekage M, Tsuda S, Yokota K, Kobayashi M, Hanazaki K. Scheduled intravenous acetaminophen for postoperative management of patients who had thoracoscopic esophagectomy for esophageal cancer. Anticancer Res. 2019; 39: 467-70.

265. Kitagawa H, Iwabu J, Yokota K, Namikawa T, Hanazaki K. Intraoperative neurological monitoring during neck dissection for esophageal cancer with aberrant subclavian artery. Anticancer Res. 2019; 39: 3203-5.

266. Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Uemura S, Munekage M, Yokota K, Kobayashi M, Hanazaki K. Bowel obstruction associated with a feeding jejunostomy and its association to weight loss after thoracoscopic esophagectomy. BMC Gastroenterol. 2019; 19: 104.

267. Uemura S, Maeda H, Tsujii S, Tsuboi K, Yagi K, Kitamura T, Okawa Y, Sakaeda H, Enzan H, Hanazaki K. Anaplastic pancreatic carcinoma growing within the main pancreatic duct complicated by a large pseudocyst. Ann Cancer Res Ther. 2019; 27: 95-100.

268. Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Localised superficial gastric lesion in a middle-aged woman. Frontline Gastroenterol. 2019; 12: 165-6.

269. Munekage E, Maeda H, Munekage M, Uemura S, Okamoto K, Fukudome I, Fujisawa K, Yamaguchi S, Ogasawara M, Namikawa T, Hanazaki K. A case of ascites and SMV thrombosis dueto an intrahepatic arterio-portal fistula after hepatectomy. Ann Cancer Res Ther. 2019; 27: 83-6.

2020

270. Yamamoto M, Ninomiya H, Miyashita K, Tashiro M, Orihashi K, Inoue K, Sato T, Hanazaki K. Influence of residual coronary flow on bypass graft flow for graft assessment using near-infrared fluorescence angiography. Surg Today. 2020; 50: 76-83.

271. Namikawa T, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Nakayama T, Inoue K, Sato T, Kobayashi M, Hanazaki K. Evolution of photodynamic medicine based on fluorescence image-guided diagnosis using indocyanine green and 5-aminolevulinic acid. Surg Today. 2020; 50: 821-31.

272. Namikawa T, Yokota K, Yamaguchi S, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Kumon M, Kobayashi M, Hanazaki K. Evaluation of systemic inflammatory response and nutritional biomarkers as predictive factors in patients with recurrent gastric cancer. Oncology. 2020; 98: 452-9.

273. Namikawa T, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Nakayama T, Fukuhara H, Inoue K, Al-Sheikh M, Jaiswal N, Kobayashi M, Hanazaki K. Laparoscopic-endoscopic cooperative surgery for early gastric cancer with gastroesophageal varices. Asian J Endosc Surg. 2020; 13: 539-43.

274. Yamamoto M, Isomura T, Orihashi K, Miyashita K, Kitaoka H, Hanazaki K, Yamasaki N. Myocardial infarction-related left ventricular rupture with the tear across the ventricular wall detected on echocardiography. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020; 68: 67-9.

275. Hayashi H, Tajima H, Hanazaki K, Takamura H, Gabata R, Okazaki M, Ohbatake Y, Nakanuma S, Makino I, Miyashita T, Ninomiya I, Fushida S, Yoshimura K, Ohta T. Safety of artificial pancreas in hepato-biliary-pancreatic surgery: A prospective study. Asian J Surg. 2020; 43: 201-6.

276. Uemura S, Namikawa T, Fujisawa K, Hanazaki K. A case of advanced hepatocellular carcinoma with gallbladder invasion. Jpn J Clin Oncol. 2020; 50: 623-5.

277. Fujieda Y, Maeda H, Oba K, Okamoto K, Fukudome I, Shiga M, Kawanishi Y, Akimori T, Kuroiwa H, Nishimoto H, Namikawa T, Murakami I, Kobayashi M, Hanazaki K. Lymph node retrieval after colorectal cancer surgery: a comparative study of the efficacy between the conventional manual method and a new fat dissolution method. Surg Today. 2020; 50: 726-33.

278. Anayama T, Sato T, Hirohashi K, Miyazaki R, Yamamoto M, Okada H, Orihashi K, Inoue K, Kobayashi M, Yoshida M, Hanazaki K. Near-infrared fluorescent solid material for visualizing indwelling devices implanted for medical use. Surg Endosc. 2020; 34: 4206-13.

279. Ohbuchi K, Sakurai N, Kitagawa H, Sato M, Suzuki H, Kushida H, Nishi A, Yamamoto M, Hanazaki K, Arita M. Differential annotation of converted metabolites (DAC-Met): Exploration of Maoto (Ma-huang-tang)-derived metabolites in plasma using high-resolution mass spectrometry. Metabolomics. 2020; 16: 63.

280. Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Yokota K, Uemura S, Munekage M, Hanazaki K. Correlation between indocyanine green visualization time in the gastric tube and postoperative endoscopic assessment of the anastomosis after esophageal surgery. Surg Today. 2020; 50: 1375-82.

281. Namikawa T, Iwabu J, Hashiba M, Munekage M, Uemura S, Yamada T, Kitagawa H, Mizuta H, Okamoto K, Uchida K, Sato T, Kobayashi M, Hanazaki K. Novel endoscopic marking clip equipped with resin-conjugated fluorescent indocyanine green during laparoscopic surgery for gastrointestinal cancer. Langenbecks Arch Surg. 2020; 405: 503-8.

282. Iwabu J, Namikawa T, Yokota K, Kitagawa H, Kihara K, Hirose N, Hanazaki K. Successful management of aortoesophageal fistula caused by esophageal cancer using thoracic endovascular aortic repair. Clin J Gastroenterol. 2020; 13: 678-82.

283. Namikawa T, Yokota K, Tanioka N, Fukudome I, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Systemic inflammatory response and nutritional biomarkers as predictors of nivolumab efficacy for gastric cancer. Surg Today. 2020; 50: 1486-95.

284. Nakayama T, Nozawa N, Kawada C, Yamamoto S, Ishii T, Ishizuka M, Namikawa T, Ogura SI, Hanazaki K, Inoue K, Karashima T. Mitomycin C-induced cell cycle arrest enhances 5-aminolevulinic acid-based photodynamic therapy for bladder cancer. Photodiagnosis Photodyn Ther. 2020; 31: 101893.

285. Tanioka N, Maeda H, Tsuda S, Iwabu J, Namikawa T, Iguchi M, Hanazaki K. A case of spontaneous mesenteric hematoma with diagnostic difficulty. Surg Case Rep. 2020; 6: 124.

286. Namikawa T, Maeda M, Yokota K, Tanioka N, Fukudome I, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Assessment of systemic inflammatory response and nutritional markers in patients with trastuzumab-treated unresectable advanced gastric cancer. In Vivo. 2020; 34: 2851-7.

287. Kawase K, Nomura K, Nomura S, Akashi-Tanaka S, Ogawa T, Shibasaki I, Shimada M, Taguchi T, Takeshita E, Tomizawa Y, Hanazaki K, Hanashi T, Yamauchi H, Yamashita H, Nakamura S. How pregnancy and childbirth affect the working conditions and careers of women surgeons in Japan: findings of a nationwide survey conducted by the Japan Surgical Society. Surg Today. 2021; 51: 309-21.

288. Yamaguchi S, Maeda H, Fujisawa K, Fukudome I, Okamoto K,Usui T, Hanazaki K. A case of colon adenocarcinoma with neuroendocrine differentiation. Ann Cancer Res Ther. 2020; 28: 32-4.

289. Namikawa T, Yokota K, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Karashima T, Kumon M, Inoue K, Kobayashi M, Hanazaki K. Incidence and risk factors of osteoporotic status in outpatients who underwent gastrectomy for gastric cancer. JGH Open. 2020; 4: 903-8.

2021

290. Inoue K, Fukuhara H, Yamamoto S, Karashima T, Kurabayashi A, Furihata M, Hanazaki K, Lai HW, Ogura SI. Current status of photodynamic technology for urothelial cancer. Cancer Sci. 2021 Nov 9. Epub ahead of print.

291. Sugase T, Takahashi T, Serada S, Fujimoto M, Ohkawara T, Hiramatsu K, Koh M, Saito Y, Tanaka K, Miyazaki Y, Makino T, Kurokawa Y, Yamasaki M, Nakajima K, Hanazaki K, Mori M, Doki Y, Naka T. Correction: Lipolysis-stimulated lipoprotein receptor overexpression is a novel predictor of poor clinical prognosis and a potential therapeutic target in gastric cancer. Oncotarget. 2021 Oct 12;12(21):2232-2233. doi: 10.18632/oncotarget.28096. Erratum for: Oncotarget. 2018; 9: 32917-28.

292. Takahashi M, Matsumoto Y, Ujihara T, Maeda H, Hanazaki K, Nagasaki K, Takeuchi H, Matsuzaki S. Complete genome sequence of Helicobacter pylori strain 3401, a suitable host for bacteriophages KHP30 and KHP40. Microbiol Resour Announc. 2021 Oct 21; 10: e0064721.

293. Namikawa T, Shimizu S, Yokota K, Tanioka N, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Neutrophil-to-lymphocyte ratio and C-reactive protein-to-albumin ratio as prognostic factors for unresectable advanced or recurrent gastric cancer. Langenbecks Arch Surg. 2021 Oct 15. Epub ahead of print.

294. Tanioka N, Maeda H, Shimizu S, Munekage M, Uemura S, Hanazaki K. Indocyanine green fluorescence-guided laparoscopic deroofing of a liver cyst: A case report. Asian J Endosc Surg. 2021 Oct 13. Epub ahead of print.

295. Tsujii S, Serada S, Fujimoto M, Uemura S, Namikawa T, Nomura T, Murakami I, Hanazaki K, Naka T. Glypican-1 Is a novel target for stroma and tumor cell dual-targeting antibody-drug conjugates in pancreatic cancer. Mol Cancer Ther. 2021; 20: 2495-505.

296. Namikawa T, Marui A, Yokota K, Fukudome I, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Solitary port-site metastasis 42 months after laparoscopic distal gastrectomy for gastric cancer. Clin J Gastroenterol. 2021; 14: 1626-31.

297. COVIDSurg Collaborative; GlobalSurg Collaborative. SARS-CoV-2 infection and venous thromboembolism after surgery: an international prospective cohort study. Anaesthesia. 2022; 77: 28-39.

298. Yamamoto M, Ninomiya H, Handa T, Kidawawa K, Inoue K, Sato T, Hanazaki K, Orihashi K. The impact of the quantitative assessment procedure for coronary artery bypass graft evaluations using high-resolution near-infrared fluorescence angiography. Surg Today. 2021 Aug 20. Epub ahead of print.

299. Namikawa T, Marui A, Yokota K, Fujieda Y, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Successful Conversion Surgery for Advanced Gastric Cancer With Multiple Liver Metastases Following Ramucirumab Plus Paclitaxel Combination Treatment. In Vivo. 2021; 35: 2929-35.

300. COVIDSurg Collaborative; GlobalSurg Collaborative. Effects of pre-operative isolation on postoperative pulmonary complications after elective surgery: an international prospective cohort study. Anaesthesia. 2021; 76: 1454-64.

301. Munekage E, Serada S, Tsujii S, Yokota K, Kiuchi K, Tominaga K, Fujimoto M, Kanda M, Uemura S, Namikawa T, Nomura T, Murakami I, Hanazaki K, Naka T. A glypican-1-targeted antibody-drug conjugate exhibits potent tumor growth inhibition in glypican-1-positive pancreatic cancer and esophageal squamous cell carcinoma. Neoplasia. 2021; 23: 939-50.

302. Yokota K, Serada S, Tsujii S, Toya K, Takahashi T, Matsunaga T, Fujimoto M, Uemura S, Namikawa T, Murakami I, Kobayashi S, Eguchi H, Doki Y, Hanazaki K, Naka T. Anti-glypican-1 antibody-drug conjugate as potential therapy against tumor cells and tumor vasculature for glypican-1-positive cholangiocarcinoma. Mol Cancer Ther. 2021; 20: 1713-22.

303. Namikawa T, Shimizu S, Yokota K, Tanioka N, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Serum zinc deficiency in patients after gastrectomy for gastric cancer. Int J Clin Oncol. 2021; 26: 1864-70.

304. Hanazaki K, Tanioka N, Munekage M, Uemura S, Maeda H. Closed-loop artificial endocrine pancreas from Japan. Artif Organs. 2021; 45: 958-67.

305. Maeda H, Endo H, Ichihara N, Miyata H, Hasegawa H, Kamiya K, Kakeji Y, Yoshida K, Seto Y, Yamaue H, Yamamoto M, Kitagawa Y, Uemura S, Hanazaki K. Association of day of the week with mortality after elective right hemicolectomy for colon cancer: Case analysis from the National Clinical Database. Ann Gastroenterol Surg. 2021 Jan 15;5(3):331-7.

306. Namikawa T, Yamaguchi S, Fujisawa K, Ogawa M, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Matsuda K, Hanazaki K. Real-time bowel sound analysis using newly developed device in patients undergoing gastric surgery for gastric tumor. JGH Open. 2021; 5: 454-8.

307. Namikawa T, Shimizu S, Yokota K, Tanioka N, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Cystic lymphangioma of the greater omentum treated by laparoscopic resection. Clin J Gastroenterol. 2021; 14: 1004-7.

308. COVIDSurg Collaborative, GlobalSurg Collaborative. SARS-CoV-2 vaccination modelling for safe surgery to save lives: data from an international prospective cohort study. Br J Surg. 2021; 108: 1056-63.

309. Namikawa T, Shimizu S, Yokota K, Tanioka N, Fukudome I, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Hanazaki K. Isolated adrenocorticotropic hormone deficiency induced by nivolumab treatment for advanced gastric cancer. Clin J Gastroenterol. 2021; 14: 988-93.

310. COVIDSurg Collaborative; GlobalSurg Collaborative. Timing of surgery following SARS-CoV-2 infection: an international prospective cohort study. Anaesthesia. 2021; 76: 748-58.

311. Namikawa T, Maeda M, Yokota K, Tanioka N, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Nagata Y, Kobayashi M, Hanazaki K. Laparoscopic distal gastrectomy for synchronous gastric cancer and gastrointestinal stromal tumor with situs inversus totalis. In Vivo. 2021; 35: 913-8.

312. Namikawa T, Maeda M, Yokota K, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Enteral vitamin B12 supplementation is effective for improving anemia in patients who underwent total gastrectomy. Oncology. 2021; 99: 225-33.

313. Fukudome I, Maeda H, Okamoto K, Kuroiwa H, Yamaguchi S, Fujisawa K, Shiga M, Dabanaka K, Kobayashi M, Namikawa T, Hanazaki K. The safety of early versus late ileostomy reversal after low anterior rectal resection: a retrospective study in 47 patients. Patient Saf Surg. 2021; 15: 7.

314. Morita Y, Ishida T, Morisawa S, Jobu K, Ou Y, Fujita H, Hanazaki K, Miyamura M. Juzentaihoto suppresses muscle arophy and decreased motor function in SAMP8 Mice. Biol Pharm Bull. 2021; 44: 32-8.

315. Namikawa T, Hashiba M, Kitagawa H, Mizuta H, Uchida K, Sato T, Kobayashi M, Hanazaki K. Innovative marking method using novel endoscopic clip equipped with fluorescent resin to locate gastric cancer. Asian J Endosc Surg. 2021; 14: 254-7.

316. Ogawa M, Namikawa T, Oki T, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Dabanaka K, Sugimoto T, Kobayashi M, Sakata O, Matsuda K, Hanazaki K. Evaluation of perioperative intestinal motility using a newly developed real-time monitoring system during surgery. World J Surg. 2021; 45: 451-8.

317. Yokota K, Namikawa T, Maeda M, Tanioka N, Iwabu J, Uemura S, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Synchronous duodenal mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma and gastric cancer. Clin J Gastroenterol. 2021; 14: 109-14.

318. Kawase K, Nomura K, Nomura S, Akashi-Tanaka S, Ogawa T, Shibasaki I, Shimada M, Taguchi T, Takeshita E, Tomizawa Y, Hanazaki K, Hanashi T, Yamauchi H, Yamashita H, Nakamura S. How pregnancy and childbirth affect the working conditions and careers of women surgeons in Japan: findings of a nationwide survey conducted by the Japan Surgical Society. Surg Today. 2021; 51: 309-21.

319. Uemura J, Okano K, Oshima M, Suto H, Ando Y, Kumamoto K, Kadota K, Ichihara S, Kokudo Y, Maeba T, Nanno Y, Toyama H, Takada Y, Shimada M, Hanazaki K, Masaki T, Suzuki Y. Immunohistochemically detected expression of ATRX, TSC2, and PTEN predicts clinical outcomes in patients with grade 1 and 2 pancreatic neuroendocrine tumors. Ann Surg. 2021; 274: e949-56.

320. Uemura S, Maeda H, Obatake M, Namikawa T, Kitagawa H, Fujieda Y, Nishimoto Y, Morishita Y, Fujieda M, Hanazaki K. Laparoscopic cholecystectomy for gallbladder torsion in a 3-year-old child. Acute Medicine & Surgery. Accepted in 2021.

321. Uemura S, Sugiura T, Okamura Y, Ito T, Yamamoto Y, Ashida R, Hanazaki K, Uesaka K. Adverse effects of prolonged postoperative hospital stay on long-term survival of pancreatic adenocarcinoma. Ann Cancer Res Ther. 2021; 29: 11-6.

322. Ishida T, Jobu K, Kawada K, Morisawa S, Kawazoe T, Shiraishi H, Fujita H, Nishimura S, Kanno H, Nishiyama M, Ogawa K, Morita Y, Hanazaki K, Miyamura M. Impact of Gut Microbiota on the Pharmacokinetics of Glycyrrhizic Acid in Yokukansan, a Kampo Medicine. Biol Pharm Bull. Accepted in October 2021.

323. Yamamoto M, Ninomiya H, Yamaguchi T, Kidawara K, Orihashi K, Sato T, Inoue K, Hanazaki H. Investigation of the Use of Bilirubin Oxidation as a Screening Test for Coronary Artery Disease. Journal of Coronary Artery Disease. 2021; 27: 97-104.

324. Uemura S, Endo H, Ichihara N, Miyata H, Maeda H, Hasegawa H, Kamiya K, Kakeji Y, Yoshida K, Yasuyuki S, Yamaue H, Yamamoto M, Kitagawa Y, Hanazaki K. Day of surgery and mortality after pancreatoduodenectomy: A retrospective analysis of 29 270 surgical cases of pancreatic head cancer from Japan. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2021 Sep 8. Epub ahead of print.

325. Hanazaki K. A Simple and inexpensive way to relieve postoperative cough-related pain. J Am Coll Surg. 2021; 233: 466-7.

326. Hanazaki K. Conference report: Communication on the 58th Annual Meeting of the Japanese Society for Artificial Organs in 2020. Artif Organs. 2021; 45: 97-100.

［和文論文］

2006

1. 黒住昌弘 , 平瀬雄一 , 塚原嘉典 , 角谷眞澄 , 上原剛 , 川口研二 , 花﨑和弘 , 古澤徳彦 . 膵・胆道周囲の腫瘤性病変　非腫瘤性病変　副脾の画像診断 . 消化器画像 . 2006; 8: 758-64.

2. 池野龍雄 , 町田水穂 , 尾崎一典 , 佐藤敏行 , 花﨑和弘 , 市川英幸 . 繰り返す出血性小腸憩室に対し腹腔鏡補助下憩室切除術を施行した 1 例 . 日本消化器外科学会雑誌 . 2006; 39: 1707-11.

3. 古澤徳彦 , 池野龍雄 , 浦川雅己 , 花﨑和弘 , 宮本英雄 , 市川英幸 , 川口研二 . 慢性関節リウマチに対するメトトレキセート治療中に発症した EB ウイルス関連悪性リンパ腫による回腸穿孔の 1 例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2006; 67: 2625-9.

4. 花﨑和弘 , 古澤徳彦 , 浦川雅巳 , 池野龍雄 , 宮本英雄 , 市川英幸 . シャープフック型ハーモニックスカルペルを用いた膵頭十二指腸切除の膵切離法 . 手術 . 2006; 60: 343-7.

5. 花﨑和弘 , 古澤徳彦 , 池野龍雄 , 浦川雅巳 , 宮本英雄 , 市川英幸 . 外科領域における肝癌に対する RFA の適応に関する検討 . 外科治療 . 2006; 94: 754-8.

2007

6. 花﨑和弘 . 膵内分泌腫瘍に対する外科治療の現状と問題点 . 新潟県医師会報 総説 . 2007; 690: 1-6.

7. 並川努 , 花﨑和弘 , 小林道也 , 倉本秋 . 特集 : 外科領域における各種メッシュ（人工繊維布）・フィルムの応用　Ⅰ. 総論　1. 人工繊維布・フィルムの開発と応用 . 外科 . 2007; 69: 1117-21.

8. 北川博之 , 岡林雄大 , 岡本健 , 杉本健樹 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 直腸悪性黒色腫に対して腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術を施行した 1 例 . 手術 . 2007; 61: 385-8.

9. 直木一朗 , 岡林雄大 , 北川博之 , 小林道也 , 杉本健樹 , 花﨑和弘 . 原発巣切除6年後に肝転移および腹膜播種をきたした空腸 gastrointestinal stromal tumor の1例 . 外科 . 2007; 69: 1770-3.

10. 浦川雅己 , 花﨑和弘 , 古澤徳彦 , 池野龍雄 , 宮本英雄 , 市川英幸 . 憩室炎に伴う S 状結腸膀胱瘻の 1 例―本邦報告 119 例の文献的検討―. 消化器外科 . 2007; 30: 249-56.

11. 花﨑和弘 , 岡林雄大 , 前田広道 . 中部・下部胆管癌に対する幽門輪温存膵頭十二指腸切除術シャープフック型ハーモニックスカルペルを用いた膵切離法 . 消化器外科 . 2007; 30: 1291-301.

12. 駄場中研 , 小林道也 , 並川努 , 吉岡龍二 , 岡本健 , 岡林雄大 , 前田広道 , 秋森豊一 , 杉本健樹 , 花﨑和弘 . 脾臓原発T細胞悪性リンパ腫の1切除例 . 日本消化器外科学会雑誌 . 2007; 40: 1834-8.

13. 小林道也 , 市川賢吾 , 北川博之 , 岡本健 , 並川努 , 花﨑和弘 . 胃瘻造設用腹壁固定針を用いた腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア手術 . 日本内視鏡外科学会雑誌 . 2007; 12: 317-21.

14. 直木一朗 , 北川博之 , 計田一法 , 小林道也 , 岡林雄大 , 花﨑和弘 . 成人腸重積を合併した小腸 GIST の 1 例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2007; 68: 603-6.

15. 駄場中研 , 小林道也 , 岡本健 , 岡林雄大 , 吉岡龍二 , 花﨑和弘 . Stage Ⅳ下行結腸癌術後 16 年で骨盤腔内腹膜外再発を認めた 1 例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2007; 68: 1821-5.

16. 駄場中研 , 秋森豊一 , 岡林雄大 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 食道メラノーシスに合併した早期食道癌の 1 例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2007; 68: 3006-9.

2008

17. 花﨑和弘 , 岡林雄大 , 前田広道 , 北川博之 , 杉本健樹 , 矢田部智昭 , 山下幸一 , 西森功 . 重症患者における血糖管理　手術周術期における人工膵を用いた血糖管理 . ICU と CCU. 2008; 32: 805-13.

18. 花﨑和弘 . 処置と小手術のコツと合併症　処置各論　爪周囲炎・陥入爪の処置 . 外科 . 2008. 70: 1393-7.

19. 花﨑和弘 . 人工膵臓って何？ . 高知県医師会報 . 2008; 477: 2.

20. 並川努 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 消化管機能からみた U 領域早期胃癌に対する噴門側胃切除後空腸嚢間置再建術の評価 . 消化と吸収 . 2008; 30: 23-6.

21. 花﨑和弘 , 岡林雄大 , 前田広道 , 矢田部智昭 , 山下幸一 , 西森功 , 小川道雄 . 人工膵臓を用いた外科手術周術期血糖管理法　周術期における血糖管理の重要性について . 胆と膵 . 2008; 29: 861-6.

22. 花﨑和弘 . 人工膵臓って何？ . 日本癌病態治療研究会誌 . 2008; 14: 55-6.

23. 岡林雄大 , 前田広道 , 花﨑和弘 . 外科感染症対策を目的とした外科周術期に人工膵臓を用いた血糖管理法の現状と将来展望 . 日本外科感染症学会雑誌 . 2008; 5: 177-81.

24. 甫喜本憲弘 , 市川賢吾 , 藤原千子 , 尾崎信三 , 上岡教人 , 花﨑和弘 . ENBD チューブの逸脱により生じたと考えられる十二指腸穿孔の1例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2008; 69: 2537-41.

25. 味村俊樹 , 倉本秋 , 駄場中研 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . Diversion colitis（便流変更性大腸炎／空置性大腸炎）とは . 臨床看護 . 2008; 34: 1549-56.

26. 矢田部智昭 , 横山武志 , 山下幸一 , 岡林雄大 , 真鍋雅信 , 花﨑和弘 . 人工膵臓 STG-22 を用いて管理したインスリノーマの 1 症例 . 臨床麻酔 . 2008; 32: 1412-4.

2009

27. 岡林雄大 , 花﨑和弘 . 術後感染対策　人工膵臓による新しい血糖管理 . 感染症 . 2009; 39: 135-42.

28. 北川博之 , 秋森豊一 , 並川努 , 沖野倫子 , 小林道也 , 西岡明人 , 花﨑和弘 . 化学放射線療法が奏効した食道小細胞型未分化癌の 1 例 . 癌と化学療法 . 2009; 36: 1737-9.

29. 並川努 , 花﨑和弘 . 噴門側胃切除術後の空腸嚢間置再建術 . 外科 . 2009; 71: 810-4.

30. 倉本秋 , 味村俊樹 , 岡本節 , 駄場中研 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 , 片岡薫 . 各論　ストーマ　ストーマの種類と造設術 . 外科 . 2009; 71: 1459-63.

31. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 上村直 , 前田広道 , 岡林雄大 . 手術手技　膵管内乳頭粘液性腫瘍に対する膵縮小手術　十二指腸胆管温存膵頭切除術を中心に . 外科治療 . 2009; 100: 97-101.

32. 遠近直成 , 上地一平 , 北村宗生 , 秋森豊一 , 岡本健 , 北川博之 , 花﨑和弘 , 松本学 , 公文正光 . 多彩な病理組織像を有する後腹膜脂肪肉腫の一例 . 外科治療 . 2009; 100: 836-40.

33. 岡本健 , 駄場中研 , 緒方宏美 , 杉本健樹 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 経仙骨会陰式に摘出を行った前仙骨部から外陰にまで及ぶ epidermoid cyst の 1 例 . 手術 . 2009; 63: 553-6.

34. 花﨑和弘 , 前田広道 , 北川博之 , 岡林雄大 , 並川努 . 緩和ケア　通過障害の処置 . 消化器外科 . 2009; 32: 980-2.

35. 岡林雄大 , 花﨑和弘 , 前田広道 , 山下幸一 , 矢田部智昭 , 西森功 , 小川道雄 . 人工膵臓を用いた外科手術周術期血糖管理法　肝胆膵外科領域における周術期血糖管理の重要性 . 胆と膵 . 2009; 30: 281-7.

36. 山下幸一 , 矢田部智昭 , 阿部秀宏 , 細井理絵 , 前田広道 , 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた外科手術周術期血糖管理法　麻酔科医の立場からみた厳密な周術期血糖管理の実際について . 胆と膵 . 2009; 30: 511-6.

37. 花﨑和弘 , 岩坂日出男 , 山下幸一 , 川上伸次 , 岡林雄大 . 人工膵臓を用いた外科手術周術期血糖管理法　厳密な血糖管理の現状と将来展望 －人工膵臓の果たす役割－ . 胆と膵 . 2009; 30: 785-94.

38. 花﨑和弘 , 岡林雄大 , 前田広道 , 北川博之 , 並川努 , 杉本健樹 . 人工膵臓の現状と未来　周術期の血糖制御 . 糖尿病学の進歩 . 2009; 43: 115-7.

39. 杉本健樹 , 甫喜本憲弘 , 船越拓 , 花﨑和弘 , 坪崎英治 , 中内優 , 武市昌士 , 松浦喜美夫 , 尾崎信三 . マンモグラフィ検診の進む方向は？　高知マンモグラフィ遠隔診断ネットワークの構築 . 日本乳癌検診学会誌 . 2009; 18: 67-75.

40. 駄場中研 , 岡本健 , 岡林雄大 , 緒方宏美 , 前田広道 , 花﨑和弘 . 広範なリンパ節転移を認めた直腸 GIST の 1 例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2009; 70: 1444-8.

41. 矢田部智昭 , 横山武志 , 山下幸一 , 前田広道 , 岡林雄大 , 真鍋雅信 , 花﨑和弘 . 人工膵臓 STG-22TM を用いて血糖管理を行った褐色細胞腫の麻酔経験 . 麻酔 . 2009; 58: 88-91.

42. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 上村直 , 前田広道 , 岡林雄大 . 縫合･吻合法の基本　縫合 , 縫合止血 , 吻合のポイント . 臨床外科 . 2009; 64: 10-3.

2010

43. 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 経皮経肝胆道および胆嚢ドレナージの適応と手技 . 外科 . 2010; 72: 834-8.

44. 耕崎拓大 , 岡林雄大 , 花﨑和弘 . 処置に伴う合併症と対策　ステント設置後合併症　膵管狭窄部ステント . 消化器外科 . 2010. 33: 911-3.

45. 並川努 , 花﨑和弘 . Ⅰ. 開腹手術用機器　1. 鑷子 . 手術 . 2010; 64: 711-5.

46. 花﨑和弘 . 血糖コントロールにおける人工膵の役割 . 侵襲と免疫 . 2010; 19: 162-7.

47. 花﨑和弘 . 人工膵島による周術期の血糖管理 . 内分泌・糖尿病・代謝内科 . 2010; 30: 577-84.

48. 矢田部智昭 , 横山武志 , 前田広道 , 岡林雄大 , 細井理絵 , 山下幸一 , 花﨑和弘 , 横山正尚 . 人工膵臓 STG-22TM を用いて強化インスリン療法を行った深頸部膿瘍の 1 例 . 日本集中治療医学会雑誌 . 2010; 17: 533-4.

49. 壬生季代 , 岡林雄大 , 薦田直之 , 川崎一起 , 麻植美佐子 , 矢田部智昭 , 山﨑文晴 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 花﨑和弘 . ICU における人工膵臓を用いた血糖制御法 ; 安全で労働負担が少ない血糖管理法の開発を目指して . 臨床看護 . 2010; 36: 1225-30.

2011

50. 北川博之 , 岡林雄大 , 花﨑和弘 . 人工膵臓 (日機装の新しい機器「STG-55」). Diabetes Frontier. 2011; 22: 337-40.

51. 北川博之 , 矢田部智昭 , 花﨑和弘 . 血糖に影響する外科的手技 : 人工膵臓の closed loop system で周術期の厳密な血糖管理が可能に . LiSA. 2011; 18: 1182-4.

52. 福本和生 , 清家愛理 , 島津栄一 , 三宅晋 , 酉家佐吉子 , 花﨑和弘 . シナカルセト塩酸塩の少量・透析直前間欠的投与について . Nephrology Frontier. 2011; 10（Suppl）: 51-5.

53. 岡林雄大 , 市川賢吾 , 花﨑和弘 . I. 外科総論 4. 腫瘍随伴症候群 . 外科 . 2011; 73: 1273-7.

54. 杉本健樹 , 花﨑和弘 , 佐藤隆幸 . Hyper Eye Medical System を用いた乳癌センチネルリンパ節生検手技 . 手術 . 2011; 65: 421-5.

55. 宗景匡哉 , 北川博之 , 岡林雄大 , 能勢之彦 , Charles Brunicardi, 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた外科周術期血糖制御法 . 人工臓器 . 2011; 40: 46.

56. 壬生季代 , 矢田部智昭 , 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた血糖管理法は ICU 看護師の労働負担を軽減できるのか . 人工臓器 . 2011; 40: 48.

57. 志賀舞 , 松浦喜美夫 , 花﨑和弘 . ２度の出産・育児を経験した女性外科医の体験に基づく女性外科医の勤務継続について . 日本外科学会雑誌 . 2011; 112: 147-9.

58. 福留惟行 , 小林道也 , 駄場中研 , 倉本秋 , 川村明廣 , 花﨑和弘 . 単孔式腹腔鏡手術で摘出した腹腔内異物の１例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2011; 72: 1561-4.

59. 福留惟行 , 駄場中研 , 岡本健 , 並川努 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 腹腔内に発生した Ewing 肉腫／ peripheral primitive neuroectodermal tumor の２例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2011; 72: 2410-4.

60. 福留惟行 , 駄場中研 , 岡本健 , 岡林雄大 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 術前 inflammatory fibroid polyp との鑑別に苦慮した横行結腸脂肪腫の１例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2011; 72: 2578-82.

2012

61. 宗景絵里 , 竹崎由佳 , 花﨑和弘 . マグネシウム～生体調節・薬剤としての重要性～ 糖尿病におけるマグネシウム代謝異常とその治療意義 . 2012; Clin Calcium 22(8): 1235-42

62. 花﨑和弘 . 理解を助けるトレーニング問題 糖尿病とマグネシウム(Mg) との関連について . Clin Calcium. 2012; 22: 1259.

63. 甫喜本憲弘 , 杉本健樹 , 船越　拓 , 小河真帆 , 岡林雄大 , 花﨑和弘 . 副甲状腺癌の１例 . 外科 . 2012; 74: 1110-3.

64. 市川賢吾 , 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた周術期の血糖正常化 . 月刊糖尿病 . 2012; 4: 70-7.

65. 並川努 , 花﨑和弘 . IV 合併症を有する患者の術前・術後管理 4 . 消化器系 肝硬変 . 消化器外科 . 2013; 35 臨時増刊 : 806-7.

66. 甫喜本憲弘 , 杉本健樹 , 船越拓 , 小河真帆 , 花﨑和弘 . 長期にわたりインターロイキン - ２を投与した原発性乳腺血管肉腫の１例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2012; 73: 786-91.

67. 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた周術期の血糖正常化 . 臨床栄養 . 2012; 121: 714-6.

2013

68. 並川努 , 花﨑和弘 . 胃癌に対する幽門側胃切除術後 Double tract 再建 . 手術 . 2013; 67: 203-7.

69. 並川努 , 宗景絵里 , 志賀舞 , 北川博之 , 駄場中研 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . HER2 陽性切除不能進行・再発胃癌に対する個別化治療 . 癌と化学療法 . 2013; 40: 2250-2.

70. 坂本浩一 , 杉本健樹 , 尾崎信三 , 船越拓 , 小河真帆 , 花﨑和弘 . 外傷性横隔膜損傷の治療戦略と手術のポイント . 小児外科 . 2013; 45: 1025-8.

71. 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . 単純性イレウス保存的治療のコツ . 手術 . 2013; 67: 151-3.

72. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 矢田部智昭 , 並川努 . 人工膵臓 －最近の進歩 : 新型人工膵臓の開発研究および臨床応用を中心に . 人工臓器 . 2013; 42: 195-7.

73. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 竹﨑由佳 , 矢田部智昭 , 並川努 . 周術期の血糖管理最前線 －人工膵臓を用いた新しい血糖管理法を中心に－ . プラクティス . 2013; 30: 319-23.

2014

74. 並川努 , 上村直 , 北川博之 , 水田洋 , 小林道也 , 西原利治 , 花﨑和弘 . 胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡と腹腔鏡による合同手術 . 高知県医師会医学雑誌 2014; 19: 128-34.

75. 宗景匡哉 , 宗景絵里 , 花﨑和弘 . 胆汁瘻 . ERAS 時代の周術期管理マニュアル , IV 術中・術後合併症とその管理　1. 消化器系 , 臨床外科 . 2014; 69: 11(Suppl) pp223-5

76. 花﨑和弘 . SSI 予防のための人工膵臓を用いた外科周術期血糖管理 . INFECTION CONTROL. 2014; 2: 619.

77. 花﨑和弘 . 肝切除周術期の腹部症状改善を目指した大建中湯の有用性 . Prog Med. 2014; 34: 450.

78. 並川努 , 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 上村直 , 志賀舞 , 前田広道 , 北川博之 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 胃癌孤立性副腎転移の 1 例 . 癌と化学療法 . 2014; 41: 2259-61.

79. 宗景絵里 , 並川努 , 花﨑和弘 . 術後腎不全の治療 . 外科 . 2014; 76: 11-4.

80. 田村耕平 , 駄場中研 , 福留惟行 , 並川努 , 森田雅夫 , 田村精平 , 花﨑和弘 . 鼠径ヘルニア手術を契機に発見された大網血腫の 1 例 . 外科 . 2014; 76: 910-5.

81. 並川努 , 上村直 , 北川博之 , 水田洋 , 小林道也 , 西原利治 , 花﨑和弘 . 胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡と腹腔鏡による合同手術 . 高知県医師会医学雑誌 2014; 19: 128-34.

82. 壬生季代 , 矢田部智昭 , 花﨑和弘 . Blood glucose control using an artificial pancreas reduces the workload of ICU nurses. 人工臓器 . 2014; 43: 23-4.

83. 山本賢太郎 , 矢田部智昭 , 山下幸一 , 長野修 , 花﨑和弘 , 横山正尚 . 糖尿病性ケトアシドーシスによる高度高血糖の治療に人工膵臓が有用であった 1 例 . 日本救急医学会雑誌 . 2014; 25: 261-6.

84. 坂本浩一 , 杉本健樹 , 駄場中研 , 小河真帆 , 堂野純孝 , 加治建 , 松藤凡 , 花﨑和弘 . 原発性小腸捻転の 3 小児例 . 日本小児救急医学会雑誌 . 2014; 13: 408-15.

85. 沖豊和 , 福留惟行 , 金川俊哉 , 秋森豊一 , 上岡教人 , 花﨑和弘 . 保存的治療後 15 日目で再出血を起こした遅発性脾破裂の 1 例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2014; 75: 1678-83.

86. 岡本健 , 小林道也 , 前田広道 , 福留惟行 , 駄場中研 , 花﨑和弘 . Douglas 窩に生じた脂肪平滑筋腫の 1 例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2014; 75: 3164-8.

87. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 三科卓 , 木下良彦 , 並川努 . 1 型糖尿病の新しい治療 : closed-loop 人工膵臓 . ホルモンと臨床 . 2014; 62: 729-32.

88. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 矢田部智昭 , 並川努 . 人工膵臓を用いた外科周術期血糖管理 最近の話題と将来展望を中心に . 麻酔・集中治療とテクノロジー 2014: 24-8.

2015

89. 杉本健樹 , 小河真帆 , 沖豊和 , 田代真理 , 花﨑和弘 , 執印太郎 . 当院における遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）診療の現状と問題点 . 家族性腫瘍 . 2015; 15: 42-6.

90. 北川博之 , 宗景匡哉 , 並川努 , 矢田部智昭 , 花﨑和弘 . 肝胆膵分野の再生医療・人工臓器膵 人工膵臓マシン . 肝胆膵 . 2015; 70: 467-71.

91. 並川努 , 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 志賀舞 , 前田広道 , 北川博之 , 岡本健 , 公文正光 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 好中球／リンパ球比を指標とした Protein-Bound Polysaccharide K（PSK）併用化学療法の効果 . 癌と化学療法 . 2015; 42: 2081-3.

92. 志賀舞 , 矢田部智昭 , 花﨑和弘 . 麻酔科学 脊髄くも膜下麻酔の原理 . 外科 . 2015; 77: 1448-51.

93. 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . がん周術期の糖尿病マネジメント～外科の立場から～ . 月刊糖尿病 . 2015; 7: 13-23.

94. 花﨑和弘, 宗景匡哉, 矢田部智昭, 北川博之, 並川努. 人工膵臓の現状と問題点. 人工臓器. 2015; 44: 158-60.

95. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 宗景絵里 , 藤澤和音 , 並川努 . 周術期の血糖管理－人工膵臓と SSI － . 日本外科感染症学会雑誌 . 2015; 12: 691-8.

96. 志賀舞 , 小河真帆 , 宗景匡哉 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 駄場中研 , 花﨑和弘 . 育児とキャリアアップの両立を可能にする日本外科学会が目指すべき男女共同参画とは？ . 日本外科学会雑誌 . 2015; 116: 393-5.

97. 北川博之 , 宗景匡哉 , 並川努 , 耕崎拓大 , 戸井慎 , 弘井誠 , 花﨑和弘 . 経過中に増大した主膵管の圧排狭窄をともなう膵漿液性嚢胞腫瘍の 1 切除例 . 日本消化器病学会雑誌 . 2015; 112: 736-40.

98. 坂本浩一 , 杉本健樹 , 沖豊和 , 小河真帆 , 菊地広朗 , 堂野純孝 , 久川浩章 , 藤枝幹也 , 花﨑和弘 . 排便障害に対し生検時に人工肛門造設術を行った骨盤神経芽腫の 1 乳児例 . 日本小児救急医学会雑誌 . 2015; 14: 42-5.

99. 並川努 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 花﨑和弘 . 人工膵臓の役割 . 臨床外科 . 2015; 70: 1510-3.

100. 花﨑和弘 . 石の上にも 10 年 . 人工臓器 . 2015 44: 125.

101. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 矢田部智昭 , 並川努 . 人工膵臓を用いた外科周術期血糖管理 : 最近の話題と将来展望 . 麻酔・集中治療とテクノロジー . 2014; 24-8.

2016

102. 島田光生 , 花﨑和弘 . QOL を考慮した周術期管理 －エビデンスに基づく大建中湯の投与方法－ . 漢方医学 . 2016; 40: 29-34.

103. 並川努 , 花﨑和弘 . 侵襲時栄養管理のエビデンスの再考　侵襲早期の至適血糖管理 . 外科と代謝・栄養 . 2016; 50: 157-61.

104. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 並川努 . 肝葉切除術 . 消化器外科 . 2016; 39: 196-202.

105. 耕崎拓大 , 北川達也 , 木岐淳 , 麻植啓輔 , 西原利治 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 花﨑和弘 , 弘井誠 . EUS-FNA にて診断し得た原発不明神経内分泌腫瘍の 1 例 . 超音波医学 . 2016; 43 146-7.

106. 並川努 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 宗景絵里 , 花﨑和弘 . 高齢者における外科治療の低侵襲化と至適管理 6. 人工膵臓による周術期血糖管理 . 日本外科学会雑誌 . 2016; 117: 194-8.

英文業績
和文業績
国際学会
国内学会
学位授与
学位論文
研究費
主催学会
手術件数

107. 志賀舞 , 小河真帆 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 駄場中研 , 並川努 , 花﨑和弘 . 子育て中の女性外科医に優しい職場には明るい未来が待っている . 日本外科学会雑誌 . 2016; 117: 447-8.

108. 坂本浩一 , 大畠雅之 , 花﨑和弘 . 皮下 bronchogenic cyst の 1 乳児例 − 本邦小児例の検討 . 日本小児外科学会雑誌 . 2016; 52: 275-80.

109. 北川博之 , 宗景匡哉 , 並川努 , 宗景絵里 , 藤澤和音 , 花﨑和弘 . 二期的手術により救命し得た腹腔内大量出血を伴った出血性胆嚢炎の1例 . 日本腹部救急医学会雑誌 . 2016; 36: 681-5.

110. 坂本浩一 , 大畠雅之 , 下野隆一 , 花﨑和弘 . 限局性結腸拡張症を合併した低位鎖肛の 1 例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2016; 77: 926-30.

111. 沖豊和 , 杉本健樹 , 小河真帆 , 駄場中研 , 戸井慎 , 花﨑和弘 . 乳癌甲状腺転移の 1 例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2016; 77: 1043-8.

112. 花﨑和弘 . 大建中湯の ADME 研究 . Prog Med. 2016; 36: 1242-3.

113. 並川努 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 志賀舞 , 前田広道 , 北川博之 , 長田裕典 , 公文正光 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 胃癌術後卵巣転移に対して集学的治療を行った 2 例 . 癌と化学療法 . 2016; 43: 2211-2.

114. 杉村和律 , 並川努 , 竹﨑由佳 , 北川博之 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 胆管癌におけるボルテゾミブとジェムシタビン併用療法を用いた新規治療法の検討 . 癌と化学療法 . 2016; 43: 1608-13.

2017

115. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 並川努 . Ⅳ 肝臓の手術　肝前区域切除 . 消化器外科 . 2017; 40: 714-23.

116. 花﨑和弘 . 理想の男女共同参画を目指して　理想の男女共同参画を実現するための指導者の心構えとは？ . 日本外科学会雑誌 . 2017; 118: 139-40.

117. 藤澤和音 , 川西康広 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . ステントグラフト内挿術により救命し得た食道癌による大動脈食道瘻の 1 例 . 手術 . 2017; 71: 1463-6.

118. 花﨑和弘 , 志賀舞 , 小河真帆 , 宗景絵里 , 藤澤和音 , 津田祥 , 藤枝悠希 , 北川博之 , 駄場中研 . 女性外科医に活躍の場を与えるための取り組み : 地方大学指導者の立場から . 日本外科学会雑誌 . 2017; 118. 117-9.

119. 並川努 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 上村直 , 岩部純 , 宗景絵里 , 藤澤和音 , 花﨑和弘 . 特集　最新の周術期の栄養管理　術後の栄養管理の方法と注意点−血糖管理を中心に− . ICU と CCU. 2017; 41.

120. 並川努, 川西泰広, 藤枝悠希, 藤澤和音, 宗景絵里, 宗景匡哉, 前田広道, 北川博之, 小林道也, 花﨑和弘 . S-1+Oxaliplatin 療法が奏功し治癒切除可能となった肝転移を伴う進行胃癌の１例 . 癌と化学療法 ; 2017: 44: 1446-8.

2018

121. 花﨑和弘 , 倉本秋 . 特別企画（５）「今こそ地域医療を考える－都市と地方の外科医療と外科教育の格差を解消するには－」3. 地方再生は教育から : 地域外科医療の発展を目指した Academic Surgeon 育成への取り組み . 日本外科学会雑誌 . 2018; 119: 86-8.

122. 並川努 , 宇都宮正人 , 津田祥 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 岩部純 , 上村直 , 金川俊哉 , 辻井茂宏 , 前田広道 , 北川博之 , 福原秀雄 , 岡本健 , 井上啓史 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 診断の有用性胃癌に対する5- アミノレブリン酸を用いた光力学的 . 高知県医師会医学雑誌 . 2018; 23: 186-91.

123. 藤枝悠希 , 大畠雅之 , 坂本浩一 , 花﨑和弘 , 藤枝幹也 . 大腿部蜂窩織炎で発症した後腹膜膿瘍の１小児例 . 高知県小児科会報 . 2018; 30: 66-71.

124. 花﨑和弘 , 北川博之 , 上村直 , 宗景匡哉 , 藤澤和音 , 並川努 . 人工膵臓 . 外科と代謝 . 2018; 52: 145-8.

125. 川西泰広 , 北川博之 , 宗景匡哉 , 並川努 , 花﨑和弘 . 化学療法後の膵癌縮小で脱落した十二指腸ステントによる小腸穿孔の一例 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2018; 79: 1095-9.

126. 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . 最新版 ” 腸閉塞 ” を極める！　保存的治療の種類と適応のポイント . 臨床外科 . 2018; 7: 790-2.

127. 花﨑和弘 , 藤澤和音 , 宗景匡哉 , 上村直 , 北川博之 , 並川努 . ERAS を目指した肝胆膵外科周術期管理の工夫 : 人工膵臓を用いた周術期血糖管理を中心に . 肝胆膵治療研究会誌 . 2018; 15: 14-20.

128. 花﨑和弘 . 膵臓外科学の夜明け : 高知から世界へ . 膵臓　日本膵臓学会学会誌 . 2018; 33: 867-9.

129. 杉本健樹 , 小河真帆 , 沖豊和 , 駄場中研 , 中島典昭 , 下元憲明 , 小松昭夫 , 藤原キミ , 栗山元根 , 花﨑和弘 . 乳癌センチネルリンパ節生検－電子パスでも術式変更に対応できる－ .　日本クリニカルパス学会誌 . 2018; 20: 573-6.

130. 耕崎拓大 , 宗景匡哉 , 上村直 , 花﨑和弘 . 腹腔鏡下胆嚢摘出術後の腹腔内膿瘍に対して超音波内視鏡下ドレナージ術が奏効した１例 . 胆道 . 2018; 30: 891-9.

131. 並川努 , 津田祥 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 岩部純 , 上村直 , 辻井茂宏 , 前田広道 , 北川博之 , 公文龍也 , 長田裕典 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 食道浸潤胃癌術後肺転移に対して切除後長期生存の１例 . 癌と化学療法 . 2018; 45: 1827-9.

2019

132. 花﨑和弘 , 藤澤和音 , 宗景匡哉 , 上村直 , 津田祥 , 北川博之 , 並川努 . 膵全摘術後の膵性糖尿病に対する人工膵臓療法 . 胆と膵 . 2019; 40: 81-5.

133. 花﨑和弘 . 人工膵臓による血糖管理 : 外科の立場から－外科周術期の人工膵臓療法の現状と将来展望 . 医学のあゆみ . 2019; 268: 576-80.

134. 大畠雅之, 藤枝悠希, 坂本浩一, 花﨑和弘. 術前に後腹膜腫瘤と診断された胃重複症の１例. 日本臨床外科学会雑誌 . 2019; 80: 310-4.

135. 沖豊和 , 杉本健樹 , 小河真帆 , 駄場中研 , 花﨑和弘 . BRCA １／２遺伝学的検査によって乳房温存療法の適応を決定した若年性乳癌の１例 . 癌と化学療法 . 2019; 46: 555-7.

136. 岩部純 , 北川博之 , 石田信子 , 横田啓一郎 , 並川努 , 花﨑和弘 . 左胸腔鏡下に食道癌術後の胸部大動脈周囲再発病変を切除した ２ 例 . 手術 . 2019; 73: 357-61.

137. 花﨑和弘 . 医療機器の臨床研究 : 人工膵臓の臨床応用 . 日本外科学会雑誌 . 2019; 120: 472-3.

138. 花﨑和弘 . 医療機器の臨床研究 : 人工膵臓の臨床応用 . 日本臨床外科学会雑誌 . 2019; 80: 1434-5.

139. 並川努, 石田信子, 津田祥, 藤澤和音, 宗景絵里, 岩部純, 宗景匡哉, 上村直, 前田 広道, 辻井 茂宏 , 北川 博之 , 小林 道也 , 花﨑 和弘 . 栄養評価指数からみた胃癌化学療法患者における 予後予測因子の検討 . 外科と代謝・栄養 . 2019; 53: 243-50.

140. 福留惟行 , 駄場中研 , 津田祥 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 長径 47㎝の大網原発類上皮型消化管外 GIST の１例 . 日本臨床外科学会雑誌 , 2019; 80: 1892-6.

141. 上村直 , 並川努 , 北川博之 , 藤澤和音 , 前田広道 , 小林道也 , 佐藤隆幸 , 花﨑和弘 . HyperEye Medical System を用いて虚血腸管を切除した Non-occlusive mesenteric ischemia の１例 . 高知県医師会医学雑誌 . 2019; 24: 264-8.

142. 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 人工膵臓 . 救急・集中治療 . 2019; 31: 1090-2.

143. 並川努, 石田信子, 横田啓一郎, 岩部純, 上村直, 前田広道, 北川博之, 長田裕典, 公文正光, 小林道也 , 花﨑和弘 . 根治手術 13 年後の再発胃癌に対して集学的治療を行った １ 例 . 癌と化学療法 . 2019; 6: 2087-9.

144. 福留惟行 , 駄場中研 , 横田啓一郎 , 石田信子 , 上村直 , 並川努 , 井口みつこ , 戸井慎 , 花﨑和弘 . 神経性食思不振症に縦隔気腫と門脈ガス血症を同時に認めた気腫性胃炎の１例 . 日本消化器外科学会雑誌 . 2019; 52: 703-11.

2020

145. 花﨑和弘 . 地域から世界へ発信する臨床外科学　Staying Local, Moving Global. 日本臨床外科学会雑誌 . 2020; 81: 613-22.

146. 福留惟行 , 駄場中研 , 上村直 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 術中大量出血に対し短時間ガーゼパッキングを行い巨大腫瘍を摘出した一例 , 臨床外科 , 2020; 75: 995-9.

147. 福留惟行 , 岡本健 , 山口祥 , 藤澤和音 , 小林道也 , 花﨑和弘 . Symbotex™ Composite Mesh に工夫を加えた腹腔鏡下 Sugarbaker 法 . 日本内視鏡外科学会雑誌 . 2020; 25: 360-5.

148. 谷岡信寿 , 上村直 , 山口祥 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 花﨑和弘 . 食道切除胃管再建術後 , 右胃大網動脈の切除再建を伴う膵頭十二指腸切除術を施行した1例 . 手術 . 2020; 74: 1519-25.

149. 宗景匡哉 , 臼井隆 , 花﨑和弘 . 血糖の自動制御システム . ICU と CCU. 2020; 44: 139-44.

2021

150. 福留惟行 , 駄場中研 , 中村衣世 , 山口祥 , 藤澤和音 , 花﨑和弘 . 新しい腹部開放創用「ABTHRERA(TM) ドレッシングキット」の使用経験 . 臨床外科 2021; 76.

151. 花﨑和弘 . コロナ禍の中 , 現地集合型学会を開催して . 人工臓器 . 2021; 50: 5-6.

152. 花﨑和弘 . 自動縫合器・吻合器の種類と使用法 . 人工臓器 . 2021; 50: 30-1.

［ **和文著書** ］

2010

1. 宗景匡哉, 花﨑和弘. Ⅱ肝臓編（下）Ⅻ 肝動脈, 肝静脈, 門脈系異常　肝梗塞. 別冊日本臨牀, 新領域別症候群シリーズ　No. 14　肝・胆道系症候群（第２版）－その他の肝・胆道系疾患を含めて－　日本臨牀社 , pp99-102.

2011

2. 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 人工膵島による周術期の血糖管理 . 最新インスリン療法 , ヴィジュアル糖尿病臨床のすべて , 荒木栄一編 , 中山書店 , pp137-9.

3. 市川賢吾 , 花﨑和弘 . 肝臓 . 消化器外科ナーシング , らくらくわかる新人ナースの術前術後ケアまるごとガイド（２）肝胆膵編 , メディカ出版 , 16（５）: pp426-43.

4. 並川努 , 花﨑和弘 . 第 31 節人工繊維布　消化器外科の立場から . 医療材料【外科製品・生体材料】の臨床ニーズ集 第1章医師の求める医療材料とは , 技術情報協会 , pp249-58.

2012

5. 花﨑和弘 , 小川道雄 . Ⅱ外科領域 11 外科周術期の血糖管理の意義 . 臨床に役立つ最新血糖管理マニュアル , 小川道雄・諏訪邦夫・門脇孝監修 , 花﨑和弘編集 , 医学図書出版 , pp89-95.

6. 岡林雄大 , 花﨑和弘 . Ⅱ外科領域　13 肝臓外科手術の血糖管理 . 臨床に役立つ最新血糖管理マニュアル , 小川道雄・諏訪邦夫・門脇孝監修 , 花﨑和弘編集 , 医学図書出版 , pp105-13.

7. 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . Ⅱ外科領域 14 膵臓外科手術の血糖管理 . 臨床に役立つ最新血糖管理マニュアル , 小川道雄・諏訪邦夫・門脇孝監修 , 花﨑和弘編集 , 医学図書出版 , pp114-20.

8. 北川博之 , 花﨑和弘 . Ⅱ外科領域 15 食道外科手術の血糖管理 . 臨床に役立つ最新血糖管理マニュアル , 小川道雄・諏訪邦夫・門脇孝監修 , 花﨑和弘編集 , 医学図書出版 , pp121-5.

9. 花﨑和弘 , 小川道雄 . Ⅱ外科領域 20 人工膵臓を用いた外科周術期血糖管理 . 臨床に役立つ最新血糖管理マニュアル , 小川道雄・諏訪邦夫・門脇孝監修 , 花﨑和弘編集 , 医学図書出版 , pp163-9.

10. 花﨑和弘 . 肝癌肝切除における分岐鎖アミノ酸顆粒製剤投与の意義 . 肝がん・肝硬変に対する栄養療法の新時代 , 市田隆文・平野克治監修・編集 , アークメディア , pp69-72.

11. 市川賢吾 , 花﨑和弘 . 5　胆道疾患　3. 胆石・胆嚢炎 . 消化器外科学レビュー 2012 －最新主要文献と解説－ , 渡邊昌彦・国土典宏・土岐祐一郎監修 , 総合医学社 , pp128-33.

12. 岡林雄大 , 花﨑和弘 . 第 12 節 肝臓再生医療実用化の手ごたえと , 臨床研究・治療に与えるインパクト . 先端医療に関するニーズ・開発戦略と使わなくなる薬剤・製品の予測　第1章 : 再生医療の開発動向と臨床で使わなくなる（であろう）薬剤・機器 , 技術情報協会 , pp140-50.

2013

13. 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 胆道疾患 胆石症・胆嚢炎（胆管炎を含む）. 消化器外科学レビュー 2013-'14 －最新主要文献と解説－ , 渡邊昌彦・国土典宏・土岐祐一郎監修 , 総合医学社 , pp129-33.

14. 花﨑和弘 . 各論 第 10 章 ヘルニア . 標準外科学 , 第 13 版 , 加藤治文監 , 畠山勝義・北野正剛・若林剛編 , 医学書院 , pp492-506.

15. 並川努 , 花﨑和弘 . 第9節 外科医から求められる組織補強材・人工繊維布 . 体内埋め込み医療材料の開発とその理想的な性能・デザイン　第1章　埋め込み医療機器・材料に起こっているトラブルとその解決策 , 技術情報協会 , pp164-6.

16. 花﨑和弘（編集委員・執筆）. 多発性内分泌腫瘍症診療 ガイドブック . 多発性内分泌腫瘍症診療ガイドブック編集委員会編集 , 金原出版 , pp1-155.

2014

17. 並川努 , 田村精平 , 花﨑和弘 . 術後合併症 . 消化器病診療　第２版 , 一般財団法人日本消化器病学会監修 ,「消化器病診療　第２版」編集委員会編集 , 医学書院 , pp370-373.

18. 花﨑和弘 . 周術期の血糖管理のコツや注意点は？レジデントノート（増刊）, 第３章　入院診療の疑問 , 坂根直樹編 , 羊土社 , 16: pp164-9.

2015

19. 花﨑和弘 . 1. 人工膵臓の現状と将来展望 . Annual Review 消化器 2015, IV. 消化器外科 , 竹原徹郎 , 金井隆典 , 下瀬川徹 , 島田光生編 , 中外医学社 , pp211-4.

20. 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 膵・消化管神経内分泌腫瘍 . イヤーノート　TOPICS 2015-2016 第５版 , 医療情報科学研究所編 , メディックメディア , pp64-6.

21. 並川努 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 4. 手術治療 . 外来診療・栄養指導に役立つ胃切除後障害診療ハンドブック　第６章　胃切除後障害の治療の実際 ,「胃癌術後評価を考える」ワーキンググループ／胃外科・術後障害研究会編 , 南江堂 , pp137-9.

22. 前田広道 , 花﨑和弘 . 14　肝嚢胞 . 消化器疾患最新の治療 2015-2016, IV 章　肝･胆･膵疾患 , 菅野健太郎 , 上西紀夫 , 小池和彦編 , 南江堂 , pp357-9.

2016

23. 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 膵･消化管神経内分泌腫瘍 . イヤーノート TOPICS 2016-2017 第6版 , 医療情報科学研究所編 , メディックメディア , pp70-2.

24. 花﨑和弘 . 各論　第 10 章　ヘルニア . 標準外科学 , 第 14 版 , 畠山勝義監 , 北野正剛･田邉稔･池田徳彦 , 医学書院 , pp470-84.

2017

25. 花﨑和弘 . 第３部　1　漢方薬の体内動態 . Kampo Science Visual Review 漢方の科学化 , 北島政樹総監修 , ライフ・サイエンス , pp154-62.

26. 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 膵・消化管神経内分泌腫瘍 . イヤーノート TOPICS 2017-2018 第7版 , 医療情報科学研究所編 , メディックメディア , pp78-80.

27. 北川博之 , 花﨑和弘 . 実例に基づいた人工膵臓治療の解説 . ベッドサイド型人工膵臓取り扱いマニュアル , 中條大輔 , 山田和彦編集 , 診断と治療社 , pp30-3.

28. 花﨑和弘 . 1. 肝胆膵のキホン①～⑤ . どでかい図解でカンタンスイスイはやわかり　肝胆膵の治療とケア

29. 花﨑和弘 . 血糖管理と手術部位感染の予防 . 感染症 The Infection No. 5 Vol. 47 2017. 9

2018

30. 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 膵・消化管神経内分泌腫瘍 . イヤーノート TOPICS 2018-2019 第8版 , 医療情報科学研究所編 , メディックメディア

2020

31. 上村直 , 並川努 , 花﨑和弘 . 術中蛍光イメージングの基本［導入編］⑤蛍光イメージングを手術室に導入するには . 術中蛍光イメージング実践ガイド , MEDICAL VIEW 32-6.

32. 並川努 , 花﨑和弘 . ５-ALA 蛍光イメージングの撮影装置 . 術中蛍光イメージング実践ガイド , MEDICAL VIEW 25-31.

2021

33. 谷岡信寿 , 花﨑和弘 . 急性膵炎 b 外科的治療 . 消化器疾患 最新の治療 2021-2022. 338-40.

34. 並川努 , 花﨑和弘 . 自動縫合器・吻合器の種類と使用法 . 手術力が必ず向上する内視鏡外科消化器再建術のすべて , 学研メディカル秀潤社 14-9.

35. 花﨑和弘 . 地域医療の未来に外科医ができること . 日本外科学会 120 年記念誌 308-13.

［国際学会］

2006

1. Sugimoto T, Nakauchi S, Suehiro F, Otsubo E, Nakano T, Okabayashi T, HanazakiK. Telemammography using soft copy of computed radiograpy in breast cancer screening. 6th BiennialMeetingAsianBreastCancerSociety, Symposium, 2007.09, HongKong, China

2007

2. Okabayashi T, Kobayashi M, Nishimori I, Sugimoto T, Onishi S, Hanazaki K. The benefit of the supplementation of peri-operative branched-chain amino acids in patients with surgical management for hepatocellular carcinoma. 1st Biennial Congress Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2007.03, Fukuoka, Japan
3. Maeda H, Okabayashi T, Nishimori I, Kobayashi M, Onishi S, Hanazaki K. Clinicopathologic features and medical management of intraductal papillary mucinous neoplasm. 1st Biennial Congress Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2007.03, Fukuoka, Japan
4. Namikawa T, Kobayashi M, Nakatani H, Okabayashi T, Okamoto K, Akimori T, Sugimoto T, Hanazaki K. Effectiveness of Roux-en-Y reconstruction after distal gastrectomy based on analysis of the angle of His. 7th IGCC, 2007.05, Sao Paulo, Brazil
5. Namikawa T, Kobayashi M, Okabayashi T, Okamoto K, Akimori T, Sugimoto T, Hanazaki K. Consequences of Roux-en-Y reconstruction in comparison with Billroth type I reconstruction after distal gastrectomy for gastric cancer. International College Surgeons. 17th Joint Congress Asia & Pacific Federations & 53rd Annual Congress Japan Section, 2007.06, Kyoto, Japan
6. Sugimoto T, Nakauchi S, Suehiro F, Otsubo E, Nakano T, Okabayashi T, Hanazaki K. Telemammography using softcopy of computed radiograpy in breast cancer screening. 6th Biennial Meeting Asian Breast Cancer Society, Symposium, 2007.09. Hong Kong, China
7. Funakoshi T, Sugimoto T, Nakano T, Okabayashi T, Hanazaki K. Efficacy and Safety of High Dose Epirubicin-Containing regimen (FEC90) Followed by Weekly Paclitaxel as a Primary Systemic Therapy for Early Breast Cancer. 6th Biennial Meeting Asian Breast Cancer Society, 2007.09, Hong Kong, China
8. Okabayashi T, Hanazaki K, Nishimori I, Sugimoto T, Maeda H, Yatabe T, Dabanaka K, Kobayashi M, Yamashita K. Glucose monitoring and control using a closed-loop system in patientsundergoing hepatic resection. 20th European Society Intensive Care Medicine, 2007.10, Berlin, Germany

9. Maeda H, Okabayashi T, Sugimoto T, Nishimori I, Kobayashi M, Yamashita K, Manabe M, Onishi S, Hanazaki K. Perioperative glycemic control by using closed-loop system, artificial pancreas, in patients undergoing hepato-biliary-pancreatic surgery. 2nd Meeting International Federation Artificial Organs, 2007.10, Osaka, Japan

10. Namikawa T, Kobayashi M, Okabayashi T, Dabanaka K, Okamoto K, Akimori T, Sugimoto T, Hanazaki K. Clinical evaluation of the jejunal pouch interopsisition reconstruction after proximal gastrectomy for the early gastric cancer. New Therapeutic Horizon of Gastroenterology in Asian-Pacific Countries, APDW 2007, 2007.10, Kobe, Japan

11. Sugimoto T, Funakoshi T, Nakano T, Okabayashi T, Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Efficacy and Safety of Low Dose Capecitabine in Treatment of Heavily Pretreated Metastatic Breast Cancer Patients with Multiple Liver Metastases. Global Breast Cancer Conference 2007, 2007.10, Seoul, Korea

12. Funakoshi T, Sugimoto T, Nakano T, Okabayashi T, Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Breast Conserving Treatment for Paget's Disease. Global Breast Cancer Conference 2007, 2007.10, Seoul, Korea

13. Kobayashi M, Namikawa T, Okamoto K, Kitagawa H, Dabanaka K, Akimori T, Okabayashi T, Sugimoto T, Sakamoto J, Hanazaki K. Modified Funada's gastropexy needle for mesh fixation in the subcutaneous layer using thread during laparoscopic incisional hernia repair. 19th International Conference society Medical Innovation Technology, 2007.11, Sendai, Japan

2008

14. Kobayashi M, Kitagawa H, NamikawaT , Okamoto K, Dabanaka K, Maeda H, Okabayashi T, Hanazaki K. Efficacy of hand-assisted laparoscopic splenectomy for portal hypertension patients with thrombocytopenia. 11th World Congress Endoscopic Surgery, Workshop, 2008. 09, Yokohama, Japan

15. Okabayashi T, Nishimori I, Yamashita K, Sugimoto T, Maeda H, Yatabe T, Kohsaki T, Kobayashi M, Ohnishi S, Hanazaki K. Continuous perioperative blood glucose monitoring and control using a closed-loop system in patients undergoing pancreatic resection. International Pancreatic Research Forum 2008, 2008.03, Tokyo, Japan

16. Sugimoto T, Sato T, Ogata H, Funakoshi T, Hanazaki K. Sentinel lymph node biopsy for breast cancer using new camera system for simultaneous capturing color and near-infrared fluorescence of indocyanine green. European Breast Cancer Conference, 2008.04, Berlin, Germany

17. Ogata H, Sugimoto T, Nakauchi S, Suehiro F, Tsubosaki E, Okamoto Y, Hamada W, Okada Y, Funakoshi T, Hanazaki K. The results of 9,439 screening telemammography using computed radiography (CR) softcopy. European Breast Cancer Conference, 2008.04, Berlin, Germany

18. Namikawa T, Kobayashi M, Kitagawa H, Maeda H, Okabayashi T, Dabanaka K, Okamoto K, Akimori T, Sugimoto T, Hanazaki K. Cotrived operation for the gastric cancer aiming at harmony between the laparoscopic surgery and functional reconstruction the gastrointestinal tract. 11th World Congress Endoscopic Surgery, 2008.09, Yokohama, Japan

19. Dabanaka K, Kobayashi M, Okamoto K, Okabayashi T, Namikawa T, Hanazaki K. Comparison of short-term outcome of laparoscopic surgery and open surgery for TNM stage4 colon cancer. 11th World Congress Endoscopic Surgery, 2008.09, Yokohama, Japan

20. Kitagawa H, Akimori T, Namikawa T, Kobayashi M, Sugimoto T, Hanazaki K. A case of one-staged laparoscopic and video-assisted thoracic surgery for esophageal cancer with synchronous rectal cancer. 11th World Congress Endoscopic Surgery, 2008.09, Yokohama, Japan

21. Maeda H,Okabayashi T, Hanazaki K. Continuous postoperative blood glucose monitoring and control by artificial pancreas in patients undergoing pancreatic resection: A prospective randomized clinical trial. 21th Annual Congress European Society Intensive Care Medicine, 2008.09, Lisbon, Portugal

2009

22. Maeda H, Nishimori I, Okabayashi T, Hiroi M, Sugimoto T, Kosaki T, Hanazaki K. Incidence and predictive risk factors of intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas with ordinary pancreatic cancer. International Pancreatic Research Forum 2009, 2009.03, Tokyo, Japan

23. Kobayashi M, Kitagawa H, Namikawa T, Okamoto K, Dabanaka K, Maeda H, Okabayashi T, Hanazaki K, Oba K. Efficacy of hand-assisted laparoscopic splenectomy for portal hypertension patients with thrombocyytopeina. SAGES 2009, 2009.04, Phoenix, USA

24. Okabayashi T, Maeda H, Hanazaki K. Prevention of surgical site infection after liver surgery using an artificial pancreas. 3rd Combined Meeting Surgical Infection Societies North America and Europe, 2009.05, Chicago, USA

25. Hosoi R, Yamashita K, Yokoyama T, Yatabe T, Hanazaki K. Accuracy and feasibility of a continuous blood glucose monitor STG-22 in critically ill patients. Euroanaesthesia 2009, 2009.06, Milano, Italy

26. Yatabe T, Yokoyama T,Yamashita K, Maeda H, Hanazaki K. Sudden increase in blood glucose after hepatic reperfusion. Euroanaesthesia 2009, 2009.06, Milano, Italy

27. Yatabe T, Yokoyama T, Kido K, Yamashita K, Yoshida K, Hanazaki K. Drastic increase in blood glucose just after the start of the reperfusion during large vessels surgery. 30th Congress Scandinavian Society Anaesthesiologists, 2009.06, Odense, Denmark

28. Namikawa T, Kobayashi M, Kitagawa H, Maeda H, Okabayashi T, Okamoto K, Dabanaka K, Sugimoto T, Hanazaki K. Efficacy of double tract reconstruction after distal gastrectomy for gastric cancer. 8th IGCC, 2009.06, Krakow, Poland

29. Funakoshi T, Sugimoto T, Hokimoto N, Ogata H, Okabayashi T, Hanazaki K. The role of telemammography using soft-copy CR in Japan. Global Breast Cancer Conference 2009, 2009.10, Seoul, Korea

30. Maeda H, Okabayashi T, Nishimori I, Kohsaki T, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K, Yamashita K. Hyperglycemia during hepatic resection with pringle maneuver: Continuous monitoring of blood glucose concentration . 22nd Annual Congress European Society Intensive Care Medicine, 2009.10, Vienna, Austria

2010

31. Okabayashi T, Maeda H, Hanazaki K. Effect of intensive insulin therapy using an artificial pancreas in hepatic resection patients. International Conference BIOCHEMISTRY MEDICAL CHEMISTRY: BIOMEDCH'10, Invited Lecture, 2010.02, Cambridge, UK

32. Sugimoto T, Sato T, Hokimoto N, Funakoshi T, Inoue M, Ogata H, Hanazaki K. Preliminary experiences of sentinel lymph node biopsy for early breast cancer by a new camera system simultaneously capturing color and near-infrared fluorescence. 7th European Breast Cancer Conference, 2010.03, Barcelona, Spain

33. Funakoshi T, Sugimoto T, Nakauchi Y, Suehiro F, M. Takechi M, Okamoto Y, Hamada W, Okada Y, Hanazaki K. The usefulness of telemammography using soft-copy computed radiography (CR) in screening program for Japan women. 7th European Breast Cancer Conference, 2010.03, Barcelona, Spain

34. Kobayashi M, Dabanaka K, Okamoto K, Namikawa T, Hanazaki K. Single incision laparoscopic colectomy for neoplasms of the colon. 12th World Congress Endoscopic Surgery, 2010.04, Maryland, USA

35. Yatabe T, Yamazaki R, Yamashita K, Hanazaki K, Yokoyama T. The evaluation of the ability of the STG-22 to decrease the variability of blood glucose concentration in ICU patients. Euroanaesthesia 2010, 2010.06, Helsinki, Finland

36. Hanazaki K. Cytokine may be an available marker in Daikenchuto (DKT) therapy for ileus. BIT's 1st Annual Tetra-Congress MolMed-2010, Symposium, 2010.11, Shanghai, China

37. Namikawa T, Kitagawa H, Okabayashi T, Dabanaka K, Okamoto K, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinicopathological characteristics of the superficial spreading type of early gastric cancer. 4th Scientific Meeting Japan-Hungary Surgical Society (JHSS2010), 2010.11, Yokohama, Japan

38. Kitagawa H, Namikawa T, Akimori T, Oki T, Tsujii S, Kobayashi M, Hanazaki K. A case of small cell type undifferentiated carcinoma of the esophagus successfully treated by chemoradiotherapy. 4th Scientific Meeting Japan-Hungary Surgical Society (JHSS2010), 2010.11, Yokohama, Japan

39. Iwabu J, Namikawa T, Kobayashi M, Kitagawa H, Oki T, Tsujii S, Okabayashi T, Hanazaki K. Primary anaplastic carcinoma of the small intestine: case management and clinical consequences. 4th Scientific Meeting Japan-Hungary Surgical Society (JHSS2010), 2010.11, Yokohama, Japan

40. Oki T, Namikawa T, Kobayashi M, Kitagawa H, Iwabu J, Tsujii S, Okabayashi T, Hanazaki K. Composite neuroendocrine carcinoma and well differentiated adenocarcinoma of the stomach. 4th Scientific Meeting Japan-Hungary Surgical Society (JHSS2010), 2010.11, Yokohama, Japan

41. Ohno E, Namikawa T, Kobayashi M, Kitagawa H, Iwabu J, Oki T, Okabayashi T, Hanazaki K. Splenic hamartoma: difficulties in clinical diagnosis and indication for hand assisted laparoscopic splenectomy. 4th Scientific Meeting Japan-Hungary Surgical Society (JHSS2010), 2010.11, Yokohama, Japan

42. Kitagawa H, Hanazaki K. Continuous postoperative blood glucose monitoring and control by artificial pancreas in patients having hepatic, pancreatic or esophageal resection. International Conference Diabetes Metabolism, Panel Discussion, 2010.12, Santa Clara, USA

2011

43. Munekage M, Hanazaki K. Continuous postoperative blood glucose monitoring and control by artificial pancreas in patients having hepatic or pancreatic resection. 4th International Conference Advanced Technologies Treatments Diabetes, 2011.02, London, UK

44. Kobayashi M, Okamoto K, Maeda H, Dabanaka K, Namikawa T, Hanazaki K. Reduced-port laparoscopic surgery for cancer of the left-sided colon. SAGES 2011, 2011.03, San Antonio, USA

45. Namikawa T, Kitagawa H, Okabayashi T, Dabanaka K, Okamoto K, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinicopathological characteristics and surgical outcome of patients with the gastric stump cancer following distal gastrectomy. 9th IGCC, 2011.04, Seoul, Korea

46. Hanazaki K. ADME of a traditional Japanese (Kampo) medicine Daikenchuto（DKT）. 2nd World Congress Bioavailability Bioequivalence, 2011.06, Las Vegas, USA

47. Hanazaki K, Yatabe T, Munekage M, Ichikawa K, Kitagawa H, Yamashita K, Yokoyama M, Okabayashi T. Relationship between perioperative glycemic control and surgical site infection. EPS Montreal International Clinical Medicine Forum 2011, 2011.06, Montreal, Canada

48. Hanazaki K. Effect of nutritional intervention with branched chain amino acids on liver surgery: Current status and future perspectives. Scientific Symposium on the Hong Kong Society of Transplantation for "Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery & Liver Transplantation Today", Invited Lecture, 2011.06, Hong Kong, China

49. Hanazaki K. Surgical treatment for chronic hepatitis B related hepatocellular carcinoma. 2nd Annual Symposia Hepatitis Virus (WCM-2011), Symposium, 2011.07, Beijing, China

50. Namikawa T, Kitagawa H, Okabayashi T, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. Double tract reconstruction after distal gastrectomy for gastric cancer is effective in reducing reflux esophagitis and remnant gastritis. International Surgical Week (ISW 2011), 2011.08, Yokohama, Japan

51. Hokimoto N, Sugimoto T, Sato T, Funakoshi T, Ogawa M, Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Preliminary experiences of sentinel lymph node biopsy for breast cancer using a new camera for simultaneous capturing of color and near-infrared fluorescence indocyanine green. International Surgical Week (ISW 2011), 2011.08, Yokohama, Japan

52. Kitagawa H, Namikawa T, Akimori T, Iwabu J, Kobayashi M, Hanazaki K. Efficacy of laparoscopic gastric mobilization for esophagectomy: comparison with open thoracoabdominal approach. International Surgical Week (ISW 2011), 2011.08, Yokohama, Japan

53. Namikawa T, Iwabu J, KitagawaH, Okabayashi T, Kobayshi M, Hanazaki K. Significance of the mucin phenotype expression in the gastric cancer. 8th International Symposium Minimal Residual Cancer, 2011.09, Osaka, Japan

54. Namikawa T, Iwabu J, Kitagawa H, Kobayshi M, Hanazaki K. Clinicopathologic characteristics of early gastric cancer with duodenal invasion. Asian Pacific Digestive Week (APDW) 2011, 2011.01, Singapore, Singapore

55. Hanazaki K. Hyperglycemia during hepatic ischemia-reperfusion period in patients undergoing hepatic resection: continuous monitoring blood glucose concentration using an artificial endocrine pancreas. 8th Asian Congress Microcirculation (ACM-2011), Symposium, 2011.01, Bangkok, Thailand

56. Okabayashi T, Ichikawa K, Hanazaki K. Perioperative tight glycemic control using artificial pancreas. 1st Annual Symposium Drug Delivery Systems, Symposium, 2011.11, Shenzhen, China

57. Okabayashi T, Ichikawa K, Okamoto K, Dabanaka K, Namikawa T, Sugimoto T, Kobayshi M, Hanazaki K. Effect of perioperative intensive insulin therapy for liver dysfunction after hepatic resection. 21st World Congress International Association Surgeons Gastroenterologists Oncologists, Symposium, 2011.11, Tokyo, Japan

58. Ichikawa K, Okabayashi T, Okamoto K, Dabanaka K, Namikawa T, Sugimoto T, Kobayshi M, Hanazaki K. High-mobility group box 1 are decreased in patients undergoing liver surgery for sivelestat sodium hydrate. 21st World Congress International Association Surgeons Gastroenterologists Oncologists, Symposium, 2011.11, Tokyo, Japan

59. Hanazaki K, Okabayashi T, Namikawa T, Sugimoto T, Ichikawa K, Kitagawa H, Munekage M, Kobayshi M. Current nutritional support for ERAS. 21st World Congress International Association Surgeons Gastroenterologists Oncologists, 2011.11, Tokyo, Japan

60. Namikawa T, Iwabu J, Kitagawa H, Okabayashi T, Dabanaka K, Okamoto K, Kobayshi M, Hanazaki K. Short- and long-term results of jejunal pouch reconstruction after total gastrectomy for gastric cancer. 21st World Congress International Association Surgeons Gastroenterologists Oncologists, 2011.11, Tokyo, Japan

61. Namikawa T, Oki T, Iwabu J, Kitagawa H, Okabayashi T, Kobayshi M, Hanazaki K. Clinical significance of plasma diamine oxidase activity during chemotherapy using oral fluorouracil anti-cancer drugs for patients with gastric cancer. 21st World Congress International Association Surgeons Gastroenterologists Oncologists, 2011.11, Tokyo, Japan

62. Kitagawa H, Iwabu J, Namikawa T, Hanazaki K. Perioperative continuous blood glucose control by using STG-22TM on patients undergoing esophagectomy. 21st World Congress International Association Surgeons Gastroenterologists Oncologists, 2011.11, Tokyo, Japan

63. Iwabu J, Kitagawa H, Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. The efficacy of neo-adjuvant chemotherapy using 5-FU+cisplatin+docetaxel for advanced esophageal cancer. 21st World Congress International Association Surgeons Gastroenterologists Oncologists, 2011.11, Tokyo, Japan

64. Oki T, Namikawa T, Kitagawa H, Iwabu J, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K. Primary gastric neuroendocrine carcinoma combined with well differentiated adenocarcinoma. 21st World Congress International Association Surgeons Gastroenterologists Oncologists, 2011.11, Tokyo, Japan

65. Fukudome I, Dabanaka K, Oki T, Okamoto K, Kobayshi M, Hanazaki K. A case of single-incision laparoscopic surgery for diverticulum of ascending colon. 21st World Congress International Association Surgeons Gastroenterologists Oncologists, 2011.11, Tokyo, Japan

2012

66. Hanazaki K, Munekage M, Ichikawa K, Kitagawa H, Tsukamoto Y, Okabayashi T. Intensive insulin therapy using an artificial pancreas with closed-loop system: No hypoglycemia and improvement of surgical site infection. 5th International Conference Advanced Technologies Treatments Diabetes, 2012.02, Barcelona, Spain

67. Tsukamoto Y, Okabayashi T, Kitagawa H, Munekage M, Munekage E, Yatabe T, Yamashita K, Kinoshita Y, Tarumi M, Mishina S, Hirano H, Koshizuka M, Hanazaki K. In-vivo experiments for novel closed-loop glycemic control system with continuous blood glucose monitoring and automatic insulin and glucose infusion. 5th International Conference Advanced Technologies Treatments Diabetes, 2012.02, Barcelona, Spain

68. Mibu K, Yatabe T, Tsukamoto Y, Okabayashi T, Hanazaki K. Blood glucose control using an artificial pancreas reduces the workload of ICU nurses. 5th International Conference Advanced Technologies Treatments Diabetes, 2012.02, Barcelona, Spain

69. Kobayashi M, Sato T, Sugimoto T, Okamoto K, Dabanaka K, Namikawa T, Okabayashi T, Hanazaki K. Development of the hypereye medical system for endoscopic surgery. SAGES2012, 2012.03, San Diego, USA

70. Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Kobayashi M, Hanazaki K. Efficacy of laparoscopic gastric mobilization for esophagectomy: comparison with open thoraco-abdominal approach. SAGES2012, 2012.03, San Diego, USA

71. Iwabu J, Kitagawa H, Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K. Hiatal hernia after the esophagectomy repaired by laparoscopic surgery. SAGES2012, 2012.03, San Diego, USA

72. Sugimoto T, Nakauchi Y, Suehiro F, Okada Y, Funakoshi T, Hokimoto N, Ogawa M, Hanazaki K. Usefulness of Telemammography Using Soft-copy CR (computed Radiography) in Mammographic Screening in Japan. 8th European Breast Cancer Conference, 2012.03, Vienna, Austria

73. Sakamoto K, Kosai K-i, Cin Khai N, Wang Y, Maezono R, Matsufuji H. HB-EGF and HGF inhibit bile duct ligated cholestatic liver injury in mice by different actions. 59th Congress British Association Paediatric Surgeons, 2012.06, Rome, Itary

74. Takezaki Y, Okabayashi T, Munekage M, Ichikawa K, Hanazaki K. Nafamostat mesilate, an inhibitor of nuclear factor-kappa B, limits oncogenic properties of pancreas carcinoma cells. International Symposium Pancreas Cancer 2012 Kyoto, 2012.10, Kyoto, Japan

75. Kobayashi M, Sato T, Sugimoto T, Okamoto K, Dabanaka K, Namikawa T, Okabayashi T, Hanazaki K. Development and application of hypereye medical system for endoscopic surgery. 5th Scientific Meeting Japan-Hungary Surgical Society (JHSS2012), 2012.10, Budapest, Hungary

76. Sugimoto T, Sato T, Ozaki S, Funakoshi T, Inoue M, Hanazaki K. Sentinel node biopsy using “Hyper Eye Medical System (HEMS)” a color near-infrared camera in patients with brest cancer. 5th Scientific Meeting Japan-Hungary Surgical Society (JHSS2012), 2012.10, Budapest, Hungary

77. Hanazaki K, Munekage M, Yatabe T, Ichikawa K, Kitagawa H, Tsukamoto Y, Kinoshita Y, Namikawa T, Takezaki Y, Okabayashi T. Perioperative intensive insulin therapy using an artificial pancreas with closed-loop system in hepatectomized patients. 12th Annual Diabetes Technology Meeting, 2012.11, Bethesda, USA

78. Tsukamoto Y, Kitagawa H, Munekage M, Munekage E, Okabayashi T, Yatabe T, Yamashita K, Kinoshita Y, Asano T, Hanazaki K. Evaluation of a novel artificial pancreas: closed-loop glycemic control system with continuous blood glucose monitoring. 12th Annual Diabetes Technology Meeting, 2012.11, Bethesda, USA

79. Namikawa T, Munekage E, Kitagawa H, Okabayashi T, Tsuji K, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinical characteristics and therapeutic outcome of metastatic gastric tumors arising from renal cell carcinoma. Asian Pacific Digestive Week (APDW) 2012, 2012.12, Bangkok, Thailand

80. Namikawa T, Shiga M, Munekage E, Kitagawa H, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinicopathological and immunohistochemical features of the gastric neuroendocrine carcinoma. Asian Pacific Digestive Week (APDW) 2012, 2012.12, Bangkok, Thailand

81. Namikawa T, Munekage E, Kitagawa H, Okabayashi T, Tsuji K, Kobayashi M, Hanazaki K. FDG-PET/CT has the potential to be able to reliably identify cancer cell populations that correlate with poorer prognosis of the patients with gastric cancer. 22nd World Congress International Association Surgeons Gastroenterologists Oncologists（IASGO 2012）, 2012.12, Bangkok, Thailand

2013

82. Hanazaki K, Kitagawa H, Yatabe T, Munekage M, Ichikawa K, Takezaki Y, Tsukamoto Y, Asano T, Kinoshita Y. Perioperative intensive insulin therapy using an artificial endocrine pancreas with closed-loop glycemic control system: the impact of no hypoglycemia. 6th International Conference Advanced Technologies Treatments Diabetes（ATTD 2013）, 2013.02, Paris, France

83. Mibu K, Kitagawa H, Munekage M, Yatabe T, Yamasaki F, Hanazaki K. Effectiveness of a novel artificial pancreas STG-55 on the workload of nurses. 6th International Conference Advanced Technologies Treatments Diabetes（ATTD 2013）, 2013.02, Paris, France

84. Tsukamoto Y, Hanazaki K, Kitagawa H, Munekage M, Munekage E, Takezaki Y, Yatabe T, Yamashita K, Kinoshita Y, Asano T, Murakami M, Mishina S, Hirano K, Koshizuka M. Evaluation of a novel artificial pancreas for perioperative glycemic control and diagnosis of diabetes mellitus. 6th International Conference Advanced Technologies Treatments Diabetes（ATTD 2013）, 2013.02, Paris, France

85. Hanazaki K. Intensive insulin therapy using an artificial pancreas with closed-loop system. 13th Annual Rachmiel Levine Diabetes and Obesity Symposium, Symposium, 2013.03, Pasadena, USA

86. Kobayashi M, Sato T, Sugimoto T, Okamoto K, Nakamura D, Dabanaka K, Namikawa T, Hanazaki K. Application of the Hyper Eye Medical System for endoscopic low anterior resection. SAGES 2013, 2013.04, Baltimore, USA

87. Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Akimori T, Kobayashi M, Hanazaki K. Introduction of thoracoscopic esophagectomy in prone position. SAGES 2013, 2013.04, Baltimore, USA

88. Namikawa T, Munekage E, Shiga M, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Early neuroendocrine carcinoma of the stomach presenting with hematemesis. IGCC 2013, 2013.06, Verona, Italy

89. Namikawa T, Munekage E, Shiga M, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Double tract reconstruction facilitates endoscopic access for pancreatobiliary disorders in patients after gastrectomy for gastric cancer. IGCC 2013, 2013.06, Verona, Italy

90. Hanazaki K, Namikawa T. Development of perioperative glycemic control using an artificial endocrine pancreas. 35th Annual International Conference IEEE EMBS, Invited Session, 2013.07, Osaka, Japan

91. Hanazaki K. Current ADME studies on traditional Japanese herbal medicine "Kampo Medicine". International Surgical Week（ISW 2013）, Lancheon seminar, 2013.08, Helsinki, Finland

92. Namikawa T, Munekage E, Shiga M, Kitagawa H, Yamatsuji T, Naomoto Y, Kobayashi M, Hanazaki K. Randomized clinical trial comparing preemptive treatment of fungal infection based on plasma β-D-glucan levels after surgery for gastric cancer in elderly patients. International Surgical Week（ISW 2013）, 2013.08, Helsinki, Finland

93. Namikawa T, Munekage E, Shiga M, Kitagawa H, Dabanaka K, Okamoto K, Kobayashi M, Hanazaki K. Asymptomatic spontaneous isolated dissection of superior mesenteric artery. International Surgical Week（ISW 2013）, 2013.08, Helsinki, Finland

94. Namikawa T, Shiga M, Uemura S, Maeda H, Kitagawa H, Fukuhara H, Inoue K, Kobayashi M, Shuin T, Hanazaki K. Feasibility study of photodynamic diagnosis using 5-aminolaevulinic acid for gastric cancer. 1st International Conference Federation Asian Clinical Oncology（FACO）, 2013.09, XiaMen, China

95. Hanazaki K. Current perioperative glycemic control using an artificial pancreas for ERAS. 5th Congress International Federation Artificial Organs, Symposium, 2013.09, Yokohama, Japan

96. Hanazaki K. Perioperative intensive insulin therapy using an artificial endocrine pancreas with closed-loop glycemic control system. 5th Congress International Federation Artificial Organs, Lancheon seminar, 2013.09, Yokohama, Japan

97. Asano T, Y. Kinoshita Y, Mibu K, Kitagawa H, Munekage M, Yatabe T, Yamazaki F, Hanazaki K. Effectiveness of an artificial pancreas with closed-loop system to achieve tight glycemic control. 25th International Conference Society Medical Innovation Technology, 2nd Poster Prize, 2013.09, Baden-Baden, Germany

98. Namikawa T, Inoue K, Shuin T, Hanazaki K, Sugiura T. Photodynamic diagnosis during gastrectomy for gastric cancer. 1st International ALA and Porphyrin Symposium, 2013.10, Muharraq, Bahrain

99. Hanazaki K, Munekage M, Kitagawa H, Tsukamoto Y, Yatabe T, Namikawa T. Perioperative glycemic control using an artificial endocrine pancreas in patients undergoing total pancreatectomy. 13th Annual Diabetes Technology Meeting, 2013.10, San Francisco, USA

2014

100. Sugimoto T, Funakoshi T, Ozaki S, Ogawa M, Nakauchi Y, Suehiro F, Motoki T, Okamoto Y, Sozaki M, Hanazaki K. Is the interpretations using CR（computed radiography）soft copy in mammographc screening reliable?. 9th European Breast Cancer Conference, 2014.03, Glasgow, Scotland

101. Kobayashi M, Okamoto K, Maeda H, Kitagawa, H, Namikawa T, Dabanaka K, Nakamura D, Oba K, Hanazaki K. Hand-assistedc laparoscopic splenectomy for malgnant lymphoma of the spleen. SAGES 2014, 2014.04, Salt Lake City, USA

102. Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Akimori T, Kobayashi M, Hanazaki K. Short term outcomes of thoracoscopic esophagectomy in prone position for esophageal cancer. SAGES 2014, 2014.04, Salt Lake City, USA

103. Mimura T, Fukudome I, Ikeda M, Wada M, Hanazaki K. Manometry is not reliable in diagnosing dyssynergic defecation. DDW 2014, 2014.05, Chicago, USA

104. Kobayashi M, Okamoto K, Maeda H, Dabanaka K, Namikawa T, Hanazaki K. Single port and reduced port surgery for colonic neoplasms. 11th international conference Asian Clinical Oncology Society, 2014.05, Taipei, Taiwan

105. Namikawa T, Fukuhara H, Inoue K, Shuin T, Hanazaki K. Intraoperative dynamic imaging assisted surgery using photodynamic diagnosis and indocyanine green fluorescence. 2nd International ALA and Porphyrin Symposium, 2014.11, Tokyo, Japan

2015

106. Hanazaki K, Munekage M, Yatabe T, Kitagawa H, Kinoshita Y, Asano T, Namikawa T. Comparison between a novel and conventional artificial pancreas for perioperative glycemic control using a closed-loop system. 8th International Conference Advanced Technologies Treatments Diabetes (ATTD 2015), 2015.02, Paris, France

107. Munekage M, Yatabe T, Takezaki Y, Kinoshita Y, Sukamoto T, Kitagawa H, Namikawa T, Hanazaki K. Influence of glucose variability caused by an artificial pancreas on inflammatory cytokines in beagles. 8th International Conference Advanced Technologies Treatments Diabetes (ATTD 2015), 2015.02, Paris, France

108. Kobayashi M, Okamoto K, Maeda H, Kitagawa H, Namikawa T, Dabanaka K, Hanazaki K, Nakamura D, Oba K. Efficacy of hand-assisted Laparoscopic splenectomy for portal hypertension patients with thrombocytopenia. SAGES 2015, 2015.04, Nashville, USA

109. Hanazaki K. Development of perioperative glycemic control using an artificial pancreas with closed-loop glycemic control system. American Society Artificial Internal Organs（ASAIO）61st Annual Conference, invite, 2015.06, Chicago, USA

110. Namikawa T, Fukudome I, Ogawa M, Munekage E, Munekage M, Shiga M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinical efficacy of protein-bound polysaccharide K in patients with gastric cancer undergoing chemotherapy with oral fluorouracil anti-cancer drugs. 11th IGCC, 2015.06, Sao Paulo, Brazil

111. Kitagawa H, Namikawa T, Munekage E, Munekage M, Shiga M, Maeda H, Kobayashi M, Hanazaki K. Metachronous liver and bone metastasis from small early gastric carcinoma without lymph node involvement. 11th IGCC, 2015.06, Sao Paulo, Brazil

112. Maeda H, Namikawa T, Munekage E, Munekage M, Shiga M, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Efficacy of trastuzumab containing regimen in patients with unresectable advanced or recurrent gastric cancer. 11th IGCC, 2015.06, Sao Paulo, Brazil

113. Fukudome I, Namikawa T, Munekage E, Munekage M, Shiga M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. A long survival case of gastric cancer with solitary metachronous adrenal metastasis treated by resection and chemotherapy. 11th IGCC, 2015.06, Sao Paulo, Brazil

114. Munekage E, Namikawa T, Munekage M, Shiga M, Maeda H, Kitagawa H, Mizuta H, Kobayashi M, Hanazaki K. Synchronous lipoma and adenocarcinoma in the stomach. 11th IGCC, 2015.06, Sao Paulo, Brazil

115. Hanazaki K. Perioperative tight glycemic control using an artificial endocrine pancreas with closed-loop system. ICS（Intensive care society）State of the Art 2015, Lunchtime Symposium, 2015.12, London, UK

2016

116. Munekage M, Yatabe T, Kitagawa H, Munekage E, Fujisawa K, Namikawa T, Hanazaki K. Comparison of subcutaneous and intravenous continuous glucose monitoring accuracy in an operating room and an intensive care unit. 9th International Conference Advanced Technologies Treatments Diabetes（ATTD 2016）, 2016.02, Milano, Italy

117. Kobayashi M, Sato T, Maeda H, Okamoto K, Sugimoto T, Dabanaka K, Namikawa T, Hanazaki K. Prediction of anastomotic failure due to poor blood circulation by the hypereye medical system. SAGES 2016, 2016.03, Boston, USA

118. Sugimoto T, Okamoto Y, Irimajiri R, Nakauchi Y, Suehiro F, Nakanishi K, Motoki T, Ogawa M, Oki T, Dabanaka K, Hanazaki K. The usefulness of Flat Panel Detector（FPD）mammography in tele-mammographic screening compared with Computed Radiography（CR）soft-copy interpretation. 10th European Breast Cancer Conference, 2016.03, Amsterdam, The Netherlands

119. Kohsaki T, Oe K, Kigi A, Saibara T, Munekage M, Hanazaki K. A case of osteoclast-like giant cell tumor of the pancreas without epithelial differentiation. 20th Meeting International Association Pancreatology, 2016.08, Sendai, Japan

120. Kitagawa H, Namikawa T, Munekage M, Hanazaki K. Visualization of the stomach's arterial networks during esophageal surgery using the hypereye medical system. 15th World Congress International Society Diseases Esophagus（ISDE 2016）, 2016.09, Singapore, Singapore

121. Hanazaki K, Munekage M, Kitagawa H, Yatabe T, Asano T, Kinoshita Y, Namikawa T. Bed side artificial pancreas with closed-loop system and surgical diabetes treatment. XLIII Annual Congress European Society Artificial Organs（ESAO 2016）, 2016.09, Warsaw, Poland

122. Hanazaki K, Munekage M, Yatabe T, Kitagawa H, Namikawa T. Relationship between surgical stress induced hyperglycemia and septic complications: What is optimal perioperative glycemic control?. 8th Congress International Federation Shock Societies, Invited Symposium, 2016.10, Tokyo, Japan

123. Namikawa T, Kawanishi Y, Fujieda Y, Fujisawa K, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Consequences of a trastuzumab-containing treatment for patients with unresectable advanced gastric cancer. 40th World Congress International College Surgeons（ICS2016）, 2016.10, Kyoto, Japan

124. Kitagawa H, Namikawa T, Munekage M, Fujisawa K, Munekage E, Kawanishi Y, Kobayashi M, Hanazaki K. Analysis of factors associated with weight loss after esophagectomy for esophageal cancer. 40th World Congress International College Surgeons (ICS2016), 2016.10, Kyoto, Japan

125. Fujisawa K, Namikawa T, Kawanishi Y, Fujieda Y, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Gastric cancer with distant subcutaneous metastasis. 40th World Congress International College Surgeons (ICS2016), 2016.10, Kyoto, Japan

126. Kawanishi Y, Namikawa T, Fujisawa K, Fujieda Y, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Neurofibroma of the gallbladder accompanied with cholecystolithiasis. 40th World Congress International College Surgeons（ICS2016）, 2016.10, Kyoto, Japan

127. Namikawa T, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Yatabe T, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Neutrophil to lymphocyte ratio is an independent prognostic factor for patients with unresectable and recurrent advanced gastric cancer. Asia Pacific Digestive Week（APDW2016）, 2016.11, Kobe, Japan

128. Kitagawa H, Namikawa T, Munekage M, Fujisawa K, Kawanishi Y, Munekage E, Kobayashi M, Hanazaki K. Outcomes of thoracoscopic esophagectomy in prone position with laparoscopic gastric mobilization for esophageal cancer. Asia Pacific Digestive Week（APDW2016）, 2016.11, Kobe, Japan

129. Munekage M, Namikawa T, Kawanishi Y, Fujisawa K, Munekage E, Maeda H, Kohsaki T, Uemura S, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Mucinous cystadenocarcinoma of the pancreas with anaplastic carcinoma in a Jehovah's Witness patient. Asia Pacific Digestive Week（APDW2016）, 2016.11, Kobe, Japan

130. Munekage E, Namikawa T, Kawanishi Y, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Sakamoto K, Obatake M, Kobayashi M, Hanazaki K. Synchronous large gastrointestinal stromal tumor and adenocarcinoma in the stomach treated with imatinib mesylate followed by total gastrectomy. Asia Pacific Digestive Week（APDW2016）, 2016.11, Kobe, Japan

131. Fujisawa K, Namikawa T, Munekage E, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K. Lafutidine prevents gastrointestinal toxicities during adjuvant chemotherapy for gastric cancer. Asia Pacific Digestive Week（APDW2016）, 2016.11, Kobe, Japan

132. Namikawa T, Fukuhara H, Inoue K, Kurabayashi A, Kobayashi M, Hanazaki K. Clinical usefulness of photodynamic diagnosis using 5-aminolevulinic acid mediated fluorescence for gastric cancer. 4th International ALA Porphyrin Symposium, 2016.12, Nagasaki, Japan

2017

133. Kobayashi M, Namikawa T, Maeda H, Okamoto K, Hanazaki K. Reduced port cholecystectomy for a 21 week pregnant patient with a history of laparoscopy-assisted distal gastrectomy. SAGES 2017, 2017.03, Houston, USA

2018

134. Uemura S, Tsuda S, Fujisawa K, Iwabu J, Kitagawa H, Namikawa T, Yamamoto S, Nozaki Y, Kosaki T, Iwasaki S, Saibara T, Hanazaki K. A case of advanced hepatocellular carcinoma with gallbladder invasion after radiotherapy for Vp 3. The Asian Pacific Association for the Study of the Liver Single Topic Coference 2018 on HCC, 2018.05, Yokohama, Japan

135. Sakamoto K, Obatake M, Fujieda Y, Hanazaki K. Effect of olanexidine gluconate on preoperative skin preparation in pediatric surgery: A prospective study comparing chlorhexidine gluconate. Effect of olanexidine gluconate on preoperative skin preparation in pediatric surgery: A prospective study comparing chlorhexidine gluconate, 51st Annual Scientific Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons, 2018.05, Sapporo, Japan

136. Matsuhmoto T, Shimobori C, Sakurai N, Kitagawa H, Munekage M, Fujisawa K, Kawanishi Y, Namikawa T, Kushida H, Nishi A, Arita M, Hanazaki K, Yamamoto M. Comprehensive,plasma-metabolome analysis of Japanese Kanpo medicine“maoto”in healthy human subjects. 14th Annual Conference of the Metabolomics Society, 2018.06, Seattle, USA

137. Hanazaki K, Uemura S, Munekage M, Fujisawa K, Tsuda S, Kitagawa H, Namikawa T. Development of Perioperative Glycemic Control Using an Artificial Pancreas and Surgical Diabetes Treatment. The 55th Annual Meeting of the Japanese Society for Surgical Metabolism and Nutrition, 2018.07, Osaka, Japan

138. Hanazaki K, Munekage M, Iwabu J, Uemura S, Kitagawa H, Namikawa T. Research on absorpt ion,distribution,metabolism and excretion（ADME）of the traditional Japanese herbal medicine（Kampo）and its beneficial role in the enhanced recovery arter surgery（ERAS）. Ⅷ FRENCH JAPANESE INTERNATIONAL BIOETHICS CONFERENCE, 2018.08, Matuyama, Japan

139. Kitagawa H, Iwabu J, Namikawa T, Hanazaki K. Assessment of the Blood Supply Using the Indocyanine Green Fluorescence Method and Postoperative Endoscopic Evaluation of Anastomosis during Esophagectomy. 16th World Congress for the International Society for Diseases of the Esophagus（ISDE 2018）, 2018.09, Vienna, Austria

140. Iwabu J, Kitagawa H, Namikawa T, and Hanazaki K. Preoperative patient-related factors associated with prognosis after esophagectomy for esophageal cancer. 16th World Congress for the International Society for Diseases of the Esophagus (ISDE 2018), 2018.09, Vinnea, Austria

141. Nakayama T, Otsuka S, Hanazaki K, Inoue K, Shuin T, Nakayama M, Tanaka T, Ogura S. Dormant Cancer Cells Accumulate High Photoporphyrin IX Levels And Are Sensitive To 5-aminolevulinic Acid-based Photodynamic Therapy Pilot study to detect circulating tumor cells in human peripheral blood using 5-aminolevulinic acid. 6th International ALA and Porphyrin Symposium(IAPS6), 2018.10, Fukuroi, Japan

142. Hirose L, Lohara H, Miura Y, Hijikata Y, Soda Y, Mitamoto S, Liao J, Takahashi S, Shinozaki M, Ota Y, Watanabe E, Tanaka T, Nakajima M, Kiniwa S, Okuyama R, Fukuhara H, Inoue K, Namikawa T, Hanazaki K, Tani K. Pilot studdy to detect circulating tumor cells in human peripheral blood using 5-aminolevulinic acid. 6th International ALA and Porphyrin Symposium（IAPS6）, 2018.10, Fukuroi, Japan

143. Yamamoto M, Ninomiya H, Tashiro M, Hirose N, Sato T, Orihashi K, Hanazaki K. The Native Coronary Arterial Blood Flow affects the Coronary Arterial Bypass Graft Evaluated by Near-Infrared Fluorescence Angiography?. American college of surgeon the 2018 clinical congress, 2018.10, Boston, USA

144. Yamamoto M, Kondo N, Yamaguchi T, Orihashi K, Hanazaki K. Delayed Production of Reactive Nitrogen Species induces Lung Congestion after Myocardial Ischemia Reperfusion. American college of surgeon the 2018 clinical congress, 2018.10, Boston, USA

145. Yamamoto M, Kondo N, Yamaguchi T, Orihashi K, Hanazaki K. Oxidative Stress evoked by Coronary Artery Bypass Grafting elucidated by Urinary Biopyrrin. American college of surgeon the 2018 clinical congress, 2018.10, Boston, USA

146. M Obatake, Fujieda Y, Sakamoto K, Hanazaki K. A case of a gastric duplication mimicking a retroperitoneal cyst. 25th Congress of the Asian Association of Pediatric Surgeons（AAPS）, 2018.11, Dubai, UAE

147. Yoshida T, Taura Y, Nagayasu T, Obatake M. Endoscopic Trans-Anal Endorectal Pull-Through in Hirschsprung's Disease; A Novel Procedure. 25th Congress of the Asian Association of Pediatric Surgeons（AAPS）, 2018.11, Dubai, UAE

2019

148. Obatake M, Hanazaki K, Hoshino E. Proof Field Study for Early Detection of Biliary Atresia and Liver Bile Congestion Diseases Using New Stool Color Discrimination System. Pacific association of pediatric surgeons 2019, 2019.03, Christchurch, NewZealand

149. Yokota K, Serada S, Tsujii S, Hiramatsu K, Namikawa T, Murakami I, Hanazaki K, Naka T. Antibody-drug conjugate targeting glypican-1 shows tumor growth inhibition in cholangiocarcinoma. American Association for Cancer Research Annual Meeting 2019, 2019.03, Atlanta, Georgia, USA

150. Obatake M, Nanazaki K, Hoshino E. Feasibility of biliary atresia screening using new AI technology-applied stool color discremination system. European association of pediatric surgeons 2019, 2019.06, Belgrade, Serbia

151. Hanazaki K. Perioperative tight glycemic control using an artificial endocrine pancreas with closed loop system. XLVI ESAO Congress Hannover, 2019.09, Hannover, Garmany

152. Ohbuchi K, Sakurai N, Kitagawa H, Matsumoto T, Niishi A, Shimobori C, Kushida H, Yamamoto M, Arita M, Hanazaki K. Comprehensive metabolite proling of traditional herbal medicine in human plasma:from metabolites to phenotypes. ICSB2019, 2019.11, Okinawa, Japan

［国内学会］

2006

1. 杉本健樹 , 中内優 , 末廣史恵 , 濱田和香 , 武市昌士 , 岡本裕美子 , 坪崎英治 , 船越拓 , 島津佐吉子 , 花﨑和弘 . デジタルマンモグラフィのソフトコピーによる遠隔モニター診断 . 第 16 回日本乳癌検診学会総会 , ワークショップ , 2006.11, 仙台

2. 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた血糖管理法：最新の知見 . 第 44 回日本人工臓器学会大会 , ランチョンセミナー , 2006.11, 横浜

3. 杉本健樹 , 並川努 , 岡林雄大 , 甫喜本憲弘 , 中谷肇 , 辻井茂宏 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 進行期乳癌の化学療法における薬剤選択順位と休薬について . 第 68 回日本臨床外科学会総会 , ワークショップ , 2006.11, 広島

2007

4. 花﨑和弘 . 安全な肝切除術を行うための周術期管理の工夫高齢者の栄養管理と人工膵を用いた血糖管理を中心に . 第 107 回日本外科学会定期学術集会 , ランチョンセミナー , 2007.04, 大阪

5. 岡林雄大 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 膵頭十二指腸切除術後早期経腸栄養管理の有用性 . 第 107 回日本外科学会定期学術集会 , ワークショップ , 2007.04, 大阪

6. 花﨑和弘 , 岡林雄大 , 西森功 , 大西三朗 . MEN－Ⅰ型膵内分泌腫瘍に対する外科治療の現状と問題点 . 第 13 回日本家族性腫瘍学会学術集会 , シンポジウム , 2007. 06, 高知

7. 杉本健樹 , 並川努 , 岡林雄大 , 島津佐吉子 , 船越拓 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 乳癌の多発性肝癌転移に対する Capecitabine の安全性と有効性 . 第 15 回日本乳癌学会学術総会 , パネルディスカッション , 2007.06, 横浜

8. 並川努 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 消化管機能からみたＵ領域早期胃癌に対する噴門側胃切除後空腸嚢間置再建術の評価 . 第 49 回日本消化器病学会大会（JDDW2007）, パネルディスカッション , 2007.10, 神戸

9. 小林道也, 並川努, 岡本健, 前田広道, 岡林雄大, 駄場中研, 秋森豊一, 北川博之, 杉本健樹, 花﨑和弘 . HALS による腹腔鏡補助下脾臓摘出術の困難症例 . 第 20 回日本内視鏡外科学会学術集会 , ビデオワークショップ , 2007.11, 仙台

10. 杉本健樹 , 船越拓 , 中野琢巳 , 花﨑和弘 , 久保嘉彦 , 中内優 , 末廣史恵 , 坪崎英治 , 尾崎信三 , 松浦喜美夫 , 久直史 . マンモグラフィ遠隔診断を中心とした乳房診断ネットワーク構想 . 第 69 回日本臨床外科学会総会 , 特別企画 , 2007.11, 横浜

11. 岡林雄大, 前田広道, 杉本健樹, 小林道也, 並川努, 花﨑和弘.「Surgical Site Infection（SSI）をいかに防ぐか？」肝臓切除術後 SSI 発生の制御対策（人工膵臓は SSI 発生を制御できるか）. 第 69 回日本臨床外科学会総会 , シンポジウム , 2007.11, 横浜

12. 秋森豊一, 北川博之, 前田広道, 岡林雄大, 岡本健, 並川努, 杉本健樹, 小林道也, 花﨑和弘. 胸部食道癌の根治術に対する open 手術と鏡視下手術の癒合 . 第 69 回日本臨床外科学会総会 , ビデオシンポジウム , 2007.11, 横浜

2008

13. 岡林雄大 , 前田広道 , 杉本健樹 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 膵縮小手術における術式の工夫と術後合併症対策膵液瘻対策を重視した膵縮小手術手技と周術期管理の工夫 . 第 108 回日本外科学会定期学術集会 , ビデオシンポジウム , 2008.05, 長﨑

14. 花﨑和弘 . 肝切除における栄養管理および血糖管理の工夫 . 第 26 回肝移植研究会 , ランチョンセミナー , 2008.06, 横浜

15. 岡林雄大 , 西森功 , 前田広道 , 耕崎拓大 , 大西三朗 , 花﨑和弘 . 膵切除後の膵性糖尿病に対する人工膵臓を用いた血糖管理法の有用性：前向き比較試験 . 第 39 回日本膵臓学会大会 , ワークショップ , 2008.07, 横浜

16. 北川博之 , 秋森豊一 , 岡林雄大 , 並川努 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 食道癌に対する鏡視下低侵襲手術の標準化を目指して . 第 63 回日本消化器外科学会定期学術総会 , ビデオシンポジウム , 2008.07, 札幌

17. 前田広道 , 岡林雄大 , 並川努 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 膵切除後の膵性糖尿病に対する人工膵臓を用いた新しい周術期血糖管理対策 . 第 63 回日本消化器外科学会定期学術総会 , パネルディスカッション , 2008.07, 札幌

18. 小林道也 , 岡本健 , 駄場中研 , 並川努 , 花﨑和弘 . 血管新生因子と大腸癌治療−分子標的治療の現状を含めて− . 第 40 回日本臨床分子形態学会学術集会 , シンポジウム , 2008.10, 福岡

19. 岡林雄大 , 前田広道 , 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた新しい血糖管理法は肝切除に伴う SSI 発生頻度を抑制するのか？第 21 回日本外科感染症学会総会学術集会 , シンポジウム , 2008.11, 札幌

20. 並川努 , 小林道也 , 北川博之 , 上村直 , 前田広道 , 岡林雄大 , 駄場中研 , 岡本健 , 杉本健樹 , 花﨑和弘 . 胃癌に対する幽門側胃切除術後十二指腸通過再建の必要性 . 第 38 回胃外科・術後障害研究会 , 主題 , 2008.11, 東京

21. 甫喜本憲弘 , 杉本健樹 , 船越拓 , 緒方宏美 , 前田広道 , 北川博之 , 岡林雄大 , 駄場中研 , 岡本健 , 並川努 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 甲状腺未分化癌に対する集学的治療の検討 . 第 70 回日本臨床外科学会総会 , ワークショップ , 2008.11, 東京

22. 前田広道 , 岡林雄大 , 並川努 , 杉本健樹 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 手術指導にパーツ式教育を用いた若手外科医育成法 . 第 70 回日本臨床外科学会総会 , ワークショップ , 2008.11, 東京

23. 味村俊樹 , 駄場中研 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 直腸脱に対する Delorme 法の治療成績 . 第 70 回日本臨床外科学会総会 , ビデオワークショップ , 2008.11, 東京

24. 岡林雄大、前田広道、花﨑和弘 . 膵液瘻の予防と対策：シャープフック型ハーモニックスカルペルを使用した膵切離法 . 第 20 回日本肝胆膵外科学会学術集会、ミニシンポジウム、2008.05, 山形

25. 花﨑和弘 . 肝切除における栄養管理および血糖管理の工夫 . 第 26 回肝移植研究会、ランチョンセミナー、2008.06, 横浜

26. 前田広道、岡林雄大、並川努、小林道也、花﨑和弘 . 膵切除後の膵性糖尿病に対する人工膵臓を用いた新しい周術期血糖管理対策 . 第 63 回日本消化器外科学会定期学術総会、パネルディスカッション、2008.07, 札幌

27. 花﨑和弘、岡林雄大、前田広道、西森功、矢田部智昭、山下幸一 . 人工膵を用いた intensive insulin therapy の有効性と限界 . 第 46 回日本人工臓器学会大会、ワークショップ、2008.11, 東京

28. 花﨑和弘、杉本健樹、並川努、岡林雄大、岡本健、駄場中研、小林道也 . 地方大学における外科入局者確保のための新たな取り組み . 第 70 回日本臨床外科学会総会、シンポジウム、2008.11, 東京

2009

29. 花﨑和弘 , 前田広道 , 岡林雄大 . 周術期の血糖制御 . 第 43 回糖尿病学の進歩 , シンポジウム , 2009.02, 松本

30. 並川努 , 小林道也 , 北川博之 , 上村直 , 前田広道 , 岡林雄大 , 駄場中研 , 岡本健 , 花﨑和弘 . 胃癌に対する幽門側胃切除術後 Double tract 再建の有用性 . 第 81 回日本胃癌学会学術集会 , ビデオワークショップ , 2009.03, 東京

31. 花﨑和弘 . 肝臓外科手術周術期における栄養管理と血糖管理の重要性− BCAA 製剤と人工膵臓の果たす役割を中心に− . 第 45 回日本肝癌研究会 , ランチョンセミナー , 2009.07, 福岡

32. 北川博之 , 岡林雄大 , 並川努 , 岩部純 , 小林道也 , 秋森豊一 , 花﨑和弘 . 食道癌手術周術期における栄養療法の進歩：早期経腸栄養と人工膵臓による血糖管理 . 第 64 回日本消化器外科学会定期学術総会 , ワークショップ , 2009.07, 大阪

33. 宗景匡哉 , 花﨑和弘 , 岡林雄大 . 肝臓外科周術期における栄養管理および血糖管理の工夫 . 第 64 回日本消化器外科学会定期学術総会 , ワークショップ , 2009.07, 大阪

34. 宗景匡哉 , 岡林雄大 , 花﨑和弘 . 肝切除術後合併症対策のための栄養療法 . 第 14 回日本肝臓学会大会（JDDW2009）, ワークショップ , 2009.10, 京都

35. 杉本健樹 , 甫喜本憲弘 , 船越拓 , 井上真帆 , 花﨑和弘 , 佐藤隆幸 . ICG 蛍光とカラー画像によるセンチネルリンパ節同定 . 第 11 回 SNNS 研究会学術集会 , シンポジウム , 2009.11, 東京

36. 杉本健樹 , 船越拓 , 甫喜本憲弘 , 井上真帆 , 花﨑和弘 , 末廣史恵 , 中内優 , 武市昌士 , 岡本裕美子 , 岡田由佳 , 松浦喜美夫 , 尾崎信三 . CR マンモグラフィのソフトコピーを用いた遠隔診断の精度管理 . 第 19 回日本乳癌検診学会総会 , パネルディスカッション , 2009.11, 札幌

37. 花﨑和弘 , 前田広道 , 北川博之 , 緒方宏美 , 甫喜本憲弘 , 駄場中研 , 岡本健 , 岡林雄大 , 並川努 , 味村俊樹 , 杉本健樹 , 小林道也 . パーツ式外科手術教育法：優れた外科医の育成を目指して . 第 71 回日本臨床外科学会総会 , シンポジウム , 2009.11, 京都

38. 並川努 , 小林道也 , 北川博之 , 岩部純 , 岡林雄大 , 駄場中研 , 岡本健 , 杉本健樹 , 花﨑和弘 . 結紮固定による腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア修復術の有用性 . 第 71 回日本臨床外科学会総会 , パネルディスカッション , 2009.11, 京都

39. 志賀舞 , 岡本健 , 駄場中研 , 岡林雄大 , 並川努 , 杉本健樹 , 小林道也 , 上地一平 , 松浦喜美夫 , 花﨑和弘 . 地方大学における女性外科医を増やすための取り組み . 第 71 回日本臨床外科学会総会 , パネルディスカッション , 2009.11, 京都

2010

40. 花﨑和弘 . 糖尿病患者の血糖正常化の意義－外科手術での人工膵臓活用を通して－ . 第 8 回日本フットケア学会年次学術集会 , 特別講演 , 2010.02, 東京

41. 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 腹部救急患者に対する血糖制御の意義：人工膵臓を用いた血糖管理を中心に . 第 46 回日本腹部救急医学会学術集会 , 診療と研究のトピックス , 2010.03, 富山

42. 花﨑和弘 .「優れた外科医の育成」を目指した卒前・卒後教育 . 第 110 回日本外科学会定期学術集会 , 特別企画 , 2010.04, 名古屋

43. 花﨑和弘 . 肝臓外科手術周術期の最新の知見～ ERAS を目指した栄養管理と血糖管理を中心に～ . 第 110 回日本外科学会定期学術集会 , ランチョンセミナー , 2010.04, 名古屋

44. 花﨑和弘. ADMEから推察される大建中湯の可能性. 第110回日本外科学会定期学術集会, イブニングセミナー, 2010.04, 名古屋

45. 岩部純, 北川博之, 並川努, 秋森豊一, 小林道也, 花﨑和弘. 食道癌手術における低侵襲鏡視下手術と開胸開腹手術の比較. 第110回日本外科学会定期学術集会, パネルディスカッション, 2010.04, 名古屋

46. 宗景匡哉, 岡林雄大, 前田広道, 吉岡龍二, 上村直, 北川博之, 並川努, 杉本健樹, 花﨑和弘. 膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）に対する膵縮小手術と膵液瘻対策の工夫. 第110回日本外科学会定期学術集会, ビデオワークショップ, 2010.04, 名古屋

47. 北川博之, 宗景匡哉, 上村直, 岡林雄大, 花﨑和弘. 人工膵臓を用いた外科周術期血糖管理法の確立と将来展望. 第110回日本外科学会定期学術集会, ワークショップ, 2010.04, 名古屋

48. 宗景匡哉, 花﨑和弘, 上村直, 岡林雄大. 術後感染症対策を目指した肝切除周術期栄養療法の工夫. 第22回日本肝胆膵外科学会学術集会, シンポジウム, 2010.05, 仙台

49. 並川努, 小林道也, 北川博之, 岩部純, 岡林雄大, 駄場中研, 岡本健, 花﨑和弘. QOLからみた早期胃癌に対する噴門側胃切除後空腸嚢間置再建術の評価. 第65回日本消化器外科学会定期学術総会, シンポジウム, 2010.07, 下関

50. 花﨑和弘, 宗景匡哉, 上村直, 北川博之, 岡林雄大. 人工膵臓を用いた血糖制御法による周術期感染症対策. 第65回日本消化器外科学会定期学術総会, パネルディスカッション, 2010.07, 下関

51. 並川努, 小林道也, 花﨑和弘. GSRSとEORTCQLQC-30およびSTO-22を用いた胃癌手術後のQOL評価. 第8回日本消化器外科学会大会(JDDW2010), シンポジウム, 2010.10, 横浜

52. 壬生季代, 矢田部智昭, 花﨑和弘. 人工膵臓を用いた血糖管理法はICU看護師の労働負担を軽減できるのか. 第48回日本人工臓器学会大会, Nurse Award, 2010.11, 仙台

2011

53. 花﨑和弘, 岡林雄大, 宗景匡哉, 北川博之, 市川賢吾, 並川努. 肝切除後の肝不全対策を目指した周術期の感染制御法の工夫. 第66回日本消化器外科学会定期学術総会, シンポジウム, 2011.07, 名古屋

54. 並川努, 小林道也, 北川博之, 岡林雄大, 駄場中研, 岡本健, 花﨑和弘. 胃癌に対する胃全摘術後空腸嚢再建の功罪. 第66回日本消化器外科学会定期学術総会, ワークショップ, 2011.07, 名古屋

55. 宗景匡哉 , 岡林雄大 , 岩部純 , 市川賢吾 , 北川博之 , 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた消化器外科周術期SSI対策 . 第66回日本消化器外科学会定期学術総会 , パネルディスカッション , 2011.07, 名古屋

56. 福留惟行 , 小林道也 , 駄場中研 , 並川努 , 岡本健 , 馬場良子 , 熊谷奈々 , 土肥良秋 , 藤田守 , 花﨑和弘 . 化学療法による小腸粘膜障害のバイオマーカー開発と消化管毒性の新規予防法の確立 . 第 43 回日本臨床分子形態学会学術集会 , シンポジウム , 2011.09, 大阪

57. 並川努 , 小林道也 , 岩部純 , 北川博之 , 岡林雄大 , 駄場中研 , 岡本健 , 花﨑和弘 . 胃癌に対する噴門側胃切除後空腸嚢間置再建術の短期および長期成績の検討 . 第 41 回胃外科・術後障害研究会 , パネルディスカッション , 2011.10, 豊中

58. 花﨑和弘 . 外科周術期の血糖値管理－ ERAS を目指した人工膵臓を用いた周術期血糖管理－ . 第 49 回日本人工臓器学会大会 , ランチョンセミナー , 2011.11, 東京

59. 宗景匡哉 , 矢田部智昭 , 岡林雄大 , 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた外科周術期血糖管理 . 第 49 回日本人工臓器学会大会 , シンポジウム , 2011.11, 東京

60. 甫喜本憲弘 , 杉本健樹 , 船越拓 , 小河真帆 , 花﨑和弘 . Hyper Eye Medical System（HEMS）カラー蛍光法による乳癌センチネルリンパ節生検（SLNB）の有用性：129 例の検討 . 第 73 回日本臨床外科学会総会 , シンポジウム , 2011.11, 東京

61. 岡林雄大, 市川賢吾, 花﨑和弘. 分枝型IPMNに対する手術適応および膵縮小手術について. 第 73 回日本臨床外科学会総会 , パネルディスカッション , 2011.11, 東京

62. 市川賢吾 , 岡林雄大 , 花﨑和弘 . 肝細胞癌の局在部位に応じた肝亜区域切除術の工夫 . 第 73 回日本臨床外科学会総会 , ビデオワークショップ , 2011.11, 東京

63. 宗景匡哉 , 岡林雄大 , 市川賢吾 , 北川博之 , 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた血糖管理による肝胆膵外科手術周術期のSSI対策 . 第24回日本外科感染症学会総会学術集会 , パネルディスカッション , 2011.12, 志摩

64. 北川博之 , 岩部純 , 並川努 , 秋森豊一 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における助手の役割 . 第 24 回日本内視鏡外科学会学術集会 , シンポジウム , 2011.12, 大阪

65. 岡本健 , 小林道也 , 駄場中研 , 福留惟行 , 市川賢吾 , 北川博之 , 甫喜本憲弘 , 岡林雄大 , 並川努 , 杉本健樹 , 花﨑和弘 . 腹壁瘢痕ヘルニア修復における腹腔鏡下手術と開腹下手術の比較検討 . 第 24 回日本内視鏡外科学会学術集会 , パネルディスカッション , 2011.12, 大阪

2012

66. 並川努 , 岩部純 , 北川博之 , 岡林雄大 , 駄場中研 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 胃癌に対する幽門側胃切除術後 Doubletract 再建の機能および QOL 評価 . 第 84 回日本胃癌学会学術集会 , パネルディスカッション , 2012.02, 大阪

67. 花﨑和弘 . ERAS を目指した人工膵臓を用いた外科周術期血糖管理 . 第 112 回日本外科学会定期学術集会 , ランチョンセミナー , 2012.04, 千葉

68. 並川努 , 小林道也 , 岩部純 , 北川博之 , 岡林雄大 , 駄場中研 , 岡本健 , 花﨑和弘 . 術後機能および QOL からみた胃癌に対する幽門側胃切除術後再建法の検討 . 第 112 回日本外科学会定期学術集会 , ビデオシンポジウム , 2012.04, 千葉

69. 杉本健樹 , 佐藤隆幸 , 甫喜本憲弘 , 船越拓 , 小河真帆 , 尾崎信三 , 花﨑和弘 . Hyper Eye Medical System（HEMS）を用いたカラー蛍光法による乳癌センチネルリンパ節同定の現状と将来性 . 第 20 回日本乳癌学会学術総会 , ビデオセッション , 2012.06, 熊本

70. 福留惟行 , 小林道也 , 駄場中研 , 並川努 , 岡本健 , 馬場良子 , 熊谷奈々 , 藤田守 , 花﨑和弘 . 化学療法による小腸粘膜障害のバイオマーカー開発と小腸粘膜障害の形態学的観察 . 第 21 回日本癌病態治療研究会 , ワークショップ , 2012.07, 前橋

71. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 市川賢吾 , 岡林雄大 . 下部胆管癌に対する膵頭十二指腸切除術（PD）と周術期管理 . 第 67 回日本消化器外科学会定期学術総会 , 教育ビデオシンポジウム , 2012.07, 富山

72. 岡林雄大, 市川賢吾, 宗景匡哉, 花﨑和弘. ERAS を目指した肝切除周術期栄養管理の実践. 第 67 回日本消化器外科学会定期学術総会 , シンポジウム , 2012.07, 富山

73. 花﨑和弘 , 北川博之 , 岩部純 , 宗景匡哉 , 市川賢吾 , 竹崎由佳 , 岡林雄大 , 岡本健 , 並川努 , 小林道也 . 大建中湯の ADME からみた消化管機能異常対策 . 第 67 回日本消化器外科学会定期学術総会 , ワークショップ , 2012.07, 富山

74. 花﨑和弘 . BCAA の新たなるエビデンス：発癌抑制のメカニズムと肝臓外科治療への応用展開を中心に . 第 67 回日本消化器外科学会定期学術総会 , ランチョンセミナー , 2012.07, 富山

75. 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた外科周術期の血糖管理 . 第 5 回全国国立大学病院臨床工学士連絡協議会 , 基調講演 , 2012.08, 高知

76. 岡林雄大 , 志摩泰生 , 花﨑和弘 , 小林道也 . 骨髄由来幹細胞による肝再生のメカニズムの解明 . 第 44 回日本臨床分子形態学会学術集会 , 若手研究者による教育講演 , 2012.09, 高知

77. 福留惟行 , 小林道也 , 駄場中研 , 並川努 , 岡本健 , 大庭幸治 , 馬場良子 , 熊谷奈々 , 森本景之 , 藤田守 , 花﨑和弘 . 化学療法による小腸粘膜障害のバイオマーカー開発と消化管毒性の新規予防法の確立 . 第 44 回日本臨床分子形態学会学術集会 , 若手研究者シンポジウム , 2012.09, 高知

78. 並川努 , 志賀舞 , 北川博之 , 市川賢吾 , 駄場中研 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 幽門側胃切除術後 Roux-en-Y 再建の問題点と対策 . 第 42 回胃外科・術後障害研究会 , パネルディスカッション , 2012.11, 東京

79. 北川博之 , 宗景匡哉 , 矢田部智昭 , 花﨑和弘 . 食道外科手術の周術期血糖管理における人工膵臓の有用性 . 第 50 回日本人工臓器学会大会 , パネルディスカッション , 2012.11, 福岡

80. 塚本雄貴 , 北川博之 , 宗景匡哉 , 宗景絵里 , 竹崎由佳 , 矢田部智昭 , 山下幸一 , 木下良彦 , 浅野拓司 , 村上元章 , 三科卓 , 小林正樹 , 平野健一 , 越塚麻奈美 , 花﨑和弘 . 新型人工膵臓の評価～日本発の血糖管理エビデンス創出を目指して～ . 第 50 回日本人工臓器学会大会 , パネルディスカッション , 2012.11, 福岡

81. 櫻井晃洋、河本　泉、花﨑和弘、内野眞也、岡本高宏、小杉眞司 . 膵・消化管神経内分泌腫瘍の診療ガイドライン（案）MEN 1 に合併する膵消化管内分泌腫瘍の診療 . 第 43 回日本膵臓学会大会、シンポジウム、2012.06, 山形

2013

82. 並川努 , 志賀舞 , 北川博之 , 山岡肇 , 水田洋 , 東谷芳史 , 小林道也 , 西原利治 , 花﨑和弘 . 胃粘膜下腫瘍に対する Laparoscopic and Endoscopic Cooperative Surgery の導入 . 第 9 回日本消化管学会総会学術集会 , ワークショップ , 2013.01, 東京

83. 並川努 , 宗景絵里 , 志賀舞 , 北川博之 , 駄場中研 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 切除不能進行・再発胃癌に対する Trastuzumab 併用療法の検討 . 第 9 回日本消化管学会総会学術集会 , ワークショップ , 2013.01, 東京

84. 竹崎由佳 , 宗景匡哉 , 岡林雄大 , 花﨑和弘 . FLT3 の抑制は大量肝切除後の肝再生促進と肝機能改善に関与する . 第 113 回日本外科学会定期学術集会 , パネルディスカッション , 2013.04, 福岡

85. 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 若年女性に発症した術前腹水貯留を認めた退形成性膵癌の成分を含んだ膵粘液嚢胞腺癌の 1 例 . 第 25 回日本肝胆膵外科学会学術集会 , パネルディスカッション , 2013.06, 宇都宮

86. 北川博之 , 並川努 , 志賀舞 , 宗景絵里 , 秋森豊一 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 食道癌手術における周術期管理の工夫 . 第 68 回日本消化器外科学会定期学術総会 , シンポジウム , 2013.07, 宮崎

87. 竹崎由佳 , 小山内誠 , 二村雄介 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 胆管癌細胞株におけるプロテアソーム阻害剤ボルテゾミブによる抗腫瘍効果の増強 . 第 31 回日本ヒト細胞学会学術集会 , ヤングサイエンティスト・セミナー , 2013.08, 所沢

88. 並川努 , 宗景絵里 , 志賀舞 , 上村直 , 北川博之 , 福原秀雄 , 井上啓史 , 執印太郎 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 胃癌に対する光感受性物質 5 - アミノレブリン酸を用いた光力学診断 . 第 45 回日本臨床分子形態学会学術集会 , シンポジウム , 2013.09, 福岡

89. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 塚本雄貴 , 矢田部智昭 , 並川努 . 人工膵臓の最近の進歩と臨床的意義 . 第 49 回日本移植学会学術総会 , シンポジウム , 2013.09, 京都

90. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 市川賢吾 , 駄場中研 , 並川努 . 肝切除周術期の腹部症状改善を目指した大建中湯の有用性 . 第 23 回外科漢方研究会学術集会 , ワークショップ , 2013.11, 名古屋

91. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 矢田部智昭 , 並川努 . SSI 予防対策を目指した人工膵臓を用いた外科周術期血糖管理 . 第 26 回日本外科感染症学会総会学術集会 , パネルディスカッション , 2013.11, 神戸

92. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 矢田部智昭 , 並川努 . 人工膵臓を用いた外科周術期血糖管理：最近の話題と将来展望 . 第 31 回日本麻酔・集中治療テクノロジー学会学術集会 , 教育講演 , 2013.11, 東京

93. 宗景匡哉 , 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . 新型人工膵臓の開発および商品化を目指した産学共同研究 . 第 75 回日本臨床外科学会総会 , 総会特別企画 , 2013.11, 名古屋

94. 杉本健樹 , 尾崎信三 , 船越拓 , 小河真帆 , 花﨑和弘 . 乳癌センチネルリンパ節転移陽性例における腋窩郭清省略の可能性と HEMS カラー蛍光法による追加 Sampling の有用性の検討 . 第 75 回日本臨床外科学会総会 , パネルディスカッション , 2013.11, 名古屋

95. 岡本健 , 小林道也 , 前田広道 , 志賀舞 , 駄場中研 , 並川努 , 花﨑和弘 . 大腸穿孔 21 例の検討 . 第 75 回日本臨床外科学会総会 , パネルディスカッション , 2013.11, 名古屋

96. 志賀舞 , 松浦喜美夫 , 花﨑和弘 . 外科治療後の在宅医療への移行を困難にする要因と今後の改善策について . 第 75 回日本臨床外科学会総会 , パネルディスカッション , 2013.11, 名古屋

97. 小河真帆 , 船越拓 , 尾崎信三 , 杉本健樹 , 花﨑和弘 . 原発巣切除の適応について苦慮している転移性乳癌の2例 . 第 75 回日本臨床外科学会総会 , ワークショップ , 2013.11, 名古屋

98. 味村俊樹 , 福留惟行 , 駄場中研 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 直腸脱に対する Delorme 法の手技と治療成績 . 第 75 回日本臨床外科学会総会 , ビデオワークショップ , 2013.11, 名古屋

99. 竹崎由佳 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . カルペリチドによる肝細胞癌の転移抑制と再発抑制に関する基礎的検討 . 第 40 回日本肝臓学会西部会 , ワークショップ , 2013.12, 岐阜

100. 小河真帆、杉本健樹、尾崎信三、船越　拓、宮尾恵示、花﨑和弘 . 精密検査施設側からみた乳癌超音波検診の有用性と問題点 . 第 23 回日本乳癌検診学会学術総会、2013.11, 東京

2014

101. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 矢田部智昭 , 北川博之 , 竹崎由佳 , 並川努 . 人工膵臓を用いた肝切除周術期血糖管理：栄養管理と両立できる新治療戦略 . 第 17 回日本病態栄養学会年次学術集会 , ワークショップ , 2014.01, 大阪

102. 杉本健樹 , 尾崎信三 , 小河真帆 , 中内優 , 末廣史恵 , 岡本裕美子 , 宗崎真樹 , 花﨑和弘 . マンモグラフィソフトコピー診断－当院での現状と課題－ . 第 23 回日本乳癌画像研究会 , ワークショップ , 2014.03, 高松

103. 並川努 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 癌化学療法における消化管毒性の予防的支持療法の探索的検討 . 第 100 回日本消化器病学会学術総会 , パネルディスカッション , 2014.04, 東京

104. 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 志賀舞 , 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . Lady first department of surgery の実現を目指して . 第 114 回日本外科学会定期学術集会 , 特別企画 , 2014.04, 京都

105. 並川努 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 術後腸管への内視鏡的アプローチを考慮した胃癌手術における再建術式の検討 . 第 87 回日本消化器内視鏡学会総会 , ワークショップ , 2014.05, 福岡

106. 並川努 , 執印太郎 , 花﨑和弘 . 胃癌に対する 5 - アミノレブリン酸を用いた光力学診断の有用性 . 第 87 回日本消化器内視鏡学会総会 , ワークショップ , 2014.05, 福岡

107. 杉本健樹 , 小河真帆 , 沖豊和 , 安藝史典 , 花﨑和弘 , 執印太郎 . 当院における遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）診療の現状と問題点 . 第 20 回日本家族性腫瘍学会学術集会 , シンポジウム , 2014.06, 福島

108. 竹崎由佳 , 宗景匡哉 , 小山内誠 , 北川博之 , 花﨑和弘 . AZD1152 は肝癌増殖を抑制する . 第 36 回日本癌局所療法研究会 , 主題 , 2014.06, 八尾

109. 花﨑和弘 . 人工膵島を用いた周術期血糖管理 . 第 30 回日本人工臓器学会 , 教育セミナー , 2014.07, 東京

110. 花﨑和弘 . ERAS を目指した消化器外科周術期血糖管理：人工膵臓の果たす役割と意義 . 第 69 回日本消化器外科学会定期学術総会 , ランチョンセミナー , 2014.07, 郡山

111. 宗景匡哉 , 北川博之 , 竹崎由佳 , 並川努 , 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた消化器外科周術期血糖管理法 : 日本発のイノベーション . 第 69 回日本消化器外科学会定期学術総会 , シンポジウム , 2014.07, 郡山

112. 竹崎由佳 , 小山内誠 , 並川努 , 北川博之 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 膵臓癌に対するナファモスタットメシル酸塩の有用性 . 第 32 回日本ヒト細胞学会学術集会 , シンポジウム , 2014.08, 東京

113. 竹崎由佳 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . 膵臓癌細胞株に対するナファモスタットメシル酸塩とスニチニブ併用療法の有用性 . 第 9 回膵癌術前治療研究会 , 主題 , 2014.10, 鹿児島

114. 宗景匡哉 , 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . 人工膵臓の現状と将来：外科医の立場から . 第 52 回日本人工臓器学会大会 , シンポジウム , 2014.10, 札幌

115. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 矢田部智昭 , 竹崎由佳 , 北川博之 , 並川努 . 人工膵臓と移植：協調か競合か . 第 52 回日本人工臓器学会大会 , ワークショップ , 2014.10, 札幌

116. 宗景匡哉 , 宗景絵里 , 志賀舞 , 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . 育児休業を取得した男性外科医はイクメン・ドクターか？第 76 回日本臨床外科学会総会 , 総会特別企画 , 2014.11, 郡山

117. 花﨑和弘 . 周術期血糖管理の重要性：人工膵臓の果たす役割を中心に . 第 14 回日本先進糖尿病治療研究会 , 教育講演 , 2014.12, 徳島

118. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 矢田部智昭 , 並川努 . 人工膵臓による術後感染症予防効果：さらなる普及を目指して . 第 27 回日本外科感染症学会総会学術集会 , シンポジウム , 2014.12, 東京

119. 林泰寛、正司政寿、中沼伸一、牧野勇、宮下知治、田島秀浩、高村博之、北川裕久、二宮致、伏田幸夫、藤村隆、宗景匡哉、北川博之、花﨑和弘、太田哲生 . 人工膵臓の使用を中心とした新規周術期感染対策の導入とその理論的背景 . 第 39 回日本外科系連合学会学術集会、ワークショップ、2014.06, 東京

120. 小野稔、花﨑和弘、許俊鋭 . 人工膵臓の現状と将来：保険収載へ向けた人工臓器学会の取り組み . 第 52 回日本人工臓器学会大会、シンポジウム、2014.10. 札幌

2015

121. 福留惟行 , 並川努 , 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 前田広道 , 北川博之 , 駄場中研 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 胃癌化学療法における消化管毒性に対する予防的支持療法の探索的検討 . 第 87 回日本胃癌学会学術集会 , ワークショップ , 2015.03, 広島

122. 志賀舞 , 小河真帆 , 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 育児とキャリアアップとの両立を可能にする日本外科学会が目指すべき男女共同参画とは？第 115 回日本外科学会定期学術集会 , 特別企画 , 2015.04, 名古屋

123. 宗景匡哉 , 北川博之 , 宗景絵里 , 並川努 , 花﨑和弘 . 血糖管理と栄養管理との両立を目指した Fast Track Program の新治療戦略 . 第 115 回日本外科学会定期学術集会 , シンポジウム , 2015.04, 名古屋

124. 杉本健樹 , 沖豊和 , 小河真帆 , 花﨑和弘 , 執印太郎 . 当院乳腺外来で経験した BRCA 1 に病的変異を有する遺伝性乳がん卵巣がんの２家系 . 第 27 回日本内分泌外科学会総会学術集会 , ワークショップ , 2015.05, 福島

125. 杉本健樹 , 小河真帆 , 沖豊和 , 田代真理 , 花﨑和弘 , 執印太郎 . 乳腺診療部門と遺伝診療部の連携による遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）診療と乳癌診療ネットワークを用いた地域での拾い上げの現状 . 第 21 回日本家族性腫瘍学会学術集会 , ワークショップ , 2015.06, 埼玉

126. 竹崎由佳 , 小山毅 , 北川博之 , 宗景匡哉 , 並川努 , 花﨑和弘 . エリブリンを用いた膵臓癌新規治療の可能性 . 第 24 回癌病態治療研究会 , 2015.06, 日光

127. 花﨑和弘 .「厳格血糖管理治療の未来を拓く」－外科医の立場から人工膵臓の可能性を探る－ . 第 7 回下肢救済・足病学会学術集会 , ランチョンセミナー , 2015.07, 横浜

128. 志賀舞 , 駄場中研 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . 新専門医制度において消化器外科専門医の地域医療に果たす役割と将来展望～地方医大の現状を踏まえて～ . 第 70 回日本消化器外科学会定期学術総会 , 特別企画 , 2015.07, 浜松

129. 宗景匡哉 , 塚本雄貴 , 宗景絵里 , 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . 新型人工膵臓の開発および商品化に至った from bench to bedside 研究 . 第 70 回日本消化器外科学会定期学術総会 , シンポジウム , 2015.07, 浜松

130. 前田広道 , 岡本健 , 並川努 , 花﨑和弘 , 小林道也 . 移植された肝細胞は肝細胞癌の由来細胞となり得る . 第 70 回日本消化器外科学会定期学術総会 , ワークショップ , 2015.07, 浜松

131. 並川努 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 志賀舞 , 前田広道 , 北川博之 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 治癒切除不能進行胃癌に対する分子形態学的アプローチによる診断および治療戦略 . 第 47 回日本臨床分子形態学会学術集会 , ワークショップ , 2015.09, 長崎

132. 竹崎由佳 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 胆管癌に対する BI2536 と Bortezomib を用いた新規化学療法の可能 . 第 51 回日本胆道学会学術集会 , ワークショップ , 2015.09, 宇都宮

133. 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた血糖管理の最新知見 . 第 7 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 , 教育講演 , 2015.10, 福岡

134. 辻井茂宏 , 井原則之 , 山本彰 , 北村龍彦 , 花﨑和弘 . 外科医 4 人で守る地方都市救急救命センターでの ACS の実際と限界 , そしてこれから・・・. 第 7 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 , パネルディスカッション , 2015.10, 福岡

135. 竹崎由佳 , 並川努 , 坂本浩一 , 北川博之 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 膵臓癌に対するエリブリンとナファモスタットメシル酸塩を用いた新規治療の可能性 . 第 53 回日本癌治療学会学術集会 , ワークショップ , 2015.10, 京都

136. 花﨑和弘 , 北川博之 , 宗景匡哉 , 並川努 . 大建中湯の ADME 研究 . 第 25 回外科漢方研究会学術集会 , シンポジウム , 2015.11, 福岡

137. 花﨑和弘 . 看護師・臨床工学技士・実験助手らの学術的活動を支援し , 国際的に活躍する機会も提供したい：高知大学での 10 年間の取り組みを中心に . 第 53 回日本人工臓器学会大会 , 臨床研究セミナー , 2015.11, 東京

138. 矢田部智昭 , 花﨑和弘 , 横山正尚 . 救命治療 , 周術期医療における人工膵臓の役割 . 第 53 回日本人工臓器学会大会 , ワークショップ , 2015.11, 東京

139. 花﨑和弘 . 周術期血糖管理 Up-To-Date2015. 第 77 回日本臨床外科学会総会 , 教育セミナー , 2015.11, 福岡

140. 杉本健樹 , 沖豊和 , 小河真帆 , 田代真理 , 花﨑和弘 , 執印太郎 . 当院の遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）診療の現状と若年親族への情報提供の課題 . 第 77 回日本臨床外科学会総会 , パネルディスカッション , 2015.11, 福岡

141. 藤澤和音 , 志賀舞 , 宗景絵里 , 小河真帆 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 公文正光 , 並川努 , 駄場中研 , 花﨑和弘 . パーツ教育法の有用性－ユニバーサルデザイン外科を目指して－ . 第 77 回日本臨床外科学会総会 , パネルディスカッション , 2015.11, 福岡

142. 中沼伸一 , 林泰寛 , 田島秀浩 , 高村博之 , 木下淳 , 牧野勇 , 仲村慶史 , 尾山勝信 , 井口雅史 , 中川原寿俊 , 宮下知治 , 二宮致 , 北川裕久 , 伏田幸夫 , 藤村隆 , 太田哲夫 , 北川博之 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 肝胆膵外科手術に対する人工膵臓の導入 －当科における予備的検討－ . 第 51 回日本腹部救急医学会総会 . パネルディスカッション . 2015.03. 京都

143. 川瀬和美 , 前田耕太郎 , 富永隆治 , 岩瀬弘敬 , 小川朋子 , 柴崎郁子 , 島田光生 , 田口智章 , 竹下惠美子 , 冨澤康子 , 野村幸世 , 花﨑和弘 , 葉梨智子 , 山下啓子 , 國土典宏 . 外科医が外科医として、また人として充実した生活を送るには？「全国外科医仕事と生活の質調査」結果報告 . 第 115 回日本外科学会定期学術集会 . 特別企画 . 2015.04. 名古屋

144. 花﨑和弘 .「厳格血糖管理治療の未来を拓く」－外科医の立場から人工膵臓の可能性を探る－ . 第 7 回下肢救済・足病学会学術集会 . ランチョンセミナー . 2015.07. 横浜

145. 林泰寛 , 高村博之 , 大畠慶直 , 中沼伸一 , 田島秀浩 , 谷卓 , 北原征明 , 花﨑和弘 , 太田哲生 . 臓器移植における人工膵臓応用の可能性－肝移植における導入経験から－ . 第 51 回日本移植学会総会 . ワークショップ . 2015.10. 熊本

2016

146. 花﨑和弘 . 外科周術期における Closed-loop 型人工膵臓の有用性の検証－医師の立場から－ . 第 32 回日本医工学治療学会学術大会 , ランチョンセミナー , 2016.03, 甲府

147. 花﨑和弘 , 志賀舞 , 小河真帆 , 宗景絵里 , 藤澤和音 , 駄場中研 . 女性外科医に活躍の場を与えるための取り組み：地方大学指導者の立場から . 第 116 回日本外科学会定期学術集会 , 特別企画 , 2016.04, 大阪

148. 志賀舞 , 小河真帆 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 北川博之 , 駄場中研 , 並川努 , 花﨑和弘 . 子育て中の女性外科医に優しい職場には明るい未来が待っている . 第 116 回日本外科学会定期学術集会 , 特別企画 , 2016.04, 大阪

149. 花﨑和弘 . 日本発のベッドサイド型人工膵臓 . 第 116 回日本外科学会定学術集会 , ランチョンセミナー , 2016.04, 大阪

150. 川瀬和美 , 前田耕太郎 , 富永隆治 , 岩瀬弘敬 , 小川朋子 , 柴崎郁子 , 島田光生 , 田口智章 , 竹下惠美子 , 冨澤康子 , 野村幸世 , 花﨑和弘 , 葉梨智子 , 山下啓子 , 國土典宏 . 外科医が仕事と生活を健全に送るために外科学会や病院、我々は何をしたらよいのか？. 第 116 回日本外科学会定期学術集会 , 特別企画 , 2016.04, 大阪

151. 花﨑和弘 . 周術期血糖管理を科学する－人工膵臓への期待－ . 第 28 回日本肝胆膵外科学会学術集会 , ランチョンセミナー , 2016.06, 大阪

152. 花﨑和弘 , 北川博之 , 並川努 . 日本発厳格血糖管理の新展開 ～診療報酬改定を受けて～ . 第 70 回日本食道学会学術集会 , スポンサードシンポジウム , 2016.07, 東京

153. 北川博之 , 宗景匡哉 , 並川努 , 宗景絵里 , 藤澤和音 , 花﨑和弘 . 六君子湯（TJ-43）単回投与後の健常人血漿中薬物動態 . 第 71 回日本消化器外科学会定期学術総会 , 特別企画 , 2016.07, 徳島

154. 宗景絵里 , 並川努 , 藤澤和音 , 小河真帆 , 宗景匡哉 , 志賀舞 , 北川博之 , 花﨑和弘 . 教育とは、世界を変えることができるもっとも強力な武器である . 第 71 回日本消化器外科学会定期学術総会 , 特別企画 , 2016.07, 徳島

155. 辻井茂宏 , 上村直 , 廣橋健太郎 , 津田昇一 , 坪井香保里 , 八木健 , 山本彰 , 田中洋輔 , 北村龍彦 , 花﨑和弘 . 消化器外科医が Acute care surgery をやって見えてきたこと、まだまだ見えないこと . 第 91 回中国四国外科学会総会 , シンポジウム , 2016.09, 高松

156. 杉本健樹 , 山川卓 , 安藝史典 , 沖豊和 , 小河真帆 , 山田陽子 , 末廣史恵 , 岡本裕美子 , 駄場中研 , 花﨑和弘 . 乳癌研究会と NPO 法人で構築した乳癌診療地域ネットワークを利用した人材育成 . 第 26 回日本乳癌検診学会学術総会 , ワークショップ , 2016.11, 久留米

157. 花﨑和弘 . 臨床研究推進委員会およびセミナーが果たす役割と意義：委員長の立場から . 第 54 回日本人工臓器学会大会 , 臨床研究推進セミナー , 2016.11, 米子

158. 宗景匡哉 , 北川博之 , 藤枝悠希 , 川西泰広 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 志賀舞 , 前田広道 , 岡本健 , 並川努 , 花﨑和弘 . Brittle 型糖尿病対策を目指した人工膵臓を用いた膵全摘周術期血糖管理法の開発と工夫 . 第 78 回日本臨床外科学会総会 , パネルディスカッション , 2016.11, 東京

159. 杉本健樹 , 小河真帆 , 沖豊和 , 駄場中研 , 田代真理 , 泉谷智明 , 池上信夫 , 山崎一郎 , 花﨑和弘 , 執印太郎 . 乳癌診療における遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）および他の遺伝性腫瘍に関する当院の現状と課題 . 第 78 回日本臨床外科学会総会 , ワークショップ , 2016.11, 東京

160. 北川博之 , 並川努 , 宗景匡哉 , 藤澤和音 , 川西泰広 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 胸腔鏡下食道切除術における頸部先行アプローチと胸部先行アプローチの比較 . 第 29 回日本内視鏡外科学会学術集会、ワークショップ , ワークショップ , 2016.12, 東京

161. 並川努 , 川西泰広 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 前田広道 , 北川博之 , 佐藤隆幸 , 小林道也 , 花﨑和弘 . ICG 近赤外光を利用した HyperEye Medical System による術中血流評価 . 第 46 回日本創傷治癒学会 , シンポジウム , 2016.12, 東京

2017

162. 花﨑和弘 , 倉本秋 . 地方再生は教育から：地域外科医療の発展を目指した Academic Surgeon 育成への取り組み . 第 117 回日本外科学会定期学術集会 , 特別企画 , 2017.04, 横浜

163. 北川博之 , 並川努 , 宗景匡哉 , 藤澤和音 , 川西泰広 , 宗景絵里 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 食道癌手術における HyperEye Medical System（HEMS）を用いた ICG 蛍光法による再建臓器の血流評価と術後内視鏡評価 . 第 117 回日本外科学会定期学術集会 , ワークショップ , 2017.04, 横浜

164. 杉本健樹 , 沖豊和 , 小河真帆 , 駄場中研 , 藤原キミ , 小松明夫 , 下元憲明 , 花﨑和弘 . 乳癌手術クリニカルパスから広がった院内パスの輪 . 第 42 回日本外科系連合学会学術集会 , シンポジウム , 2017.06, 徳島

165. 並川努 , 川西泰広 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 前田広道 , 北川博之 , 佐藤隆幸 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 医工連携による産学共同研究を経て開発し臨床応用に至った新規医療機器の現状 . 第 42 回日本外科系連合学会学術集会 , ワークショップ , 2017.06, 徳島

166. 花﨑和弘 , 宗景匡哉 , 藤澤和音 , 北川博之 , 並川努 . Closed-loop 式人工膵臓を用いた外科周術期血糖管理の新展開 : 日本から世界へ発信するエビデンス . 第 72 回日本消化器外科学会定期学術総会 , ワークショップ , 2017.07, 金沢

167. 花﨑和弘 . 血糖管理は今 , ネクストステージへ！ －人工膵臓を用いた周術期血糖管理－ . 第 72 回日本消化器外科学会定期学術総会 , ランチョンセミナー , 2017.07, 金沢

168. 並川努 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 宗景匡哉 , 岩部純 , 上村直 , 前田広道 , 矢田部智明 , 北川博之 , 浅野拓司 , 木下良彦 , 花﨑和弘 . 産学共同研究により開発し臨床応用されている人工膵臓を用いた周術期血糖管理　Perioperative glycemic using artificial pancreas using a closed system developed throuh joint research between industry and university. 第 55 回日本人工臓器学会大会 , シンポジウム , 2017.09, 東京

169. 宗景匡哉 , 北川博之 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 山本奈緒 , 井本琢大 , 村上武 , 壬生希代 , 浅野卓司 , 木下良彦 , 矢田部智昭 , 並川努 , 花﨑和弘 . 人工膵臓療法のための最適なチーム医療を目指したシステム作り . 第 55 回日本人工臓器学会大会 , シンポジウム , 2017.09, 東京

2018

170. 福留惟行 , 石沢武彰 , 渡邉元己 , 川勝章司 , 入江彰一 , 大庭篤志 , 佐藤崇文 , 水野智哉 , 小野嘉大 , 中瀬古裕一 , 武田良祝 , 三瀬祥弘 , 伊藤寛倫 , 井上陽介 , 高橋祐 , 齋浦明夫 . ICG 蛍光法による肝区域ナビゲーションを用いた腹腔鏡下解剖学的肝切除の工夫 . 第 118 回日本外科学定期学術集会 , ワークショップ , 2018.04, 東京

171. 川瀬和美 , 前田耕太郎 , 冨永 隆治 , 岩瀬 弘敬 , 野村 幸世 , 小川 朋子 , 柴崎 郁子 , 島田 光生 , 田口 智章 , 竹下 惠美子 , 冨澤 康子 , 花﨑和弘 , 葉梨 智子 , 山下 啓子 , 中村 清吾 . 外科医の意識と働き方改革　外科における男女共同参画はどうあるべきか ?. 第 118 回日本外科学定期学術集会 , 特別企画 , 2018.04, 東京

172. 冨澤康子 , 中村清吾 , 田口智章 , 野村幸世 , 明石定子 , 小川朋子 , 柴崎郁子 , 島田光生 , 竹下恵美子 , 花﨑和弘 , 葉梨智子 , 山内英子 , 山下啓子 , 荻原牧子 . 育児中の日本外科学会会員の仕事とプライベートのストレス　働くドクターストレス調査結果から . 第 118 回日本外科学定期学術集会 , 特別企画 , 2018.04, 東京

173. 並川努 , 宇都宮正人 , 津田祥 , 藤澤和音 , 岩部純 , 上村直 , 辻井茂宏 , 前田広道 , 北川博之 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 胃癌術後膵胆道病変に対する内視鏡的治療を考慮した再建術式 . 第 72 回手術手技研究会 , サージカルフォーラム , 2018.05, 徳島

174. 北川博之 , 並川努 , 岩部純 , 津田祥 , 上村直 , 藤澤和音 , 花﨑和弘 . 食道癌胃管再建における ICG 蛍光法による血流評価と縫合不全の回避 . 第 72 回手術手技研究会 , サージカルフォーラム , 2018.05, 徳島

175. 志賀舞 , 川西泰広 , 藤枝悠希 , 宗景絵里 , 前田広道 , 徳丸哲平 , 秋森豊一 , 上岡教人 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 消化器外科領域における男女共同参画について . 第 73 回日本消化器外科学会総会 , ワークショップ , 2018.07, 鹿児島

176. 石田信子 , 津田祥 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 小河真帆 , 辻井茂宏 , 北川博之 , 杉本健樹 , 並川努 , 花﨑和弘 . 私の描く未来 -1/2828 と 1/8630-. 第 73 回日本消化器外科学会総会 , ワークショップ , 2018.07, 鹿児島

177. 宗景匡哉 , 塚田暁 , 津田晋 , 津田昇一 , 田部大樹 , 谷口梨奈 , 齊藤大蔵 , 内山里美 , 宗景絵里 , 上村直 , 辻井茂宏 , 坪井香保里 , 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . 術後胃排泄遅延予防を目的とした膵頭十二指腸切除術の再建における胃空腸端側手縫い吻合の有効性 . 日本外科代謝栄養学会 第 55 回学術集会 , ワークショップ , 2018.07, 大阪

178. 花﨑和弘 . 人工膵島（Artificial pancreas)：血糖管理の現状と将来展望 . 第 34 回人工臓器学会、教育セミナー , 教育セミナー , 2018.07, 東京

179. 並川努 , 石田信子 , 津田祥 , 藤澤和音 , 宗景絵里 , 岩部純 , 上村直 , 辻井茂宏 , 前田広道 , 北川博之 , 福原秀雄 , 井上啓史 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 特殊光源を活用した光線医療技術の臨床応用： 5 - アミノレブリン酸を用いた胃癌に対する光力学診断の有用性 . 第 31 回日本レーザー医学会関西地方会 , シンポジウム , 2018.07, 高知

180. 花﨑和弘 , 藤澤和音 , 宗景匡哉 , 上村直 , 北川博之 , 並川努 . 人工膵臓療法の改良・改善：人工膵臓は第３の人工臓器になり得たか？ . 第 56 回日本人工臓器学会大会 , 基調講演 , 2018.11, 東京

181. 花﨑和弘 . 医療機器の臨床研究：人工膵臓の臨床応用 . 第 80 回日本臨床外科学会総会 , 第 21 回臨床研究セミナー , 2018.11, 東京

182. 杉本健樹 , 小河真帆 , 沖豊和 , 駄場中研 , 花﨑和弘 . 遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）から始まった当院の遺伝性腫瘍診療の現状と今後の課題　－コンパニオン診断、多遺伝子パネル､がんゲノム医療の時代に備えて－ . 第 80 回日本臨床外科学会総会 , ワークショップ , 2018.11, 東京

183. 並川努 , 石田信子 , 津田祥 , 藤澤和音 , 福留惟行 , 宗景絵里 , 岩部純 , 宗景匡哉 , 上村直 , 前田広道 , 辻井茂広 , 北川博之 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 再発胃癌に対する薬物療法における炎症反応と栄養状態が予後に及ぼす影響 . 第 80 回日本臨床外科学会総会 , ワークショップ , 2018.11, 東京

184. 志賀舞 , 宗景絵里 , 津田祥 , 藤澤和音 , 小河真帆 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 , 松浦喜美夫 . 女性にも男性にも患者にも優しいユニバーサル外科を構築しよう . 第 80 回日本臨床外科学会総会 , 総会特別企画 , 2018.11, 東京

185. 花﨑和弘 . 漢方のエビデンスを求めて：薬物動態試験（ADME）の意義 . 第 28 回漢方外科フォーラム学術集会 , シンポジウム , 2018.11, 東京

2019

186. 花﨑和弘 . 周術期の人工膵臓療法：究極の血糖管理法を目指して . 第 93 回化学センサ研究会 , 特別講演 , 2019.01, 松山

187. 花﨑和弘 , 北川博之 , 上村直 , 宗景匡哉 , 藤澤和音 , 並川努 . 術後感染性合併症対策としての栄養管理：血糖管理との両立を目指した人工膵臓療法 . JSPEN2019, 合同シンポジウム , 2019.02, 東京

188. 花﨑和弘 . Technology　changes　healthcare ／テクノロジーが医療を変える . 第 31 回日本肝胆膵外科学会・学術集会 , ランチョンセミナー , 2019.06, 高松

189. Hanazaki K, Munekage M, Uemura S, Namikawa T. Educational training method to bring up academic surgeons including qualified HBP surgeons. 第 31 回日本肝胆膵外科学会・学術集会 , Educational Symposium, 2019.06, 高松

190. 北川博之 , 上村直 , 並川努 , 花﨑和弘 . 膵全摘における人工膵臓を用いた周術期血糖管理と術後炎症反応の検討 . 第 26 回外科侵襲とサイトカイン研究会 , ワークショップ , 2019.07, 神戸

191. 北川博之 , 岩部純 , 並川努 , 横田啓一郎 , 花﨑和弘 . 食道癌術後 CRP 値と縫合不全の検討 . 第 26 回外科侵襲とサイトカイン研究会 , 2019.07, 神戸

192. 宗景匡哉 , 北川博之 , 津田祥 , 宗景絵里 , 上村直 , 並川努 , 花﨑和弘 . 肝切除周術期の栄養管理における大建中湯の有用性 . 第 56 回日本外科代謝栄養学会学術集会 , ワークショップ , 2019.07, 神戸

193. 並川努 , 岩部純 , 横田啓一郎 , 石田信子 , 上村直 , 宗景匡哉 , 津田祥 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術後人工膵臓による血糖管理法の有用性 . 第 74 回日本消化器外科学会総会 , ワークショップ , 2019.07, 東京

194. 前田広道 , 岡本健 , 藤枝悠希 , 金川俊哉 , 志賀舞 , 福留惟行 , 津田祥 , 並川努 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 大腸がん術後のリンパ節検索によって得られたリンパ節のサイズ（最大長径）についての検討 . 第 74 回日本消化器外科学会総会 , ポスターセッション , 2019.07, 東京

195. 福留惟行 , 前田広道 , 金川俊哉 , 石田信子 , 駄場中研 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 高齢直腸癌患者における低位前方切除術に伴う一時的人工肛門の早期閉鎖の検討 . 第 74 回日本消化器外科学会総会 , ポスターセッション , 2019.07, 東京

196. 大渕勝也 , 北川博之 , 花﨑和弘 . 漢方薬・漢方医学の科学的理解に向けたメメタボロミクスの活用 . 第 36 回和漢医薬学会学術大会 , シンポジウム , 2019.08, 富山

197. 並川努 , 前田将宏 , 横田啓一郎 , 津田祥 , 谷岡信寿 , 福留惟行 , 岩部純 , 宗景匡哉 , 上村直 , 辻井茂宏 , 前田広道 , 北川博之 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 胃癌に対する 5 - アミノレブリン酸を用いた光力学的診断の臨床応用 . 第 37 回日本ヒト細胞学会学術集会 , シンポジウム , 2019.10, 東京

198. 花﨑和弘 . 地域から世界へ発信する臨床外科学 . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , 総会会長講演 , 2019.11, 高知

199. 並川努 , 前田将宏 , 谷岡信寿 , 津田祥 , 福留惟行 , 岩部純 , 宗景匡哉 , 上村直 , 辻井茂宏 , 前田広道 , 北川博之 , 岡本健 , 井上啓史 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 5 - アミノレブリン酸およびインドシアニングリーンを活用した光線医療技術の臨床応用 . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , シンポジウム , 2019.11, 高知

200. 並川努 . 5 - アミノレブリン酸を用いた光力学的診断の臨床応用 . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , イブニングセミナー , 2019.11, 高知

201. 並川努 . 手術中の腸蠕動観察～栄養管理と QOL 向上を考える～ . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , ランチョンセミナー , 2019.11, 高知

202. 上村直 , 北川博之 , 前田将宏 , 津田祥 , 谷岡信寿 , 藤澤和音 , 宗景匡哉 , 前田広道 , 並川努 , 花﨑和弘 . 噴霧型癒着防止剤を使用した肝切除術症例の検討と今後の展望 . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , パネルディスカッション , 2019.11, 高知

203. 杉本健樹 , 沖豊和 , 小河真帆 , 岡田衣世 , 駄場中研 , 花﨑和弘 , 佐藤隆幸 . カラー近赤外線蛍光カメラを用いた乳癌センチネルリンパ節生検の変遷と今後の展望 . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , シンポジウム , 2019.11, 高知

204. 北川博之 , 岩部純 , 横田啓一郎 , 並川努 , 上村直 , 宗景匡哉 , 藤澤和音 , 山口祥 , 前田将宏 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 術前糖尿病を有する食道癌患者に対する胸腔鏡下食道切除術後人工膵臓を用いた血糖管理法 . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , パネルディスカッション , 2019.11, 高知

205. 駄場中研 , 福留惟行 , 岡本健 , 花﨑和弘 . 炭酸ランタン水和物により糞便性イレウスを生じ、S 状結腸穿孔を起こした 1 例 . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , ポスターセッション , 2019.11, 高知

206. 宗景絵里 , 志賀舞 , 宗景匡哉 , 小河真帆 , 松浦喜美夫 , 花﨑和弘 . 私ワンオペ僕過労　～家庭の問題から着想した男女共同参画のブレイクスルー～ . 第 81 回日本臨床外科学会 , 特別企画 , 2019.11, 高知

207. 横田啓一郎 , 北川博之 , 前田将宏 , 谷岡信寿 , 津田祥 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 腹腔鏡手術中に停留精巣を発見された成人鼠径ヘルニアの 1 例 . 第 81 回日本臨床外科学会 , ポスターセッション , 2019.11, 高知

208. 前田広道 , 福留惟行 , 津田祥 , 藤澤和音 , 岡本健 , 岩部純 , 宗景匡哉 , 上村直 , 並川努 , 花﨑和弘 . 外科医の適正数 . 第 81 回日本臨床外科学会 , ワークショップ , 2019.11, 高知

209. 小林道也 , 岡本健 , 花﨑和弘 . 一例を大切にする地道な努力と、Reverse Translational Research を意識した臨床外科医 . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , 特別企画 , 2019.11, 高知

210. 岡本健 , 津田祥 , 福留惟行 , 前田広道 , 北川博之 , 並川努 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 地方での地域医療における外科医の役割 − 高知県の現状 . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , 特別企画 , 2019.11, 高知

211. 宗景匡哉 , 宗景絵里 , 前田将宏 , 谷岡信寿 , 津田祥 , 横田啓一郎 , 藤澤和音 , 福留惟行 , 岩部純 , 上村直 , 前田広道 , 北川博之 , 駄場中研 , 並川努 , 花﨑和弘 . 若手外科医数でみる外科医格差 . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , ワークショップ , 2019.11, 高知

212. 山本正樹 , 二宮仁志 , 田代未和 , 半田武巳 , 井上啓史 , 佐藤隆幸 , 渡橋和政 , 花﨑和弘 . 近赤外線蛍光造影法を用いた血行再建術に対する光線医療診断の Pitfall 〜心臓血管領域での使用経験からの反省〜 . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , シンポジウム , 2019.11, 高知

213. 志賀舞 , 宗景絵里 , 小河真帆 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 , 松浦喜美夫 . 職場におけるダイバーシティ推進のメリット　外科医は一日にしてならず . 第 81 回日本臨床外科学会総会 , 特別演題 , 2019.11, 高知

214. 大畠雅之 , 花﨑和弘 , 星野絵理 . AI テクノロジーを応用した新生児・乳児便色評価の試みついて . 第 46 回日本胆道閉鎖症研究会 , シンポジウム , 2019.11, 広島

215. 大畠雅之 , 田浦康明 , 山根祐介 , 吉田拓郎 , 花﨑和弘 . 胆道閉鎖症に対する尿中硫酸抱合型胆汁酸測定の検討 . 第 46 回日本胆道閉鎖症研究会 , シンポジウム , 2019.11, 広島

216. 花﨑和弘 . 肝臓外科における感染症対策としての栄養管理と血糖管理の両立 . 第 32 回日本外科感染症学会総会 , シンポジウム , 2019.11, 岐阜

2020

217. 横田啓一郎 , 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 .「Needlescopic　surgery と若手教育〜若手外科医が思うこと〜 . 第 22 回 Needlescopic Surgery Meeting, 特別企画 , 2020.02, 高知

218. 横田啓一郎 , 世良田聡 , 辻井茂宏 , 藤本穣 , 並川努 , 村上一郎 , 花﨑和弘 , 仲哲治 . Glypican-1 を標的とした抗体薬物複合体（ADC）を用いた胆管癌の新規治療開発 . 第 38 回日本ヒト細胞学会学術集会 , シンポジウム , 2020.08, 高知

219. 中山沢 , 大塚慎平 , 花﨑和弘 , 井上啓史 , 中島元夫 , 田中徹 , 小倉俊一郎 . 休眠がん細胞における５-ALA-PDT の評価 . 第 38 回日本ヒト細胞学会学術集会 , シンポジウム , 2020.08, 高知

220. 中山沢 , 山本新九郎 , 小倉俊一郎 , 花﨑和弘 , 井上啓史 . 光の性質と医療に用いられる光 . 第 41 回日本レーザー医学会総会 , シンポジウム , 2020.10, Web 開催

221. 並川努 , 前田将宏 , 谷岡信寿 , 津田祥 , 藤澤和音 , 福留惟行 , 岩部純 , 宗景匡哉 , 上村直 , 辻井茂宏 , 前田広道 , 北川博之 , 福原秀雄 , 岡本健 , 井上啓史 , 小林道也 , 佐藤隆幸 , 花﨑和弘 . 蛍光イメージングを活用した光線医療技術の実践 . 第 41 回日本レーザー医学会総会 , シンポジウム , 2020.10, Web 開催

222. 中山沢 , 山本新九郎 , 花﨑和弘 , 井上啓史 , 中島元夫 , 田中徹 , 小倉俊一郎 . 休眠がん細胞における５-ALA-PDT の評価 . 第 41 回日本レーザー医学会総会 , シンポジウム , 2020.10, Web 開催

223. 北川博之 , 岩部純 , 横田啓一郎 , 前田将宏 , 並川努 , 花﨑和弘 . 食道切除術胃管再建における ICG 蛍光法を用いた胃管血流境界の可視化 . 日本蛍光ガイド手術研究会第３回学術集会 , ミニシンポジウム「血流」, 2020.10, Web 開催

224. 藤澤和音 , 宗景匡哉 , 山本奈緒 , 壬生季代 , 上村直 , 清水茂翔 , 谷岡信寿 , 前田将宏 , 岩部純 , 岡本健 , 並川努 , 花﨑和弘 . 人工膵臓療法における他職種連携の効果 . 第 58 回日本人工臓器学会大会 , パネルディスカッション , 2020.11, 高知

225. 沖豊和 , 杉本健樹 , 中村衣世 , 小河真帆 , 駄場中研 , 花﨑和弘 . 当院における早期乳癌でのセンチネルリンパ節生検症例の検討 . 日本蛍光ガイド手術研究会第３回学術集会 , シンポジウム , 2020.10, Web 開催

226. 北川博之 , 並川 努 , 岩部 純 , 横田啓一郎 , 前田将宏 , 上村 直 , 宗景匡哉 , 花﨑和弘 . 六君子湯の薬物動態試験からみた消化器外科領域における漢方薬の使用方法 . 第 82 回日本臨床外科学会総会 , ワークショップ , 2020.10, Web 開催

227. 北川博之 , 岩部純 , 横田啓一郎 , 並川努 , 上村直 , 宗景匡哉 , 藤澤和音 , 前田将宏 , 花﨑和弘 . 食道癌術後人工膵臓を用いた血糖管理と術後創感染の検討 . 第 58 回日本人工臓器学会大会 , パネルディスカッション , 2020.11, 高知

228. 北川博之 , 岩部純 , 横田啓一郎 , 前田将宏 , 並川努 , 花﨑和弘 . 食道癌に対する縦隔鏡下左上縦隔郭清先行胸腔鏡下食道切除術 . 第 75 回日本消化器外科学会総会 , ワークショップ , 2020.12 , Web 開催

229. 並川努 , 岩部純 , 羽柴基 , 山田高義 , 北川博之 , 水田洋 , 内田一茂 , 佐藤隆幸 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 腹腔鏡下手術におけるインドシアニングリーン蛍光マーキングクリップの使用経験 . 日本蛍光ガイド手術研究会第３回学術集会 , 学術セミナー , 2020.10, Web 開催

230. 並川努 , 前田将宏 , 山口祥 , 横田啓一郎 , 谷岡信寿 , 藤沢和音 , 福留惟行 , 岩部純 , 上村直 , 宗景匡哉 , 前田広道 , 北川博之 , 岡本健 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた術後早期の至適血糖管理 . 第 82 回日本臨床外科学会総会 , パネルディスカッション , 2020.10, Web 開催

231. 花﨑和弘 . 人工膵臓を用いた周術期血糖管理 . 第 56 回日本腹部救急医学会総会 , 企業共催セミナー , 2020.10, Web 開催

232. 花﨑和弘 . 人工臓器研究の進歩と臨床展開 - 日本から世界へ発信する人工臓器学 -. 第 58 回日本人工臓器学会大会 , 理事長・大会長講演 , 2020.11, 高知

233. 宗景匡哉 , 前田広道 , 山本奈緒 , 西尾裕華子 , 壬生代 , 上村直 , 清水茂翔 , 前田将宏 , 横田啓一郎 , 山口祥 , 谷岡信寿 , 藤澤和音 , 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . 高齢者における周術期人工膵臓療法の安全性 . 第 58 回日本人工臓器学会 , パネルディスカッション , 2020.11, 高知

234. Munekage M, Kitagawa H, Namikawa T, Hanazaki K. Effectiveness of glycemic control using artificial pancreas in hepatobiliary pancreatic surgery. 第57回日本外科代謝栄養学会 , シンポジウム , 2020.12, Web 開催

235. 花﨑和弘 . 外科代謝栄養学会からみた周術期管理の最前線 . 第 57 回日本外科代謝栄養学会 , ランチョンセミナー , 2020.12, Web 開催

236. 花﨑和弘 . 女性外科医からみた内視鏡外科の未来への期待 . 第 33 回日本内視鏡外科学会 , 特別企画 , 2020.03, ハイブリッド開催

2021

237. 並川努 , 宗景匡哉 , 上村直 , 前田広道 , 北川博 1, 井上啓史 , 佐藤隆幸 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 消化器癌診療における蛍光イメージングの臨床応用と将来展望 . 日本蛍光ガイド手術研究会第 4 回学術集会 , 特別演題 , 2021.05, 高知

238. 並川努 , 丸井輝 , 田啓一郎 , 宗景匡哉 , 上村直 , 前田広道 , 北川博之 , 井上啓史 , 佐藤隆幸 , 小林道也 , 花﨑和弘 . 分子の励起による特殊蛍光を活用した光線技術の臨床応用と今後の展望 . 第 53 回日本臨床分子形態学会総会・学術集会 , シンポジウム , 2021.10, Web 開催

239. 谷岡信寿 , 並川努 , 前田将宏 , 石田信子 , 宇都宮正人 , 桑原道郎 , 秋森豊一 , 前田広道 , 花﨑和弘 . 外科医の働き方改革　若手外科医の立場から . 第 83 回日本臨床外科学会総会 , 特別演題 , 2021.11, 東京　ハイブリッド開催

240. 谷岡信寿 , 並川努 , 宗景匡哉 , 山下柚子 , 川西泰広 , 上村直 , 前田広道 , 北川博之 , 並川努 , 花﨑和弘 . 消化器外科周術期における人工膵臓を用いた至適血糖濃度域の検討 . 第 59 回日本人工臓器学会大会 , パネルディスカッション , 2021.11, 千葉　ハイブリッド開催

241. コロナ禍での学会運営および大会運営を経験して学んだこと . 第 59 回日本人工臓器学会大会 , 理事長講演 , 2021.11, 千葉 ハイブリッド開催

242. 北川博之 , 横田啓一郎 , 丸井輝 , 並川努 , 花﨑和弘 . 食道癌手術における ICG 蛍光法を用いた再建臓器血流評価の工夫 . 日本蛍光ガイド手術研究会第 4 回学術集会 , シンポジウム , 2021.05, 高知

243. 北川博之 , 横田啓一郎 , 岩部純 , 清水茂翔 , 並川努 , 花﨑和弘 . 縦隔鏡下に左上縦隔郭清を先行して行う胸腔鏡下食道切除術の有用性 . 第 121 回日本外科学会定期学術集会 , パネルディスカッション , 2021.04, Web 開催

244. 北川博之 , 横田啓一郎 , 岩部純 , 清水茂翔 , 並川努 , 花﨑和弘 . 食道癌術後経腸栄養療法における漢方薬の有用性を考える . 第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会(JSPEN2021), パネルディスカッション , 2021.07, Web 開催

245. 北川博之 , 横田啓一郎 , 丸井輝 , 並川努 , 花﨑和弘 . 食道癌左上縦隔郭清における縦隔鏡アプローチと胸腔鏡アプローチの比較 . 第 75 回日本食道学会学術集会 , ビデオシンポジウム , 2021.09, Web 開催

246. 北川博之 , 横田啓一郎 , 丸井輝 , 並川努 , 花﨑和弘 . 食道癌手術における空腸瘻と十二指腸瘻の比較 . 日本外科代謝栄養学会第 58 回学術集会 , シンポジウム , 2021.10, Web 開催

［学位（博士）授与］

授与年月日	氏　名	医博番号	博士論文名
H19.03.20	中野　琢巳	乙医博第33号	Nakano T, Araki K, Nakatani H, Kobayashi M, Sugimoto T, Furuya Y, Matsuoka T, Jin T, Hanazaki K. Effects of geldanamycin and thalidomide on the Th1/Th2 cytokine balance in mice subjected to operative trauma. Surgery. 2007; 141: 490-500.
H19.06.19	岡林　雄大	乙医博第35号	Okabayashi T, Kobayashi M, Nishimori I, Sugimoto T, Namikawa T, Onishi S, Hanazaki K. Clinicopathological features and medical management of early gastric cancer. Am J Surg. 2008; 195: 229-32.
H21.01.20	岡本　　健	乙総医博第4号	Okamoto K, Hanazaki K, Akimori T, Okabayashi T, Okada T, Kobayashi M, Ogata T. Immunohistochemical and electron microscopic characterization of brush cells of the rat cecum. Med Mol Morphol. 2008; 41: 145-50.
H21.02.27	北川　博之	甲医博第76号	Kitagawa H, Akimori T, Okabayashi T, Namikawa T, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K. Total laparoscopic gastric mobilization for esophagectomy. Langenbecks Arch Surg. 2009; 394: 617-21.
H22.03.23	秋森　豊一	甲医博第103号	Akimori T, Hanazaki K, Okabayashi T, Okamoto K, Kobayashi M, Ogata T. Quantitative distribution of brush cells in the rat gastrointestinal tract: brush cell population coincides with NaHCO3 secretion. Med Mol Morphol. 2011; 44: 7-14.
H23.03.04	緒方　宏美	乙総医博第15号	Ogata H, Mimura T, Hanazaki K. Validation study of the Japanese version of the Faecal Incontinence Quality of Life Scale. Colorectal Dis. 2012;14:194-9.
H23.03.23	前田　広道	甲医博第126号	Maeda H, Okabayashi T, Nishimori I, Yamashita K, Sugimoto T, Hanazaki K. Hyperglycemia during hepatic resection: continuous monitoring of blood glucose concentration. Am J Surg. 2010; 199: 8-13.
H24.02.05	駄場中　研	乙総医博第16号	Dabanaka K, Chung S, Nakagawa H, Nakamura Y, Okabayashi T, Sugimoto T, Hanazaki K, Furihata M. PKIB expression strongly correlated with phosphorylated Akt expression in breast cancers and also with triple-negative breast cancer subtype. Med Mol Morphol. 2012; 45: 229-33.
H25.02.28	市川　賢吾	甲医博第146号	Ichikawa K, Okabayashi T, Shima Y, Iiyama T, Takezaki Y, Munekage M, Namikawa T, Sugimoto T, Kobayashi M, Mimura T, Hanazaki K. Branched-chain amino acid-enriched nutrients stimulate antioxidant DNA repair in a rat model of liver injury induced by carbon tetrachloride. Mol Biol Rep. 2012; 39: 10803-10.
H25.05.21	塚本　雄貴	乙総医博第25号	Tsukamoto Y, Kinoshita Y, Kitagawa H, Munekage M, Munekage E, Takezaki Y, Yatabe T, Yamashita K, Yamazaki R, Okabayashi T, Tarumi M, Kobayashi M, Mishina S, Hanazaki K. Evaluation of a novel artificial pancreas: closed loop glycemic control system with continuous blood glucose monitoring. Artif Organs. 2013; 37: E67-73.
H27.11.10	宗景　匡哉	甲総医博第38号	Munekage M, Yatabe T, Kitagawa H, Takezaki Y, Tamura T, Namikawa T, Hanazaki K. An artificial pancreas provided a novel model of blood glucose level variability in beagles. J Artif Organs. 2015; 18: 387-90.
H28.07.19	酉家 佐吉子	乙総医博第34号	Toriie S, Sugimoto T, Hokimoto N, Funakoshi T, Ogawa M, Oki T, Dabanaka K, Namikawa T, Sakurai A, Hanazaki K. Evaluation of the minimally invasive parathyroidectomy in patients with primary hyperparathyroidism: A retrospective cohort study. Ann Med Surg (Lond). 2016;7:42-7.
H29.02.21	福留　惟行	乙総医博第36号	Fukudome I, Kobayashi M, Dabanaka K, Maeda H, Okamoto K, Okabayashi T, Baba R, Kumagai N, Oba K, Fujita M, Hanazaki K. Diamine oxidase as a marker of intestinal mucosal injury and the effect of soluble dietary fiber on gastrointestinal tract toxicity after intravenous 5-fluorouracil treatment in rats. Med Mol Morphol. 2014; 47: 100-7.

授与年月日	氏　名	医博番号	博士論文名
H29.03.21	志賀　　舞	甲総医博第55号	Shiga M, Maeda H, Oba K, Okamoto K, Namikawa T, Fujisawa K, Yokota K, Kobayashi M, Hanazaki K. Safety of laparoscopic surgery for colorectal cancer in patients over 80 years old: a propensity score matching study. Surg Today. 2017; 47: 951-958.
H30.01.16	甫喜本 憲弘	甲医博第161号	Hokimoto N, Sugimoto T, Namikawa T, Funakoshi T, Oki T, Ogawa M, Fukuhara H, Inoue K, Sato T, Hanazaki K. A Novel Color Fluorescence Navigation System for Intraoperative Transcutaneous Lymphatic Mapping and Resection of Sentinel Lymph Nodes in Breast Cancer: Comparison with the Combination of Gamma Probe Scanning and Visible Dye Methods. Oncology. 2018; 94: 99-106.
R01.11.26	岩部　　純	甲総医博第82号	Iwabu J, Yamashita S, Takeshima H, Kishino T, Takahashi T, Oda I, Koyanagi K, Igaki H, Tachimori Y, Daiko H, Nakazato H, Nishiyama K, Lee YC, Hanazaki K, Ushijima T. FGF5 methylation is a sensitivity marker of esophageal squamous cell carcinoma to definitive chemoradiotherapy. Sci Rep. 2019; 9: 13347.
R02.02.10	沖　　豊和	乙総医博第53号	Oki T, Sugimoto T, Ogawa M, Dabanaka K, Namikawa T, Hanazaki K. Evaluation of Follow-up Examinations Using Ultrasonography for Patients With Thyroid Nodules Initially Diagnosed as Benign. Anticancer Res. 2019; 39: 2061-2067.
R03.01.19	小河　真帆	乙総医博第54号	Ogawa M, Namikawa T, Oki T, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Dabanaka K, Sugimoto T, Kobayashi M, Sakata O, Matsuda K, Hanazaki K. Evaluation of Perioperative Intestinal Motility Using a Newly Developed Real-Time Monitoring System During Surgery. World J Surg. 2021; 45: 451-458.
R03.03.04	上村　　直	甲総医博第110号	Uemura S, Sugiura T, Okamura Y, Ito T, Yamamoto Y, Ashida R, Hanazaki K, Uesaka K. Adverse effects of prolonged postoperative hospital stay on long-term survival of pancreatic adenocarcinoma. Ann Cancer Res Ther. 2021; 29: 11-16.

［学位論文（学位取得予定者）］

氏　名	博士論文名
藤枝　悠希	Fujieda Y, Maeda H, Oba K, Okamoto K, Fukudome I, Shiga M, Kawanishi Y, Akimori T, Kuroiwa H, Nishimoto H, Namikawa T, Murakami I, Kobayashi M, Hanazaki K. Lymph node retrieval after colorectal cancer surgery: a comparative study of the efficacy between the conventional manual method and a new fat dissolution method. Surg Today. 2020; 50: 726-733.
横田 啓一郎	Yokota K, Serada S, Tsujii S, Toya K, Takahashi T, Matsunaga T, Fujimoto M, Uemura S, Namikawa T, Murakami I, Kobayashi S, Eguchi H, Doki Y, Hanazaki K, Naka T. Anti-Glypican-1 Antibody-drug Conjugate as Potential Therapy Against Tumor Cells and Tumor Vasculature for Glypican-1-Positive Cholangiocarcinoma. Mol Cancer Ther. 2021; 20: 1713-1722.
宗景　絵里	Munekage E, Serada S, Tsujii S, Yokota K, Kiuchi K, Tominaga K, Fujimoto M, Kanda M, Uemura S, Namikawa T, Nomura T, Murakami I, Hanazaki K, Naka T. A glypican-1-targeted antibody-drug conjugate exhibits potent tumor growth inhibition in glypican-1-positive pancreatic cancer and esophageal squamous cell carcinoma. Neoplasia. 2021; 23: 939-950.
辻井　茂弘	Tsujii S, Serada S, Fujimoto M, Uemura S, Namikawa T, Nomura T, Murakami I, Hanazaki K, Naka T. Glypican-1 Is a Novel Target for Stroma and Tumor Cell Dual-Targeting Antibody-Drug Conjugates in Pancreatic Cancer. Mol Cancer Ther. 2021; 20: 2495-2505.

［ 科学研究費 ］

研究課題

人工膵臓を用いたサルコペニア手術患者における糖代謝動態の解明と新規治療法の開発

《研 究 種 目》 基盤研究（C）
《研 究 期 間》 2021.04.01 ～ 2024.03.31
《研究代表者》 花﨑 和弘
《研究分担者》 藤本 新平、北川 博之、前田 広道、並川 努、宮村 充彦、上村 直、宗景 匡哉
《配　分　額》 4,160 千円（直接経費 : 3,200 千円、間接経費 : 960 千円）
2023 年度 : 1,560 千円（直接経費 : 1,200 千円、間接経費 : 360 千円）
2022 年度 : 1,560 千円（直接経費 : 1,200 千円、間接経費 : 360 千円）
2021 年度 : 1,040 千円（直接経費 :　800 千円、間接経費 : 240 千円）

研究課題

腸音モニタリングシステムを用いた外科手術周術期における新規腸蠕動運動解析法の開発

《研 究 種 目》 基盤研究（C）
《研 究 期 間》 2020.04.01 ～ 2023.03.31
《研究代表者》 並川 努
《研究分担者》 北川 博之、小林 道也、花﨑 和弘
《配　分　額》 4,420 千円（直接経費 : 3,400 千円、間接経費 : 1,020 千円）
2022 年度 : 1,300 千円（直接経費 : 1,000 千円、間接経費 : 300 千円）
2021 年度 : 1,560 千円（直接経費 : 1,200 千円、間接経費 : 360 千円）
2020 年度 : 1,560 千円（直接経費 : 1,200 千円、間接経費 : 360 千円）

研究課題

Glypican-1 を標的とした膵癌新規治療薬の開発

《研 究 種 目》 若手研究
《研 究 期 間》 2020.04.01 ～ 2023.03.31
《研究代表者》 上村 直
《配　分　額》 4,290 千円（直接経費 : 3,300 千円、間接経費 : 990 千円）
2022 年度 : 1,560 千円（直接経費 : 1,200 千円、間接経費 : 360 千円）
2021 年度 : 1,560 千円（直接経費 : 1,200 千円、間接経費 : 360 千円）
2020 年度 : 1,170 千円（直接経費 :　900 千円、間接経費 : 270 千円）

研究課題

ICG 蛍光法による血流可視化と人工知能解析を用いた新規食道癌手術再建技術の開発

《研 究 種 目》 基盤研究（C）
《研 究 期 間》 2020.04.01 ～ 2023.03.31
《研究代表者》 北川 博之
《研究分担者》 岩部 純、並川 努、花﨑 和弘
《研究課題ステータス》 交付（2020 年度）
《配　分　額》 4,160 千円（直接経費 : 3,200 千円、間接経費 : 960 千円）
2022 年度 : 1,040 千円（直接経費 :　800 千円、間接経費 : 240 千円）
2021 年度 :　780 千円（直接経費 :　600 千円、間接経費 : 180 千円）
2020 年度 : 2,340 千円（直接経費 : 1,800 千円、間接経費 : 540 千円）

研究課題

便色判別プログラムを利用した胆道閉鎖症早期発見のためのフィールド実証研究

《研 究 種 目》 基盤研究（C）
《研 究 期 間》 2018.04.01 ～ 2023.03.31
《研究代表者》 大畠 雅之
《研究分担者》 星野 絵里（立命館大学　総合科学技術研究機構　准教授）
《配　分　額》 4,290 千円（直接経費 : 3,300 千円、間接経費 : 990 千円）
2022 年度 :　260 千円（直接経費 :　200 千円、間接経費 :　60 千円）
2021 年度 :　260 千円（直接経費 :　200 千円、間接経費 :　60 千円）
2020 年度 :　130 千円（直接経費 :　100 千円、間接経費 :　30 千円）
2019 年度 :　260 千円（直接経費 :　200 千円、間接経費 :　60 千円）
2018 年度 : 3,380 千円（直接経費 : 2,600 千円、間接経費 : 780 千円）

研究課題

人工膵臓は外科的糖尿病の糖毒性を解消できるか?

《研 究 種 目》 基盤研究（C）
《研 究 期 間》 2018.04.01 ～ 2021.03.31
《研究代表者》 花﨑 和弘
《研究分担者》 藤本 新平、北川 博之、藤澤 和音、並川 努、矢田部 智昭、上村 直
《配　分　額》 4,420 千円（直接経費 : 3,400 千円、間接経費 : 1,020 千円）
2020 年度 : 1,950 千円（直接経費 : 1,500 千円、間接経費 : 450 千円）
2019 年度 : 1,430 千円（直接経費 : 1,100 千円、間接経費 : 330 千円）
2018 年度 : 1,040 千円（直接経費 :　800 千円、間接経費 : 240 千円）

研究課題

胃癌の内視鏡的粘膜切除における5-ALAを用いた革新的光力学的診断の開発応用

《研 究 種 目》 基盤研究（C）
《研 究 期 間》 2017.04.01 ～ 2020.03.31
《研究代表者》 並川 努
《研究分担者》 前田 広道、小林 道也、花﨑 和弘
《配　分　額》 4,680 千円（直接経費 : 3,600 千円、間接経費 : 1,080 千円）
2019 年度 : 1,040 千円（直接経費 :　800 千円、間接経費 : 240 千円）
2018 年度 : 1,430 千円（直接経費 : 1,100 千円、間接経費 : 330 千円）
2017 年度 : 2,210 千円（直接経費 : 1,700 千円、間接経費 : 510 千円）

研究課題

人工膵臓を用いた新しい血糖変動モデルの確立と血糖変動が生体に及ぼす病態の解明

《研 究 種 目》 基盤研究（C）
《研 究 期 間》 2014.04.01 ～ 2017.03.31
《研究代表者》 花﨑 和弘
《研究分担者》 北川 博之、並川 努、矢田部 智昭、宗景 匡哉
《配　分　額》 4,940 千円（直接経費 : 3,800 千円、間接経費 : 1,140 千円）
2016 年度 : 1,300 千円（直接経費 : 1,000 千円、間接経費 : 300 千円）
2015 年度 : 2,340 千円（直接経費 : 1,800 千円、間接経費 : 540 千円）
2014 年度 : 1,300 千円（直接経費 : 1,000 千円、間接経費 : 300 千円）

研究課題

腹部術後早期の起立性低血圧の予測とその予防デバイスの開発

《研 究 種 目》 基盤研究（C）
《研 究 期 間》 2012.04.01 ～ 2015.03.31
《研究代表者》 北川 博之
《研究分担者》 山崎 文靖
《連携研究者》 佐藤 隆幸
《配　分　額》 5,200 千円（直接経費 : 4,000 千円、間接経費 : 1,200 千円）
2014 年度 : 1,560 千円（直接経費 : 1,200 千円、間接経費 : 360 千円）
2013 年度 : 1,690 千円（直接経費 : 1,300 千円、間接経費 : 390 千円）
2012 年度 : 1,950 千円（直接経費 : 1,500 千円、間接経費 : 450 千円）

研究課題

消化器外科周術期における人工膵臓を用いた新しい血糖管理法の確立

《研 究 種 目》 基盤研究（C）
《研 究 期 間》 2007 ～ 2008
《研究代表者》 花﨑 和弘
《研究分担者》 岡林 雄大、前田 広道、西森 功、上原 良雄
《配　分　額》 3,510 千円（直接経費 : 2,700 千円、間接経費 : 810 千円）
2008 年度 : 1,690 千円（直接経費 : 1,300 千円、間接経費 : 390 千円）
2007 年度 : 1,820 千円（直接経費 : 1,400 千円、間接経費 : 420 千円）

［ 研究助成 ］

研究課題

治験の実施に関する研究［5ALA］「進行胃癌患者を対象とした審査腹腔鏡検査時におけるSPP-006を用いた光線力学診断の安全性及び有効性を検討する多施設共同試験

《研 究 種 目》 臨床研究・治験推進研究事業　公益社団法人日本医師会
《研 究 期 間》 2015.09.17 ～ 2017.03.31
《研究代表者》 並川 努
《共同研究者》 花﨑 和弘、北川 博之、宗景 匡哉、宗景 絵里、山岡 和子、堀田 千栄、上田 真由美、白石 佳世、川村 麻由
《配　分　額》 559 千円

研究課題

薬物動態－メタボローム統合解析による麻黄湯の有用性・安全性についての研究

《研 究 種 目》「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業 日本医療研究開発機構
《研 究 期 間》 2016.04.01 ～ 2017.03.31
《研究代表者》 花﨑 和弘
《研究分担者》 杉浦 哲朗、宮村 充彦、山本 雅浩、北川 博之、宗景 匡哉
《配　分　額》 4,940 千円

研究課題

治験の実施に関する研究【5ALA】(進行胃癌患者を対象とした審査腹腔鏡検査時における SPP-005を用いた光線力学診断の有用性及び安全性を検討する多施設共同試験(検証試験))

《研 究 種 目》 臨床研究・治験推進研究事業　公益社団法人　日本医師会
《研 究 期 間》 2017.08.28 ～ 2020.03.31
《研究代表者》 並川 努
《研究分担者》 花﨑 和弘
《研　究　員》 北川 博之、上村 直、岩部 純、藤澤 和音
《研究補助員》 山岡 和子、西岡 妙子、堀田 千栄、上田 真由美、白石 佳世、長野 美和、府川 さやか、牧嶋 理恵、公家 逸、川村 麻由
《配　分　額》 4,942 千円
2017 年度：　394 千円
2018 年度：3,699 千円
2019 年度：　849 千円

研究課題

胆道閉鎖症の早期診断に関する研究」における尿中硫酸抱合型胆汁酸に関する研究

《研 究 種 目》 医療研究開発推進事業費補助金（難治性疾患実用化研究事業）
《研 究 期 間》 2017.04.27 ～ 2020.03.31
《研究分担者》 大畠 雅之
《配　分　額》 8,190 千円

［ 受託研究費 ］

研究課題

外科手術症例登録データならびに医療費データの連携に基づく地域医療体制の評価と改善に関する研究

《研 究 種 目》 臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業
《研 究 期 間》 2016.10.17 ～ 2019.03.31
《研究分担者》 花﨑 和弘
《配　分　額》 854 千円
2016 年度：345 千円
2017 年度：394 千円
2018 年度：115 千円

研究課題

脂質代謝を標的とした新規癌治療法の開発

《研 究 種 目》 医療分野研究成果展開事業 産学連携医療イノベーション創出プログラム
基本スキーム【ACT-M】
《研 究 期 間》 2018.09.18 ～ 2021.03.31
《研究分担者》 花﨑 和弘

研究課題

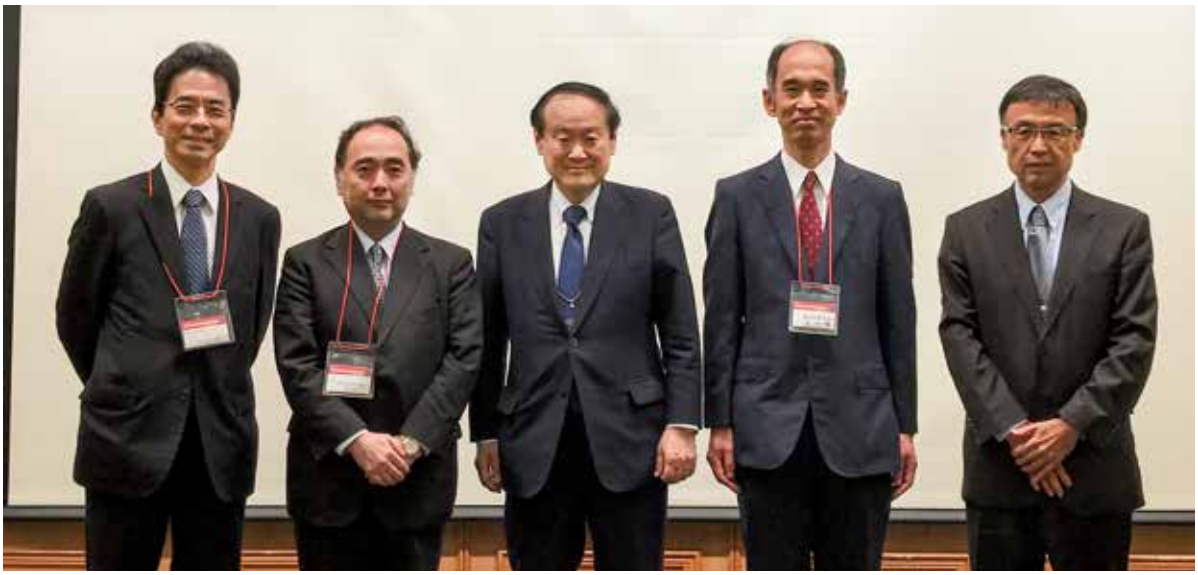
膵臓癌を標的とした抗体薬物複合体による革新的治療法の創出を目指した研究

《研 究 種 目》 臨床研究・治験基盤事業 革新的医療技術創出拠点プロジェクト
橋渡し研究戦略的推進プログラム シーズ B
《研 究 期 間》 2018.09.25 ～ 2019.03.31
《研究分担者》 花﨑 和弘

第 27 回消化器疾患病態治療研究会（旧潰瘍病態研究会）

当番会長・花﨑 和弘
高知大学医学部外科学講座外科 1 教授

このたび、2018 年 9 月 14 日（金曜日）・15 日（土曜日）の 2 日間、第 27 回消化器疾患病態治療研究会（旧潰瘍病態研究会）を高知市の三翠園（さんすいえん）にて開催させていただきます。西日本では初めての開催となります。歴史と伝統のある本研究会の当番世話人を仰せつかり、まことに光栄に存じますと共に、私どもの教室、同門会、大学にとりましても大変栄誉なことと慶んでおります。本会は潰瘍病態研究会として発展して参りました。近年は潰瘍病態に加えて、消化器悪性疾患や肝胆膵疾患も含めた消化器疾患全体の病態治療の研究成果を発表する学会として更なる発展を遂げつつあります。今回のメインテーマは、「高齢者・生活習慣病・感染症をキーワードに」です。本流の消化管だけでなく、私の専門であります肝胆膵疾患の病態治療に関する研究成果も、近年エビデンスが増加中のメインテーマに焦点をあてながら、ご発表いただけたら嬉しく思います。研修医を対象とした最優秀演題賞も継続して参ります。若い世代からの演題応募およびご参加も大いに歓迎いたします。会場の三翠園は、古くから高知城下の天然温泉宿として有名です。旧土佐藩の美しい庭園もあり、日ごろの疲れを癒すにはピッタリ



です。また高知は酒客に対して日本一寛大であり、「飲ンベイ」にとっては天国です。海・山・川の食材の宝庫でもあります。こうした機会でも無い限り、高知を訪れる機会は少ないのではないでしょうか。多くの皆様のご参加を心から歓迎申し上げます。

第 81 回日本臨床外科学会総会

会長・花﨑 和弘
高知大学外科学講座外科 1 教授

このたびは歴史と伝統のある日本臨床外科学会総会の第 81 回総会（2019 年 11 月 14 日（木）から 16 日（土））のお世話を務めさせていただくことになりました。私たちの教室、同門、大学にとりまして大変栄誉でありますとともに我が国の臨床外科学の更なる発展に貢献する総会になるものと願っております。そのために、教室と同門を挙げて万全の態勢をとらせていただく所存であります。

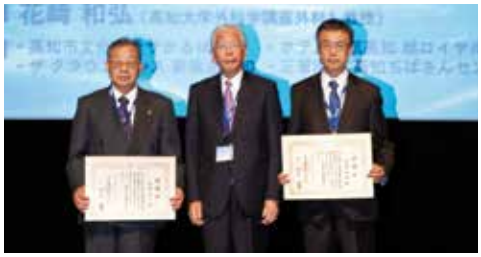
今回のメインテーマは「地域から世界へ発信する臨床外科学：Staying Local, Moving Global」と致しました。日本臨床外科学会は、長年にわたり社会に貢献する臨床外科医の育成に尽力してきました。この基本理念は、未来永劫ゆるぎないものと信じています。しかしながら、昨今の外科医減少を発端とした種々の問題は、多くの国民に安心な外科診療を提供する上で大きな不安材料になりつつあります。特に僻地医療も含めた地域医療は崩壊の危機を迎えています。臨床現場で働く外科医は、社会からさまざまな期待と要求が寄せられています。その結果、ヒラリークリントンが来日の際に、日本の外科医はあたかも聖職者のようだと形容したような深刻な過重労働を引き起こし、外科医減少の要因にもなっています。こうした臨床外科医の過重労働への対策も本総会が率先して取り組まなければならない喫緊の課題であります。これらの問題解決は、“地域医療の復活と活性化”にかかっています。幸い、日本臨床外科学会は東京を本部として全国津々浦々に支部を配置し、地域医療を支える活動を展開しています。本総会はそうした支部活動にも焦点を当てながら、地域から世界へ発信する輝かしい臨床外科学の未来の扉を開けられるような総会になればと切望しています。理想は地域医療をしながら世界の外科医療も動かせるような明るい未来の外科医像です。また本総会は男女共同参画の推進や外科医の労働環境改善や南海トラフ地震に代表される災害医療対策に関する企画運営も予定しています。更にヘルニア、虫垂炎、胆石症をはじめとする臨床外科医のためのCommon Diseaseについてもしっかり討論していただけたらと考えています。尚、これまでの総会は消化器外科分野のプログラムが中心でしたが、本総会では心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺・内分泌外科、形成外科をはじめとする様々な外科医療分野に従事されている臨床外科医も参加しやすいプログラムを作成中です。

本総会では、内視鏡外科手術およびロボット手術だけでなく、光線医療や癌ゲノム医療などの臨床外科学に直結する最新医療の知識も深められる企画も予定しています。特に地域医療を支えておられる臨床外科医の皆様に 1 人でも多くご参加していただき、「高知に行って本当に

良かった」と心の底から思っていただけるような「記憶と思い出に残る総会」にする所存です。

高知では初めて、四国では28年ぶりの本総会開催になります。多くの困難が予想される中、「地方創生」の願いも込めて高知開催に踏み切りました。大都市開催と異なり、華やかさには欠けます。その分「おもてなしと学び」の心を基本とし、質素を旨として運営を行うつもりです。

我々教室員・同門一同、実りある総会となりますよう鋭意努力してまいりますので、皆様のご指導とご協力をお願い申し上げると共に、第81回日本臨床外科学会総会に奮ってご参加いただけますように重ねてお願い申し上げます。



第 38 回日本ヒト細胞学会学術集会

会長・花﨑 和弘
高知大学医学部外科学講座外科１ 教授

令和２年（2020 年）８月 22 日（土）から 23 日（日）の２日間、高知市にて第 38 回日本ヒト細胞学会学術集会を開催させていただきます。輝かしい歴史と伝統を誇る本学術集会を主催できることは、私どもの教室・同門・大学にとりまして身に余る光栄であります。これも偏に四ノ宮理事長はじめ理事・評議員・会員の皆様のおかげです。本当にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

本会のテーマは「ヒト細胞学研究の多様性と革新性：日本から世界へ発信するヒト細胞学」と致しました。招聘講演（東工大の小倉先生）・特別講演（四ノ宮理事長）・教育講演（嶋田副理事長）をはじめランチョンセミナー２つを含む 39 演題のご発表を介してヒト細胞学の多様性と革新性に触れていただき、明日からの研究および診療にお役立ていただけたら大変嬉しく思います。特筆すべき企画として８月 22 日の夕方に高知市出身の四ノ宮理事長・片岡理事も交えて「高知が生んだ研究者が語る細胞について知ろう：人は細胞から出来ている」の市民公開講座（入場無料 200 名限定先着順）を行います。

ご存じのようにパンデミック化した新型コロナウィルス感染症により、多くの集合型学会が中止・延期に追い込まれる中での開催となります。学会 HP や本プログラム集にも掲載していますが、新型コロナウィルス感染症対策も兼ねて以下の５点を厳守してください。

1. 発熱・味覚障害・体調不良など症状がある方のご参加は認めません
2. マスクの着用：参加者全員（会場でもご用意します）
3. ３密を避ける：Social Distance の保持（原則として２m 以上が望ましい）
4. 消毒薬による手洗い：会場の出入り口および会場内に設置した消毒薬をご使用してこまめに手洗いをしましょう
5. 会場内で気分が悪くなった場合は直ちにスタッフに申し出てください

新型コロナウィルスは高温多湿と紫外線に弱いという特徴が報告されています。開催時期の

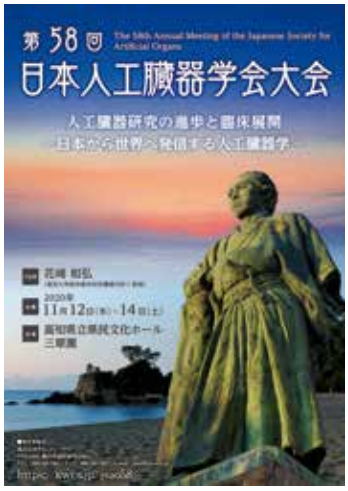
高知市は全国有数の紫外線の強さと高温多湿の気象条件を備えています。また会場内は常時換気を行いますので、ノーネクタイかつクールビズかつマイボトル持参でのご参加を是非とも励行してください。安全かつ円滑な大会運営を心がけて参ります。参加者の皆様から格別なご支援・ご協力を賜ります様、何卒宜しくお願い申し上げます。

四国では初めての記念すべき学術集会開催になります。高知は「海・山・川」の自然に恵まれ、食材の宝庫として有名です。観光客を対象とした全国のアンケート調査において「食べ物の美味しい都道府県」の中で毎年ベスト３以内にランキングされています。お遍路文化で培われた「おもてなし」の心を基本とし、「高知に行って本当に良かった。楽しかった」と言っていただける学会運営を行うつもりです。主会場となる高知県民文化ホールは2020年にリニューアルしたばかりの３密を回避できる大きな会場です。教室員・同門だけでなく、市民公開講座も含めてオール高知で実りある学会となる様に誠心誠意準備いたします。

繰り返しになりますが、会期中は新型コロナウィルス感染症対策および熱中症対策を積極的に推進いたします。一人でも多くの皆様のご参加をお待ちし、歓迎申し上げます。

第 58 回日本人工臓器学会大会

大会長・花﨑 和弘
高知大学医学部外科学講座外科 1 教授



この度、第 58 回日本人工臓器学会大会の大会長を拝命しました。歴史と伝統に輝く本大会のお世話を令和 2 年（2020 年 11 月 12 日（木）から 14 日（土））Tokyo Olympic Year となる節目の年に高知市で開催させていただけることは、私どもの教室・同門・大学にとりまして身に余る光栄であります。会員の皆様に対し、謹んで御礼申し上げますと共に、その重責に身が引き締まる思いです。本当にありがとうございます。

本大会のテーマは「人工臓器研究の進歩と臨床展開：日本から世界へ発信する人工臓器学」と致しました。以下に本大会の概要と特徴を述べさせていただきます。

①人工臓器研究の進歩：人工臓器に関する様々な分野の基礎研究および臨床研究をご発表ください。研究は仮説とアイデアが一番重要です。既に終盤を迎えた完成度の高い研究だけでなく、アイデア先行のようやく走り始めの研究も是非とも発表していただきたく存じます。加えて中堅からベテランの演者だけでなく、将来の人工臓器学会を担うであろう若手研究者の発表も大いに期待しています。

②人工臓器研究の臨床展開：著名な会員の皆様から斬新なアイデアはある。しっかり研究もした。だけど臨床応用が出来なかった。という類のお話を良くお聞きします。そのたびに思うことは「もったいない」ということです。優れた研究テーマには大会を介してアワード等を授与するに留まらず長いスパンをかけて人工臓器学会がサポートし、最終的に臨床展開に繋がる「支援体制の整備と強化」が求められます。臨床展開へのサポートに役立つセッションを多数企画します。

③多職種の会員の皆様の大会参加：「高知だけは一度も行ったことがない」という会員は沢山いらっしゃいます。こうした機会でも無い限り、一生高知に来ることはないかもしれません。したがって、本大会への参加を口実に少しでも多くの会員の皆様に高知に足を運んでいただきたく存じます。学会員数の多い臨床工学技士や今後の活躍と躍進が期待される看護師をはじめとするパラメディカルスタッフの皆様が参加できるセッションも多数企画します。是非

とも高知にお越しください。

④人工膵臓のハンズオンセミナー：本大会では第一回目となる人工膵臓療法ハンズオンセミナーを企画します。学会の Certification も取得できるように準備しています。

四国では初めての記念すべき大会開催になります。11 月は戻り鰹の美味しい時期であり、大会終了翌日に当たる 11 月 15 日は高知が生んだ幕末のヒーロー坂本龍馬の生誕祭とも重なります。お遍路文化で培われた「おもてなし」の心を基本とし、「高知に行って本当に良かった。楽しかった」と言っていただける大会運営を行うつもりです。主会場となる高知県民文化ホールは 2020 年にリニューアルします。もう一つの会場となる隣接の「三翠園」は西郷隆盛と山内容堂が大政奉還に向けて会談した由緒ある山内家の別邸跡でもあります。教室員・同門だけでなく、高知県も含めてオール高知で実りある大会となりますよう誠心誠意準備いたします。奮ってご参加いただけますように何卒よろしくお願い申し上げます。

日本蛍光ガイド手術研究会第４回学術集会

当番世話人・花﨑 和弘
高知大学医学部外科学講座（消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、小児外科学）教授

非常事態宣言は解除されたものの、新型コロナウィルス感染で大変な時期です。皆様くれぐれもご自愛され、お元気でお過ごしください。お互いに頑張りましょう！！

さて、このたび2021年５月14日（金）・15日（土）２日間の日程で日本蛍光ガイド手術研究会第４回学術集会を「高知市文化プラザかるぽーと」にて開催させていただきます。

西日本では京都大学（戸井雅和教授）に続いて２施設目の開催となります。私たちの教室、同門会、大学にとりまして大変栄誉であり、誠に光栄に存じます。本学術集会開催に当たり、戸井雅和代表世話人をはじめとする会員の皆様から格別なご支援およびご高配を賜り、誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

本学術集会のテーマは「光り輝く未来を目指して－日本から世界へ発信する蛍光ガイド手術－」とさせていただきました。

ご存知のように、本学会はインドシアニングリーン（ICG）を用いた蛍光ガイド手術を主体に発展して参りました。近年はICG蛍光法をはじめとする様々な蛍光ガイド手術の臨床応用や開発研究が盛んになってきており、更なる発展を遂げています。

こうした背景も踏まえて、第４回目を迎えます本学術集会におきましては、光り輝く未来としての学会活性化を目指して、従来からの消化器外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科領域のご発表に留まらず、泌尿器科、産婦人科、形成外科領域等も含めた様々な領域の蛍光ガイド手術に関するOriginality溢れるエビデンスを日本から世界へ向けて発信していただけたら有難く存じます。

完成された研究やエキスパートの皆様からのご発表だけでなく、発展途上の研究や将来が期待される若手からのご発表も大いに歓迎いたします。

「全国都道府県の中で、高知県だけは一度も訪れたことがない」会員の皆様も沢山いるでしょう。各施設１演題で結構です。この機会に是非とも演題を出していただき、多くの皆様に高知へお越しいただけたら望外の喜びです。

高知は海の幸・山の幸・川の幸のすべての幸が味わえる食材の宝庫です。加えて日本酒の「土佐鶴」「司牡丹」「酔鯨」「安芸虎」「美丈夫」、焼酎の「ダバダ火振り」をはじめとする名立たる地酒も沢山ございます。どうか多種多様な地酒と共に、「鰹のたたき」「ウツボのから揚げ」「四万十鰻の蒲焼」「土佐の赤牛」「四万十ポーク」「土佐ジローの卵かけご飯」をはじめとする

美味しい土佐料理もご堪能ください。
　皆様のお越しを心から歓迎申し上げます。

第 31 回外科漢方フォーラム学術集会

当番世話人・花﨑 和弘
高知大学医学部外科学講座（消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、小児外科学）教授

［手術件数］

科目 / 年	肝胆膵	（内・肝切除）	（内・膵頭十二指腸切除）	食道（悪性）	胃・十二指腸	結腸癌	直腸癌	乳腺内分泌	小児	その他	合計
2006	86	60	19	8	62	31	20	88	7	106	487
2007	94	71	12	23	65	41	18	93	10	55	482
2008	109	80	18	10	93	34	21	138	18	47	568
2009	99	46	13	21	80	62	22	155	33	46	577
2010	66	30	10	15	80	46	28	165	26	106	572
2011	89	51	15	16	91	40	34	154	14	107	611
2012	52	31	7	8	119	65	41	160	18	132	633
2013	74	18	5	16	83	62	26	193	55	110	642
2014	109	31	15	21	81	65	31	155	55	81	644
2015	108	33	5	17	107	55	28	141	59	33	586
2016	130	50	6	26	87	53	31	149	82	27	641
2017	97	45	3	26	62	63	33	198	84	91	702
2018	93	32	7	25	84	39	33	175	102	112	702
2019	121	46	6	31	73	65	28	166	75	111	722
2020	116	47	12	22	75	77	31	187	91	183	841
2021	144	49	10	29	71	70	39	185	103	152	852

楷風会員賞

Kaifukai Award

楷風会賞

楷風会賞は該当年度に一番activityの高い学術活動を行った楷風会員に贈られる賞

《2006》小林 道也
《2007》杉本 健樹
《2008》岡林 雄大
《2009》並川　努
《2010》並川　努
《2011》前田 広道
《2012》並川　努
《2013》並川　努
《2014》並川　努
《2015》北川 博之
《2016》北川 博之
《2017》北川 博之
《2018》並川　努
《2019》前田 広道
《2020》前田 広道
《2021》教室員一同

Impact Factor 賞

該当年度に一番impact factorが高い雑誌に論文掲載が認められた（acceptされた）楷風会員に贈られる賞

《2006》中野 琢巳（Surgery）
《2007》前田 広道（Journal of The American College of Surgeons）
《2008》岡林 雄大（Archives of Surgery）
《2009》岡林 雄大（Diabetes Care）
《2010》岡林 雄大（Amino Acids）
《2011》岡林 雄大（Amino Acids）
《2012》並川　努（Clinical Gastroenterology and Hepatology）
《2013》宗景 匡哉（Drug Metabolism & Disposition）
《2014》並川　努（Gastroenterology）
《2015》並川　努（Gastrointestinal Endoscopy）
《2016》並川　努（Gastroenterology）
《2017》並川　努（Clinical Gastroenterology and Hepatology）
《2018》並川　努（Gastric Cancer）
《2019》北川 博之（The New England Journal of Medicine）
《2020》並川　努（Oncology）
《2021》上村　直（Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences）

思い出の写真

Memorial Photo

花﨑和弘教授
就任記念祝賀会

2006 年 6 月 3 日

就任のご挨拶

開場

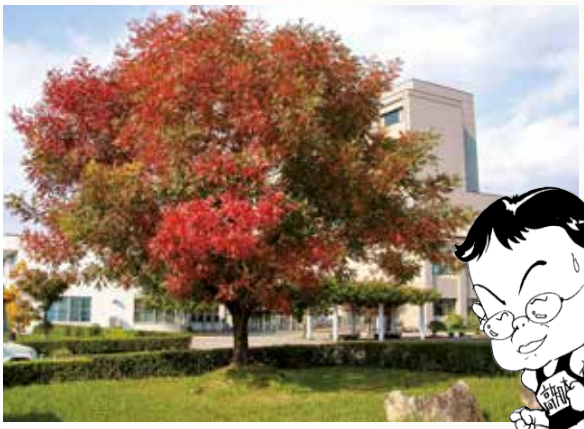
緒方先生夫人と

能勢先生ご祝辞

さくら道

2006 年航空写真

2006 年始まりの年



医局にて
2011年

医局にて
2021年

手術（2010 年ごろ）

手術

2021 年 4 月のさくら道

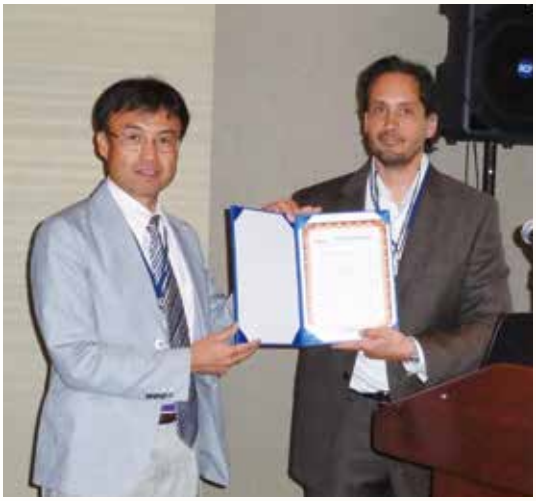
実験風景

人工膵臓　基礎実験

基礎実験グループ

海外出張

Professor Michael Ellis DeBakey,
Baylor College of Medicine



World Congress Bioavailability
Bioequivalence, Las Vegas,2011

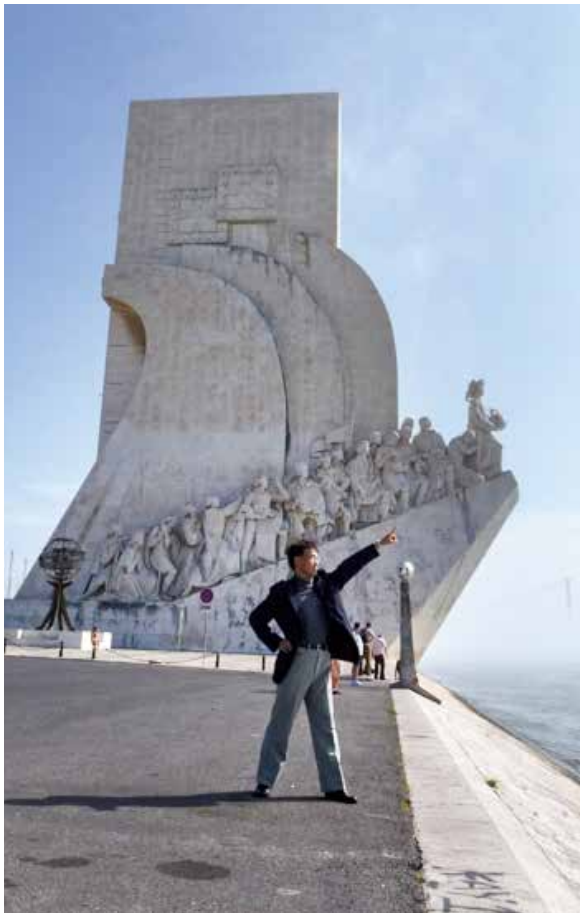
Advanced Technologies & Treatments
for Diabetes　(ATTD2012)

With Professor Yukihiko Nosé and
Professor F. Charles Brunicardi

Dr. Baurmeister and Baurmeister at
46th ESAO Congress Hannover 2019

Invited Lecture, Hong Kong, Liver transplantation meeting 2011

Bahrain 国際交流



Infante Dom Henrique

Diabetes Technology Meeting

ACM-2011, Symposium, Reception at Bangkok

楷風会総会
特別講演会

2016 年 5 月

余興

オフショット

掛け軸とともに

打ち上げ

夏の飲み会

高知城前にて

バーベキュー

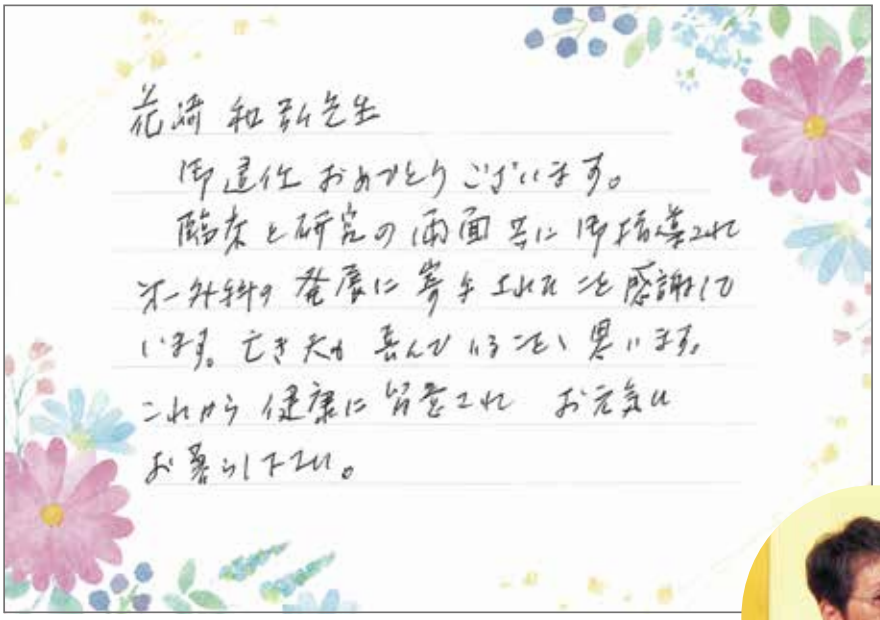
医局旅行

寄せ書き

Message

花﨑和弘教授ご退任に寄せて

［歴代教授・夫人より］



花﨑 和弘先生

御退任おめでとうございます。
臨床と研究の両面共に御活躍され
第一外科の発展に尽力されたことを感謝致
します。亡き夫も喜んでいることと思います。
これから健康に留意され お元気で
お暮らしください。

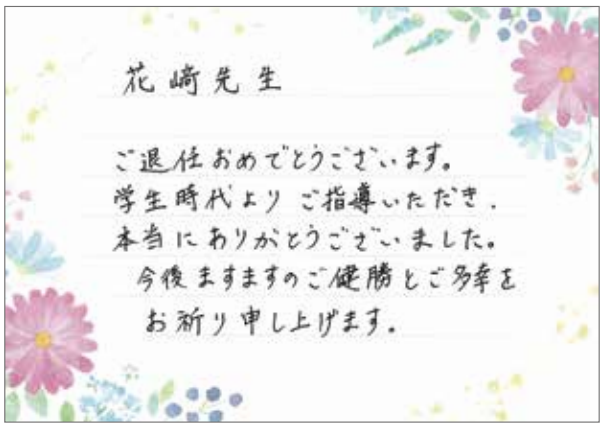
緒方 日向（高知大学１外科初代教授 緒方卓郎先生夫人）

風林火山 風のごとく疾く、林のごとく
沈着に 火の如く激しく 山の如く泰然として…
お場所は信州から高知まで激波で真っ直ぐ進んで代表幹事に
なられた事が想い起こされます。外科学の発展に
多大な貢献をされ多くの将来の巨木を育成された事に
心から感謝致します。今後はお身体にも留意されて
ますますの御活躍を祈念致します。

荒木 京二郎（高知大学１外科 第二代教授 名誉教授）

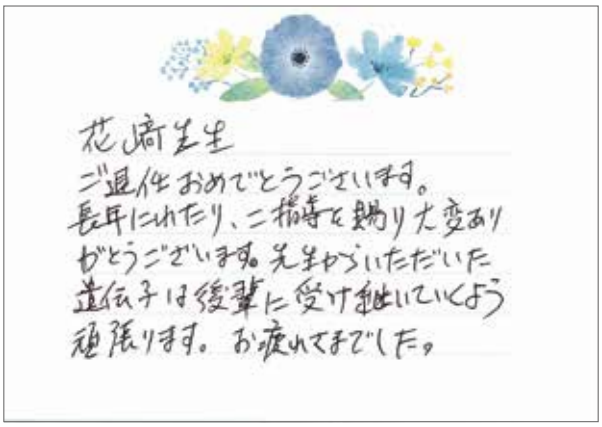
花﨑和弘教授
ご退任に寄せて

［50 音順］

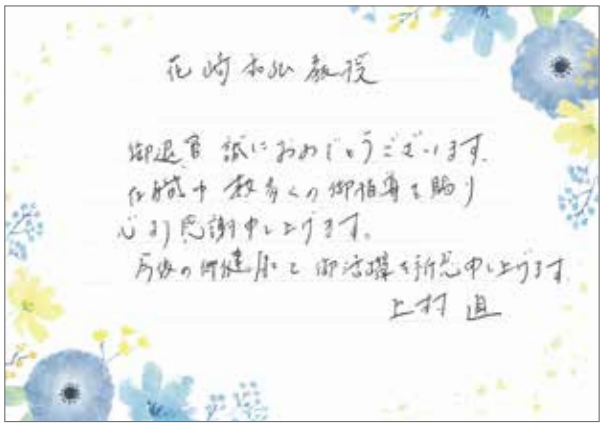

花崎先生

ご退任おめでとうございます。
学生時代より ご指導いただき、
本当にありがとうございました。
今後ますますのご健勝とご多幸を
お祈り申し上げます。

石田 信子（高知県立幡多けんみん病院　主査）

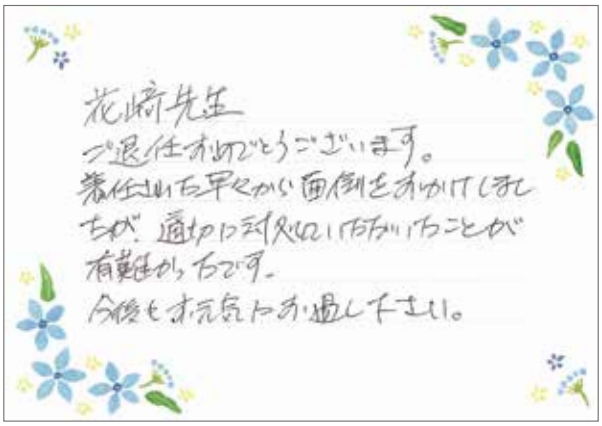

花崎先生
ご退任おめでとうございます。
長年にわたり、ご指導を賜り大変ありがとうございます。先生がいただいた遺伝子は後輩に受け継いでいくよう頑張ります。お疲れさまでした。

秋森 豊一（高知県立幡多けんみん病院　外科部長）


花崎和弘教授

御退官 誠におめでとうございます。
在職中 数多くの御指導を賜り
心より感謝申し上げます。
今後の御健康と御活躍を祈念申し上げます
上村 直

上村 直（高知大学医学部外科学講座外科　助教）


花崎先生
ご退任おめでとうございます。
業務上の早々から面倒をおかけしましたが、適切に対処していただいたことが有難かったです。
今後もお元気でお過し下さい。

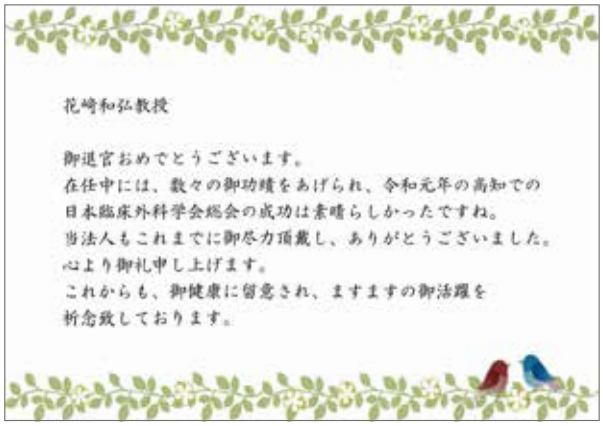
安藤 徹（社会医療法人　仁生会　細木病院　緩和ケア科部長）

花崎先生
ご退任おめでとうございます。
臨床に研究にと お疲れ
さまでした。

臼井 隆（医療法人　臼井会　田野病院　理事長）

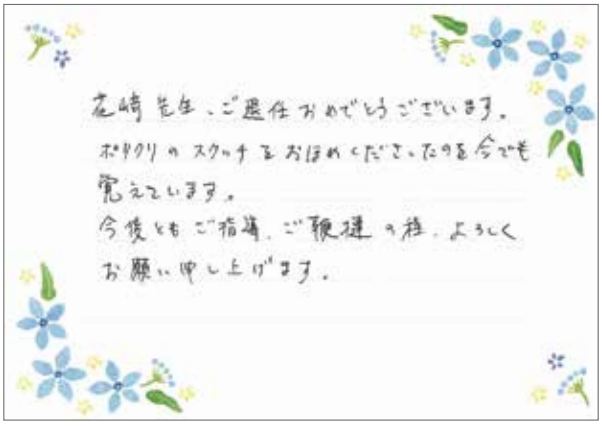
花崎先生
ご退任おめでとうございます。
長年にわたり当院の患者さんも大変
お世話になり 感謝申し上げます。
今後のご健康と ますますのご活躍を
お祈り申し上げます。

池邊 弥夏（医療法人　尚腎会　高知高須病院　理事長）

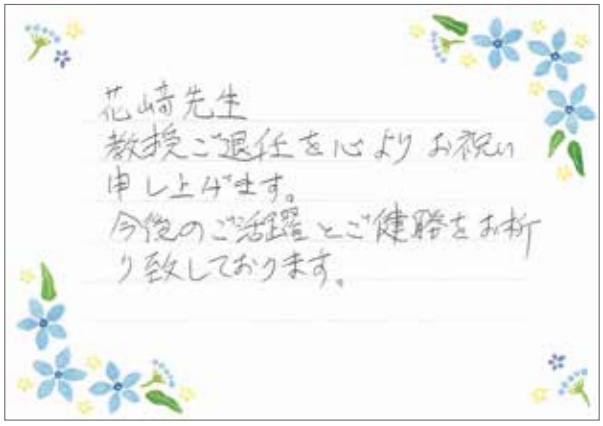

花崎和弘教授

御退官おめでとうございます。
在任中には、数々の御功績をあげられ、令和元年の高知での
日本臨床外科学会総会の成功は素晴らしかったですね。
当法人もこれまでに御尽力頂戴し、ありがとうございました。
心より御礼申し上げます。
これからも、御健康に留意され、ますますの御活躍を
祈念致しております。

内海 順子・内海 善夫（医療法人 新松田会 愛宕病院 理事長, 院長）

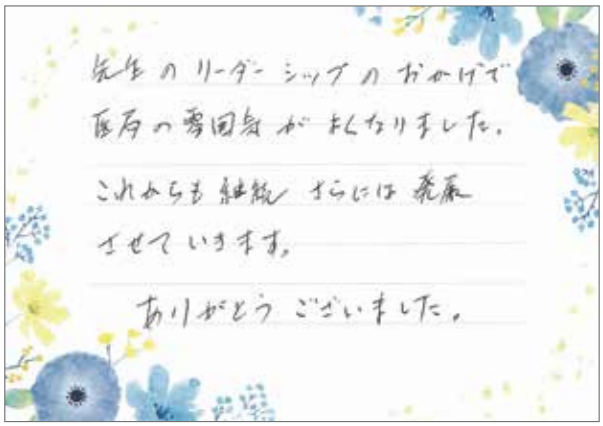


宇都宮 正人（高知県立幡多けんみん病院　副医長）

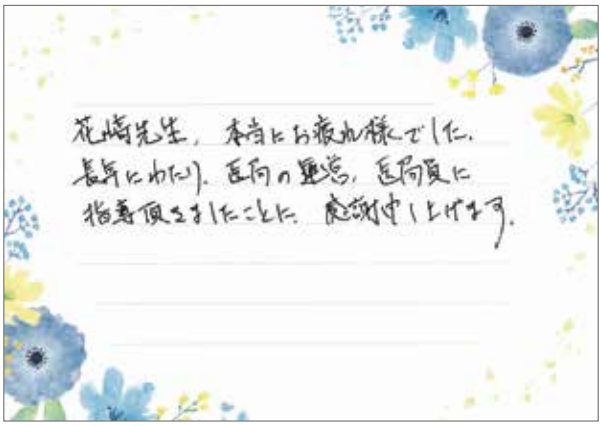


尾形 雅彦（医療法人　厚愛会　高知城東病院　外科部長）

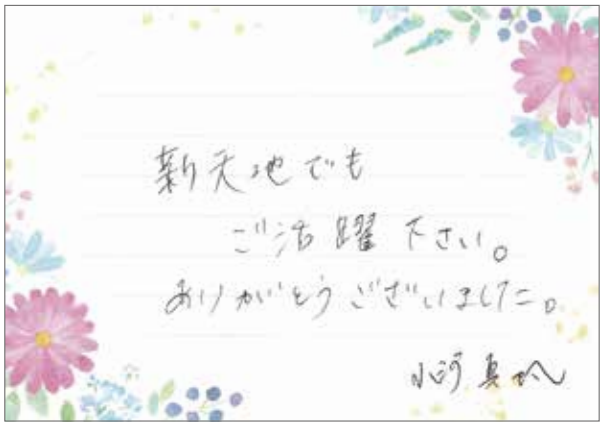
大西 利栄子（医療法人　高幡会　大西病院　理事長）



岡本 健（高知大学医学部　医療管理学分野　講師）

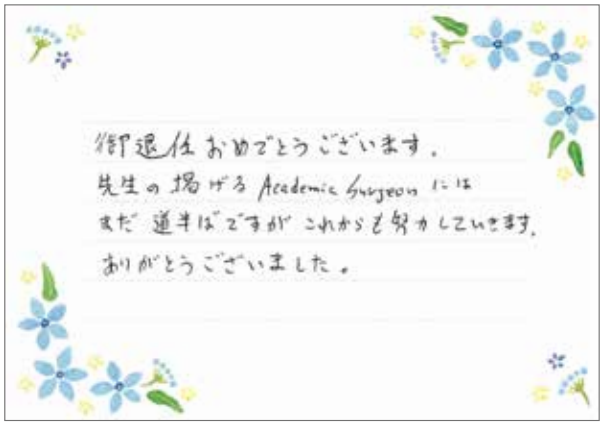


大畠 雅之（高知大学医学部附属病院　小児外科　特任教授）



小河 真帆（高知大学医学部外科学講座外科　特任助教）

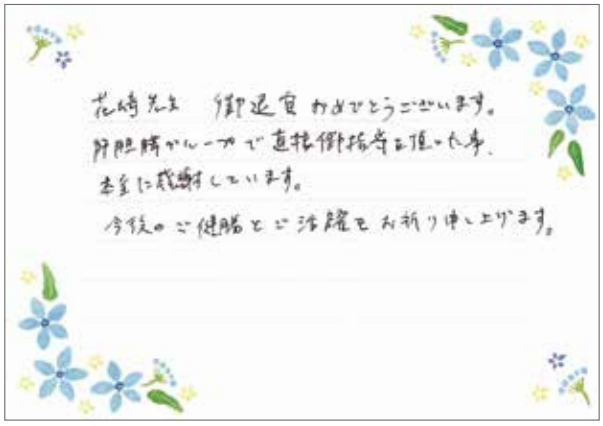
岡添 友洋（高知医療生活協同組合　高知生協病院）



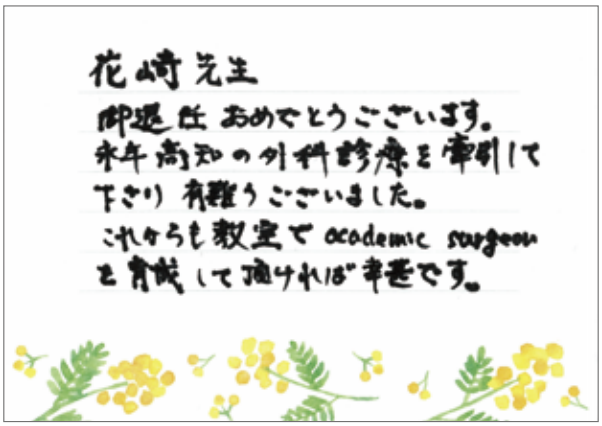
沖 豊和（高知大学医学部外科学講座外科　助教）

花崎先生、ご退任おめでとうございます。
大学で働かせていただいた期間は短かったですが、色々と気にかけて下さったおかげで、今も外科医として働くことができています。
ありがとうございました。
先生の益々のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

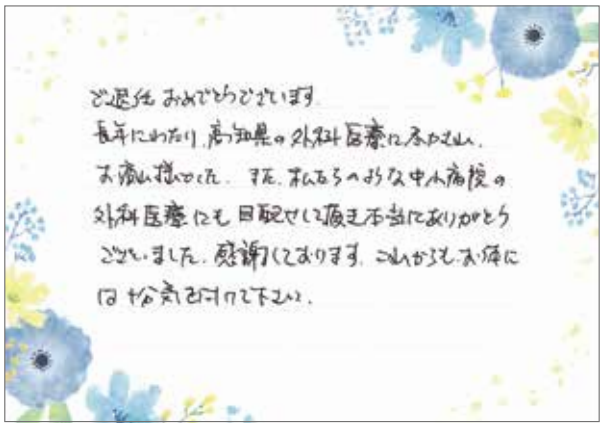
尾崎 信三（社会医療法人　仁生会　細木病院　外科部長）


花崎先生　御退官おめでとうございます。
開腹時グループで直接御指導を頂いた事、本当に感謝しています。
今後のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

川西 泰広（高知大学医学部外科学講座外科　医員（病院助教））


花崎先生
御退任おめでとうございます。
永年高知の外科診療を牽引して下さり有難うございました。
これからも教室でacademic surgeonを育成して頂ければ幸甚です。

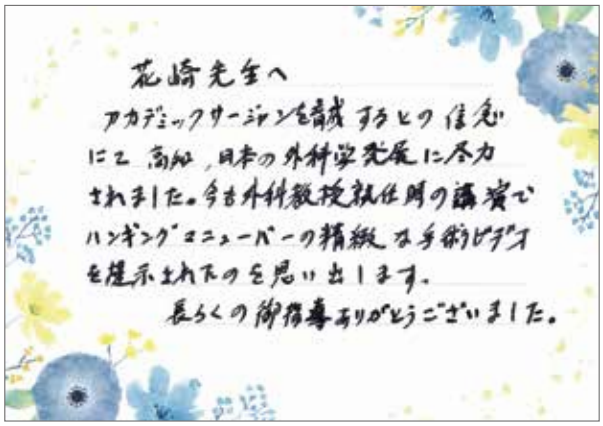
柏井 英助（医療法人　広正会　井上病院　院長）


ご退任おめでとうございます
長年にわたり、高知県の外科医療に尽かされ、大変嬉しかった。また、私たちのような中小病院の外科医療にも目配せして頂き本当にありがとうございました。感謝しております。これからもお体には十分気をつけて下さい。

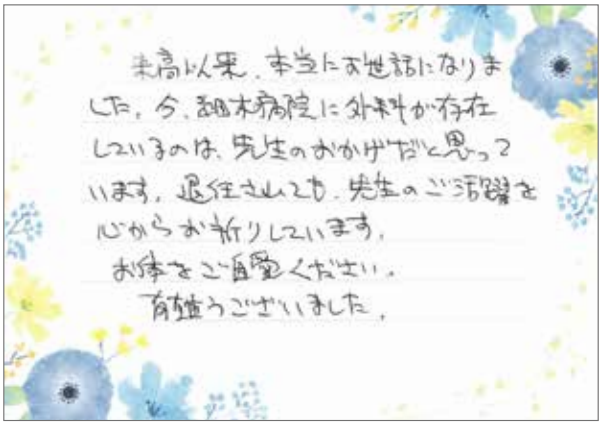
川村 貴範（高知医療生活協同組合　高知生協病院　副院長）

花崎和弘教授
ご退官、誠におめでとうございます。
長い間、大変お疲れさまでした。今後は、新天地にて、ご活躍をされることを祈っています。

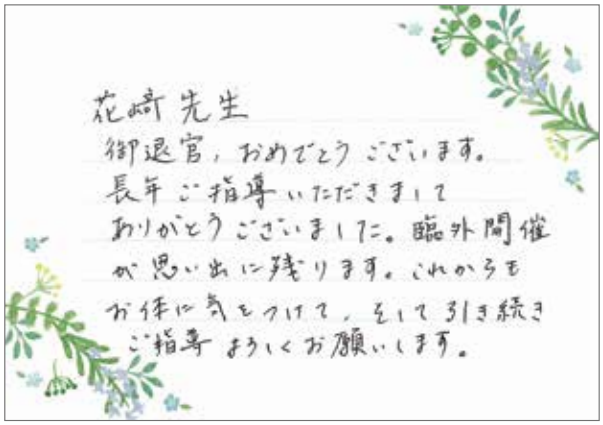
上岡 教人（高知県総合保健協会　幡多健診センター　センター長）


花崎先生へ
アカデミックサージャンを育成するとの信念にて高知，日本の外科学発展に尽力されました。今も外科教授就任時の講演でハンギングマニュアーの精緻な手術ビデオを提示されたのを思い出します。
長らくの御指導ありがとうございました。

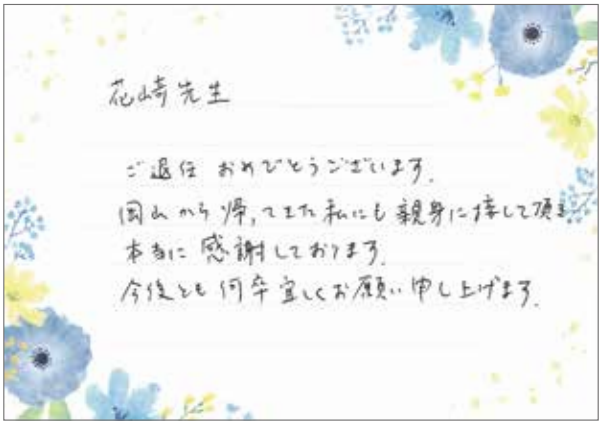
北川 尚史（医療法人　高田会　高知記念病院　外科部長）


来高以来、本当にお世話になりました。今、細木病院に外科が存在しているのは、先生のおかげだと思っています。退任されても、先生のご活躍を心からお祈りしています。
お体をご自愛ください。
有難うございました。

上地 一平（社会医療法人　仁生会　細木病院　副院長）

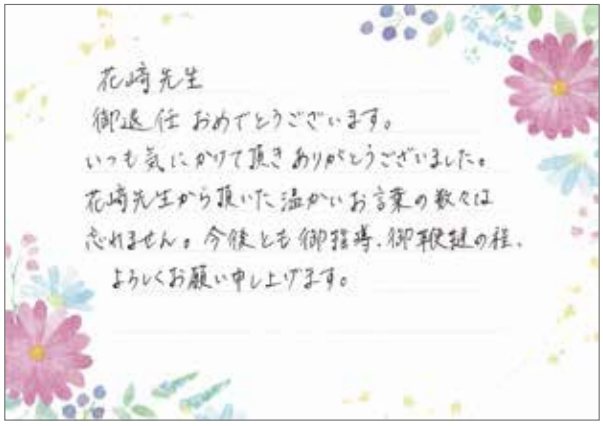

花崎先生
御退官，おめでとうございます。
長年ご指導いただきまして
ありがとうございました。臨外間催が思い出に残ります。これからもお体に気をつけて，そして引き続きご指導よろしくお願いします。

北川 博之（高知大学医学部外科学講座外科　手術部講師）

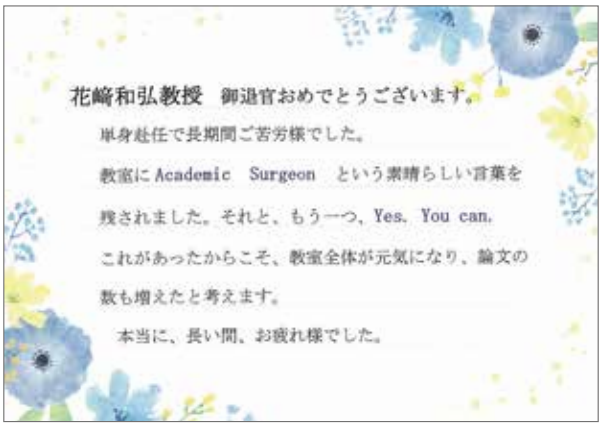

花崎先生

ご退任 おめでとうございます。
国内から帰ってきた私にも親身に接して頂き
本当に感謝しております。
今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

公文 龍也（医療法人公世会　野市中央病院　院長）

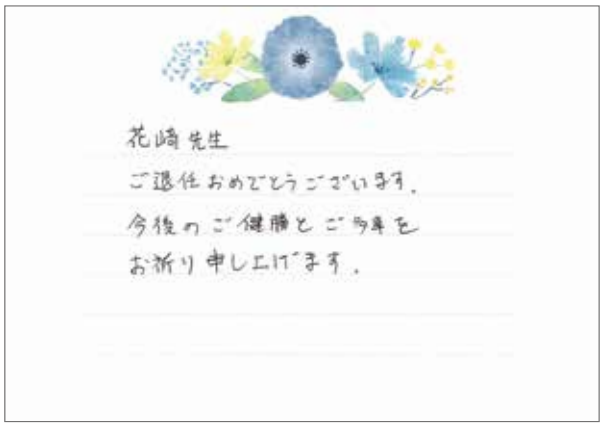

花崎先生
御退任 おめでとうございます。
いつも気にかけて頂き ありがとうございました。
花崎先生から頂いた温かいお言葉の数々は
忘れません。今後とも御指導、御鞭撻の程、
よろしくお願い申し上げます。

小松 優香（社会医療法人近森会　近森病院）

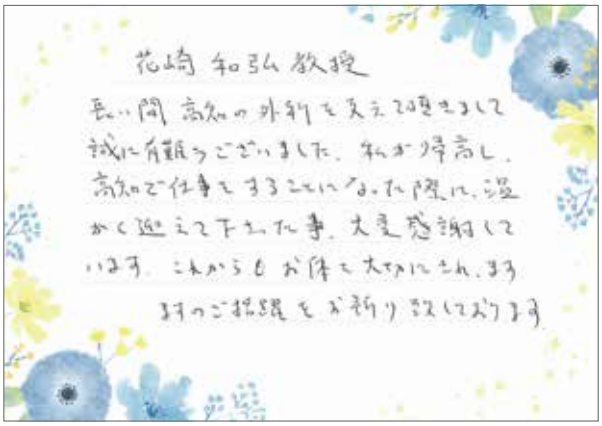

花崎和弘教授　御退官おめでとうございます。

単身赴任で長期間ご苦労様でした。
教室にAcademic　Surgeon　という素晴らしい言葉を
残されました。それと、もう一つ、Yes、You can.
これがあったからこそ、教室全体が元気になり、論文の
数も増えたと考えます。
本当に、長い間、お疲れ様でした。

公文 正光（医療法人　公世会　野市中央病院　名誉院長）


花崎先生
ご退任おめでとうございます。
今後のご健勝とご多幸を
お祈り申し上げます。

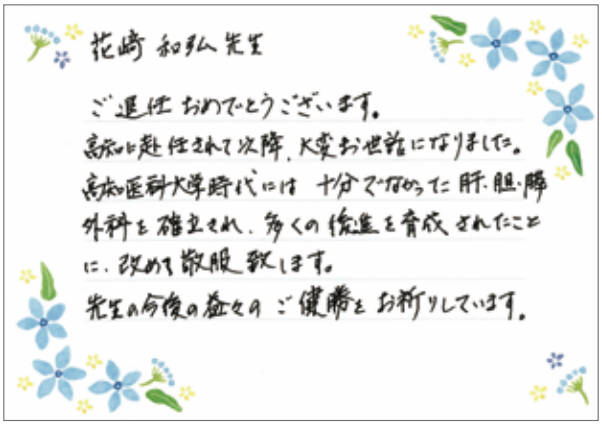
齋藤 卓（医療法人　公世会　野市中央病院）


花崎 和弘 教授
長い間 高知の外科を支えて頂きまして
誠に有難うございました。私が帰高し、
高知で仕事をすることになった際に、温
かく迎えて下さった事、大変感謝して
います。これからもお体を大切にされ、ます
ますのご活躍をお祈り致しております。

桑原 道郎（高知県立幡多けんみん病院　消化器外科　部長）

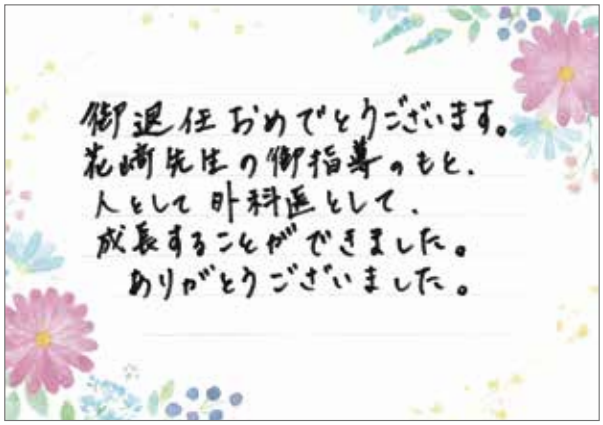
花崎先生
ご退任おめでとうございます。
快く入局させていただき、大変
ありがとうございます。

坂本 礼聡（社会医療法人　近森会　近森病院）


花崎 和弘 先生

ご退任 おめでとうございます。
高知に赴任されて以降、大変お世話になりました。
高知医科大学時代には 十分でなかった 肝・胆・膵
外科を確立され、多くの後進を育成されたことに、改めて敬服致します。
先生の今後の益々のご健勝をお祈りしています。

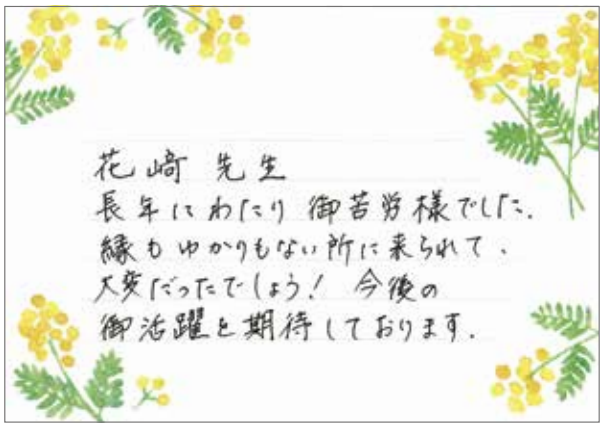
小林 道也（高知大学医学部　医療管理学　教授）


御退任おめでとうございます。
花崎先生の御指導のもと、
人として 外科医として、
成長することができました。
ありがとうございました。

志賀 舞（いの町立国民健康保険仁淀病院　副院長）

ご退任おめでとうございます。
長い間、高知県民のため尽力され、
ご苦労様でした。
退官前には２つの学会を主催されたことも、
高知のPRに大きく役立ったと思います。
公私ともにお世話になり、心より感謝いたし
ております。

島津 栄一（医療法人　仁栄会　会長）

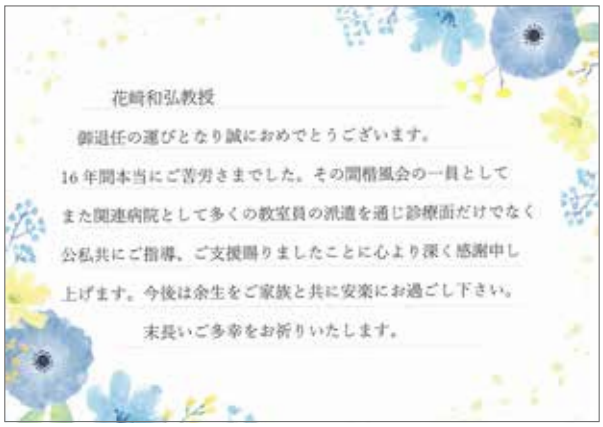


花崎 先生
長年にわたり 御苦労様でした。
縁もゆかりもない所に来られて、
大変だったでしょう！ 今後の
御活躍を期待しております。

高田 早苗（医療法人　高田会　高知記念病院　院長）

花崎先生
ご退任おめでとうございます
長年にわたり、ご指導を賜り大変あ
りがとうございます。
ご指導いただいたことを胸に精進してまります。
今後ともよろしくお願い致します。

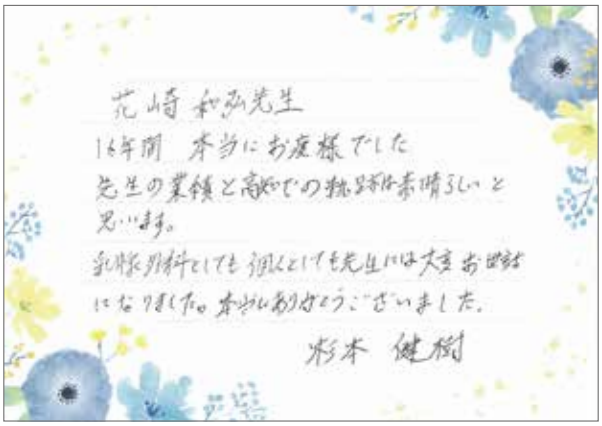
清水 茂翔（高知赤十字病院）



花崎和弘教授

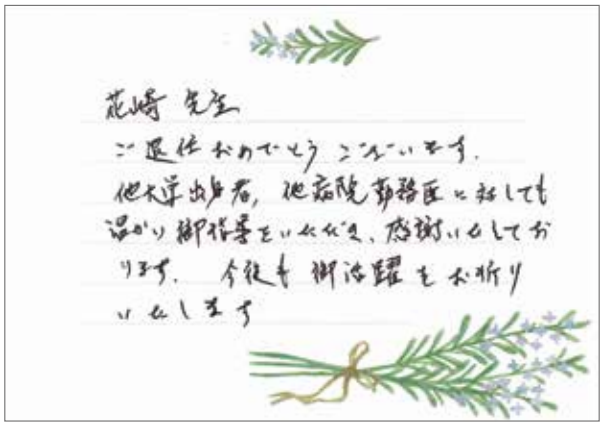
御退任の運びとなり誠におめでとうございます。
16年間本当にご苦労さまでした。その間楷風会の一員として
また関連病院として多くの教室員の派遣を通じ診療面だけでなく
公私共にご指導、ご支援賜りましたことに心より深く感謝申し
上げます。今後は余生をご家族と共に安楽にお過ごし下さい。
末長いご多幸をお祈りいたします。

竹下 篤範（特定医療法人　竹下会　竹下病院　理事長）



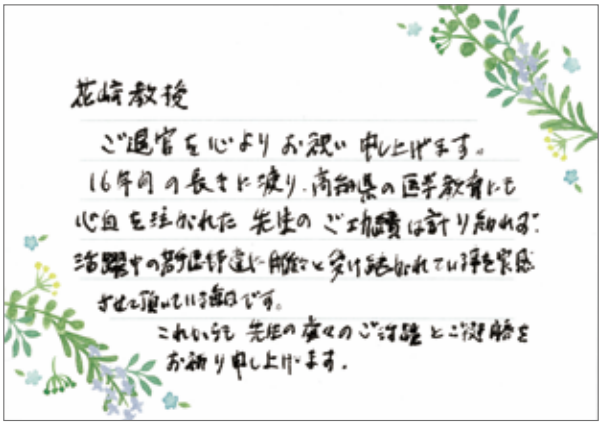
花崎 和弘先生
16年間 本当にお疲様でした
先生の業績と高知での挑戦は素晴らしいと
思います。
乳腺外科としても個人としても先生には大変お世話
になりました。本当にありがとうございました。
杉本 健樹

杉本 健樹（高知大学医学部外科学講座外科　准教授）



花崎 先生
ご退任おめでとうございます。
他大学出身者、他病院事務長においても
温かい御指導をいただき、感謝いたしてお
ります。 今後も御活躍をお祈り
いたします

田島 幸一（高知総合リハビリテーション病院　名誉院長）

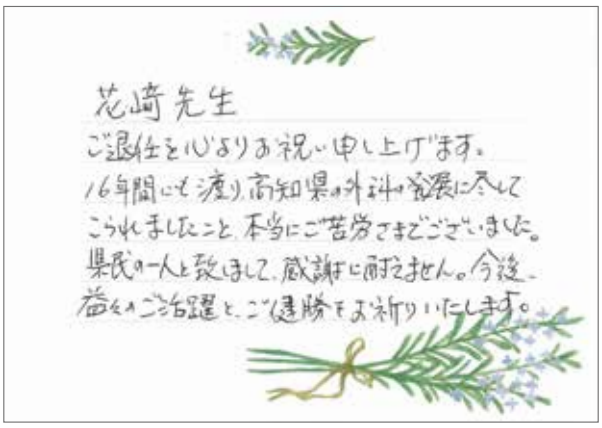


花崎教授
ご退官を心よりお祝い申し上げます。
16年間の長きに渡り、高知県の医学教育にも
心血を注がれた 先生のご功績は計り知れず、
活躍や動向が常に脚光と受け止められていた事を実感
させ頂いている毎日です。
これからも 先生の変わらぬご活躍とご健勝を
お祈り申し上げます。

田岡 尚（医療法人　十全会　早明浦病院　副院長）

花崎先生、御退官心よりお祝い申し上げます。
短い期間でしたが、多くのことをご指導いただき
ありがとうございました。後期研修で県外から来た
私を快く医局に受け入れて、希望を聞いて下さり、
本当にありがとうございました。高知の外科に貢献
できるよう精進して参りますので、ご指導のほど宜しく
お願い申し上げます。

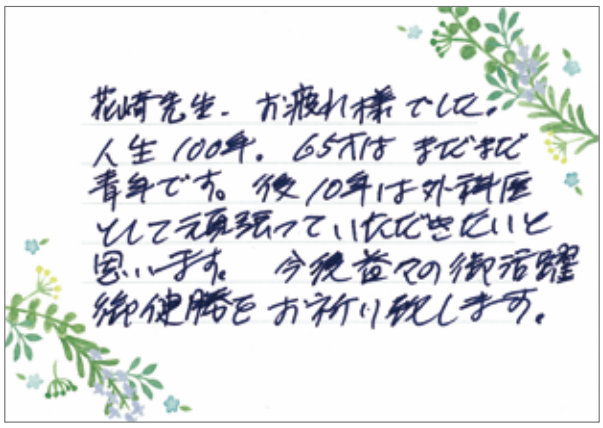
田中 智規（高知大学医学部外科学講座外科　医員）



花崎先生

ご退任を心よりお祝い申し上げます。
16年間にも渡り高知県の外科の発展に尽くしてこられましたこと、本当にご苦労さまでございました。
県民の一人として、感謝に耐えません。今後、益々のご活躍と、ご健勝をお祈りいたします。

田中 誠（医療法人　産研会　上町病院　理事長・院長）



花崎先生。お疲れ様でした。
人生100年。65才はまだまだ
青年です。後10年は外科医
として頑張っていただきたいと
思います。今後益々の御活躍
御健勝をお祈り致します。

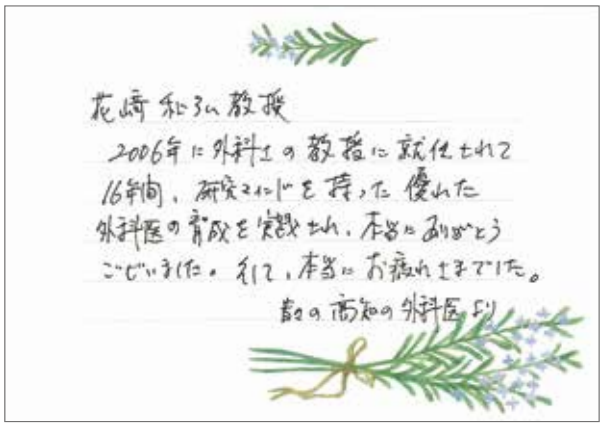
田村 精平（医療法人　五月会　須崎くろしお病院　院長）

花崎先生

ご退任に際し、長年高知の医療を牽引して頂き
感謝申し上げます。
当直でも大変お世話になりました。
今後も更なるご活躍を期待しております。

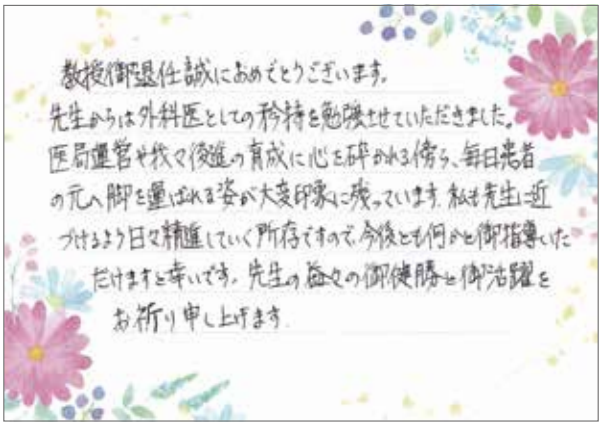
田邊 裕久

田邊 裕久（医療法人　仁泉会　朝倉病院　理事長）



花崎 和弘 教授
2006年に外科1の教授に就任されて
16年間、研究マインドを持った優れた
外科医の育成を実践され、本当にありがとう
ございました。そして、本当にお疲れさまでした。
高知の高知の外科医より

近森 正幸（社会医療法人　近森会　理事長）

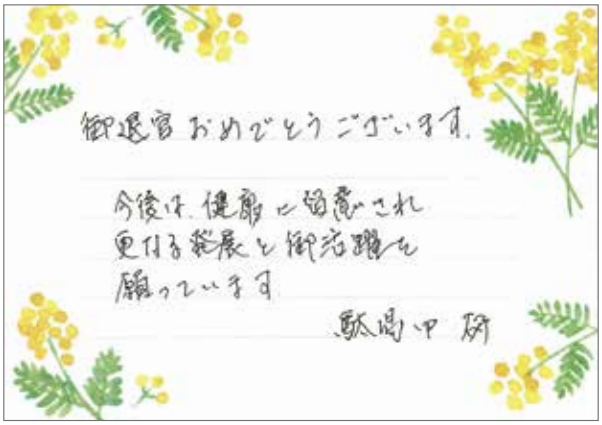


教授御退任誠におめでとうございます。
先生からは外科医としての矜持を勉強させていただきました。
医局運営や若々後進の育成に心を砕かれる傍ら、毎日患者
の元へ脚を運ばれる姿が大変印象に残っています。私は先生に近
づけるよう日々精進していく所存ですので、今後とも何かと御指導いた
だけますと幸いです。先生の益々の御健勝と御活躍を
お祈り申し上げます。

谷岡 信寿（高知県立幡多けんみん病院　副医長）

ご退官心より お祝い申しあげます。
まれ、ご指導いただき、楽しく充実した人生を送ることができて
います。
本当にありがとうございました。

辻井 茂宏（医療法人青雲会　清和病院）



御退官おめでとうございます。

今後は、健康に留意され
更なる発展と御活躍を
願っています

駄場中 研

駄場中 研（医療法人青雲会　清和病院　院長）

花崎先生、ご退任おめでとうございます。
私的な相談にのっていただいたり、先生には
大変お世話になりました。先生のあたたかい笑顔を
絶やられないでいてください。
今後、ますますのご活躍をお祈り申しあげます

津田 晋（社会医療法人　近森会　近森病院）

花崎先生 ご退任おめでとうございます。
根根ねく接して頂き、高知県で外科医として生きてきたことを大変誇りに思います。
花崎先生の教えを大事にしています。
本当にありがとうございました。

徳丸 哲平（社会医療法人緑泉会　米盛病院）

花崎先生

ご退任にあたり、長い間の診療、研究指導において高知県の外科医療の発展にご尽力頂きましたこと、心より御礼申し上げます。先生のモットーとされたAcademic Surgeonのマインドはこれからも後輩に引き継がれていくことと確信いたします。
ありがとうございました、お疲れさまでした。

長田 裕典（医療法人　防治会　いずみの病院　副院長）

花崎先生
御退任おめでとうございます。
先生の御教示のお陰で
今の私があるとまっても過言ではないと
思っております。
本当にありがとうございました。
先生の益々の御健勝と御活躍を
心より お祈り申し上げます。

酉家 佐吉子（医療法人　仁栄会　島津病院　副理事長）

御退官 お祝い 申し上げます。
退任の際の Academic Surgeon 千旅は
後輩に 真の革新的な メッセージを してい
ましたのを覚えています。 先は遠く 心残り
がしたが、学位を受け、とても 楽しい 手の
届く 時代でありました。
ありがとうございました。

中野 琢巳（北上尾クリニック　院長）

ご退任おめでとうございます。
長年にわたり 大学、高専の為に ご尽力いただき
ありがとうございました。
私は一度だけありましたが、手術にご一緒
させて頂きましたことは 鮮明に 記憶しております。
益々のご活躍を お祈りしております。

直木 一朗（高知県立あき総合病院　外科医長）

花崎先生
ご退任おめでとうございます。花崎先生から教えて
いただいた志を少しでも引き継いで行けるように
私自身これからも日々精進して参りたいと存じます。
先生の今後のご健康とご活躍をお祈り致して
おります。

中村 衣世（特定医療法人　仁生会　細木病院）

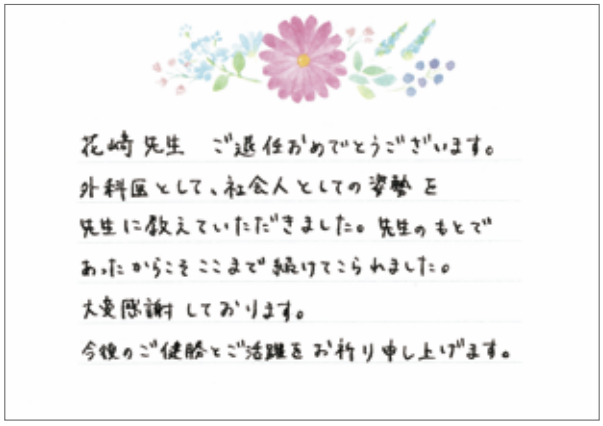
ご退任 おめでとうございます。
長きにわたり当院にご尽力くださり
誠にありがとうございました。
今後のご活躍とご健勝を
お祈りいたしております。

中澤 佐紀子（医療法人　厚愛会　高知城東病院　理事長）

花崎先生ご退官おめでとうございます。
これまでのご功労に敬意を表し、
ご指導を賜りましたこと御礼申し上げます。
知的好奇心と探究心を育む精神は、
受け継がれていくものと思います。
今後のご健康と、ますますのご活躍を
お祈り申し上げます。

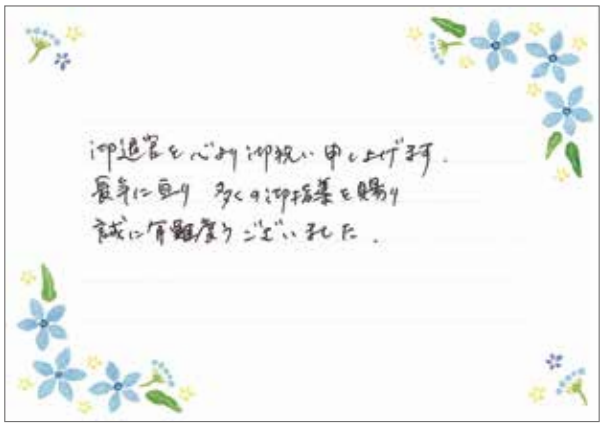
並川 努（高知大学医学部外科学講座外科　講師）

橋詰 直樹（国立成育医療研究センター）

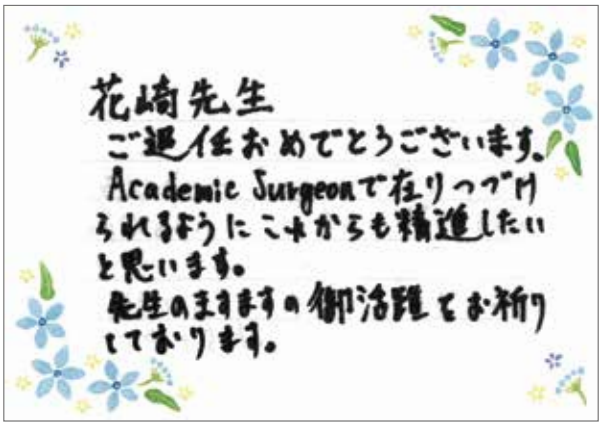


藤澤 和音（高知大学医学部外科学講座外科　助教）

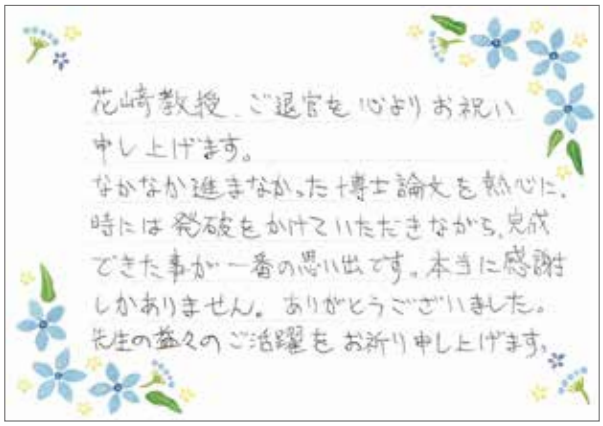
濱里 真二（医療法人　同仁会　同仁病院　副院長）



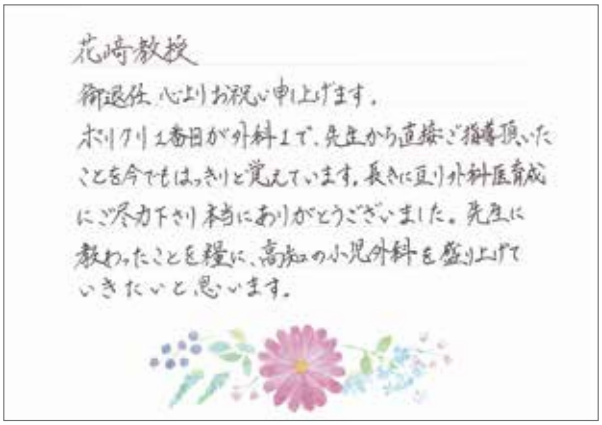
古屋 泰雄（松田外科胃腸科医院　院長）



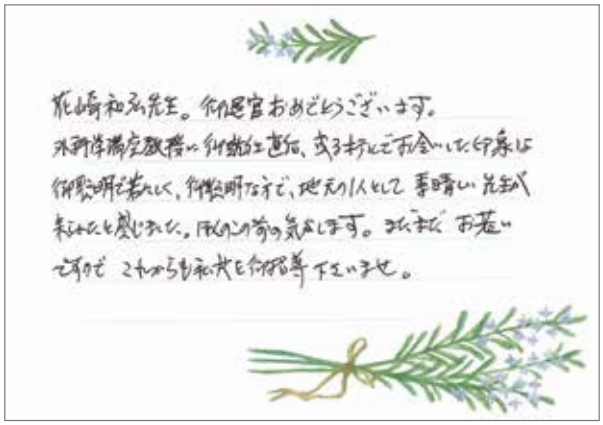
福留 惟行（高知大学医学部外科学講座外科　医員（指導医））



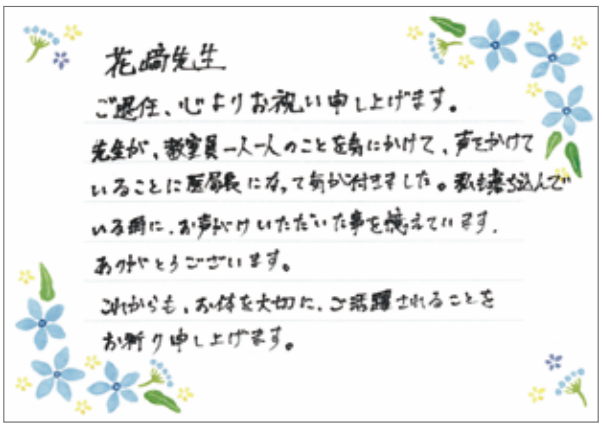
甫喜本 憲弘（高知赤十字病院　外科　第二外科副部長）



藤枝 悠希（高知大学医学部外科学講座外科　医員（病院助教））



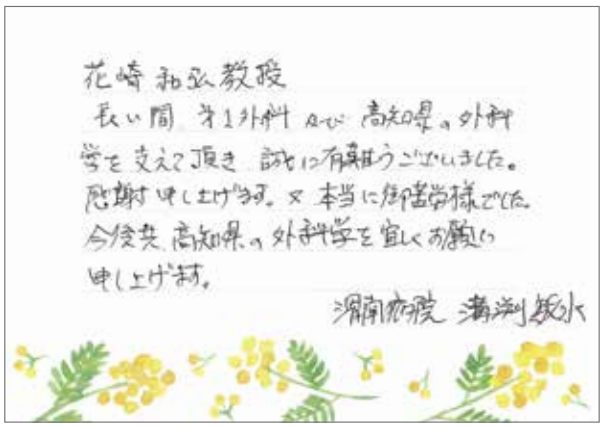
細木 秀美（社会医療法人　仁生会　理事長）



花崎先生

ご退任、心よりお祝い申し上げます。
先生が、教室員一人一人のことを気にかけて、声をかけていることに医局長になって気が付きました。私も続く様に、お声がけいただいた事を覚えています。
ありがとうございます。
これからも、お体を大切に、ご活躍されることをお祈り申し上げます。

前田 広道（高知大学医学部外科学講座外科　講師）

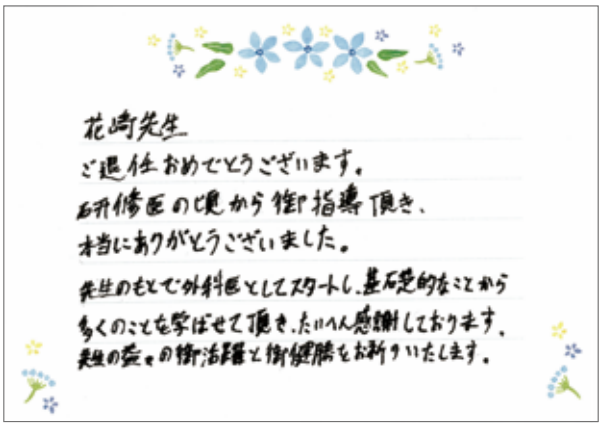


花崎 和弘教授

長い間 第1外科 及び 高知県の外科学を支えて頂き 誠に有難うございました。
感謝申し上げます。又 本当に御苦労様でした。
今後共 高知県の外科学を宜しくお願い申し上げます。

渭南病院 溝渕敏水

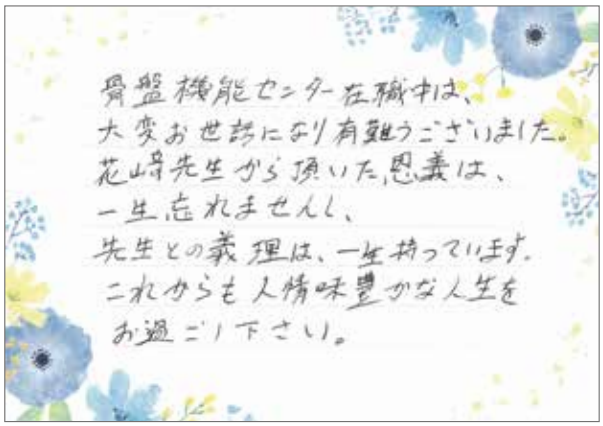
溝渕 敏水（医療法人　聖真会　渭南病院　理事長）



花崎先生

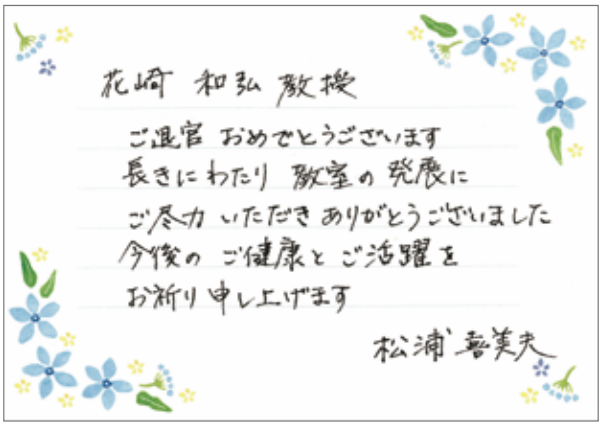
ご退任おめでとうございます。
研修医の頃から御指導頂き、
本当にありがとうございました。
先生のもとで外科医としてスタートし、基礎的なことから多くのことを学ばせて頂き、たいへん感謝しております。
先生の益々の御活躍と御健勝をお祈りいたします。

前田 将宏（高知県立幡多けんみん病院　主査）



骨盤機能センター在職中は、
大変お世話になり有難うございました。
花崎先生から頂いた恩義は、
一生忘れませんし、
先生との義理は、一生持っています。
これからも人情味豊かな人生を
お過ごし下さい。

味村 俊樹（自治医科大学医学部　外科学講座　教授）

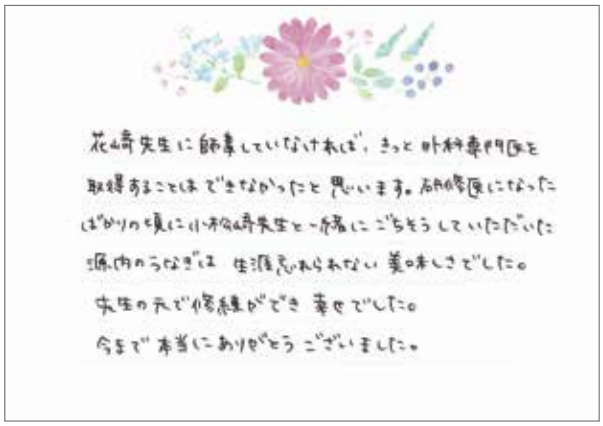


花崎 和弘 教授

ご退官 おめでとうございます
長きにわたり 教室の 発展に
ご尽力 いただき ありがとうございました
今後の ご健康と ご活躍を
お祈り申し上げます

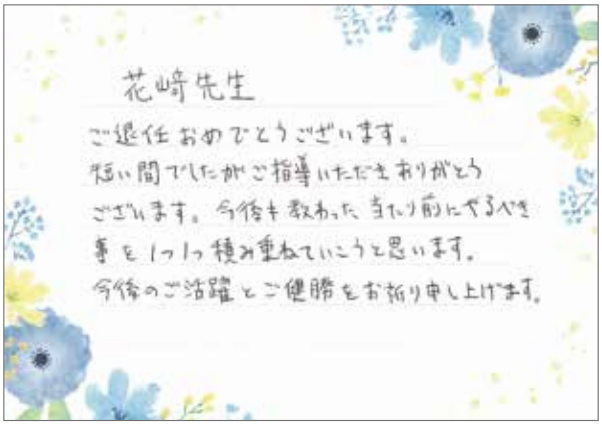
松浦 喜美夫

松浦 喜美夫（高知学園大学　健康科学部・管理栄養学科　教授）



花崎先生に師事していなければ、きっと外科専門医を取得することはできなかったと思います。研修医になったばかりの頃に小松崎先生と一緒にごちそうしていただいた源内のうなぎは 生涯忘れられない 美味しさでした。
先生の元で修練ができ 幸せでした。
今まで 本当にありがとうございました。

宗景 絵里（いの町立国民健康保険仁淀病院　外科）



花崎先生

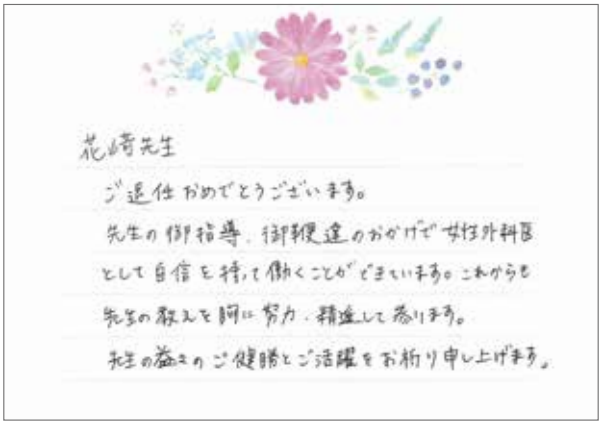
ご退任おめでとうございます。
短い間でしたがご指導いただきありがとうございます。今後も教わった当たり前にやるべき事を1つ1つ積み重ねていこうと思います。
今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

丸井 輝（高知大学医学部外科学講座外科　医員）

花崎先生

御退官おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。
学生時代にお声がけいただいて以来長きにわたりご指導ありがとうございました。これからも先生の教えと志を忘れぬように精進していきます。
今後の先生のご健勝と益々のご活躍をお祈りいたします。また機会をみつけてお願いいたします。

宗景 匡哉（高知大学医学部外科学講座外科　助教）



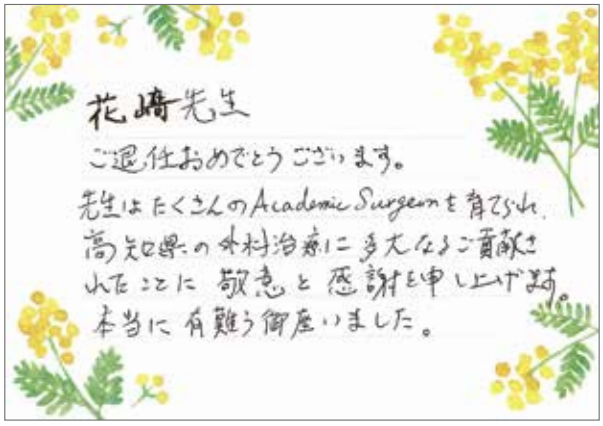
花崎先生

ご退任おめでとうございます。

先生の御指導、御鞭撻のおかげで女性外科医として自信を持って働くことができています。これからも先生の教えを胸に努力、精進して参ります。

先生の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

山口 祥（高知大学医学部外科学講座外科　特任助教）



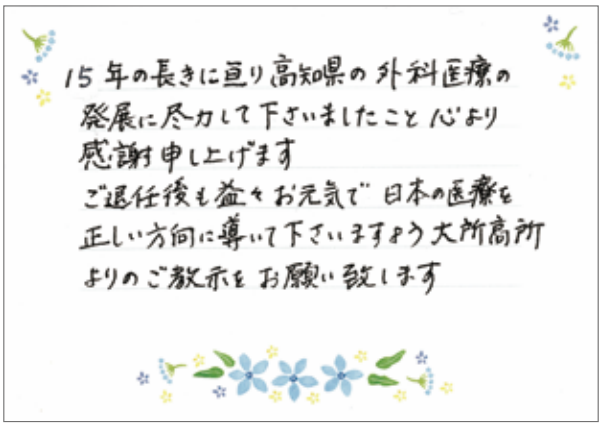
花崎先生

ご退任おめでとうございます。

先生はたくさんのAcademic Surgeonを育てられ、高知県の外科治療に多大なるご貢献されたことに敬意と感謝を申し上げます。

本当に有難う御座いました。

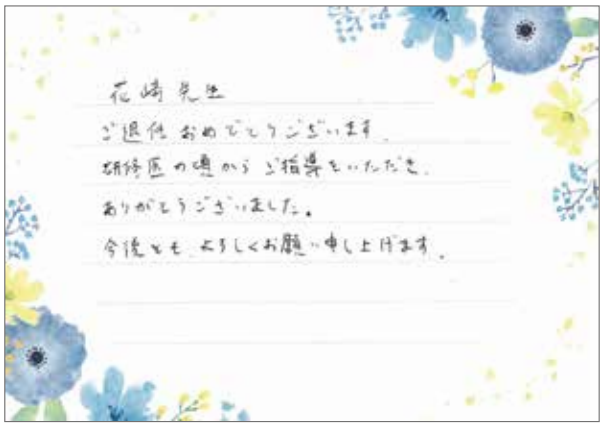
夕部 富三（医療法人　防治会　いずみの病院　院長）



15年の長きに亘り高知県の外科医療の発展に尽力して下さいましたこと心より感謝申し上げます

ご退任後も益々お元気で日本の医療を正しい方向に導いて下さいますよう大所高所よりのご教示をお願い致します

山口 龍彦（医療法人山口会　高知厚生病院　理事長）



花崎先生

ご退任おめでとうございます。

研修医の頃からご指導をいただき、ありがとうございました。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

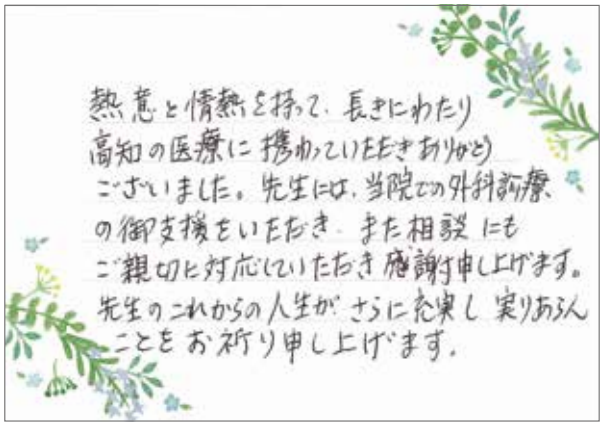
横田 啓一郎（高知大学医学部外科学講座外科　助教）

花崎先生

ご退任おめでとうございます。

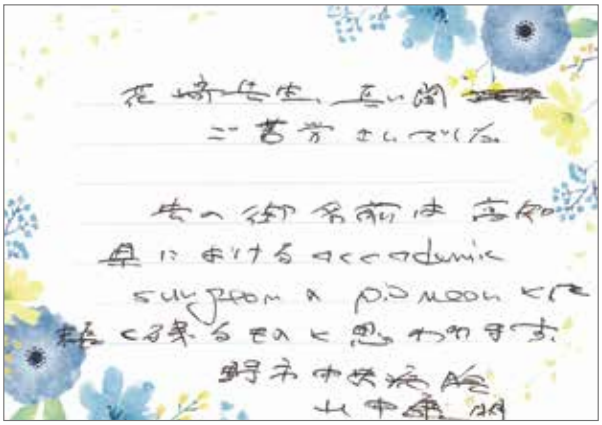
短い間でしたが、多くのことをご指導いただき本当に感謝しております。花崎先生から教えていただいたことを忘れずに今後の医者人生頑張っていきます。

山下 柚子（高知大学医学部外科学講座外科　医員）



熱意と情熱を持って、長きにわたり高知の医療に携わっていたきありがとうございました。先生には、当院での外科診療の御支援をいただき、また相談にもご親切に対応していただき感謝申し上げます。先生のこれからの人生がさらに充実し実りあらんことをお祈り申し上げます。

和田 幸久（高北国民健康保険病院　院長）



花崎先生、長い間
ご苦労さまでした。

先生の御名前は高知県における
academic surgeon の pioneer として
残る方であると思わされます。

野市中央病院
山中康明

山中 康明（医療法人　公世会　野市中央病院　リハビリテーション科　部長）

編 集 後 記

高知大学医学部外科学講座（消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、小児外科学）教授 花﨑和弘先生におかれましては、令和4年（西暦2022年）3月31日に定年ご退任されました。心よりお祝い申し上げます。私たちの教室の三代目教授を16年間にわたりお務めになり、教室の発展、日本そして世界の外科学の発展のために精力的に活動をされました。先生の患者さんに対する思いやりや丁寧な診療、外科学と教育に対する真摯な姿勢、手術や研究への妥協のない厳しさ、そして医局員への優しさは私たちの心に深く刻まれています。

これから、花﨑先生は次の道へと進まれ、ますますご活躍されることと存じます。先生の卓越したご功績とこれからのご活躍に恥じないよう、先生の教えを礎に、変化を恐れることなく、日々精進し、高知大学医学部外科学講座を発展させることが私たちの使命であり、先生への恩返しであると考えています。

最後になりましたが、皆様のご健勝を祈念いたしますとともに、本記念誌の発刊に際しまして、ご協力とご助言を下さいました同門の先生方、ご寄稿をくださいました先生方に厚くお礼を申し上げます。

高知大学医学部外科学講座
花﨑和弘教授退任記念業績集編集委員長
医局長　前田 広道

花﨑 和弘教授　退任記念業績集

発行日　2022 年 3 月 31 日　発行

発　行　高知大学医学部外科学講座
（消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、小児外科学）
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

印刷所　株式会社リーブル

©Kochi Medical School Department of Surgery, 2022 Printed in Japan
本書の無断流用・転載・複写・複製を厳禁します。

高知大学医学部外科学講座
（消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、小児外科学）